

## 令和2年度委託業務成果報告書

電子調査書の普及と一般選抜においても電子調査書が効果的に評価できる環境整備及び調査書における評価の在り方の調査研究（調査書の電子化に関する調査研究）に関する成果報告を致します。

令和3年5月31日

代表大学 関西学院大学

連携大学 佐賀大学

同志社大学

## 目次

### I 委託業務の内容

1. 業務題目
2. 業務の目的
3. 業務の期間
4. 当該年度における業務実施計画

### II 業務計画変更の経緯

1. 大学入学者選抜改革推進委託事業（調査書の電子化）について
2. 大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議の設置
3. 高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」の運用の停止と業務計画変更
4. 大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議審議まとめ

### III 業務成果報告

1. 調査書の電子化の定義・意義
2. 電子調査書に関する基本事項
3. 電子調査書に関わる高校・大学の業務
4. 調査書の電子化による業務の軽減
5. 調査書の電子化における業務上の課題
6. 校務システム共通仕様
7. 電子調査書授受システム
8. 大学調査書管理システム共通仕様

### IV. 結言

参考資料1：関係各団体からの意見聴取

参考資料2：平成33年度大学入学者選抜実施要項対応 電子調査書フォーマット

参考資料3：令和7年度入試（新学習指導要領）対応 電子調査書フォーマット

参考資料4：平成33年度大学入学者選抜実施要項対応 XMLスキーマ

参考資料5：令和7年度入試（新学習指導要領）対応 XMLスキーマ

参考資料6：資格・検定コード

参考資料7：大会・コンテストコード（学術・文化系）

参考資料8：大会・コンテストコード（スポーツ系）

参考資料9：大学電子調査書管理システム要件定義書

参考資料10：大学電子調査書管理システム 設計書

## I 委託業務の内容

### 1. 業務題目

電子調査書の普及と一般選抜においても電子調査書が効果的に評価できる環境整備及び調査書における評価の在り方の調査研究（調査書の電子化に関する調査研究）

### 2. 業務の目的

関西学院大学は、高大接続改革における大学入学者選抜改革において、学力の三要素を多面的・総合的に評価する入学試験に転換するため、「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」（以下、「主体性等」）を評価する実践的で具体的な評価方法の実践に寄与するべく、同志社大学、佐賀大学と連携し、「主体性等」のより適切な評価に向けて、高校が提出する調査書を積極的に活用できるよう、「電子調査書の普及と一般選抜においても電子調査書が効果的に評価できる環境整備及び調査書における評価の在り方の調査研究（調査書の電子化に関する調査研究）」を実施した。

平成31年度（令和元年度）からの調査研究においては、平成26年度より実施している大学入学者選抜改革推進委託事業（主体性等分野）の成果である高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」の機能を活用することにより、調査書の電子化に係る課題を解決するため、電子調査書の普及及び電子調査書が効果的・効率的に作成し活用される環境を構築し、電子調査書データの送受信実証実験を実施した。

令和2年度の調査・研究においては、システムの様々な実装方法に関する調査・研究、高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」と一体的に利用しない電子調査書システムのモデル設計、行政の効率化、標準化、共通化に向けた校務システムの仕様の調査・研究、新学習指導要領の調査書案に対応する電子調査書フォーマットについての調査・研究、大学における電子調査書の閲覧・管理システムの仕様の調査・研究を実施した。

### 3. 業務の期間

令和2年6月19日より令和3年3月31日

#### 4. 当該年度における業務実施計画

令和2年12月に業務計画変更申請を行い以下のテーマについて調査・研究を行った。

##### (1) 「セキュリティを確保した環境で運用できる電子調査書授受システム・モデル

の設計と、電子調査書が効果的に評価できる環境整備」のための調査・研究

平成31年度（令和元年度）は、指導要録の簡素化、高校教員の働き方改革に対応し、調査書作成にかかる負担を減じることを可能とするため、電子調査書授受システムとポートフォリオ・ショーケース機能を一体化し対応する必要があるとの前提に立ち、1）生徒の学びのデータの記録、2）学びのデータの大学入学者選抜活用、3）電子調査書作成依頼を可能とする機能を、電子調査書授受システムと一体的に運用するための調査・研究を実施し、コンソーシアム大学と2つの教育委員会の協力により、データの授受に関わる通信テストや、セキュリティ分析、機能評価等を完了した。

令和2年の調査・研究は以下の通りである。

##### ① 電子調査書システムの調査・研究

システムの様々な実装方法に関する調査・研究と、高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」と一体的に利用しない場合の電子調査書システムのモデル設計、ID管理の在り方について調査・研究を行った。

##### ② 高校校務システムにおける共通仕様の調査・研究

電子調査書が効果的に評価できる環境整備を念頭に、行政の効率化、標準化、共通化をふまえて、電子調査書を生成する高校校務システムの仕様の調査・研究を実施した。

##### ③ 大学における調査書データダウンロード後の閲覧・管理システムの調査・研究

大学が調査書データをダウンロードした後の、閲覧・管理システムの仕様の調査・研究を実施した。

##### (2) 新学習指導要領下での全国共通電子調査書フォーマットの調査・研究

新学習指導要領下の調査書案に対応する電子調査書フォーマットを作成した。



## II 業務計画変更の経緯

大学入学者選抜改革における「主体性等」の評価に関する議論が、令和2年初頭より活発となり、これに伴って環境の変化が生じたため、令和2年12月に本事業の調査・研究の業務計画の変更等を行った。業務成果報告に先立って、本事業に関する企画から、業務完了までの経緯を以下の通り記載する。

本事業募集に際して文部科学省より、「実施要項」とともに「調査書に電子化の進め方」として、電子化の背景、現状、課題が以下の通り示された。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/boshu/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2019/02/06/1413083\\_007\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/02/06/1413083_007_1.pdf) (以下は文部科学省ウェブサイトより引用 ポンチ絵より抜粋)

### 1. 大学入学者選抜改革推進委託事業（調査書の電子化）について

#### (1) 「平成31年度大学入学者選抜改革推進委託事業」

##### ① 事業概要

個別大学の入学者選抜において、ICTを活用することで新学習指導要領を踏まえた「主体性等」の評価を、より実質的・効果的・効率的に実施できるよう、大学等がコンソーシアムを組み調査・研究を実施。その成果を発信・普及することにより、我が国の大学入学者選抜改革を一層推進する。

##### ② 事業内容

電子調査書の普及と一般選抜において調査書を効果的に評価できる環境整備及び次期指導要録下における調査書も踏まえた評価の在り方に係る調査・研究

第1期の成果等も踏まえつつ、次の具体的な課題を克服するため、「調査書の電子化に必要なセキュリティ環境」及び「電子調査書を活用した「主体性」等の評価の在り方」について高校・教育委員会とも連携しつつ、評価モデル・システム等の開発等を行う。

1) 重要性の高い個人情報である調査書データを扱うセキュリティ環境について、各高校・教育委員会・大学でその扱いや環境が異なる場合、全体としてのコストの無駄と電子化の普及の遅れが懸念

2) 調査書データが実際の一般選抜等で活用できるためには、記載する高校側と評価する大学側との間で記載方法等に関する共通認識が必要との指摘

3) 次期指導要録下における調査書の評価方法の在り方の課題

### ③ 成果、事業を実施して期待される効果

調査書の電子化に必要なセキュリティ環境モデル及び調査書を活用した「主体性等」の評価モデルの具体的な提示

#### (2) 調査書の電子化の進め方

##### ① 背景

1) 中央教育審議会答申（平成26年12月）、高大接続システム改革会議「最終報告」（平成28年3月）等にあるとおり、大学入学者選抜は全ての入学者選抜区分において「学力の3要素」の多面的・総合的な評価へと改善することが求められていること。

2) 同最終報告において、「学力の3要素」を評価するため、「調査書」や大学入学希望理由書、面接など多様な評価方法を工夫しつつ、「主体性等」についての評価を重視すべきであること。また、大学入学前に取り組んできた学習や活動の履歴や、大学における学修への意思や意欲等をより適切に評価するため、国においては、「調査書」の在り方を見直すことが必要であること。

3) これらを受けた「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」（平成29年7月）においては、調査書の見直しとともに、一般選抜も含めた調査書の活用方法について募集要項等に明記することが求められており、現在、各大学においてその対応の検討が進められてきたこと。

4) 特に受験者数が多く、かつ限られた期間で評価を行う一般選抜においては、紙媒体の調査書を活用した入学者選抜を行うことが困難との指摘があり、高校・大学関係団体からは、調査書の電子化に向けた要望が寄せられていること。

##### ② 現状

1) 大学入学者選抜方法の改善に関する協議を経て発出する「大学入学者選抜実施要項」（高等教育局長通知）「調査書の様式」において、高校の「学校長印」及び「記載責任者印」を求めているが、令和2年度大学入学者選抜実施要項よりは、「大学と高校が個別に合意した場合には、上記に代えて別紙様式に記載すべきこととされている事項を全て電磁的に記録した調査書（以下「電磁的記録による調査書」という。）の提出を高校に求めることができることとし、この場合においては、校長及び記載責任者の押印は不要とする。」ことが定められた。

2) また、その際には、「各高校は、電磁的記録による調査書の作成、提出に際しては、個人情報保護法等に定められた各教育機関の属性に応じて遵守すべき個人情報保護法制や、高校の設置者等が定める教育情報セキュリティポリシー等の定めに従うものとする。」と改訂された。

### ③ 課題

- 1) 調査書の電子化を行うにあたって、調査書の作成や提出の過程における情報の扱いについて、個人情報保護法等の関連法令や「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」を踏まえて教育委員会等が策定するセキュリティポリシーに沿った適切な対応が求められる。
- 2) また、各自治体や学校法人によって統合型校務支援システムの導入状況やシステム環境は異なっている。
- 3) 今後、電子調査書を扱うシステム環境（セキュリティ環境を含む）が、高校・教育委員会・大学毎に異なる場合、国全体として大きなコストの無駄が発生し、電子化の普及が遅れる可能性も懸念される。
- 4) このことから、国として電子化に必要なシステム・モデルを開発することを目的として「大学入学者選抜改革推進委託事業（1.4 億円、事業期間 2 年間（予定））」を実施することとなり、関西学院大学、佐賀大学、同志社大学がコンソーシアムを形成し委託事業における調査・研究を実施することとなった。

### ④ スケジュール

（想定される電子調査書導入のスケジュール）

年度	導入方法等	委託事業における参考事項
2019	<ul style="list-style-type: none"><li>● 電子調査書に向けた検証期間</li></ul> 委託事業の実証事業参加大学・高校の任意の入試区分での実施	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 電子調査書システムと、各高校・教育委員会等側で導入する校務支援システム及び大学側で導入する入学出願システムとの、連携に向けたシステム情報等の公表</li></ul>
2020	合意した各高校・大学間での任意の入試区分（例えば同一法人内の「学校推薦型選抜（推薦入試）」等）での実施	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 実証事業の成果（課題）を踏まえた電子調査書システムの改修とその情報等の公表</li></ul>
2021 ～	<ul style="list-style-type: none"><li>● <u>2022年度に実施される全ての大学の</u></li></ul>	

2022	<p>全ての入試区分において、委託事業における検証結果等を踏まえつつ、原則として電子調査書を用いることを目指す</p>	
<p>1) 2019～2020年度の委託事業期間  上記の委託事業期間のスケジュールについては、</p> <p>a. 委託事業に参加する連携大学、協力高校間においては、実証事業のスキームにおいて導入。</p> <p>b. それ以外の各高校・大学間で合意した任意の入試区分、例えば、同一法人内の「学校推薦型選抜（推薦入試）」等においては、教育委員会等が定めたセキュリティポリシーに抵触しない方法を活用して実施（※）。</p> <p>※ 現行、文部科学省が策定する「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（平成 29 年 10 月）」では、文書ファイルの作成にあたり校務系システムと他のシステム間で通信する場合には、ウイルス感染のない無害化通信などの適切な措置を図ること、調査書等の機密性 2 B の情報資産を外部に提供する際はセキュリティ管理者の許可を得た上で必要に応じて暗号化やパスワード設定等のセキュリティ措置を講じることが望ましいとしている。</p> <p>c. より実質的な活用環境の構築のためには、クラウド等の活用も含め、データの利活用とセキュリティの確保の両立に向けた同ガイドラインの今後の見直しの方向性も注視する必要がある。同ガイドラインの改訂内容については文部科学省より適時周知していく。</p> <p>d. 「調査書の電子化の進め方」においては、文部科学省において、①調査書をデータとして送付する際の共通フォーマット（データの羅列順）②「特別活動の記録」や「指導上参考となる諸事項」等において記載される内容をコード表示するためのコード表（一覧表）を示しこれを任意に活用できることとする。（※）</p> <p>※ 「大学入学者選抜実施要項」にて示す共通フォーマット及びコード表、もしくは大学が指定する Web システムによるデータの入力や Excel、csv 等の電子データ形式で、セキュアなネットワーク環境におけるデータ通信等による授受を、受験生を介さず高校と大学間で行う。</p> <p>2) 2021年度以降について  委託事業終了後の2021年度以降については、電子化に向けての委託事業等の検討を踏まえた個別の高校・大学間の取組成果を活用して実施することとなっている。</p>		

## 2. 大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議の設置

令和2年2月21日に「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議」が設置（高等教育局長決定）されることとなり、「調査書の在り方及び電子化手法に関する事項」が当該会議の検討事項に加えられた。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/106/index.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/106/index.htm)（以下、文部科学省ウェブサイトより引用）

### （1）趣旨

- ① 大学入学者選抜において「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価することについては、これまで高大接続システム改革会議最終報告（平成28年3月31日）等を踏まえ、筆記試験に加え、調査書や志願者本人が記載する資料等の積極的な活用を各大学に求めてきたところである。
- ② 他方、昨年12月に学校の働き方改革の法案が成立したことを受けた教員の負担軽減の観点や、新学習指導要領下での指導要録の見直しを踏まえ、令和6年度に実施される新学習指導要領に対応した最初の個別入試に向けた調査書の在り方等について新たに検討することが必要となっている。
- ③ このため、大学入学者選抜における多面的な評価に関する具体的な内容や手法等について、高校関係者、大学関係者、有識者、保護者関係者等からなる協力者会議を設置し、総合的な検討を行うこととする。

### （2）検討事項

- ① 大学入学者選抜における多面的な評価の内容や手法に関する事項
- ② 調査書の在り方及び電子化手法に関する事項
- ③ 調査書や志願者本人記載資料の活用及び大学への情報提供の在り方に関する事項
- ③ その他審議が必要とされる事項

### 3. 高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」の運用の停止と業務計画変更

「平成31年度大学入学者選抜改革推進委託事業」の「②事業内容」において「第1期の成果等も踏まえつつ、評価モデル・システム等の開発等を行う」ことが示されていたが、第I期の成果であり、電子調査書システムのプラットフォームの一部である高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」の運用が停止となったため、業務計画を変更することとなった。

#### (1) 委託事業の経過と高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」の運用の停止

平成31年度の調査研究において、「セキュリティを確保した環境で運用できる電子調査書授受システム・モデルの設計と、電子調査書が効果的に評価できる環境整備」のための調査・研究として、指導要録の簡素化、高校教員の働き方改革に対応し、調査書作成にかかる負担を減じることを可能とするため、1) 生徒の学びのデータの記録、2) 学びのデータの大学入試活用、3) 電子調査書作成依頼を可能とするポートフォリオ・ショーケース機能（高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」）を、電子調査書授受システムと一体的に運用するための調査・研究を実施し、コンソーシアム大学と2つの教育委員会の協力により、データの授受に関わる通信テストや、セキュリティ分析、機能評価等を完了した。

令和2年度の委託事業の調査研究が6月19日より開始された後、8月7日付をもって、一般社団法人教育情報管理機構が運営する高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」の運用の停止が決定したため、文部科学省より示された『第1期の成果等も踏まえつつ、次の具体の課題を克服するため、「調査書の電子化に必要なセキュリティ環境」及び「電子調査書を活用した「主体性」等の評価の在り方」について高校・教育委員会とも連携しつつ、評価モデル・システム等の開発等を行う。』という委託事業の事業内容を(2)の通り変更することとなった。

#### (2) 業務計画変更申請内容

以下、令和2年12月16日付け業務計画変更申請より抜粋

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>① システムの様々な実装方法に関する調査・研究、高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」と一体的に利用しない場合の電子調査書システムのモデル設計、ID管理の在り方についての調査・研究。</li><li>② 高校校務システムにおける共通仕様の調査・研究</li><li>③ 大学における調査書データダウンロード後の閲覧・管理システムの調査・研究</li><li>④ 新学習指導要領下における「全国共通電子調査書フォーマット（XML）の調査・研究</li></ol> |
|---|

#### 4. 大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議審議まとめ

令和3年3月31日に「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議」（主査：圓月勝博 同志社大学学長補佐）において、審議のまとめが取りまとめられた。以下、審議のまとめから「調査書の電子化の在り方について」を抜粋。

##### 調査書の電子化の在り方について

- 調査書の電子化については、志願者、大学双方にとって入学者選抜事務の効率化、省力化に資するものであり、学校の働き方改革を受けた教員の負担軽減の観点も踏まえつつ、速やかな完全電子化を目指すべきである。電子化のシステムの構築・運用に当たっては、公益性、安全性、利便性の確保という条件を満たすことが必要である。
- 電子化に当たっては、指導要録の電子化と一体的に進める必要があるとの意見や、運用開始時には、全ての高校・大学で一斉に電子化すべきといった意見があった。現在の公立高校における統合型校務支援システムの導入状況は約79%（令和2年3月現在）であり、令和2年度大学入学者選抜における電子出願が可能な選抜区分は、一般選抜では約90%、総合型選抜では約56%、学校推薦型では約58%であるが、より実効性のある調査書の活用の実現を図るためには、統合型校務支援システムや大学入学者選抜における電子出願の更なる導入を促進しつつ、それらと連動する形で調査書の電子化を進めていく必要がある。
- その際、特定の実装方法のみを検討するよりも、制度改正等を含めた政府全体のデジタル化の動き等にも柔軟かつ速やかに対応できるように、複数の実装方法を検討するなど、様々な可能性を追求しておくことが適当である。また、入学者選抜事務の効率化、省力化の観点から、志願者本人が記載する資料や推薦書等の電子化についても併せて検討することが望ましい。
- 例えば、現在考えられる実装方法としては、以下のようなものがある<sup>14</sup>。
  - ・各大学が構築している電子出願システムに対し、高校から大学に電子調査書を送付
  - ・各大学が構築している電子出願システムに対し、志願者から大学に電子調査書（暗号化されたもの）を送付
  - ・電子調査書を授受するためのアプリケーションを開発、クラウドを介して志願者・高校・大学間で電子調査書を授受
  - ・全志願者の調査書データを一元的な組織の下で管理、当該組織の管理下のサーバを介して志願者・高校・大学間で電子調査書を授受

- 調査書の電子化を進めるに当たっては、これらの実装方法を検討する過程で明らかになった課題（費用・稼働負担、セキュリティリスクへの対応、調査書データの一元的な管理の在り方等）や、それぞれの方法のメリット・デメリットなども踏まえつつ、文部科学省、高校、大学関係者等において引き続き協議の上、実現に向けて取り組むことが重要である。
- 14 文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業「電子調査書の普及と一般選抜においても電子調査書が効果的に評価できる環境整備及び調査書における評価の在り方の調査研究（調査書の電子化に関する 調査研究）」  
（事業実施期間：平成31年度及び令和2年度、受託者：学校法人関西学院）の成果による。

本事業が開始されて後の経緯の概略は以上の通りである。本業務成果報告書を閲覧するにあたっては、これらの経緯に留意する必要がある。



### Ⅲ 業務成果報告

#### 1. 調査書の電子化の定義・意義

調査書の電子化にあっては、「ワープロや表計算ソフトにより調査書を作成しており、すでに電子化ができています。」という声や、「手書きで作成した調査書をPDFにする等して、すでに電子化ができています。」との声を聞くことがある。しかしながら、電子化とは、紙の文書等をデジタルデータに変換して、そのデータがコンピュータで処理できるようにすることである。「データが構造化され、活用の方途が広がること。」が電子化の目的なのである。

「構造化」とは CSV ファイル等に代表される「列」の概念をもつデータである。「存在する一つのデータに対して、「列」で意味付けをすることによって「構造化」すれば、どこに、どのデータがあるかが「列」で識別できるため、データを情報処理することが可能となる。これによって、データ検索や、集計、比較等が容易になり、データの解析や分析ができるようになる。

一定のルールに基づいて、「列」が調査書の項目と紐づけて作成されることによって、データが「構造化」されていないならば、コンピュータで処理することができず、電子調査書の活用の方途は広がらない。その点で、手書きの調査書をPDF形式や画像形式のファイルに変換し電子化したと言っても、調査書が電子化されたことにはならないのである。

#### 2. 電子調査書に関する基本事項

##### (1) 全国共通統一書式「電子調査書」の必要性・重要性

「調査書」を作成するための資料となる「指導要録」は児童生徒の学習及び健康の状況を記録した書類の原本を指し（学校教育法施行令第31条）、文部科学省より参考様式が示されている。指導要録は、児童生徒の学籍、指導の過程及び結果の要約を記録し、指導及び外部に対する証明等のために役立たせるための原簿としての性格を有しており、その学校に在学する児童生徒の指導要録作成の義務は校長にある。また、指導要録は各都道府県教育委員会や各高校等において、各校の生徒の指導に適切に活用する目的により、参考書様式に基づいて独自に作成されている。結果として、指導要録の書式には教育委員会や、高校によって違いが存在している。

一方、調査書はこの指導要録が基となって、大学入学者選抜における活用を目的として作成される。もし、電子化された調査書が、指導要録と同様に教育委員会や高校毎に書式や記載内容、項目とその順序が異なる場合、各大学は情報処理が不可能となり、入学者選抜での活用が困難となる。したがって、電子化された調査書は指導要録のような参考書式ではなく、全国統一共通書式であることが必ず求められる。

高校団体、大学団体からも、入学者選抜において公平な評価を行う視点から、調査書は全国統一共通書式であることが求められている。「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議」の前身である「調査書ワーキンググループ」においても、調査書は全国統一共通書式であることの必要性が確認されている。

## (2) 電子調査書フォーマットの必要性

入力された情報がコンピュータで処理できるようになり、データの活用の方途が広がるためには、一定の入力ルールにしたがってデータが構造化されなければならないことは先に述べた通りである。「調査書」としての記載項目の設定とともに、その記載項目をデータとして構造化し、これを情報処理できるようにするためのルールが必要である。この「ルール」を今回の調査・研究においては「電子調査書フォーマット」と呼称する。

調査書のデータを構造化するルールが複数存在すると、必ずしも全ての大学で情報処理ができるとは限らなくなる。そのため「調査書」の記載項目を、全国の大学で円滑に情報処理するためには、生徒の情報が入力された項目をどのような順番に並べるのか、いくつの文字数の入力領域を設けるのか、どのような内容で入力するのか等について、統一した共通のルールを定めて「電子調査書」を生成する必要がある。

例を示せば、生年月日・氏名・ふりがな・性別等生徒の個人情報も、どのような記載順序で並べるかをルール化しなければならない。現在の調査書では生年月日について、西暦で記載がある場合と、元号での記載の場合が混在しており、氏名のふりがなも、ひらがなとカタカナによるものが混在していることが散見されるため、いずれかに統一する必要がある。また、所見や備考欄の文字入力領域も、無制限では情報処理ができないため、最大入力文字数を設定する必要がある。このように、一定のルールに従って生徒のデータを入力することが、電子調査書には必要であり、そのルールあるいは仕様とも呼ぶべきものが、全国統一共通の電子調査書フォーマットなのである。

その電子調査書フォーマットに基づいて、電子調査書を生成する校務システムを構築することによって、全国の高等学校で、情報処理が可能な「電子調査書」を生成・発行する

ことができ、全国の国公私立大学において入学者選抜での活用ができるようになる。システムの開発にあたっては、統一された共通の電子調査書フォーマットがあれば、複数の入力ルールに対応する必要がなく、一種類のルールに対応した校務システムや管理システムを構築できるため、開発コストを抑えることが可能となる。

この電子調査書のフォーマットについて、高校、大学各団体からの意見は以下の通りである(原文のまま)。

○電子化する調査書の様式は、公平に評価するため、全高校共通（記載項目も統一）として欲しい(公立大学協会加盟校)。

○高大ともに負担にならないようにフォーマットの共通化と簡素化を行う。特にテキスト入力の部分は、字数を一定数に制限するなど、共通化を図る(公立大学協会加盟校)。

○調査書データを一般選抜においても活用するためには、各大学が導入している入試システムに直接インポートできる統一されたフォーマットが必要。また、各大学の入学者受入方針に沿った項目のみをインポートするなどの汎用性も必要と考える(公立大学協会加盟校)。

○調査書を電子化するに当たっては、全ての大学に共通して提出する統一した調査書の様式としなければならない。調査書は一人の生徒について一種類のみ作成するもので、大学ごとに異なる調査書を提出することはできない。大学によって調査書の様式が異なるようになると、電子化したことによる事務効率化が果たされない(全国高校長協会)。

### (3) 「入力情報のコーディング」の必要性

#### ① 「コーディング」の意義

校務システムが生成する調査書における記載内容の表記ふれを改善し、情報処理を可能とするために、調査書の記載情報について、可能なものをコーディングすることが大学団体・高校団体より強く求められている。

調査書の「指導上参考となる諸事項」の記載として、「資格取得・検討等」「表彰・顕彰等の記録」の記載が求められている。例えば英語の検定試験の成果として「英検2級」と記載がされている場合、この「英検」が指す意味は「実用英語技能検定」なのか、「ケンブリッジ英検」なのか、「国連英検」なのかが機械にはわからない。「全国総合体育大会」も「総体」で記載されているものもあれば、「インターハイ」と掲載されているもの

もある。長い正式名称ではなく、短い略称で記載をするのは、高校現場としてはやむをえない事情があるが、コンピュータでの処理を行うにあたっては、表記ふれは情報処理が不可能となる一大要因である。

そこで、例えば「実用英語技能検定」の記載情報をコード化し、同様の資格・検定のコード情報とともに集約して、「資格・検定マスタ」として校務システムに搭載する。指導要録作成時にこの「資格・検定マスタ」を活用し、正式な名称で資格・検定の文字情報を指導要録に入力する。そして、この指導要録の情報を活用して調査書を作成すれば、正確な資格・検定の文字情報を調査書に記載することができ、表記ふれを解消できる。

また、指導要録作成時にコード番号を、資格・検定名称の文字情報と併せて格納できれば、電子調査書にもコード番号を資格・検定名称の文字情報に付帯させることができる。そして、このコード情報を活用することによって、大学は調査書に記載の情報をデータ処理することができるようになり、高校も統計処理等が可能となる。

そこで、今回の調査・研究において「資格・検定マスタ」「大会・コンテストマスタ」を制作した。これを校務システム事業者、大学入試情報処理関連事業者に共有することによって、コード情報を含んだ電子調査書データに対応するシステムを構築することができるようになる。

また、資格・検定や大会・コンテスト以外にも、コード化できる項目が存在し、既に校務システムにおいて活用されている。例えば「学科」「教科・科目」等は、一般財団法人地域情報化推進協会（以下、APPLIC）\*が策定した教育標準化相互接続仕様で定義されているコードが既に整備されている。ダブルスタンダードを避け、校務システムと電子調査書システム、大学が管理するシステムとの連携するために、今回の調査・研究において「教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高校版 V1.0」を活用した電子調査書フォーマットを制作した。

\*同協会は地域情報化を推進するために必要な調査・研究、情報の収集・提供、人材の養成等を行い、地域における情報通信の高度化及び地域情報化の健全な発展に寄与することを目的に活動をしている。その一環として、地方公共団体の情報システムの抜本的改革や住民サービスの向上を実現するための公共サービス連携基盤の標準仕様（地域情報プラットフォーム）の策定・普及を推進している。校務システムにおいても公共サービス連携基盤として標準仕様（地域情報プラットフォーム）を定めている。

② コード定義について

1) APPLIC で定義したコードは以下の通り。

- a. 課程コード (APPLIC では課程学科コード)
- b. 学科種別コード (APPLIC では課程学科コード)
- c. 学年/年次コード
- d. 教科コード
- e. 科目コード

2) 電子調査書で独自に定義するコードは以下の通り。

- a. 性別コード…1:男、2:女
- b. 設置区分コード…1:国立、2:公立、3:私立
- c. 学校種別コード…1:高校、2:中等教育学校、3 特別支援学校、4:分校
- d. 学校コード…文部科学省が定めた学校コード一覧に従う。詳細については、下記 URL を参照 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)
- e. 卒業種別コード…1:卒業、2:卒業見込
- f. 段階コード…1 : ㉠、 2 : A、 3 : B、 4 : C、 5 : D、 6 : E
- g. 特別活動の記録:カテゴリーコード…1. ホームルーム活動、2. 生徒会活動、3、学校行事、4、その他
- h. 資格・検定コード…コード体系は、統合型校務支援システムでの絞り込みが容易になるように、“資格・検定分類区分”+”分類内でのコード”とする。資格・検定分類区分は、生徒の取得状況を参考にして定める必要がある(次表)

資格・検定分類区分案

分類区分	分類名称	分類区分	分類名称	分類区分	分類名称	分類区分	分類名称
01	日本語	03	社会全般	05	歴史	07	数学
09	美術	11	書道	13	外国語	15	被服
17	食物調理	19	保育	21	福祉	23	情報技術
25	情報処理	27	データ活用	29	文書作成	31	表計算
33	プレゼンテーション	35	データベース	37	ホームページ	39	画像処理
41	計算技術	43	製図	45	自動車整備	47	ボイラー
49	電気電子	51	機械	53	建築	55	土木
57	測量	59	溶接	61	危険物質	63	消防設備

65	環境	67	運転技能	69	農業技術	71	園芸
73	マーケティング	75	珠算・電卓	77	会計	79	秘書
81	技能・農業系	83	技能・機械系	85	技能・電気電子系	87	技能・建築系
89	技能・化学系	91	技能・工業系	93	技能・家庭系	95	技能・その他
97	高卒認定試験	99	その他				

### 大会・コンテストコード

主要な大会とコンテストについて、体育系と文科系に分類して、コード化を行った。次表に大会・コンテストのコード例を示す。

### 大会・コンテストのコード例

#### 体育系

- 10001 高校総体 インターハイ
- 10003 全国高校体操競技選抜大会
- 10005 全国高校新体操選抜大会
- 10007 全日本バレーボール高校選手権大会
- 10009 全国高校選抜卓球大会
- 10011 全国高校バスケットボール選手権大会
- 10013 全国高校ハンドボール選抜大会
- 10015 全国高校サッカー選手権大会
- 10017 全国高校女子サッカー選手権大会
- 10019 全日本高校選抜ソフトテニス大会
- 10021 全国高校選抜ラグビーフットボール大会
- 10023 全国高校選抜バドミントン大会
- 10025 全国高校男子ソフトボール大会
- 10027 全国高校女子ソフトボール大会
- 10029 全国高校柔道選手権大会
- 10031 全国高校剣道選抜選手権大会
- 10033 全国選抜高校テニス大会
- 10035 全国高校アーチェリー選抜大会
- 10037 全国高校弓道選抜大会
- 10039 全国高校選抜フェンシング大会

#### 文科系

- 20001 全日本高校吹奏楽大会
- 20003 NHK 杯全国高校放送コンテスト
- 20005 全国高校鉄道模型コンテスト
- 20007 高校軽音楽コンクール
- 20009 全国商業高校 プログラミングコンテスト
- 20011 日本学校合奏コンクール全国大会
- 20013 高校生ものづくりコンテスト
- 20015 全国高校英語スピーチコンテスト
- 20017 全日本マーチングコンテスト
- 20019 全国軽音楽コンテスト
- 20021 全国高校総合文化祭

③ コーディングによって高校教員の負荷が生じないために

調査書の記載情報について、可能なものはコード化することが大学団体・高校団体より強く求められていると述べたが、高校現場の一部からは「コード化することで、調査書作成にあたっての業務負荷が増加するのではないか。」「高校から提出するデータは全て高校の責任において、チェックされなければならない。コード化で教員の負荷が増加する。」との不安の声も聞かれる。

だが、前述のとおり、現在の校務システムにおいては、「指導要録」や「調査書」のデータにおいては、一部の記載項目について既にコーディングがなされている。例えば、性別であれば、1. 男、2. 女や、普通科であれば4、専門学科であれば5、総合学校であれば6といったように入力情報がコーディングされており、高校教員が指導要録や調査書作成時に、ほとんど意識することなくコードを利用している実態がある。

今回の調査・研究において開発した校務システムの共通仕様でも、コード情報を活用するが、これまで通り、高校教員の「指導要録」や「調査書」作成時の負担が生じないことを第一としている。策定した共通仕様では、高校教員の調査書の作成時には、基本的にはプルダウンメニューから入力したい文字情報を選択する。選択候補が多い項目については、プルダウンメニューでは対応できないため、入力したい記載情報の文字を、一文字入力するごとに選択候補が絞られていき、その候補から文字情報を選択できる仕様を標準とした（検索サイトや、ドライブ・ナビゲーターの検索方法、ワープロの文字入力の方法をイメージ頂きたい）。

そして、高校教員が記載する文字情報を選択すると同時に、コード情報も入力される仕組みを共通仕様としている。したがって、高校教員が電子調査書作成のたびに、コード表を参照してコードを入力する必要は無いため、高校教員の負担は増加しない。作成した「調査書」をチェックする際に対象とするのもコードではなく、「調査書」としての記載項目だけである。

文字情報とコードが正しく電子調査書データに入力されているかどうかの検証についてである。まず、校務システムに搭載するコードマスタの更新を、毎年度、電子調査書を運営機関や APPLIC のような事業体によって行う必要がある。ここでの検証を経て、校務システム事業者など関連事業者が、システム年度更新時にコードマスタを、システムに組み込む事となる。

さらに、今回の調査・研究において開発する大学調査書管理システムにより、受領した電子調査書の文字情報とコードが合致するかを、共有されたコードマスタを活用して検証し、コードマスタの情報と合致しない場合には、エラーとして抽出できる仕組みを共通仕様として設定した。

この共通仕様によって、校務システム、調査書授受システム、大学調査書管理システムがそれぞれ独立しながらも、電子調査書フォーマットを介して、連携することができ、コーディングによって電子調査書の有効な活用が可能となる。

コーディングに関して高校・大学各団体から寄せられた意見は以下の通りである(原文のまま)。

○一般社団法人全国地域情報化推進協会(APPLIC)教育標準化相互接続仕様に準拠したデータ構造については、他に標準的なものが無ければ、APPLIC 準拠が良い(関東地区教育委員会)。

○学校コードは、大学入試センターの高校コードに準拠して問題ない。高校のコードについては、年1回、国から照会が来る(関東地区教育委員会)。

○調査書の様式は、公平な評価を行う視点から共通様式にすべきであり、項目については判別コードを設ける等簡素な様式とし、高校・大学双方の負担が重くならないよう配慮頂きたいとの意見が多く寄せられております。(公立大学協会)

○調査書の活用を進めるためには、調査書の共通フォーマット作成、コード化が特に重要だと考えます(公立大学協会加盟校)。

○調査書の共通フォーマット作成、コード化ができれば、それを基に高校側で電子データ(csv形式)を作成することは、それほど難しくありません。また、ウェブ出願を導入している大学が増えている中で、電子データの提出も難しくないと考えます。(公立大学協会加盟校)

○調査書データを大学で活用しやすくするため、項目内で細分化可能なものは、判別コードを設けて欲しい。例えば、部活動で部長を務めた者「01」、副部長は「02」等。調査書データを受け取った大学側は、判別コードによって点数換算が容易になる(公立大学協会加盟校)。



- 高校在学中に学校を転校した場合や高校在学中に休学して海外留学する等、高校生の学習環境も多様性が増している。このため、調査書のコード化については柔軟な対応ができるように、システムの構築をお願いしたい(公立大学協会加盟校)。
- 高校により調査書の書きぶりにバラつきがある現状が、調査書評価が困難になる要因の一つだと考えるので、定型的な記載事項の「コード化」は是非すすめていただきたい(公立大学協会加盟校)。
- 記載・入力事項が多くならないようにコード化を行う(公立大学協会加盟校)。
- 電子化の記載内容のコード表の活用等調査書作成を簡便化するものの活用を進めていただきたい。(全国高校長協会)
- 共通フォーマット等調査書に記載される内容(コード化される内容とテキスト入力される内容を可能な限り早急に決定していただきたい(国大協)
- 電子化される際の共通フォーマット等調査書に記載される内容(コード化される内容とテキスト入力される内容)を可能な限り早急に決定していただきたい。(国立大学協会)

### (3) 全国共通電子調査書フォーマット

#### ① 全国共通電子調査書フォーマットの考え方

令和元年度実証事業で利用する電子調査書フォーマットを制作し、関係学校団体に意見聴取を行った。そして、各団体の意見をふまえ、令和2年度の調査・研究で全国共通電子調査書フォーマットを制作した（別項③、参考資料2）。

調査書は指導要録に基づいて作られることから、指導要録との連動できるように関係団体、校務事業者と協力し、高校現場において混乱が生じないように配慮した。

また、新学習指導要領における調査書(案)が「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議」において示された。この新学習指導要領における調査書(案)に対応する全国共通電子調査書フォーマットも制作を行った（別項④、参考資料3）。

繰り返しとなるが、これはあくまでもデータの構造化、処理のために不可欠な「電子調査書フォーマット」であり「調査書」そのものではない。つまり調査書を情報処理するために必要なルールと呼ぶべきものであり、これが「調査書」と一体的に高校校務システムによって生成されることを「電子調査書」は前提にしている。

電子調査書フォーマットにおいては、電子調査書を情報処理するために必要な事項やコードが付随している。校務システム上では、デフォルトで入力されている高校コードや、科目マスタを使って引用される科目コード、資格・検定マスタを使って引用される資格・検定コード等は、予め検証されたコードマスタを用いて、高校教員が調査書項目を入力することで、校務システムにおいて引用される。

なお、「調査書」の様式は、文部科学省の大学入学者選抜実施要項における発表により、紙面の調査書を前提に公表されているが、実際に調査書の電子化を全面的に実施する際には、現在のような「紙面」を前提にした「書式」の情報を開示するのではなく、以下の通り、記載項目順に入力項目を説明する形で示さなければ、「紙面」による調査書が継続して存在するとの誤解を招きかねないことも付記する。

② 全国共通電子調査書フォーマットにおいて標準化する項目について

調査書に記載する必要がある項目について、全国共通電子調査書フォーマットにおける記載方法のルールを以下のように定めた。次表において、調査書に記載する項目と、標準化する項目、そして標準化する内容を示す。

記載項目、標準化対象項目及び標準化内容（○：標準化対象項目を示す）

	記載項目	標準化	標準化内容
1	氏名	○	205文字(外字可)
	ふりがな	○	205文字
	生年月日		
	性別	○	「男」「女」 性別コード
	現住所	○	250文字
	学校名	○	設置区分名称:2文字 設置区分コード 学校名:40文字 学校コード
	課程の種別	○	課程名称:5文字 課程コード
	学科の種別	○	学科種別名称:4文字 学科種別コード 学科名称:30文字
	入学・編入学・転入学の種別	○	種別コード
	入学・編入学・転入学の年月		
	編入学・転入学の学年/年次	○	学年/年次コード
	卒業・卒業見込みの種別	○	種別コード
	卒業・卒業見込みの年月		
	2	教科名	○
科目名		○	科目名:20文字 科目コード
3	評定 習得単位の計		
	教科名	○	教科名 教科コード
	学習成績の状況		

全体の学習成績の状況		
4	段階ごとの人数	
合計人数		
5	活動内容	○ 200 文字
	評価	○ 300 文字
6	特別活動の記録	○ 200 文字
カテゴリコード		
7	学習における特徴等	○ 200 文字
	行動の特徴、特技等	○ 200 文字
	部活動、ボランティア活動・・・	○ 200 文字
	取得資格、検定等	○ 資格・検定名称:50 文字 資格・検定コード 所見 200 文字
	表彰、顕彰等	○ 表彰・顕彰名称:50 文字 表彰・顕彰コード 所見 200 文字
	その他	○ 200 文字
8	備考	○ 300 文字
9	授業日数	
	出席停止・忌引き等の日数	
	留学中の授業日数	
	出席しなければならない日数	
	欠席日数	
	出席日数	
	備考	○ 200 文字
10	学校名	○ 40 文字 学校コード
	所在地	○ 250 文字
	校長名	○ 205 文字(外字可)
	記載責任者職名	○ 20 文字
	記載責任者氏名	○ 205 文字(外字可)
	印	○ 電子署名
	記載年月日	

③ 全国共通電子調査書フォーマット（令和4年度入試対応）

全国共通電子調査書フォーマットは、文部科学省「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告の改正について（通知）」に記載されている調査書改定案に基づいて以下の通り策定した。

NO	情報名	種別	データ型	桁数	APPLICコード		D調コード		出現回数		備考
					C	D	C	D	最小	最大	
1	電子調査書フォーマットと調査書情報	○調査書情報 ○該当の場合入力する情報 ▲システム連携入力情報									
2	1. 学籍の記録									1	1
3	生徒情報									1	1
4	氏名	◎	VCHAR	205						1	1
5	ふりがな	◎	VCHAR	205						1	1
6	生年月日	◎	X	10						1	1
7	性別	◎	VCHAR	1		連携入力				1	1
8	性別コード	◆	X	1	○性別コード		○性別 (APPLICコードに準じ			1	1
9	現住所									1	1
10	郵便番号	◆	9	7		連携入力				1	1
11	住所	◎	VCHAR	250						1	1
12	在学状況									1	1
13	学校情報									1	1
14	設置区分	◎	VCHAR	2		各校でデフォルト入力				1	1
15	設置区分コード	◆	X	1		各校でデフォルト入力 設置区分コード				1	1
16	学校種別	◎	VCHAR	6		連携入力				1	1
17	学校種別コード	◆	X	1	○学校種別コード					1	1
18	課程	◎	VCHAR	5		連携入力				1	1
19	課程コード	◆	X	1	○課程コード		○課程学科コード (APPLICコードから抜			1	1
20	学科種別	◎	VCHAR	4		連携入力				1	1
21	学科コード	◆	X	1	○学科コード		○課程学科コード (APPLICコードから抜			1	1
22	学科名	◎	VCHAR	30						0	1
23	学校コード	◆	X	6		デフォルト入力		○高校マスタ (文部科学省)		1	1
24	学校名	◎	VCHAR	40		デフォルト入力		○高校マスタ (文部科学省)		1	1
25	異動状況									2	2
26	入学									0	1
27	入学年月日	◎	X	10						1	1
28	編入学									0	1
29	編入学年月日	○	X	10						1	1
30	編入学時学年	○	VCHAR	5		連携入力				1	1
31	編入学時学年コード	◆	X	2	○学年/年次コード		○学年/年次 (APPLICコードに準じ			1	1
32	転入学									0	1
33	転入学年月日	○	X	10						1	1
34	転入学時学年	○	VCHAR	5		連携入力				1	1
35	転入学時学年コード	◆	X	2	○学年/年次コード		○学年/年次 (APPLICコードに準じ			1	1
36	卒業									1	1
37	種別	◎	VCHAR	4		連携入力				1	1
38	種別コード	◆	X	1	○卒業種別コード					1	1
39	年月日	◎	X	10						1	1

NO	情報名	種別	データ型	桁数	APPLICコード		D調コード		出現回数		備考	
					C	D	C	D	最小	最大		
					コード名		コード名					
40	<b>2. 各教科・科目等の学習の記録</b>											
41	各学科に共通する各教科・科目											
42	教科名	◎	VCHAR	20						1	1	科目名
43	教科コード	◆	X	10		○教科コード				1	1	APPLICコード辞書における教科コード（学校設定教科の場合は読替元の教科コード、読替元が普通教育に関する各教科に存在しない場合は、「その他」のコードを入力）
44	科目名	◎	VCHAR	20						1	1	科目名
45	科目コード	◆	X	10		○科目コード				1	1	APPLICコード辞書における教科コード（学校設定教科の場合は読替元の教科コード、読替元が普通教育に関する各科目に存在しない場合は、「その他」のコードを入力）
46	カリキュラム年度	◎	X	4						1	1	年度形式（yyyy）
47	評価情報									1	N	各学科に共通する科目に関する情報
48	学年	◎	VCHAR	5						1	1	「高校1学年」「1年次」等を全角文字入力
49	学年コード	◆	X	2		○学年/年次		○学年/年次 (APPLICコードに準じる)		1	1	編入学時における学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、 O1:1年次、O2:2年次、O3:3年次、O4:4年次、 O5:5年次、O6:6年次、O7:7年次、O8:8年次、
50	履修年度	◆	X	4						1	1	年度形式（yyyy）
51	評価	◎	X	2						0	1	(N)
52	修得単位数の計	◎	9	3						1	1	教科・科目の修得単位数の計
53	主として専門学科において開設される各教科・科目											
54	教科名	○	VCHAR	20						1	1	科目名
55	教科コード	◆	X	10						1	1	APPLICコード辞書における教科コード（学校設定教科の場合は読替元の教科コード、読替元が専門教育に関する各教科に存在しない場合は、「その他」のコードを入力）
56	科目名	○	VCHAR	20						1	1	科目名
57	科目コード	◆	X	10						1	1	APPLICコード辞書における教科コード（学校設定教科の場合は読替元の教科コード、読替元が専門教育に関する各科目に存在しない場合は、「その他」のコードを入力）
58	カリキュラム年度	◆	X	4						1	1	年度形式（yyyy）
59	評価情報									1	N	各学科に共通する科目に関する情報
60	学年	○	VCHAR	5						1	1	「高校1学年」「1年次」等を全角文字入力
61	学年コード	◆	X	2		○学年/年次		○学年/年次 (APPLICコードに準じる)		1	1	編入学時における学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、 O1:1年次、O2:2年次、O3:3年次、O4:4年次、 O5:5年次、O6:6年次、O7:7年次、O8:8年次、 O9:9年次、O10:10年次
62	履修年度	○	X	4						1	1	年度形式（yyyy）
63	評価	○	X	2						0	1	(N)
64	修得単位数の計	○	9	3						1	1	教科・科目の修得単位数の計
65	総合的な探究の時間											
66	修得単位数の計	◎	9	3						1	1	総合的な学習の修得単位数の計
67	その他											
68	名称	○	VCHAR	20						1	1	各学科に共通する科目に関する情報
69	修得単位数の計	○	9	3						1	1	修得単位数の計
70	修得単位数の総計	◎	9	3						1	1	
71	<b>3. 各教科の学習成績の状況</b>											
72	学習成績情報											
73	教科名	◎	VCHAR	20						1	1	各学科に共通する教科に関する情報
74	教科コード	◆	X	10		○教科コード		○読替元教科コード		1	1	APPLICコード辞書における教科コード
75	学習成績の状況	◎	9V	3,3						1	1	評定平均値(N,M)
76	全体の学習成績の状況	◎	9V	3,3						1	1	全体の評定平均値(N,M)
77	<b>4. 学習成績概評</b>											
78	段階	◎	VCHAR	1						1	1	全角文字で「@」「A」「B」「C」「D」「E」のいずれかを
79	段階コード	◆	X	1		○段階コード				1	1	1: @、2: A、3: B、4: C、5: D、6: E
80	成績段階別人数											
81	A	◎	9	4						1	1	
82	B	◎	9	4						1	1	
83	C	◎	9	4						1	1	
84	D	◎	9	4						1	1	
85	E	◎	9	4						1	1	
86	合計人数 1	◎	9	4						1	1	
87	合計人数 2	◎	9	4						0	1	合計人数 1へ類型別又は科別に入力された場合、同一学年生徒の合計数の入力として使用する

NO	情報名	種別	データ型	桁数	APPLICコード		D調コード		出現回数		備考	
					C	D	C	D	最小	最大		
												コード名
88	<b>5. 総合的な探究の時間の内容・評価</b>											
89	活動内容	◎	VCHAR	200						1	1	先行実施につき、総合的な探究の時間に関する情報として表記
90	評価	◎	VCHAR	300						0	1	学習活動の内容
91	<b>6. 特別活動の記録</b>											
92	記録内容									1	1	
93	学年	◎	VCHAR	5						1	1	「高校1学年」「1年次」等を全角文字で入力
94	学年コード	◆	X	2	○	学年/年次	○	学年/年次 (APPLICコードに準じる)		1	1	対象年度の学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、 O1:1年次、O2:2年次、O3:3年次、O4:4年次、 O5:5年次、O6:6年次、O7:7年次、O8:8年次、 O9:9年次、O10:10年次
95	処理年度	◆	X	4						1	1	年度形式 (yyyy)
96	記録内容									1	4	
97	カテゴリー	◎	X	1						1	1	特別活動に関する情報 (1. ホームルーム活動、 2. 生徒会活動、3. 学校行事、4. その他)
98	所見	◎	VCHAR	200						1	1	APPLIC教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0)データ 一覧にも同様の項目があり、桁数が200となっている。
99	<b>7. 指導上参考となる諸事項</b>											
100	記録内容									1	1	
101	学年	◎	VCHAR	5						1	1	「高校1学年」「1年次」等を全角文字で入力
102	学年コード	◆	X	2	○	学年/年次	○	学年/年次 (APPLICコードに準じる)		1	1	対象年度の学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、 O1:1年次、O2:2年次、O3:3年次、O4:4年次、 O5:5年次、O6:6年次、O7:7年次、O8:8年次、 O9:9年次、O10:10年次
103	(1) 学習における特徴等									1	1	学習における特徴等情報
104	所見	◎	VCHAR	200						1	1	学習における特徴等に関する自由記述
105	(2) 行動の特徴、特技等									1	1	行動の特徴、特技等の情報
106	所見	◎	VCHAR	200						1	1	行動の特徴、特技等に関する自由記述
107	(3) 部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等									1	1	部活動、ボランティア活動、留学・海外経験の情報
108	所見	◎	VCHAR	200						1	1	部活動、ボランティア活動、留学・海外経験に関する 自由記述
109	(4) 取得資格、検定等									1	1	
110	記録内容									0	N	
111	資格	○	VCHAR	50						1	1	資格・検定マスタ参照
112	資格	◆	X	20						1	1	名称はマスタより連携入力
113	処理	◆	X	4						1	1	年度形式 (yyyy)
114	所見	◎	VCHAR	200						1	1	取得資格、検定等に関する記述 (級、段、スコア、取得 年月、主催団体名など)
115	(5) 表彰・顕彰等の記録									1	1	
116	記録内容									0	N	
117	大会	○	VCHAR	50						1	1	名称はマスタより連携入力
118	大会	◆	X	20						1	1	大会・コンテストマスタ参照
119	処理	◆	X	4						1	1	年度形式 (yyyy)
120	所見	◎	VCHAR	200						1	1	表彰、顕彰等の記録に関する記述 (入賞位、グレード、 表彰年月、主催団体など)
121	(6) その他									1	1	その他の情報
122	所見	○	VCHAR	200						1	1	その他に関する自由記述
123	<b>8. 備考</b>											
124	所見	○	VCHAR	300						0	1	大学指定の特定分野において特に優れた学習成果を 上げたことを記載させることができる。
125	<b>9. 出欠の記録</b>											
126	記録内容									1	1	
127	学年	◎	VCHAR	5						1	1	「高校1学年」「1年次」等を全角文字入力
128	学年コード	◆	X	2	○	学年/年次	○	学年/年次 (APPLICコードに準じる)		1	1	対象年度の学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、 年度形式 (yyyy)
129	授業日数	◎	9	3						0	1	授業の日数 ※通信制課程は未使用
130	出席停止・忌引き等の日数	○	9	3						0	1	出席停止、及び、引等の日数 ※通信制課程は未使用
131	留学中の授業日数	○	9	3						0	1	留学中に実施された授業の日数 ※通信制課程は未使用
132	出席しなければならぬ日数	◎	9	3						0	1	出席しなければならぬ日数 ※通信制課程は未使用
133	欠席日数	◎	9	3						0	1	欠席の日数 ※通信制課程は未使用
134	出席日数	◎	9	3						1	1	出席の日数
135	備考	○	VCHAR	200						0	1	出席停止・忌引き等の日数に関する特記事項、欠席理 由の主なもの、遅刻、早退等の状況その他の出欠に
136	<b>作成者情報・証明</b>											
137	証明	◎	VCHAR	50						1	1	「以下の者はこの調査書の記載事項に誤りがないこと を証明する」等を入力
138	発行年月日	◎	X	10						1	1	ISO8601の年月日形式 (YYYY-MM-DD)
139	学校名	◎	VCHAR	40						1	1	# 1 9より自動入力
140	学校所在地情報									1	1	APPLIC自治体業務アプリケーションユニット標準仕 様の項目セット辞書の項目セットJの住所情報参照
141	郵便番号	◎	9	7						1	1	APPLIC自治体業務アプリケーションユニット標準仕 様の項目セット辞書の項目セットJでは住所コードの記 載があるが、調査書には不要と思われるため項目から
142	住所	◎	VCHAR	250						1	1	
143	電話番号	◎	9	20						1	1	
144	校長役職名	◎	VCHAR	20						1	1	学校長、高等学校長、校長、高等部長等、学校に よって役職名が異なる。
145	校長名	◎	VCHAR	205						1	1	APPLIC教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0)データ
146	記載責任者役職	◎	VCHAR	20						1	1	
147	記載責任者名	◎	VCHAR	205						1	1	

④ 全国共通電子調査書フォーマット（令和7年度入試対応）

「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議」において、新学習指導要領における調査書(案)が示されたため、この調査書(案)に対応する全国共通電子調査書フォーマットの制作を行った。調査書(案)においては、特別活動の記録や総合的な探求の時間における観点等が項目として新設されたほか、指導上参考となる諸事項については分類区分が廃止されることとなった。データの情報処理の観点から、資格・検定、大会・コンテストのコード活用ができるように配慮している。

NO	情報名	種別	データ型	桁数	APPLICコード		Dコード		出現回数		備考
					C	D	C	D	最小	最大	
1	電子調査書フォーマットと調査書情報										
											◎調査書情報 ○該当の場合入力する情報 ◆システム連携入力情報
2	1. 学籍の記録									1	1
3	生徒情報									1	1
4	氏名	◎	VCHAR	205						1	1
5	ふりがな	◎	VCHAR	205						1	1
6	生年月日	◎	X	10						1	1
7	性別	◎	VCHAR	1						1	1
8	性別コード	◆	X	1	○性別コード	○性別				1	1
9	現住所									1	1
10	郵便番号	◆	9	7						1	1
11	住所	◎	VCHAR	250						1	1
12	在学状況									1	1
13	学校情報									1	1
14	設置区分	◎	VCHAR	2						1	1
15	設置区分コード	◆	X	1						1	1
16	学校種別	◎	VCHAR	6						1	1
17	学校種別コード	◆	X	1	○学校種別コード					1	1
18	課程	◎	VCHAR	5						1	1
19	課程コード	◆	X	1	○課程コード	○課程学科コード				1	1
20	学科種別	◎	VCHAR	4						1	1
21	学科コード	◆	X	1	○学科コード	○課程学科コード				1	1
22	学科名	○	VCHAR	30						0	1
23	学校コード	◎	X	6						1	1
24	学校名	◎	VCHAR	40						1	1
25	異動状況									2	2
26	入学									0	1
27	入学年月日	◎	X	10						1	1
28	編入学									0	1
29	編入学年月日	○	X	10						1	1
30	編入学時学年	○	VCHAR	5						1	1
31	編入学時学年コード	◆	X	2	○学年/年次コード	○学年/年次				1	1
32	転入学									0	1
33	転入学年月日	○	X	10						1	1
34	転入学時学年	○	VCHAR	5						1	1
35	転入学時学年コード	◆	X	2	○学年/年次コード	○学年/年次				1	1
36	卒業									1	1
37	種別	◎	VCHAR	4						1	1
38	種別コード	◆	X	1	○卒業種別コード					1	1
39	年月日	◎	X	10						1	1



NO	情報名	種別	データ型	桁数	APPLICコード		D調コード		出現回数		備考	
					C	D	C	D	最小	最大		
40	<b>2. 各教科・科目等の学習の記録</b>											
41	各学科に共通する各教科・科目											
42	教科名	◎	VCHAR	20						1	1	科目名
43	教科コード	◆	X	10	○	教科コード				1	1	APPLICコード辞書における教科コード（学校設定教科の場合は読替元の教科コード、読替元が普通教育に関する各教科に存在しない場合は、「その他」のコードを入力
44	科目名	◎	VCHAR	20						1	1	科目名
45	科目コード	◆	X	10	○	科目コード				1	1	APPLICコード辞書における教科コード（学校設定教科の場合は読替元の教科コード、読替元が普通教育に関する各教科に存在しない場合は、「その他」のコードを入力
46	カリキュラム年度	◆	X	4						1	1	年度形式（yyyy）
47	評定情報									1	N	各学科に共通する科目に関する情報
48	学年	◎	VCHAR	5						1	1	「高校1学年」「1年次」等を全角文字入力
49	学年コード	◆	X	2	○	学年/年次	○	学年/年次 (APPLICコードに連じる)		1	1	編入学時における学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、O1:1年次、O2:2年次
50	履修年度	◎	X	4						1	1	年度形式（yyyy）
51	評定	◎	X	2						0	1	(N)
52	修得単位数の計	◎	9	3						1	1	教科・科目の修得単位数の計
53	主として専門学科において開設される各教科・科目											
54	教科名	○	VCHAR	20						1	1	科目名
55	教科コード	◆	X	10		教科コード				1	1	APPLICコード辞書における教科コード（学校設定教科の場合は読替元の教科コード、読替元が専門教育に関する各教科に存在しない場合は、「その他」のコードを入力
56	科目名	○	VCHAR	20						1	1	科目名
57	科目コード	◆	X	10		科目コード				1	1	APPLICコード辞書における教科コード（学校設定教科の場合は読替元の教科コード、読替元が専門教育に関する各教科に存在しない場合は、「その他」のコードを入力
58	カリキュラム年度	◆	X	4						1	1	年度形式（yyyy）
59	評定情報									1	N	各学科に共通する科目に関する情報
60	学年	○	VCHAR	5						1	1	「高校1学年」「1年次」等を全角文字入力
61	学年コード	○	X	2	○	学年/年次	○	学年/年次 (APPLICコードに連じる)		1	1	編入学時における学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、O1:1年次、O2:2年次
62	履修年度	○	X	4						1	1	年度形式（yyyy）
63	評定	○	X	2						0	1	(N)
64	修得単位数の計	○	9	3						1	1	教科・科目の修得単位数の計
65	総合的な探究の時間									0	1	
66	修得単位数の計	◎	9	3						1	1	総合的な学習の修得単位数の計
67	その他									0	N	留学に関する情報など
68	名称	○	VCHAR	20						1	1	各学科に共通する科目に関する情報
69	修得単位数の計	○	9	3						1	1	修得単位数の計
70	修得単位数の総計	◎	9	3						1	1	
71	<b>3. 各教科の学習成績の状況</b>											
72	学習成績情報											
73	教科名	◎	VCHAR	20						1	1	各学科に共通する教科に関する情報
74	教科コード	◆	X	10	○	教科コード	○	読替元教科コード		1	1	APPLICコード辞書における教科コード
75	学習成績の状況	◎	9V	3,3						1	1	評定平均値(N,M)
76	全体の学習成績の状況	◎	9V	3,3						1	1	全体の評定平均値(N,M)
77	<b>4. 学習成績概評</b>											
78	段階	◎	VCHAR	1						1	1	全角文字で「A」「B」「C」「D」「E」のいずれかを入力
79	段階コード	◆	X	1	○	段階コード				1	1	1 : A、 2 : B、 3 : C、 4 : D、 5 : E
80	成績段階別人数									1	1	
81	A	◎	9	4						1	1	
82	B	◎	9	4						1	1	
83	C	◎	9	4						1	1	
84	D	◎	9	4						1	1	
85	E	◎	9	4						1	1	
86	合計人数 1	◎	9	4						1	1	
87	合計人数 2	◎	9	4						0	1	合計人数 1へ類型別又は科別に入力された場合、同一学年生徒の合計数の入力として使用する ※ ( ) 付けて出力される人数

NO	情報名	種別	データ型	桁数	APPLICコード		D調コード		出現回数	備考
					C D	コード名	C D	コード名		
88	5. 総合的な探究の時間の内容・評価								1 1	先行実施につき、総合的な探究の時間に関する情報として表記
89	活動内容	◎	VCHAR	200					0 1	学習活動の内容
90	観点	◎	VCHAR	200					0 1	学習活動の観点
91	評価	◎	VCHAR	300					0 1	学習活動の評価
92	6. 特別活動の記録								1 1	
93	観点	◎	VCHAR	200					1 1	
94	記録内容								1 N	
95	学年	◎	VCHAR	5		連携入力			1 1	「高校1学年」「1年次」等を全角文字で入力
96	学年コード	◆	X	2	○	学年/年次	○	学年/年次 (APPLICコードに準じる)	1 1	対象年度の学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、O1:1年次、O2:2年次、O3:3年次、O4:4年次、O5:5年次、O6:6年次、O7:7年次、O8:8年次
97	処理年度	◆	X	4		連携入力			1 1	年度形式 (yyyy)
98	記録内容								1 3	
99	カテゴリ	◎	X	1		プルダウン選択			1 1	特別活動に関する情報 (1. ホームルーム活動、2. 生徒会活動、3. 学校行事)
100	評価	◎	VCHAR	1					1 1	評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入
101	評価コード	◆	X	1					1 1	0:空欄、1:○
102	7. 指導上参考となる諸事項								1 1	
103	記録内容								1 N	
104	学年	◎	VCHAR	5		連携入力			1 1	「高校1学年」「1年次」等を全角文字で入力
105	学年コード	◎	X	2	○	学年/年次	○	学年/年次 (APPLICコードに準じる)	1 1	対象年度の学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、O1:1年次、O2:2年次、O3:3年次、O4:4年次、O5:5年次、O6:6年次、O7:7年次、O8:8年次
106	記録内容								0 N	
107	カテゴリ	◆	X	1		プルダウン選択			1 1	1. 取得資格、検定等、2. 表彰・顕彰等の記録
108	名称	◆	VCHAR	50			○	資格・検定マスタ連携入力 大会・コンテストマスタ連携入力	1 1	カテゴリにより内容が変更、名称はマスタより連携入力 (1. 資格・検定マスタ、2. 大会・コンテストマスタ)
109	コード	◆	X	20		プルダウン選択	○	資格・検定マスタ連携 大会・コンテストマスタ連携	1 1	カテゴリにより内容が変更 (1. 資格・検定マスタ参照、2. 大会・コンテストマスタ参照)
110	処理年度	◆	X	4		連携入力			1 1	年度形式 (yyyy)
111	所見	◎	VCHAR	1200					1 1	学習における特徴等に関する自由記述
112	8. 備考								0 1	大学指定の特定分野において優れた学習成果を上げたことを記載させることができる。
113	所見	○	VCHAR	300					1 1	その他に関する自由記述
114	9. 出欠の記録								1 1	
115	記録内容								1 N	APPLIC教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0]データ一覧の出欠の記録参照
116	学年	◎	VCHAR	5		連携入力			1 1	「高校1学年」「1年次」等を全角文字入力
117	学年コード	◆	X	2	○	学年/年次	○	学年/年次 (APPLICコードに準じる)	1 1	対象年度の学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、O1:1年次、O2:2年次、O3:3年次、O4:4年次、O5:5年次、O6:6年次、O7:7年次、O8:8年次
118	処理年度	◆	X	4		連携入力			1 1	年度形式 (yyyy)
119	授業日数	◎	9	3					0 1	授業の日数 ※通信制課程は未使用
120	出席停止・忌引き等の日数	○	9	3					0 1	出席停止、及び、引等の日数 ※通信制課程は未使用
121	留学中の授業日数	○	9	3	e				0 1	留学中に実施された授業の日数 ※通信制課程は未使用
122	出席しなければならない日数	◎	9	3					0 1	出席しなければならない日数 ※通信制課程は未使用
123	欠席日数	◎	9	3					0 1	欠席の日数 ※通信制課程は未使用
124	出席日数	◎	9	3					1 1	出席の日数
125	備考	○	VCHAR	200					0 1	出席停止・忌引き等の日数に関する特記事項、欠席理由の主なもの、遅刻、早退等の状況その他の出欠に関する特記事項等 ※通信制課程は未使用
126	作成者情報・証明								1 1	
127	証明	◎	VCHAR	50		デフォルト入力			1 1	「以下の者はこの調査書の記載事項に誤りがないことを証明する」等を入力
128	発行・署名年月日	◎	X	10					1 1	ISO8601の年月日形式 (YYYY-MM-DD)
129	学校名	◎	VCHAR	40		デフォルト入力			1 1	# 1 9 より自動入力
130	学校所在地情報					連携入力			1 1	APPLIC「自治体業務アプリケーションユニット標準仕様の項目セット 辞書の項目セット」の住所情報参照 APPLIC「自治体業務アプリケーションユニット標準仕様の項目セット 辞書の項目セット」では住所コードの記載があるが、調査書には不要
131	郵便番号	◎	9	7		連携入力・デフォルト			1 1	
132	住所	◎	VCHAR	250		連携入力・デフォルト			1 1	
133	電話番号	◎	9	20		連携入力・デフォルト			1 1	
134	校長役職名	◎	VCHAR	20					1 1	学校長、高等学校長、校長、高等部長等、学校によって役職名が異なる。
135	校長名	◎	VCHAR	205					1 1	APPLIC教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0]データ一覧
136	記載責任者役職	◎	VCHAR	20					1 1	
137	記載責任者名	◎	VCHAR	205					1 1	

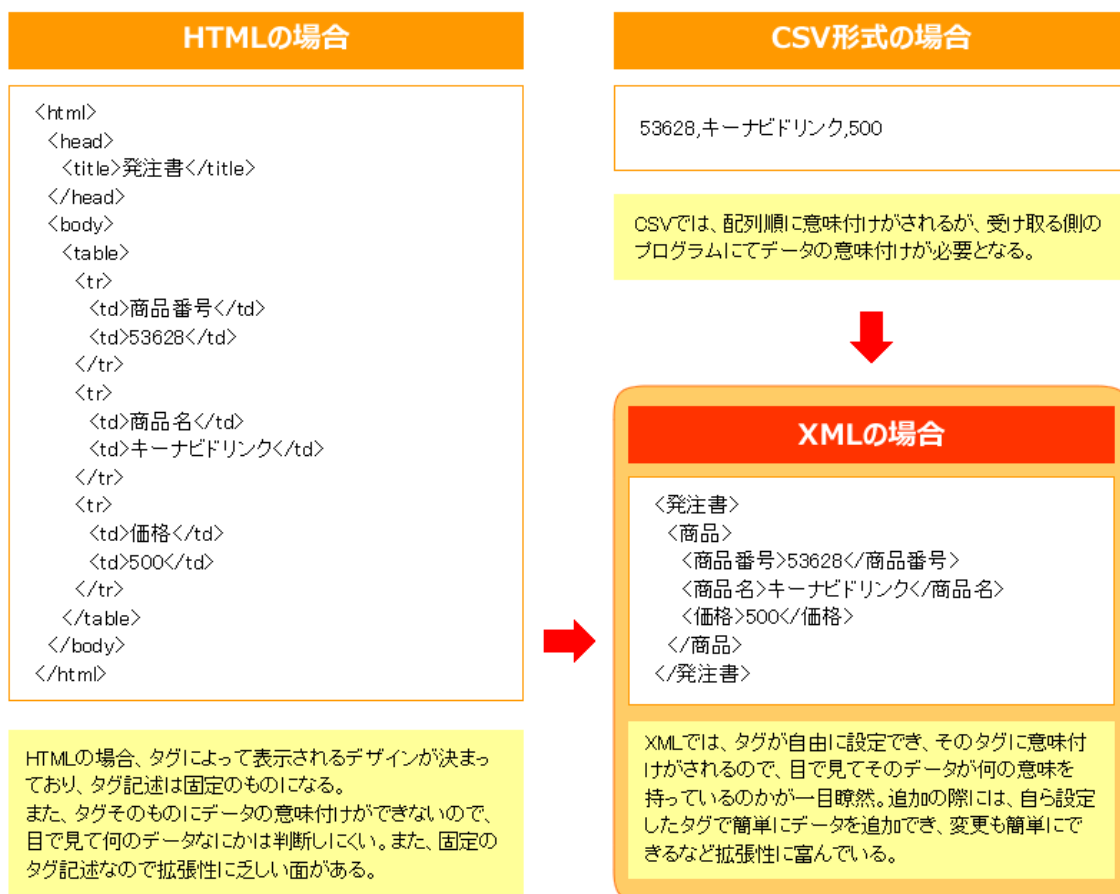
## (5) 電子調査書のファイル形式

電子調査書を保存する方式としてXML形式を採用した。以下に概要を述べる。

### ① XML形式とは

データ交換においてもっとも基本的かつ重要なことは、互いのシステムが特別なアプリケーションを開発することなく、データを理解できることである。XMLはタグにより自システムで必要な項目を探することができるので、データの順序が違っていても、また、項目数に違いがあってもデータ交換が可能である。更に、XMLは標準が進み、多くの企業間でのデータ交換に利用されているという実績がある。このような理由から、電子調査書のデータ交換においては、XMLを利用することとした。

以下に、XMLについて分かりやすくウェブに掲載されている図を引用して紹介する。



[https://www.cybertech.co.jp/xml/contents/xmlxmldb/serial/\\_xmlbeginner1.php](https://www.cybertech.co.jp/xml/contents/xmlxmldb/serial/_xmlbeginner1.php)

株式会社サイバーテック (CyberTech Corporation) ウェブサイト

「XMLとは? IT 初心者でもすぐわかる XML 基礎知識 - HTML との違い」より引用

## ② 電子調査書 XML スキーマ

全国共通電子調査書フォーマットに則って、XML形式に変換したデータ項目定義を、XMLスキーマと呼ぶ。令和4年度入試対応と、令和7年度入試対応の2種のXMLスキーマを校務システム事業者の協力により制作した（参考資料4、参考資料5）

## 3. 電子調査書に関わる高校・大学の業務

高校、大学ともに、調査書の電子化により業務量が増加するのではないかと不安を感じていることが、学校団体等への聞き取り調査や、独自の聞き取り調査で明らかとなった。そこで、本節「3.電子調査書に関わる高校・大学の業務」において、電子化する前と電子化した後の業務の流れを詳らかにし、次節「4. 調査書の電子化による業務の軽減」において、調査書を電子化することが、高校の調査書発行業務や大学の入学試験業務の簡素化にメリットがあることを示す。

### （1）調査書の発行から提出までの業務フロー(電子化前)

- ① 調査書発行申請者である生徒が高校事務室窓口を来訪する。
- ② 生徒は所定の調査書発行申込書（申込年月日、申込者氏名、卒業年・卒業見込み年、提出先大学、部数等を記載）の記入と提出、所定の手数料を支払いにより調査書の発行申請を行う。なお、高校によっては、年末に調査書申込の期日を設け、クラス担任がクラス全員分の調査書発行依頼を取りまとめ、年始に調査書を交付するような場合もある。  
手数料については300円～500円等や、無料とする場合もあり、学校によって違いが見られる。
- ③ 記載責任者（クラス担任教諭）が指導要録に基づいて調査書原案を作成し、出力（印刷する）。その後、関係教員をもって組織した調査書作成に関する委員会において当該生徒の調査書の審議を行う。なお、卒業生の場合は、卒業時に作成した調査書が原簿として保管されており、これを活用して調査書を作成することが一般的である。
- ④ 高校長が調査書の内容を確認の上で校長印を押印し、調査書の作成が完了する。
- ⑤ 高校において、必要部数を印刷し、紙折を行い、封入物と封筒表面記載の大学名を確認し、調査書を封筒に封入、封緘する。発行簿に記載あるいは、校務システムに調査書の発行を記録する。

⑥ 生徒は高校事務室窓口で調査書を受領する。なお、卒業生が遠隔地に居住する等の場合は高校事務室が郵送する等して、交付する場合もある。

⑦ - 1 生徒の大学への提出（郵送出願の場合）

生徒は願書・志願票や顔写真、必要書類とともに、高校が厳封した封書を願書に同封して出願する。

⑦ - 2 生徒の大学への提出（ウェブ出願の場合）

生徒はウェブ出願により志願情報を入力した後、検定料を納付し、郵送により調査書を送付する。

⑧ 大学は願書の封筒を開封し、同封されている調査書を開封する。封入されていた調査書が志願者本人のものであるか、調査書に記載漏れがないかどうかを確認する。志願者本人の者でない場合や、記載漏れがある場合については、差し替えを本人（場合によっては高校）に依頼を行う。

⑨ 入学者選抜において活用する。この際、評定等、一部の項目をデータ化する場合もある。

⑩ 入学者選抜において活用した後、保管を行う。その後、入学者の調査書を抽出し、入学した学部においてファイリング、保管する。非入学者のデータは機密書類として破棄する。

⑪ 入学者の調査書は一定期間（5年とする例が多い）の保管後、機密書類として破棄する。

（2）電子調査書の発行から提出までの業務フロー（電子化後）

① 生徒は電子調査書システムにログインし、出願先大学・入学者選抜制度を入力し、調査書発行の有無を入力する。



生徒は自分のスマートフォン、タブレットあるいはパソコンから、インターネットで「電子調査書システム」にアクセスし、ログインIDとパスワードを入力しログインを行う。



ログインを完了すると生徒のトップ画面が表示される。ここで「電子調査書の申請」をクリックする。



次に「電子調査書」を提出する大学を設定する。自分が過去に「電子調査書」の発行を申請した大学のリストが一覧で表示される。今回の場合は、過去のリストに無い大学に「電子調査書」を送るので、新規登録をクリックする。



今回、「D調大学」という名前の大学に出願する。検索画面で「D調」と入力し、検索ボタンをクリックする。



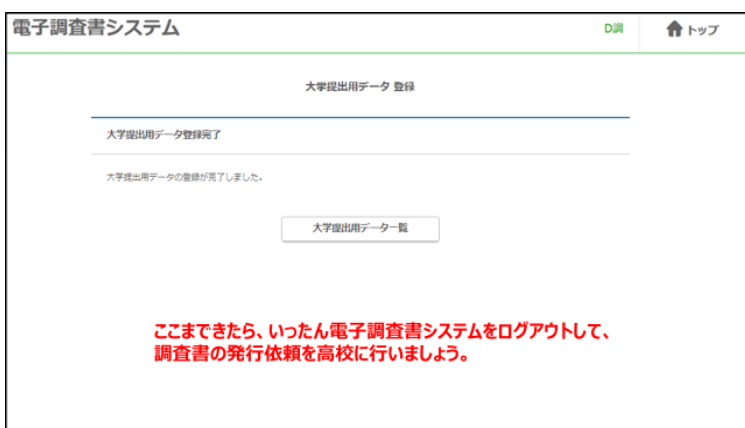
検索の結果、候補となる大学が表示される。「D調大学 関東エリア 東京都」に電子調査書を提出するので、「この大学を選択」をクリックする。



次の画面では、「入試区分」「入試名」等必要事項を入力する。続いて「電子調査書」が「必要」のチェックボックスをクリックし、「登録する」のボタンをクリックする。なお、調査書以外に「志望理由書」や「学修計画書」等の大学が指定したデータを「大学提出用データ」として送付できる。



調査書を提出する大学名を最後に確認し、「次へ」をクリックする。もし、誤りがある場合は、「戻る」を選択し、大学選択画面で、再度、大学名を選択する。



電子調査書を含めた、大学提出用データ登録完了の画面が表示される。提出する書類の内容を確認したい場合は「大学提出用データ一覧」で確認ができる。内容が確認できたら、いったん電子調査書システムをログアウトし、「調査書」の発行依頼を高校に行く。







先生は学校の所定のパソコンで、IDとパスワードを入力し、「ログイン」をクリックして電子調査書システムにログインする。なお、今回の調査・研究では、校務システムから直接インターネットを介して電子調査書システムにアクセスすることを前提にしている。



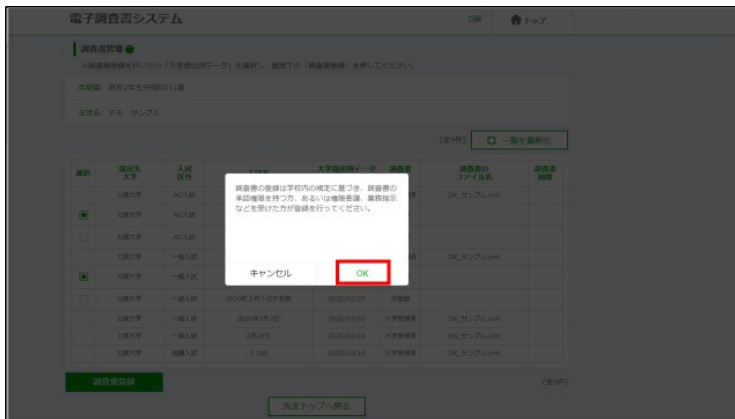
調査書の登録依頼があった生徒を検索する。高校名、学年、組番号、カナ氏名を入力する。高校名についてはここでは「D調高校」、組番号は「99組」とし、「検索」をクリックする。この場合は、入力した組番号の生徒で調査書の発行依頼をしている生徒全員のデータが表示される。



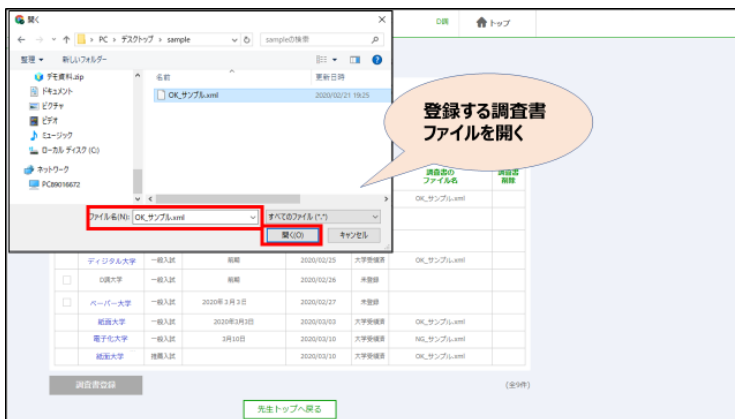
次に検索結果が表示される。名前が「デモサンプル君」から調査書発行の依頼があったため、先生はデモサンプル君の「調査書管理」をクリックする。



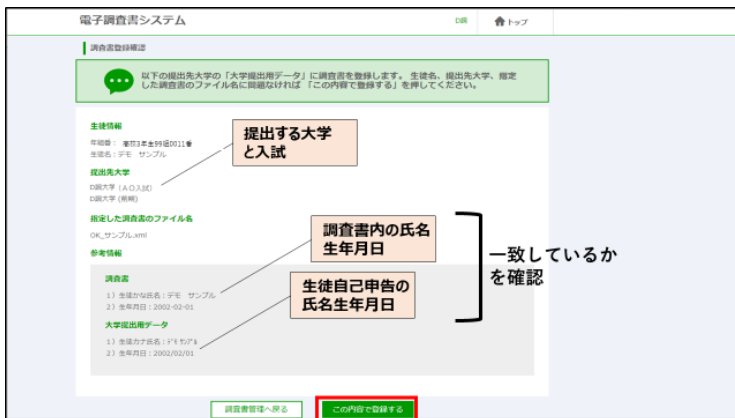
デモサンプル君が発行登録をしている大学が表示される。デモサンプル君が今回発行依頼をした大学である「D調大学」について、申請のあった入学者選抜を選択し、「調査書登録」をクリックする。



「調査書の登録は学校内の規定に基づき、調査書の承認権限を持つ方、あるいは権限移譲、業務指示等を受けた方が登録を行ってください。」との確認画面が表示される。問題なければ、「OK」をクリックする。



次に、デモサンプル君の電子調査書ファイルが格納された校務システムのフォルダを参照し、「デモサンプル」君の電子調査書ファイルを選択し、「開く」をクリックする。



「調査書登録確認」の画面で、「提出する大学と入試」「調査書内の氏名と生年月日」「生徒がシステムに登録した際の氏名と生年月日」が表示される。生徒のものであることが確認できれば「この内容で登録する」をクリックすると電子調査書ファイルがシステムにアップロードされる。



調査書の登録作業が完了する。この作業はあくまでも電子調査書システムへの登録であり、先生が大学に調査書を提出するわけではない。これまで通り、調査書は生徒が大学に提出する仕組みである。先生に注意頂く点は、従来通り依頼のあった生徒の調査書を誤りがないように発行することである。

- ⑤ 高校事務室あるいはクラス担任教諭が、電子調査書授受システムに電子調査書をアップロードしたことを生徒に連絡する。なお、生徒への連絡はあらかじめアップロード期日を伝えることで省略することも考えられる。システムの仕様を改訂すれば、システムを介してアップロードを生徒に通達することも考えられる。
- ⑥ 生徒は電子調査書授受システムにログインし、申請した出願先大学・入学者選抜制度に調査書がアップロードされていることを確認し、出願手続きを行う。

※現在の調査書発行依頼に際して生じている課題は、生徒が高校より調査書の発行を受けたものの、生徒が出願せず、余った調査書を生徒が開封するケースである。このような事象を防止するため、電子調査書システムに大学出願機能を活用して、出願先大学を登録する方法を採用し、必要に応じて調査書を高校が発行する仕組みとした。これにより電子調査書のデータは高校教員により直接、電子調査書授受（連携）システムにアップロードされるため、生徒が調査書の内容を一切見ることができない。さらに、生徒が誤った大学に調査書を送付するミスも防止ことができ、高校も必要分のみを発行することができる。

生徒は先生からの登録完了の連絡の後、電子調査書システムにログインする。大学への出願が「郵送」の場合は、「調査書コード請求票」を印刷する必要があるため、印刷機器に接続できる機器からログインする。

「電子調査書申請」をクリックする。

先生が電子調査書システムへのアップロードをしていない場合は、一覧を開くと「電子調査書登録：未登録」の表示のままになっています。この状態では出願ができません。

先生が電子調査書を電子調査書システムに登録していない場合は、「電子調査書登録」は「未登録」と表示される。この状態では出願はできないので、先生に電子調査書が登録できていないことを連絡し、登録を依頼する。

①先生が調査書をシステムに登録した後の画面です。  
②生徒のみなさんは出願手続きができる状態です。  
a.ウェブ出願の場合は各大学のウェブ出願サイトから出願してください。  
b.郵送出願の場合は「調査書コード請求票」を出力して出願してください。

先生が電子調査書の登録を完了していれば、「登録完了」と表示される。これで生徒は出願手続きができる状態になる。ウェブ出願の場合は出願する大学のウェブ出願システムで手続きを行う。郵送出願の場合は「調査書コード請求票」をクリックして「調査書コード請求票」を印刷する。

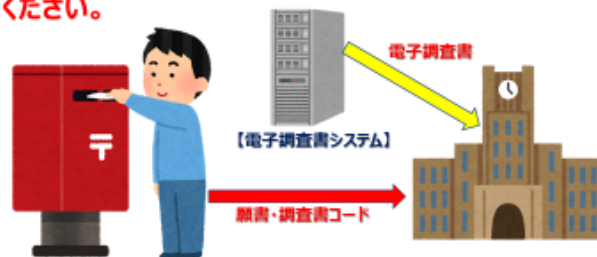
### ⑦-1 生徒の大学への提出（郵送出願の場合）

生徒は電子調査書授受システムに指定した大学の出願情報に対して高校教員が電子調査書のアップロード完了を確認した後に、「調査書請求票」を印刷出力する。そして、願書・志願票や顔写真、必要書類とともに、調査書コードが埋め込まれたQRコードが印刷された「調査書請求票」を同封して出願する。

※指定した大学以外の大学（別の大学）に調査書請求票を送付しても、当該大学は電子調査書をダウンロードすることは一切できない。

**【郵送出願の場合】**  
**調査書コードが書かれた**  
**調査書コード請求票を出力し、**  
**願書と一緒に封筒に入れて、**  
**郵送してください。**

**調査書コード請求票に記載された大学のみが、**  
**電子調査書を受領できます。**  
**※誤って別の大学のものを送付しないように注意して**  
**ください。**



⑦-2 生徒の大学への提出（ウェブ出願の場合）

電子調査書授受システムに指定した大学の出願情報に対して高校教員が電子調査書のアップロード完了を確認した後に、生徒はウェブ出願により出願情報を入力した後、検定料を納付すると、調査書コードが出願情報とともにデータとして大学に送信される。指定した大学以外の大学に出願した場合は調査書コードが送信されず、ウェブ出願システムにおいてエラーとなる\*。

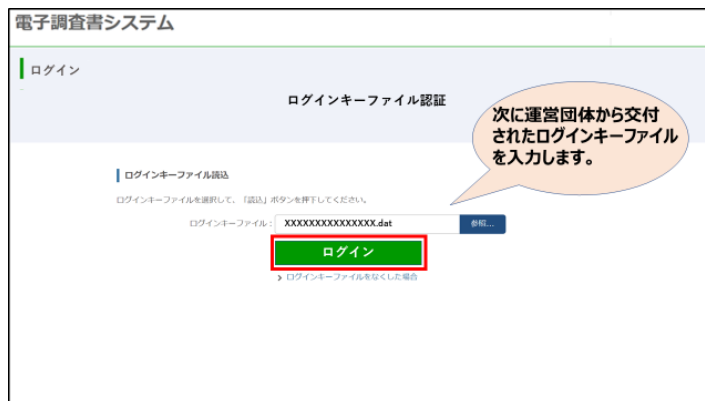
\*ウェブ出願システムの画面表示は各大学が設定を行う必要がある。

⑧ -1 大学の調査書の受領（郵送出願の場合）

大学は願書に同封された調査書コード請求票を取り出し、志願者本人のものかどうかを確認する。調査書コード請求票をQRコードリーダーで読み取り、その他の生徒の調査書コードと併せてパソコン等に仮保存する。電子調査書システムにログインした後、仮保存していた調査書コードを電子調査書システムに入力し、電子調査書を保存するフォルダにダウンロードする。



IPアドレスを登録した大学のパソコンで、電子調査書システムにアクセスし、ID・パスワードを入力し、ログインボタンをクリックする。



電子調査書システムを運営する団体から交付されたログインキーファイルを入力し、ログインボタンをクリックする。



ウェブ出願の場合は、生徒から提供された調査書コードをこの画面に貼り付け、「検索」をクリックする。郵送出願の場合は、願書に同封された調査書請求票のQRコードから、調査書コードを読み取り、この画面に貼り付け「検索」をクリックする。



リストとして表示された電子調査書のチェックボックスをクリックし、「調査書ダウンロード」をクリックする。ダウンロード先を選択し、ダウンロードを行う。ダウンロードが完了すると、「調査書データファイル (XML形式) のダウンロードができました。」と表示される。

⑧-2 大学の調査書の受領（ウェブ出願の場合）

大学はウェブ出願によって送信されてきた調査書コードを収集し仮保存する。電子調査書システムにログインし、仮保存していた調査書コードを入力し、電子調査書を保存するフォルダに電子調査書をダウンロードする。

⑨ 入学者選抜において活用する。

大学は提出された調査書を入学者選抜において活用する。

⑩ 大学における電子調査書の保管

大学は入学者選抜において活用した後、いったん保管を行う。その後、入学者の調査書データを抽出し、入学した学部において電磁的に保管する。

※ここでは、紙として保管することは前提としていない。紙で提出された、帰国生徒、外国人、既卒で5年以上経過した生徒の情報をデータ化する。

⑪ 調査書の保管期間と破棄

大学は一定期間（5年とする例が多い）の保管後、機密データとして破棄する。

## 【ウェブ出願の場合】

- 1) 生徒がウェブ出願システムから出願手続きを行います。
- 2) ウェブ出願手続と同時に、大学に調査書コードが送付される仕組み。
- 3) 志望理由書、学修計画書、活動実績報告書なども同時に提出可能な設定。





### (3) 調査書発行後の高校における業務

調査書発行後の高校における調査書の保管等の業務の流れについても洗い出しを行った。

#### ① 現行

1) 高校によっては調査書を発行するにあたって発行簿や校務システムに記録を記載し、その内容をもとに合否、入学の追跡調査を行っている。

2) 卒業見込みや学年期中での発行した調査書は、卒業後に最終学年末までの指導要録のデータをもとに調査書を作成し、「卒業見込」を「卒業」に変更し、原簿として保管している。

3) 保管方法は紙の場合もあれば、校務システムにデータで保管している場合等、高校により様々である。なお、指導要録や調査書に関する情報については、電磁的な保管が文部科学省により認められている。

#### ② 調査書が電子化された場合

1) 高校教員は、生徒が出願を行い、大学が電子調査書を受領したことを、電子調査書システムで確認ができる。

その後は、上記1)～3)の作業は現行と同様に行われ、校務システムを活用してデータ管理することが想定される。

校名	提出先	入試	入試	大学調査書データ	調査書	調査書の	調査書
	大学	区分	名称	作成年月日	進捗	ファイル名	状態
ポートフォリオ大学	AO入試	K16		2020/03/20	大学受領済	OK_サンプル.xlsx	
パーパー大学	AO入試			2020/03/17	未登録		
〇〇大学	AO入試			2020/03/17	登録完了	OK_サンプル.xlsx	🔴
デジタル体大学	一般入試	前期		2020/03/25	大学受領済	OK_サンプル.xlsx	
〇〇大学	一般入試	前期		2020/03/26	登録完了	OK_サンプル.xlsx	🔴
パーパー大学	一般入試	2020年3月9日		2020/03/27	未登録		
〇〇大学	一般入試	2020年3月10日		2020/03/31	大学受領済	OK_サンプル.xlsx	

電子調査書システムでは、生徒が出願したかどうかを確認することも可能である。先生が調査書を登録完了した段階では、「登録完了」と表示される。この段階で、調査書の内容に誤りがあることを気づいた場合は、登録した調査書のデータを削除することが可能。



電子調査書システム

調査書管理

※調査書登録を行い、「大学提出用データ」を選択し、該当下の「調査書登録」をクリックしてください。

年次編: 高校3年生3学期011番

生徒名: サモ サンプル

生徒は調査書の内容は一切、閲覧することはできません。

選択	提出先大学	入試区分	入試名	大学提出用データ 生成年月日	調査書 番号	調査書の ファイル名	調査書 状態
<input type="checkbox"/>	ポートフォリオ大学	A0入試	1次	2020/02/10	大学事務課	OK_サンプル.xml	
<input type="checkbox"/>	ペーパー大学	A0入試		2020/02/17	事務課		
<input type="checkbox"/>	国語大学	A0入試		2020/02/17	事務課	OK_サンプル.xml	
<input checked="" type="checkbox"/>	デジタル大学	一般入試	前期	2020/02/25	大学事務課	OK_サンプル.xml	
<input type="checkbox"/>	国語大学	一般入試	前期	2020/02/26	事務課	OK_サンプル.xml	
<input type="checkbox"/>	ペーパー大学	一般入試	2020年3月3日		事務課		
<input type="checkbox"/>	国語大学	推薦入試		2020/02/20	大学事務課	OK_サンプル.xml	

大学が受領したデータは「大学受領済」と表示されます。

調査書登録 (25件) 一覧を最新化

調査書登録 (25件) 先定トップへ戻る

生徒が出願を行い、大学が調査書を受領した場合は、大学受領済と表示される。紙の調査書では封書で厳封した状態で生徒は大学に提出を行っていた。電子調査書システムでも同様に、生徒は調査書の内容は閲覧することはできない。また、生徒が登録した大学以外の大学に調査書を提出することもできない。

#### 4. 調査書の電子化による業務の軽減

##### (1) 高校における業務の軽減

調査書の交付は、高校教員もしくは高校事務室が、調査書の印刷、記載担当者印の押印、高校長の押印、封筒の表書きの記載、大学名調査書の紙折、生徒の申告した調査書枚数の確認と、調査書の内容物が当該生徒のものであるかを十分に確認して、封筒へ封入、封印・封緘を行う。交付に際しても、高校事務室の場合は生徒証確認を行い、本人に対して発行している。

調査書が電子化された場合は、現在の高校におけるこのような調査書発行の一連の業務が一切無くなる。

東京都の進学者の多い高校では年末に受付、新年に配布する調査書の数は4,000通を超えるとのことであり、調査書の電子化によって、調査書発行に関わる高校教職員の業務負担が大幅に軽減されることになる。

##### ① 電子化以前の生徒への交付業務

- 1) 生徒の申告に基づき、厳封された調査書原本を作成し、必要部数を印刷
- 2) 記載担当者印の押印
- 3) 高校長の押印
- 4) 封筒表書き記載
- 5) 調査書の紙折、封入（表書きと内容物の確認）
- 6) 封印・封緘
- 7) 生徒確認の上、生徒への交付

## 【電子調査書システムのメリット】



### ② 電子化以降の生徒への交付業務

生徒の申告に基づき、調査書システムにアップロード。生徒が登録したデータに紐づける。そのため、電子化以前の1)～7)の業務は一切不要となる。調査書が電子化された場合の作業内容について変更が生じる部分は、調査書の印刷出力に代わって、電子調査書授受システムへのアップロード作業が加わることである。

### (2) 大学における業務の軽減

#### ① ウェブ出願で電子調査書を受領するための条件

1) 調査書が電子化された場合、電子調査書を受領するために特別なネットワークや情報機器が必要になるとの誤解が見受けられる。本委託事業の成果として開発した電子調査書授受システムにおいては、特別なネットワークや情報機器を必要とはしない。

2) ウェブ出願の場合は、各大学が様々な事業者や独自のシステムを構築しているため、調査書を受領するための仕組みを共通化して、各大学のウェブ出願システムに調査書コードを、電子調査書授受システムから連携する仕組みを、導入する必要がある。郵送出願の場合はこの限りではない。

3) 電子調査書を誤って出願先以外の大学や第三者が受領できないようにするため、電子調査書を運営する機関に電子調査書をダウンロードするサーバのIPアドレスを登録する必要がある。

各大学がIPアドレスを事前に登録するため、当該大学へ出願された電子調査書の情報のみを閲覧することができる仕組みとなっている。つまり志願者の電子調査書が誤って他の大学で閲覧されることが無い仕組みとなっている。誤って送付されてきた他大学の調査書コードではダウンロードができない。

4) ダウンロードするファイルはXML形式としている。ダウンロード前に電子調査書システムにおいて閲覧することも可能である。ダウンロード後の閲覧については、表計算ソフト等のアプリケーションで閲覧することができる。

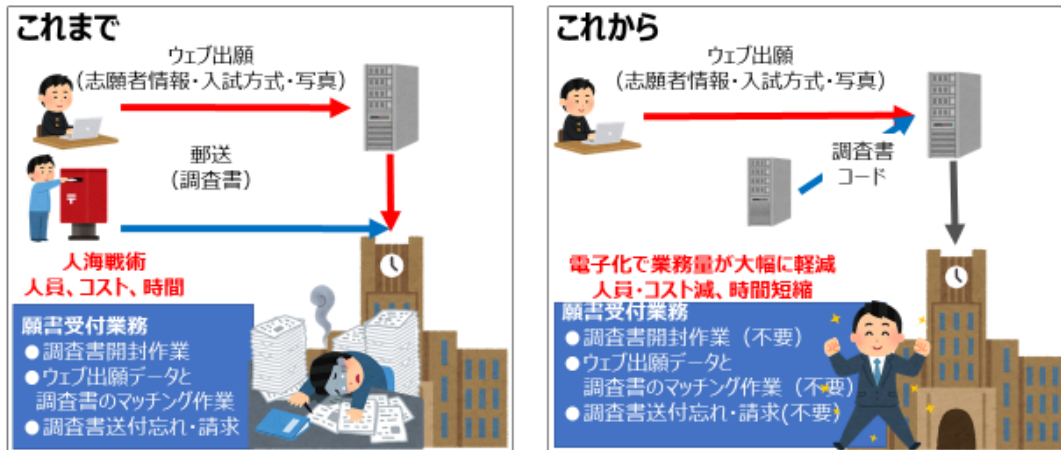
これにより全ての提出書類をウェブ出願のみで収集することが可能となり、これまで生じていたウェブ出願データと、郵送で送付されてきた調査書の突合作業が不要となる。さらに調査書が電子化されることによって、入学者選抜はもちろんのこと、入学後の指導、入試制度改善のためのデータ収集、分析が可能となる。調査書の保管についても、ファイル作業、保管が必要なくなり、電磁的な情報の管理のみとなる。

## ②大学の出願受付業務の軽減

現在の紙の調査書の場合、願書に同封された調査書の入った封筒を抜き取り、封筒を開封し、調査書を取り出し、志願者のものであるかどうかを確認し、調査書の内容に漏れが無いかを確認した上で、入学者選抜に活用する。入学者選抜が終了した後は、入学者の調査書を抜き取り学部毎にファイルして5年間保管。非入学者、不合格者、未受験者の調査書は入学試験終了後、一定期間経過後に機密書類として破棄している。

電子化後は、ウェブ出願の場合、ウェブ出願と同時に調査書コードが送信されてくる。これらを収集し、電子調査書システムに調査書コードを入力の後、電子調査書をダウンロードし、「大学調査書管理システム」によりチェック、入学者選抜に活用する。入学者選抜が終了した後は、それぞれのファイルに属性（入学者、非入学者、不合格者、未受験者）を付しデータ保存する。保存期間が経過したものについては、データを破棄する。郵送出願の場合、調査書コード請求票が送付されてくるため、QRコードリーダーで調査書コードを読み取る等して収集し、電子調査書システムから電子調査書をダウンロードする。

## 【電子調査書システムのメリット】



### 1) 電子化以前

- a. 調査書の封筒を開封
- b. 同封された調査書と願書の突合
- c. 調査書の不備確認
- d. 同封漏れした生徒への請求
- e. 一部の調査書の項目をデータ化
- f. 入学者選抜での活用

### 2-1) 電子化以降 (ウェブ出願の場合)

- a. 調査書コードをウェブ出願と同時に受領
- b. ウェブ出願されなかった受験生の属性確認 (帰国生徒・外国人等)
- c. 電子調査書システムでダウンロード・暗号解除
- d. 帰国生徒・外国人等の生徒の情報をデータ化
- e. 入学者選抜での活用

### 2-2) 電子化以降 (郵送出願の場合)

- a. 願書を開封し、調査書コード請求票を受領、自大学のものかどうかを確認  
※調査書コード請求票が提出されなかった受験生の属性確認 (帰国生徒・外国人等)
- b. QRコードリーダーで調査書コードを読み取る等して、パソコンに蓄積。
- c. 電子調査書システムでダウンロード・暗号解除
- d. 帰国生徒・外国人等の生徒の情報をデータ化
- e. 入学者選抜での活用

電子調査書を大学が受領するためには、ウェブ出願システムを導入していなければならないという誤解がある。しかし、今回の調査・研究で開発した電子調査書システムでは、ウェブ出願システムを導入していない、郵送出願の入試でも、電子調査書を受領できる。

以下に大学団体等からのコメントを記す(原文のまま)。

○「本学では、現在、調査書は紙ベースのみによる出願としていることから、今回の調査書電子化に併せて、ネット出願システムの導入を予定している。については、電子調査書の概要の公表を受け、各社のネット出願システムが電子調査書に対応した後に、選定や予算要求等の準備を進めなければならないことから、調査書導入時期については、検討スケジュール案より1年遅らせ、2022年度実施入試からとしていただきたい(公立大学協会)。」

### ③ 大学における調査書の保管業務の軽減

#### 1) 現在

調査書を選抜で活用した後については、入学者の調査書を抽出して、入学学部が調査書をファイルして保管する作業を行っているのが一般的である。保管期間を各大学において定めており、保管期間が経過したものから順次廃棄をしていると考えられる。なお、非入学者の調査書については、機密文書として破棄している場合が一般的である。

#### 2) 電子化後

調査書を選抜で活用した後、入学者の調査書データを電磁的に保管することが有効であり、電子化されたデータを紙で出力して保管することは業務上の負荷と費用を考えると避けるべきである。なお、電磁的に調査書を保管するにあたっては、これを閲覧するための大学電子調査書管理システムの共通仕様を開発した。大学調査書管理システムの仕様では、閲覧は紙での出力によるものではなく、蓄積されたデータから検索し、パソコンの画面上で閲覧するという考え方に立っている(印刷も可能としているが)。また、保管期間についてはこれまで通りに各大学が適切に定め、保管期間が計画したものから順次機密データとして各大学の責任により消去・削除することを想定している。

## 【調査書の保管と活用】



大学の保管に関しての大学団体からの意見は次の通りである(原文のまま)。

○大学のセキュリティ問題の解決は最重要課題である。提出されたデータの管理を誰が、どこで行うのかを明確にする必要がある。データ授受に係るセキュリティ強化のための予算は、各大学負担ということになるのか。(公立大学協会)

## 5. 調査書の電子化における業務上の課題

### (1) 調査書の全面電子化の時期

- ① 一斉に全面電子化を行わないため、「紙の調査書」と「電子調査書」が大学（学部）ごと・入学者選抜ごとに異なっており混在する場合

一斉に全面電子化を行わないことにより、出願時に提出すべき調査書が大学・学部ごとや入学者選抜制度ごとに異なり、「紙の調査書」と「電子調査書」が混在する場合は、生徒の出願手続きが非常に複雑となり、結果として高校の指導や、調査書発行業務が煩雑となる。このような場合には、間違いなく入学試験願書提出時のミスが頻発することになり、高校だけではなく大学の業務も大混乱に陥る。具体的に想定される事象は以下の通りである。

- 1) 生徒は、受験する大学に提出する調査書が「紙の調査書」なのか「電子調査書」なのかを要項で確認する必要があるが、この段階で、「紙の調査書」「電子調査書」の種別を誤る可能性がある。出願後に誤りが発覚し、出願締め切り直前のため、受験ができなくなる等のトラブルが生じる可能性が考えられる。
- 2) 高校教員や高校事務室の調査書発行に関わる作業と、生徒の出願は極めて煩雑となる。
1. 「電子調査書」の発行の場合は、高校長が調査書の内容を確認の上、記載責任者もしくは事務責任者が電子調査書授受システムにログインし、申請者である生徒氏名、生徒の出願先大学・入学者選抜制度を確認し、校務システムのフォルダ内に蓄積した電子調査書を参照し、当該生徒の電子調査書を電子調査書授受システムにアップロードする。その後、生徒がウェブ出願により出願情報を入力した後、検定料を納付すると、調査書コードが出願情報とともにデータとして大学に送信される。
2. ウェブ出願ではない大学への電子調査書の提出は、高校教員が電子調査書のアップロード完了を確認した後に、生徒が「調査書請求票」を印刷出力し、願書・志願票や顔写真、必要書類とともに、調査書コードが埋め込まれたQRコードが印刷された「調査書請求票」を郵送出願する。
3. 「紙の調査書」であれば、高校教員が調査書を印刷し、記載責任者印、高等学校長印を押印し、紙折、申請者と封筒表書きを突合して封入、封緘の作業を行う。生徒は「紙の調査書」を受領し、願書・志願票や顔写真、必要書類とともに、調査書を郵送出願する。

以上のように、生徒は異なる3つの手続きを間違いなく行わなければならない、高校では「紙の調査書」「電子調査書」発行に関して、異なる3つの業務手順による発行を行わねばならない。また、同じ大学に出願するに際しても、入学者選抜によって「紙の調査書」と「電子調査書」が異なるならば、さらに複雑な手続き求められることになる。

② 一斉に全面電子化を行わないため、高校によって「紙の調査書」と「電子調査書」が混在する場合

一斉に全面電子化を行わず、高校ごとに「紙の調査書」「電子調査書」が混在する場合についても、大学の願書受付処理は極めて煩雑になり、願書受付処理にかかる作業量が膨大になり混乱する。願書受付後の入試活用場の作業でも、紙か電子か、いずれかに取り扱いを合わせる必要があり、電子調査書で受領したものを印刷する、あるいは紙の調査書を、パソコン入力を行い電子化する等の作業が生じることも考えられ、入試業務における大きな負担となる。入学試験終了後、保管のために入学者の調査書を抽出する作業についても、紙の調査書と電子調査書が混在することによって、煩雑な作業が生じる。

調査書の電子化の時期については、「調査書ワーキンググループ」においても高校、大学の混乱を避けるために、一斉に導入することを求める声が強かった。各団体への事前にヒアリング結果についても同様であり、調査書の全面電子化の時期については一斉に行うことが強く求められる。

以下に大学、高校・大学各団体から寄せられた意見を記す(原文のまま)。

○電子化に係る課題が多く指摘され、解決されていない現状に鑑み、調査書電子化の導入は、できるところから導入していくのではなく、「一斉導入」すべきであるとする。

(全高長)

全国高校長協会からは「一斉導入」を求める理由として、

1) 選考の資料として使用される調査書には、不備は絶対に許されない。現状では、文部科学省による学校での作業のためのプログラムの作成、通信のためのネットワークの構築、セキュリティ対策、選抜を行う大学側の体制の整備等、様々な課題に対して、万全の準備が必要であり、個々の課題をきちんとクリアしていくことが必要である。一つでも曖昧な対応があると、実施に際して混乱を生じるおそれがあるとする。

なお、前提として、作業工程のすべてのフローが示されることがなければ、学校としては準備を行うことができないことを付言する。



2) 検討段階で行われた調査では、全ての団体が「一斉導入」を求め、「一斉導入」のために改善すべき事項を指摘した。現在までにこうした課題が解消されているとは考えられない。

3) 調査書が電子データと紙媒体で混在する状況は、高校にとって業務量が著しく増加するばかりか、作業上のミスを生徒の一生を左右する事態にも繋がりがねない。

4) 大学入学者選抜改革と学習指導要領改訂に伴い、今後、現行の様式（令和元年度用、令和2年度用、令和6年度用の3種類の様式が使われるようになる。特に、観点別評価の導入時には、大規模な様式の改訂が予想される。このように改訂が続くなかで、調査書に電子のものと紙のものが混在することは、事故防止を考えると絶対に避けるべきである。

○「大学側としては、調査書の電子データと紙媒体の調査書が混在することになると業務負担等が大きくなりミスを誘発する可能性があり、実際上の対応が困難である。したがって、国立大学の基本的な対応としては、高校側の電子データ化への対応が完了してから導入することとしたい。」（国立大学協会）

○1. 「解禁」から「原則化」について

以前にも意見をお伝えしたように、紙媒体の調査書と電子化された調査書が混在することは、高度な正確性と迅速性を要求される入学者選抜業務を無用に煩雑にするため、基本的に望ましくないとする当連盟の考えに変わりはない。ただし、「解禁」から「原則化」までの移行期間を設定する今回の提案は、当連盟が提出した意見にも配慮した上で、混在期間を最短にとどめるための現実的な妥協案であり、検討に値する提案であると考えている。また、「原則化」の方針が明示されたことについては、積極的に歓迎する意見もあり、「原則化」という弾力的措置を含意する表現にとどまるのではなく、然るべき支援を確約した上で、「義務化」というさらに踏み込んだ文言で明記することを期待する。（私大連）

## (2) 調査書の電子化に対応できないケース

調査書の電子化に、当面の間の過年度生、帰国生徒、外国人等に対応できない。よって、これらの生徒については、入学者選抜において、不公平な取り扱いとならないようにするため、大学が選抜に活用する事項に関して記載した書類を提出させる等の工夫が必要となる。なお、今回開発した電子調査書授受システムは、このような別途提出させる書類も、電子化されたファイルで提出することが可能な仕組みになっている。

### ① 過年度生

過年度生の調査書の発行可能年度は卒業後5年までとなっている。

#### 1) 調査書の電子化全面実施前に卒業した過年度生

調査書の電子化に対応することができないため、高校においては引き続き紙の調査書を発行することになる。

#### 2) 調査書の電子化全面実施後に卒業した過年度生

在学時に調査書の全面電子化が行われているため、電子調査書の提出が可能である。

### ② 帰国生徒

大学受験時に我が国の一条校に該当しない在外教育施設に在籍する帰国生徒は、当該の教育施設が発行する卒業証書（見込み証明書を含む）と成績証明書をもって出願手続きを行うこととなる。大学入学者選抜実施要項に示される調査書様式によらないため、電子調査書を提出することはできない。

### ③ 外国人留学生への対応

大学受験時に我が国の一条校に在籍していない外国人の生徒は、当該の教育施設が発行する卒業証書（見込み証明書を含む）と成績証明書をもって出願手続きを行うこととなる。大学入学者選抜実施要項に示される調査書様式によらないため、電子調査書を提出することはできない。

### (3) 選抜以外での調査書の活用に関する注意事項

#### ① 現在

各大学は一般的に調査書をはじめとする出願時の個人情報の取扱いについて、その利用用途を入学者選抜試験要項等において明記している。多くの場合、入学試験において利用することや、入学した場合は、入学者データとして利用し、入学後の指導のために活用すること等を告知している。

#### ② 電子化後

調査書の電子化の後には、入学者選抜だけに限らず、各大学の入学者選抜改革のための調査・研究や、大学の教育改革のための基礎情報として活用されることが想定されている。この場合、各大学は用途を大学入学者選抜要項等に明記する必要がある。

(参考) 入学者選抜要項における記入事例として、各大学での入学者選抜要項における記載事例を紹介する(原文のまま)。

#### 【大阪大学】大阪大学 令和3年度 一般選抜(前期日程) 学生募集要項 より抜粋・引用

##### 1.2. 個人情報の取扱い

(1) 出願時に提出された氏名、住所、その他の個人情報は、「入学者選抜(出願処理、選抜試験実施)」

「合格者発表」及び「入学手続」等の入試業務を行うために利用します。

なお、入学者については、「教務関係(学籍管理、修学指導等)」、「学生支援関係(健康管理、授業料免除・奨学金業務、就職支援等)」及び「授業料収納に関する業務」を行うために利用します。

(2) 国公立大学の合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名及び大学入学共通テストの受験番号に限って、合否及び入学手続等に関する個人情報が、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されます。

(3) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、「入試結果の集計・分析」、「入学者選抜方法の調査・研究」及び「学生支援業務(奨学金業務等)」のために利用します。

(4) (1) 及び(3) で得られた個人情報は、上記のほか、「入学者選抜方法及び大学教育の改善」、「大学の管理運営(各種調査・分析、事業企画等)」のために利用することがあります。

ただし、個人が特定される形で、その成果が公表されることはありません。

(5) 上記(1)、(3) 及び(4) の業務を行うに当たり、一部の業務を外部の事業者へ委託する場合があります。この場合、外部の事業者と個人情報の取扱いが適切に行われるよう契約を結んだうえで、当該事業者に対して、提出された個人情報の全部又は一部を提供します。

【関西学院大学】 関西学院大学 2021 年度入学試験要項より引用

個人情報保護への取り組み

関西学院大学では「個人情報の保護に関する法律」に基づき、出願に際して志願者から提供された個人情報については、

- ・志願者への連絡や入学準備
- ・入学試験データ・入試結果の集計・分析、入学者選抜方法の調査・研究
- ・学生支援業務（奨学金業務等）
- ・入学者選抜方法及び大学教育の改善
- ・大学の管理運営（各種調査・分析、事業企画等）
- ・関西学院大学入学後の連絡

のために利用し、安全管理のために必要な措置を講じています。

入学後に提出された各種個人情報については、

- ・大学教育の改善
- ・大学の管理運営（各種調査・分析、事業企画等）
- ・学生支援業務（奨学金業務等）

のために利用し、安全管理のために必要な措置を講じています。

例えば、上記の目的のため、外部の事業者には業務を委託する場合がありますが、外部の事業者と個人情報の取扱いが適切に行われるよう契約を結んだうえで、当該事業者に対して個人情報を提供します。集計、分析、調査、研究等（以下「調査等」といいます。）に用いる場合においても、個人が特定される形で調査等の結果が公表されることはありません。

また、上記のとおり提供された個人情報の内、学生の氏名・住所・電話番号および保証人の氏名・住所・電話番号については、会員等への案内、機関誌送付を目的として、共同利用いたします。これら共同して利用する個人データの管理について責任を有する者は 関西学院大学長 です。なお、これらの関係団体についても個人情報の取扱いについては関西学院大学と同様の安全管理措置を講じています。

## 6. 校務システム共通仕様

### (1) 高校校務システムにおける共通仕様の調査・研究

高校校務システムを既に導入済の教育委員会や高校にあっては、指導要録から調査書を生成して印刷するためのプログラムが標準装備されているケースがほとんどである。そこで、校務システムを改修し電子調査書を指導要録から生成するための共通仕様の調査・研究を行った。この共通仕様は、電子調査書の普及に関して極めて重要な意義を持つものであり、特に高校における調査書作成・発行における業務のスリム化のために必須である。

### (2) 校務システムの共通仕様の必要性

高校の現場からは「調査書は指導要録の記載内容を反映させるものであり、指導要録の様式や指導要録を作成する校務支援システムと一体として考えるべきである。現状多くの学校で校務支援システムを用いて作成している指導要録と調査書を、もし別々に作成することになれば非効率であるばかりか、高校の業務量が大きく増加することになるので十分留意願いたい。学校ごとにプログラム開発を行うことは、ミスを誘発する恐れがあり、国が責任をもって開発するようお願いしたい。」(全高長)との指摘がある。この点を踏まえて、後述する電子調査書を生成する校務システムの共通仕様は、指導要録の様式や指導要録を作成する校務システムと一体のものとして検討を行った。

### (3) 校務システム共通仕様

前述の通り、校務システムを既に導入している教育委員会や高校では、指導要録作成のシステム化を完了しており、調査書の作成は指導要録に入力された情報を引用するシステムが一般的である。調査書が電子化された場合は、高校毎に作成した指導要録から、大学入学者選抜実施要項で示す全国共通統一フォーマットに従って、調査書データを生成する必要がある。調査書の電子化にあたっての校務システムの改修は、現行の校務システムにおける調査書生成プログラムを、電子調査書フォーマットのルールに合わせてXML形式に変換して生成するために改修することである。

さらに、校務システム改修の要件としては、コードマスタを校務システムに組み込み、指導要録や調査書作成時に、文字の情報とともに調査書コードを自動入力することである。

また、電子調査書システムに格納された、各大学の暗号化のための公開鍵マスタをAPIにより自動参照し、電子調査書システムにアップロードする際に、校務システムにおいて生成したXMLファイルを暗号化するためのプログラムの標準装備を共通仕様とする。

続いて、校務システムによる、調査書作成と交付の手順を説明する。基本的な操作は現在の校務システムとほとんど変わるところがない。

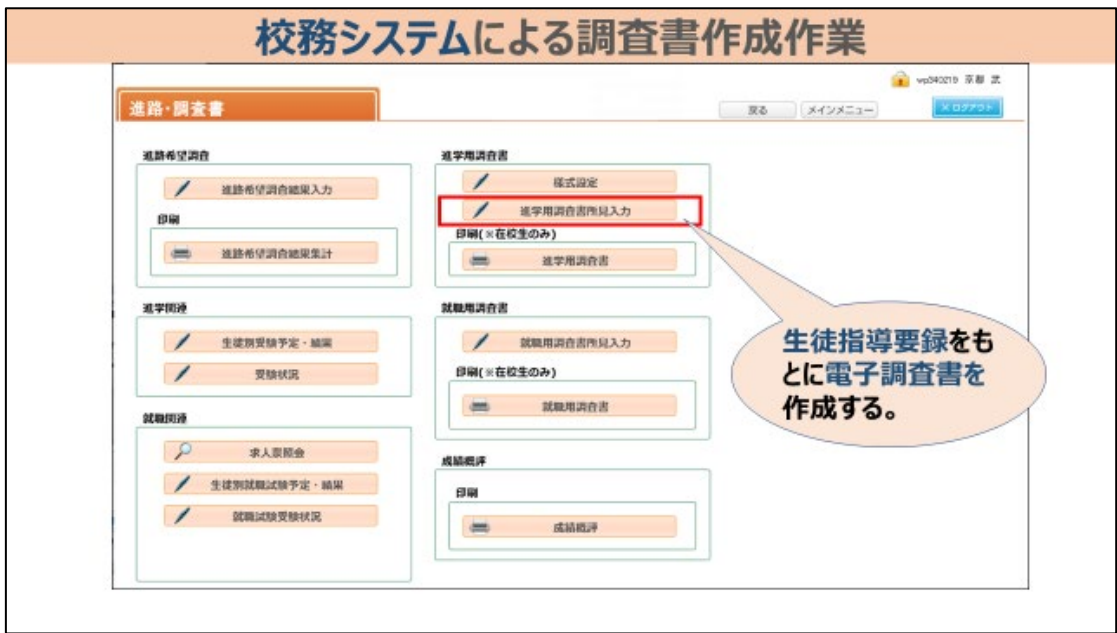
- ① 生徒指導要録を校務システムにおいて作成するためにデータを入力する。

高校において校務システムを導入している場合、高校の先生は校務システムを利用して、指導要録をもとに調査書を作成する。調査書が電子化されても、現在の紙の調査書とほぼ同じ方法で、校務システムを操作することになる。それでは画面の操作の説明を行う。「生徒指導要録」から調査書を作成するので、「生徒指導要録 所見入力」をクリックする。



つぎに生徒指導要録の所見を入力する。

- ② 生徒指導要録のデータを、進学用の調査書データにコピーする。



生徒指導要録をもとに調査書を作成する。ここでは、「進学用調査書所見入力」をクリックする。

- ③ 生徒指導要録のデータが誤りなくコピーされているかどうか確認する。

大学用進学用調査書所見入力画面が表示される。初回の表示においては、生徒指導要録データが自動引用される。指導要録から引用した情報を確認・修正する。また、指導要録に記載されていなかった内容についても追記することが可能である。

- ④ 調査書の記載項目として必要な内容の変更・修正・追加を行う。

## 校務システムによる調査書作成作業

この画面で指導要録から引用した調査書情報を確認・修正する。



分類区分※

資格※

取得年月日※ 2021 年 03 月 日

全選択 全解除

番	生徒氏名	取得年月日
1	通1801200001さん	
2	通1801200078さん	
3	通1801200079さん	
4	通1801200080さん	
5	通1801200047さん	

プルダウンから分類を選択

分類選択後、プルダウンから資格等を選択

指導上参考となる諸事項等は、資格・検定マスタや大会・コンテストマスタと連携しプルダウンメニューから選択する。資格・検定コードも自動的に連携するため、高校教員の入力は不要。

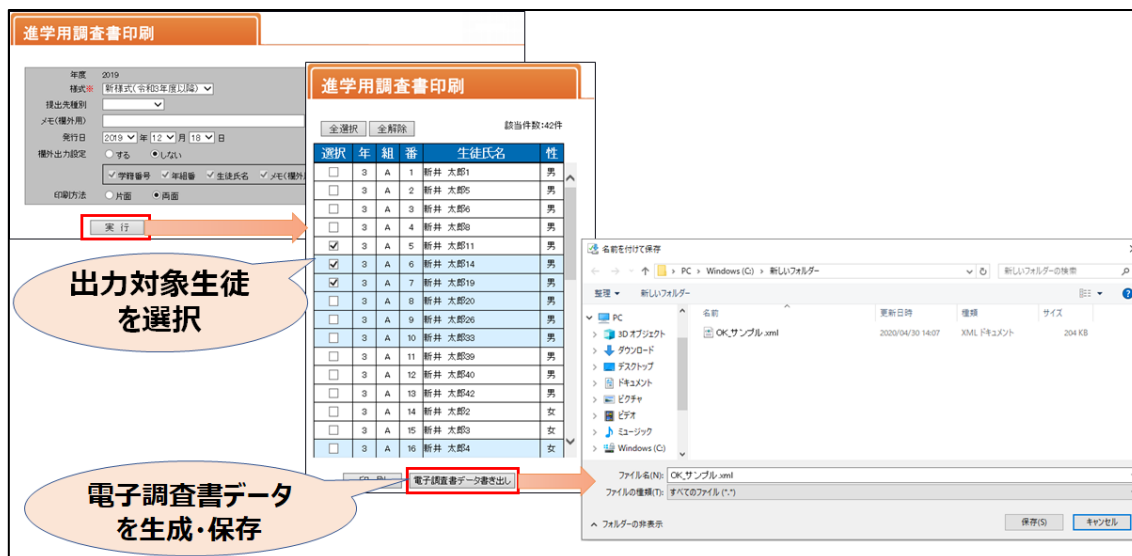
以上の作業の後、

- 3) 作成した調査書をフォルダ等に保存する。
- 4) 作成した調査書を印刷し、確認作業等を行った後、調査書を完成させフォルダに保存する。
- 5) 完成した調査書を印刷し、押印、封緘等を行う。
- 6) 生徒に発行する

というのが、現行の紙の調査書の発行の一般的な手順である。

以下に調査書が電子化された場合の変更点を記す。

⑤ 作成した調査書の確認作業等を行った後、調査書を完成させ、XMLファイルに校務システムが自動で変換してフォルダに保存する。



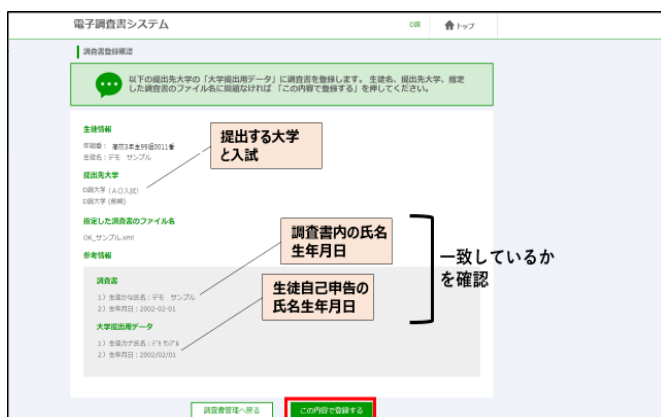
電子調査書の発行依頼があった生徒を選択し、「電子調査書生成・保存」で作成した調査書の情報を、電子調査書フォーマットに合わせてXMLファイルに変換して、所定の場所に保存する。

(以下は電子調査書授受システムへの電子調査書のアップロードの操作手順)

⑥ 完成した調査書データを、電子調査書システムにおいて、生徒の志願大学が登録されている情報と紐づけてアップロードする。



生徒（デモサンプル君）の電子調査書ファイルが格納された校務システムのフォルダを参照し、「デモサンプル」君の電子調査書ファイルを選択し、「開く」をクリックする。

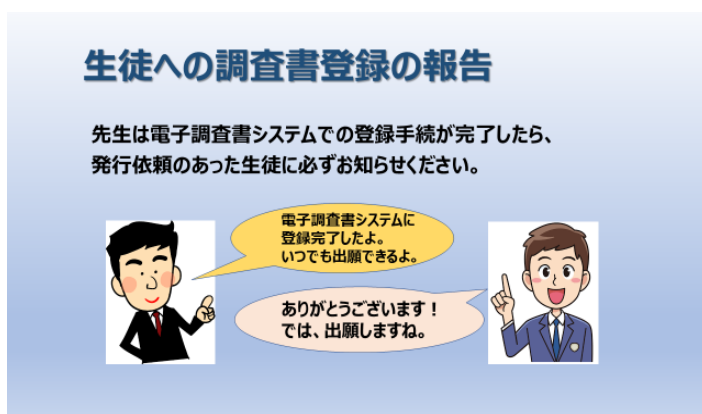


「提出する大学と入学者選抜」、「調査書内の氏名と生年月日」、「生徒がシステムに登録した際の氏名と生年月日」が表示される。申請した生徒のものであることが確認※できれば「この内容で登録する」をクリックする。電子調査書のファイルが電子調査書システムにアップロードさる。※生徒が通名を使用している場合も対応が可能。



調査書の登録作業が完了する。ここで行った作業はあくまでも電子調査書システムへの登録であり、先生が大学に調査書を提出するわけではない。これまで通り、調査書は生徒が大学に提出する仕組みは変えていない。先生に注意頂く点は、これまでの紙の調査書と同様に、依頼のあった生徒の調査書を誤りがないように登録するという点である。

⑦ 生徒に調査書データをアップロードしたことを伝達する。



以上が高校教員による電子調査書の発行手順となる。繰り返しになるが、あくまでも大学への送付は生徒が行うものであって、これまでと同様、高校教員の責任は生徒に電子調査書を交付するという方法に変更していない。

#### (4) 全国統一共通電子調査書フォーマット、コーディングと校務システムの改修

全国統一共通電子調査書フォーマットとはデータの構造化、処理のために不可欠なルールを示したものである。前項(2)において示した通り、校務システムを活用した高校教員の調査書作成の作業には大きな変更は生じないが、電子調査書フォーマットのルールに従って電子調査書を生成するための校務システムのプログラム改修が必要となる。

多くの校務システムで、行政における住民データの授受(例えば転居時の市区町村間の住民票データのやりとり等)が可能となるよう、一般財団法人全国地域情報化推進協会による標準化のためのコード設定(教科、科目コード等)が行われている。このコードによって、教育委員会や学校間での情報の授受が可能となるとともに、校務システムに蓄積された情報処理が可能となり、高校内では統計資料の作成等に活用されている。

調査書が電子化された場合の校務システムでも、この教科・科目コード等を活用し、さらに、指導上参考となる諸事項のうち、資格・検定、大会・コンテストの名称についてコード化し活用することを提案している。校務システムの操作上は、高校教員が該当する資格・検定の名称を検索によって選択し、正式な名称で指導要録に入力し、そこから調査書に転載することを想定している。校務システムで調査書データをXMLファイルに変換する際には、該当するコード番号が、資格・検定や大会・コンテストの名称とともに入力されることを想定している。また、このデータを受領した大学が、大学調査書管理システムによって調査書の名称のテキストデータについて、正しくコーディングされているかチェックを行うことを前提としている。

このように、校務システム共通仕様の調査・研究においては、既存の校務システムで使われているコードと、今回の調査研究で開発したコードを活用して、校務システムが大学調査書管理システムと連携することを意識して設計・構築を行った。これによって、校務システムの改修費用を最小化できると考えている。

#### (5) 進学用調査書と就職用調査書

高校によっては大学進学者が大半を占める高校もあれば、大学進学者が少数である高校も存在するが、その割合のいかんにかかわらず、現行の校務システムにおいては、指導要録から進学用調査書と就職用調査書が作成できる仕様になっているのが一般的である。

就職用調査書については、全国高等学校統一用紙(文部科学省、厚生労働省、全国高等学校長協会協議)が定められており、この様式に従って、指導要録から就職用調査書が生成さ

れる。

また、各種専門学校については、大学進学用調査書を使用しているのが一般的であり、校務システムにおいて対応が可能である。

高等専門学校の調査書は高等専門学校ごとに様式が定められており、高校においてその様式に合わせて作成する必要があるため、校務システムでは対応できていない。

海外の大学進学については、各国・各大学で定められているため、これも現在のところ、校務システムでは対応できていない。

調査書が電子化された場合、指導要録から進学用の電子調査書を作成することになるが、これを各種専門学校用に活用するためには、受領する各種専門学校が電子化に対応していないため、進学用調査書を印刷して、紙の調査書を発行することになると考える。就職用調査書については現行の通り。また、高等専門学校用調査書や海外の大学についても、前述の通り、各校がそれぞれ独自の調査書様式に沿って作成することになる。

#### (6) 校務システムにおける課題

調査書の電子化を検討するにあたり、学校現場側から見た留意すべき事項、解決すべき課題等を把握するために、関東地区等の教育委員会へヒアリングを実施した。

○文部科学省に確認したところ、調査書についても指導要録と同様、校長が確認したという証が必要とのこと。国で運用方針を変更しないと電子化は難しい。

○電子化されたデータが正しいものであることを誰が保証するのか。

(回答) 電磁的記録による調査書については校長及び記載責任者の押印は不要となっている。

文部科学省高等教育局長通知 2文科高第281号(令和2年6月19日付)「令和3年度大学入学者選抜実施要項について(通知)」より以下抜粋。

##### 「第5 調査書

1 各大学は、入学志願者から、入学者選抜の資料として、在籍する高校が生徒指導要録(以下「指導要録」という。)に基づき別紙様式1により作成した調査書の提出を求める。

なお、大学と高校が個別に合意した場合には、上記に代えて別紙様式1に記載すべきこととされている事項を全て電磁的に記録した調査書(以下「電磁的記録による調査書」という。)の提出を高校に求めることができる。この場合は、校長及び記載責任者の押印は不要とす

る。」

また、ID・パスワード管理について、厳格な運用を行うことによって、提出された電子調査書の情報の発行元（発行者・作成者）が特定できるような配慮を行っている。

○紙ベースでの運用を電子化しているだけのように思える。抜本的に仕組みを変える必要がある。例えば、訂正が発生した場合は、どのようなフローにするのかについて検討がなされていない。

(回答)訂正が発生した場合については、これまでは各学校担当者が、訂正が生じたことを、生徒が出願する大学に連絡を行い、正しく記載された調査書を差し替えとして郵送で送付していた。調査書が電子化された場合に訂正が生じた場合は、本研究においては、電子調査書授受システムを通じて、暗号化された電子調査書を高校が、これまでと同様、直接、大学に送付する手段を講じる。

○電子化された場合、調査書の点検はどのように行うのか、具体的プロセスの提示が必要。

(回答)本研究においては、電子化された場合の調査書の点検の在り方については、各高校の運用により、これまで通り調査書を印刷出力して行うことも考えられるだろうが、①電磁的なデバイス（ノートパソコン・タブレット）等を利用して、これまで通りの方法で点検する等が考えられる。②点検項目は調査書項目のみを対象とするのが、本調査研究での想定である。

○教職員の責任範囲と生徒の責任範囲をどのように考えるのか。例えば、現状、生徒の責任で、厳封した調査書を大学に届けている。電子化した場合、電子データが意図した送付先に送られなかった場合の責任の所在は、何処に有るのか。

(回答)本研究においては、電子化した場合も同様に、調査書の提出は生徒の責任によるものである。なお、本研究における電子調査書授受システムは意図しない大学への提出はできない仕組みとなっている。

○大学側は、同時期に電子調査書を受け入れる準備が整うとは思えない。従来通りの紙運用と電子運用の二系統の運用になり、学校側の業務負担が増える。

(回答)本研究において、強く指摘する点として、高校、大学ともに一斉に調査書の電子化を行うべきであり、これが実施されない場合は、高校、大学ともに極めて大きな業務負担となることが推測される。

○就職用調査書が紙運用のままであれば、学校は紙と電子の二系統の運用を行う必要があり、業務負担が増える。

(回答)本研究においては、校務システムの操作手順に示した通り、調査書作成までのプロセスは、紙と電子化の場合でも同様である。作成の後、紙として出力するか、XML ファイル

に変換し暗号化するかを選択できるようになることが変更点であり、指摘のような業務負担が増えるとは考えられない。

(参考) 高校には全日制、定時制及び通信制の3課程があるが、課程による調査書様式の差異は無く、共通仕様で進めることが可能であると判断した。いずれの課程においても、平成30年10月22日に発出された「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告の改正について(通知)」に記載されている調査書様式(以降、本調査書様式と称する)が利用されている。専門学校については、令和2年6月22日に発出された文部科学省「令和3年度専門学校入学者選抜について(通知)」に高校の調査書様式を利用する事が推奨されている。専門学校は多岐に亙り、調査書の標準化は難しい。進学用調査書を流用する方向で進めるしか方法はない。

○現状、調査書は学校から生徒に厳封して渡し、生徒は中身を見ることができない。生徒は厳封を大学に提出している。この流れを電子化すると、電子調査書授受におけるセキュリティ担保が難しい問題となる。

(回答)本研究において、電子調査書は、生徒はこれまで通り、調査書の中身を見ることができない仕様となっている。これまでは生徒が余分に受領した調査書を見ることも可能ではあったが、本研究における電子調査書授受の方法では、生徒は調査書の中身を一切見ることができない。

○備考欄について、大学によっては結構な量を記載することが求められる。備考欄に制限があると不味い。  
○調査書自由記入項目の文字数は、指導上参考となる諸事項についても、200文字を超える場合が多々ある。200文字では足りない。

(回答)本研究においては、高校、教育委員会における調査、「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議」において各学校団体から意見聴取した結果から、備考欄については適切な文字数制限を設けることが望ましいとの要望が多数を占めていたことから、文字数制限を設けている。電子調査書フォーマットの仕様については、柔軟に対応できるため、今後の電子調査書の実現に向けて、文字数制限がどのようにあるべきか、引き続き検討することが必要である。

○学校からすると大きな大会はコードを統一して欲しい、大学も同様かと思う。

○資格・検定・大会・コンテストのコード化は良く記載するものに限定するのが現実的。

○無数にある流派等はコード化が出来ない。大会も地区大会、関東大会等あるのでコード化は難しい。

○プルダウンで20個もの選択肢から選ぶのであれば、手で書いた方が早い。

(回答)本研究においては、網羅的に資格・検定マスタ、大会・コンテストマスタを制作している。

該当する大会や検定名について、最初にテキスト入力を行うと、入力にしたがい、プルダウ

ンに表示される対象の候補が絞られる校務システムの仕様を想定している。

なお、マスタのコードのメンテナンスについてであるが、APPLIC が定義したコードは APPLIC でメンテナンスすることが決まっているが、電子調査書固有のコードは、誰がメンテナンスし、その内容に責任を持つのか。また、各高校にどのようにして配布するのかについて、調査書の電子化を進めるにあたっての、検討が必要である。

○氏名の外字対応は難しい問題である。かなりたくさん利用している。

○校務ベンダーはベンダー独自の外字コードを提供している。大学も大学ごとで独自の外字コードを利用している。

○IPA の外字コードはさほど普及していない。

○外字はバラバラで、統一が難しい。外国籍の生徒は、在留カードに記載の氏名を転記している。在留カードも含めて外字の統一が必要。

(回答)現在でも、Shift-JIS を利用しているシステムが数多く稼働している。Shift-JIS の文字空間は狭く、この狭い文字空間で外字コードを割り振ろうとしているがために、システムによって外字コードが異なる状態となっている。IPA が国内の外字コードを統一すべく IPAmj 明朝を制定したが、IPAmj 明朝は ISO/IEC10646 に準拠した UNICODE ベースのコード体系となっている。Shift-JIS を利用しているシステムは UNICODE を扱うことが出来ず、プログラムの改修が必要となる。

以下の指摘項目は、調査書の全面電子化を進めるにあたって、事前に解決が必要な項目である。本調査・研究をふまえたコメントを付記する。

○個人情報扱うことについて、ほとんど議論されていない。教職員(公務員)が、調査書データ(個人情報)を外部に送付することそのものが、各自治体が定めた個人情報保護条例に違反する場合がある。各自治体の個人情報保護条例は、自治体毎に異なり、実運用においては知事の判断に委ねられることが多い。

○現文部科学省の「教育情報セキュリティガイドライン」では広域網に個人情報を流すことは許されていない。

(コメント)本研究における調査書電子化システムでのデータ転送は、閉域網～広域網～閉域網間で実施される。広域網において伝送路の暗号化及びデータ自体の暗号化は当然のことであるが、境界防御だけでは限界がある。万一情報漏洩が発生しても、生徒に関する機微なデータが復元できないように、校務システム、大学調査書管理システムにおけるデータの断片化を行うことが前提となる。

また、端末及びサーバの成りすましを防ぐために公的機関による端末認証とサーバ認証を導入すること、及び不正ログインを防ぐために、多段階認証と二要素認証を組み合わせた認証システムを導入することも考えられる。



一般に情報セキュリティ対策は、取り扱う情報資産の機密性と必要なコストとのバランスを考慮して実装する。調査書の電子化にあたってはこのバランスをどのようにとるのが課題となる。機密性に重きを置いた場合、ステークホルダーのコスト負担は膨れ上がるため、適切なバランスをとる必要がある。

○調査書データを一時的に集約する中間システムの運用者は民間業者ではなく国の機関(独立法人ではなく)が運用すべき。

(コメント)「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議」、その前身である「調査書ワーキンググループ」において、各関係団体からも同様に、公的な機関が電子調査書授受システムの運用をするべきであるとの意見で一致した。

## 7. 電子調査書授受システム

令和元年度の調査・研究においては、電子調査書授受システムを全国の高校や大学が実際に令和3年度に利用を開始することを想定し、技術的安定性やセキュリティ確保についても考慮した現実的なシステム設計を行った。当初の事業計画においては、高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」を活用することにより、生徒、大学の業務効率化を図り、調査書の電子化に係る課題を解決することのできる「電子調査書システム」の提案を行い、実証事業を実施した。この研究で開発した電子調査書システムは、本格運用時には、「JAPAN e-Portfolio」としてではなく、機能のみを、電子調査書授受システムと一元化して、「全国大学出願システム（仮称）」として運用することを想定し、その際、「JAPAN e-Portfolio」としての運用は終了することとなるものと考えていた。

しかしながら、令和2年8月7日付をもって、一般社団法人教育情報管理機構による高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」の運用が不許可となったため、「JAPAN e-Portfolio」と一元化しない場合の電子調査書システムの在り方について調査・研究を行った。その概要を以下に説明する。

### (1) 電子調査書システム

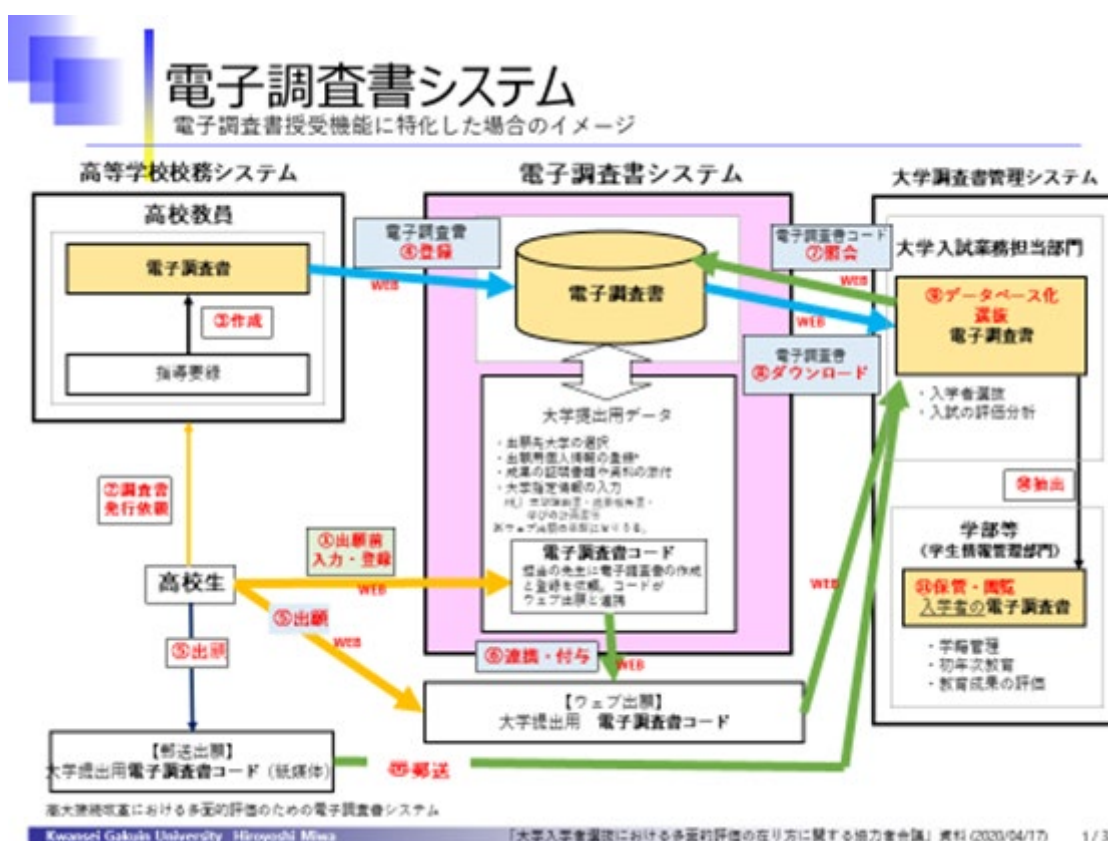
#### ①電子調査書システムの概要

「(1) 調査書発行から、大学への提出までの業務フロー」の新旧比較において説明した通り、生徒はあらかじめ出願先の大学を電子調査書システムに登録し、その登録されたデータに紐づけて、高校教員が暗号化された電子調査書をアップロードする。

具体的には高校教員は電子調査書システムにおいて、調査書を発行依頼した生徒氏名の確認、出願予定大学と入学者選抜方式を確認する。生成した電子調査書を保存しているフォルダを参照しアップロードする。その際には、校務システムと電子調査書システムがAPIにより連携し、各大学の公開鍵を参照、暗号化した上でアップロードされる。したがって、電子調査書運営機関は電子調査書の内容を一切知ることができないという設定としている。

高校教員が電子調査書システムに電子調査書をアップロードすると、調査書コードが自動的に附番され、生徒の出願大学登録情報と紐づけられる。生徒が各大学のウェブ出願システムで出願登録作業を行うと、自動的にこの調査書コードがウェブ出願システムを通して大学に提出されることになる。アップロードされたデータは、生徒が出願登録をした大学にのみ送付されるようになっている。したがって、生徒が誤って他の大学に調査書コー

ドを送付することは一切できない仕組みであり、発行・送付に関わるミスが一切生じない。また、調査書コード番号は、生徒自身の入力が必要とせず、自動的に附番されるためミスが生じない。また、ウェブ出願を採用しておらず、郵送出願の大学の場合は、電子調査書システムから大学出願機能から調査書コードとQRコードが記載された帳票を出力し、願書と同封して送付することになる。「高大接続ポータルサイト JAPAN e-Portfolio」と一元的に運用した際との違いは、ID・パスワード管理の方法が異なることと、蓄積したポートフォリオの情報を大学が活用できないという点のみである。



## ② 教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン

校務システムからの電子調査書のアップロードについては、文部科学省公表の教育情報セキュリティポリシーに関するガイドラインにより、校務システムが外部インターネットとの接続を前提としていないため、平成 31 年度（令和元年度）の実証事業においては、校務システムから暗号化 USB にデータをダウンロードし、その暗号化 USB を外部接続系パソコンからインターネットを通じて、電子調査書授受システムにアップロードする方式を採用した。しかしながら調査の結果、高校は校務システムには USB の接続が行えない場合や、USB を利用することそれ自体が、高校教員の紛失等のヒューマンエラーに通じる

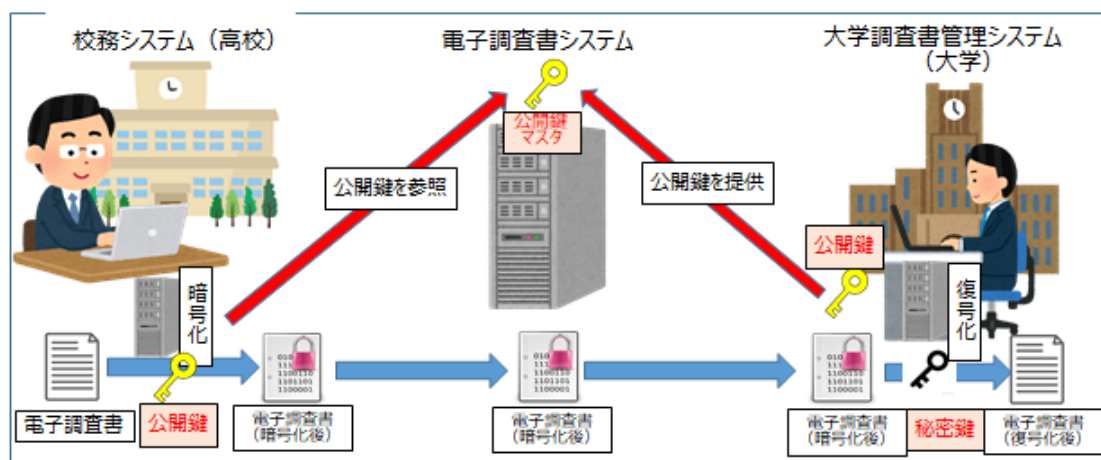
ことへの懸念が示された。教育委員会や高校からは、むしろ、セキュアな方法により、校務システムから直接インターネットを介して電子調査書授受システムに電子調査書をアップロードする方が望ましいとの意見が聞かれた。文部科学省公表の教育情報セキュリティポリシーに関するガイドラインの解釈を変更する等の対応が必要になる。

### ③ 調査書の暗号化

暗号化については公開鍵暗号方式を採用する。校務システムにおいて、アップロード時に公開鍵マスタをAPI連携により参照し、あらかじめ校務システムにインストールした暗号化ソフトで公開鍵を用いて調査書の暗号化を行うこととなる。大学は復号化に秘密鍵を利用する。電子調査書システム管理機関は暗号化された調査書を保管するために、調査書の個人情報を一切閲覧することはできない。以上により、公開鍵で暗号化された調査書は、公開鍵とペアになる秘密鍵でなければ復号できず、秘密鍵は、公開鍵を作成するユーザーのみが保有できる。したがって、暗号化された調査書を第三者が解読することは極めて困難である。

- 1) 各大学が暗号鍵に関するソフトを活用し、秘密鍵と公開鍵を生成する。
- 2) 電子調査書システム運営機関に公開鍵を提供し、電子調査書システム運営機関が公開鍵マスタを生成する。
- 3) 調査書データをアップロードする際に、高校校務システムが電子調査書システムと連携し、自動的に公開鍵マスタを参照し、公開鍵を使って調査書を暗号化した後にアップロードする。
- 4) 暗号化された電子調査書を大学がダウンロードし、秘密鍵を用いて復号し、電子調査書の中身を確認する。

## 電子調査書の暗号化



### (2) システムの様々な実装方法に関する調査・研究

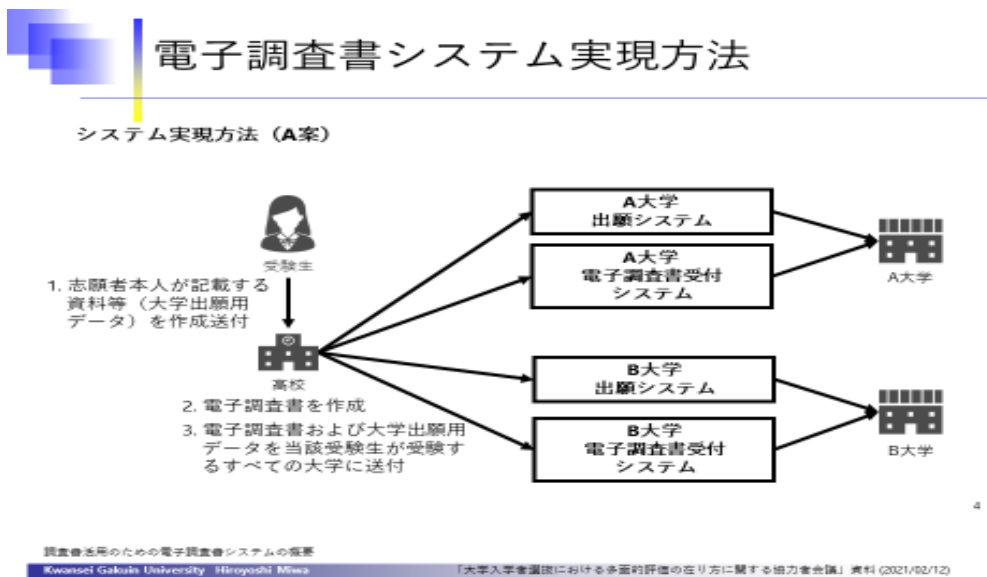
令和2年度12月からの調査・研究においては、システムの様々な実装方法に関する調査・研究を行った。電子調査書の授受の方法は、大学が指定するWebシステムによるデータの入力やExcel、csv等の電子データ形式で、セキュアなネットワーク環境におけるデータ通信等による授受を、受験生を介さず高校と大学間で行う等様々な実装方法が考えられる。ただし、一元的・集中的にデータを保持することは、既に広く使われてノウハウも固まっている技術である。システムが本格的に稼働することになった場合、システム利用者数は極めて多く、万一のトラブルの波及範囲が大きいこと、また早期に実用化しなければならないことを考えると、特に初期の導入時においては、比較的安定した技術を用いなければならない。そのため、これまで説明してきた電子調査書システムは、データを一元的に集中管理するものとして実装した。令和2年度の調査・研究においては、電子化の計画のみを前提にせず、特に政府全体の電子化の動きにも柔軟に対応していけるように、複数の実装方法等を検討する。

なお、実装方法の検討にあたっては、電子調査書をダウンロードするための調査書コードを、ウェブ出願時に出願情報と同時に送信する仕組みが最も効率的である。ウェブ出願と別に、電子調査書を受領するためのコード等の情報を送付するような仕組みは、現状の紙面の調査書による郵送と、業務上の負荷が何ら変わることなく非効率的でナンセンスであり避けるべきである。

(2-1) システム実現方法案

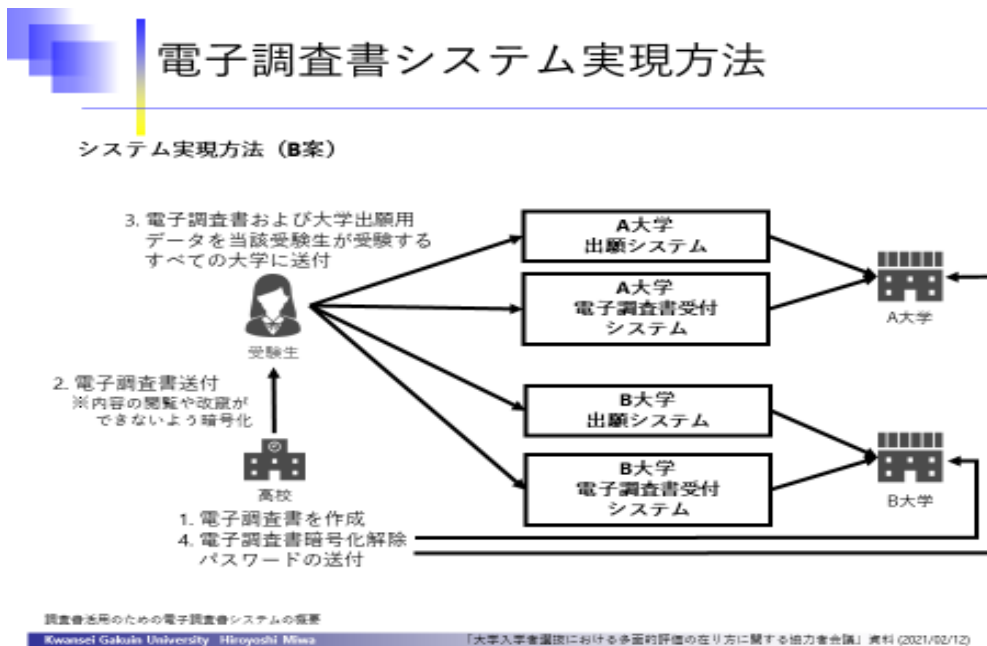
①システム実現方法 A 案

- 1) 大学が個々に電子調査書受付システムと Web 出願システムを構築。
- 2) 受験生が大学出願用データ (PDF 等) を高校に提出。
- 3) 高校から、各受験生が受験するすべての大学に出願用データと電子調査書を各大学のシステムに入力。



②システム実現方法 B 案

- 1) 大学が個々に電子調査書受付システムと Web 出願システムを構築。
- 2) 受験生が電子調査書を大学に提出。

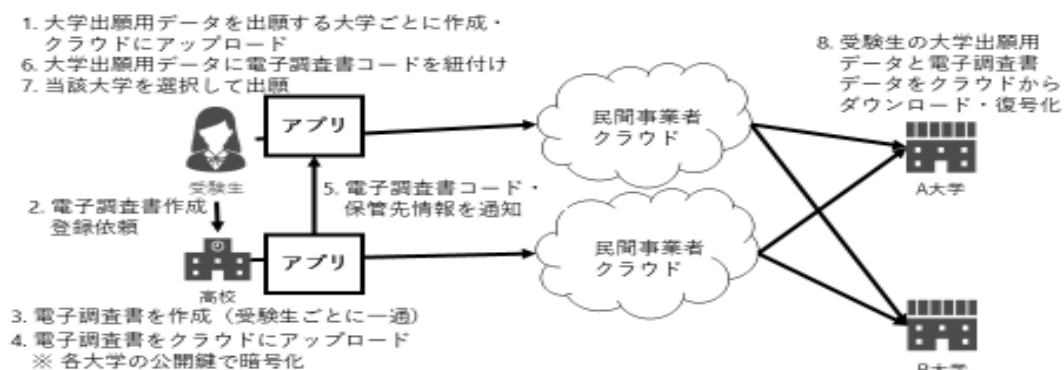


### ③システム実現方法C案

- 1) 電子調査書アプリを開発、データは複数の民間事業者のクラウドで保管（データストレージとしてのみの利用）。
- 2) アプリを用いてデータを高校・受験生・クラウド・大学間でやり取り。

## 電子調査書システム実現方法

### システム実現方法（C案）

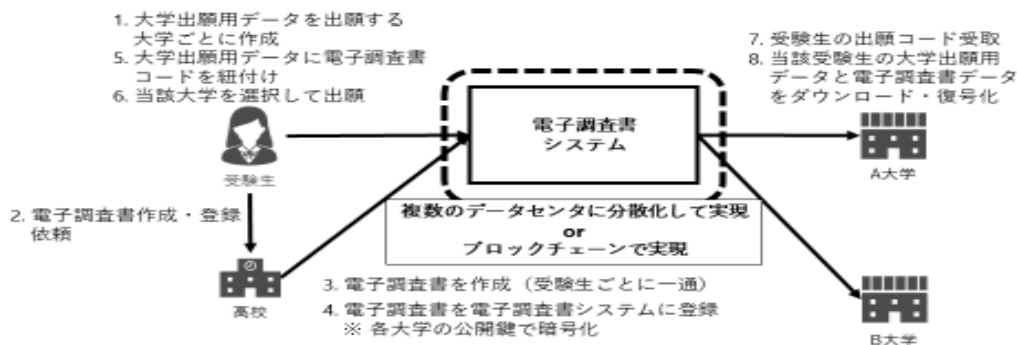


### ④ システム実現方法D案（D1/D2案）

- 1) 電子調査書システムを構築。出願用データや調査書データを高校・受験生・大学間でやり取り。
- 2) 電子調査書システムは分散化して実現。

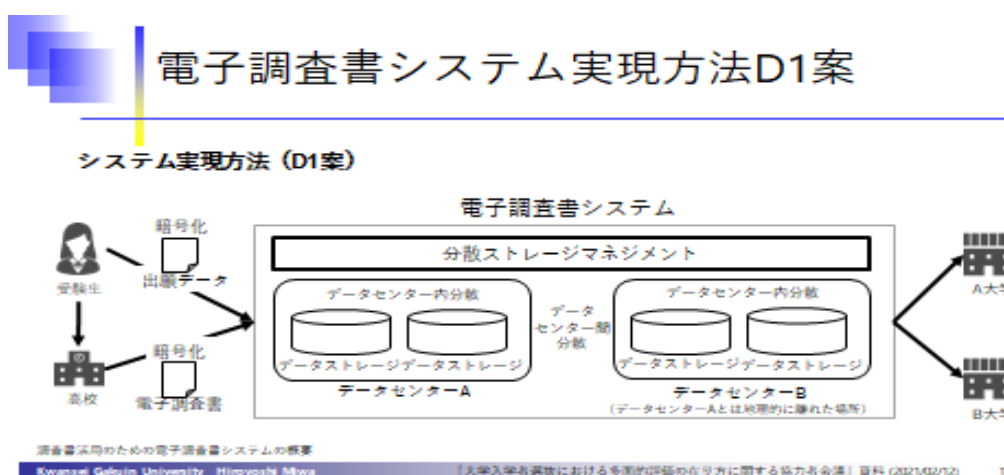
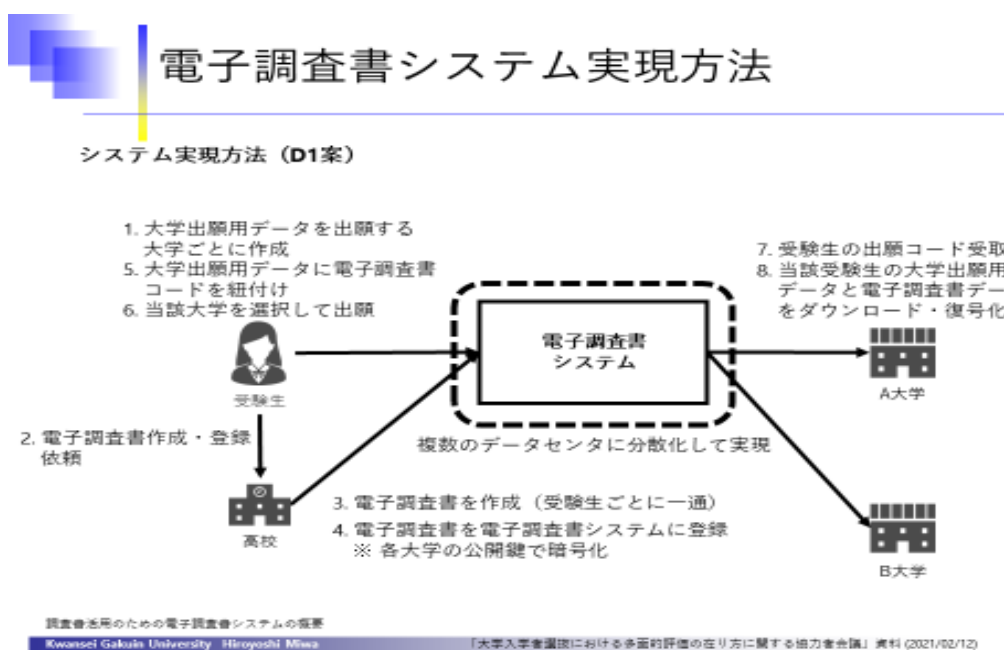
## 電子調査書システム実現方法D1/D2案

### システム実現方法（D1/D2案）



#### ④-1 システム実現方法D1案

- 1) 電子調査書システムを構築。出願用データや調査書データを高校・受験生・大学間でやり取り。
- 2) 電子調査書システムは、複数のデータセンターに分散化して実現（暗号化された電子調査書は複製して分散格納することにより耐障害性を実現）。
- 3) 電子調査書は暗号化されるため、当該大学以外は、受験生も管理運営組織も含めて電子調査書の中身を見ることはできない。
- 4) 大学ごとの公開鍵で高校にて暗号化、当該大学は秘密鍵で復号化（高校と大学双方に、暗号化・復号化のためのソフトウェアが必要だが、一般的なものも利用可能）。



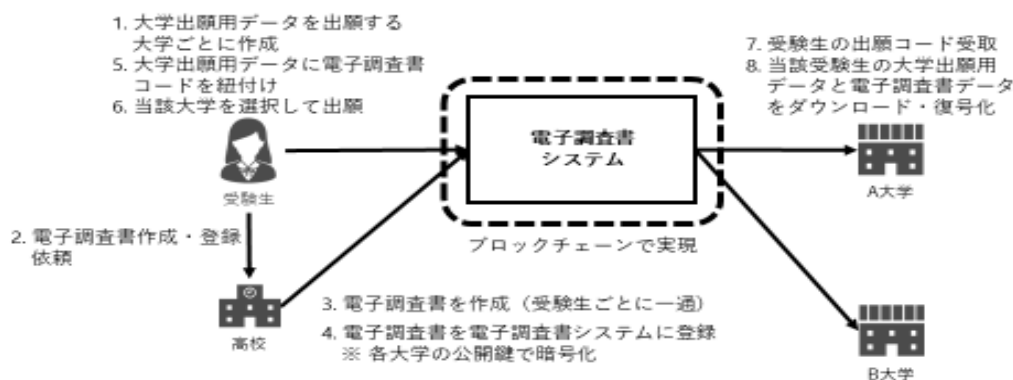


#### ④-2 システム実現方法D 2案

- 1) 電子調査書システムを構築。出願用データや調査書データを高校・受験生・大学間でやり取り。
- 2) 電子調査書システムは、D1案と同様の暗号化に加え、ブロックチェーンと分散型ファイルストレージを利用して実現。
- 3) ブロックチェーンの性質である改竄困難性と、分散型ファイルストレージによる耐障害性を実現。
- 4) コンソーシアム型ブロックチェーンにより、データ保管に関しては複数の独立した公的な組織でブロックチェーンおよび分散型ファイルストレージで分散管理。

## 電子調査書システム実現方法

### システム実現方法 (D2案)



調査書活用のための電子調査書システムの概要

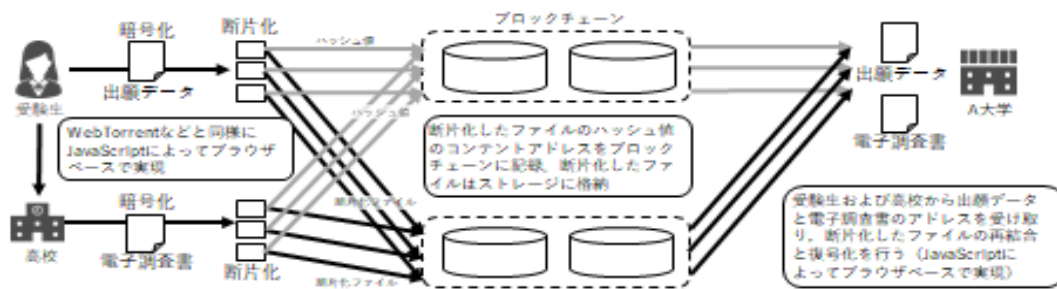
Kwansei Gakuin University Hiro Yoshi Miwa

「大学入学希望国における多面的評価の在り方に関する協力者会議」資料 (2021/02/12)

/ 14

## 電子調査書システム実現方法D2案

### システム実現方法 (D2案)



調査書活用のための電子調査書システムの概要

Kwansei Gakuin University Hiro Yoshi Miwa

「大学入学希望国における多面的評価の在り方に関する協力者会議」資料 (2021/02/12)

/ 14

(2-2) 電子調査書システム実現方法案のまとめ



## 電子調査書システム実現方法

電子調査書システム実現方法案のまとめ

	A案 (大学が個別にシステム構築・ 高校から大学に電子調査書送付)	B案 (大学が個別にシステム構築・ 受験生から大学に電子調査書送付)	C案 (受験生・高校が電子調査書授受 アプリを利用・民間クラウド利用)	D1案/D2案 (公的・一元的な組織がシステム構築運 営・統一的なシステムで電子調査書授受)
高等学校・受験生の 費用・稼働負担	・大学ごとの別々のシステムに各 生徒の各出願ごとに登録する必要 ・送付ミス防止のためのチェック 業務の増加	受験生ごと大学ごとに異なる暗号 化解除パスワードをミスなく送付 する必要	・民間事業者のクラウド利用料負担 ・アプリ開発・運営管理コスト負担 ・民間事業者のクラウドを利用するこ とによる責任所在の不明瞭さ	・出願大学や出願数によらず一つのシ ステムだけを利用すればよいので、現 在よりも負担は大幅に軽減 ・高等学校や受験生は新たなアプリな どの導入は基本的に不要
大学の費用・ 稼働負担	大学個別にシステムを独自に 構築・運用する必要	・大学個別にシステムを独自に 構築・運用する必要 ・受験生個々人のパスワード受領 と復号化の稼働	・民間事業者のクラウド利用料負担 ・アプリ開発・運営管理コスト負担 ・民間事業者のクラウドを利用するこ とによる責任所在の不明瞭さ	・一つのシステムだけを利用すればよ いので、現在よりも負担は大幅に軽減 ・大学個別に新たなシステム構築は 不要
情報の誤送信・ 取り違え等の セキュリティリスク	誤送信・取り違えの危険性	誤送信・取り違えの危険性	・アプリでチェックできるので、誤送 信等リスクは最小限に抑制可能	・システムでチェックできるので、誤 送信等リスクは最小限に抑制可能 ・電子調査書等を暗号化することで、 システムを運営管理する組織も含め 第三者は閲覧不可能
一元的な運営管理 組織の必要性	無	無	有	有
備考	・PDFファイルでの授受であれば、集計作業の稼働の削減はほとんどない。 ・XML等の形式での授受であれば、共通の形式を定めなければ混乱が生じる。 ・Web出願システムを導入していない大学は対応不能。メールでの授受では稼働は極めて 大きい上、セキュリティ上も危険性が高く現実的ではない。		・アプリの開発・配布・運営管理を行う 組織が必要	・D1案において、セキュリティや堅牢性も高いため は、運営管理組織と別々に設立した公的・一元的な組織による コンソーシアム型ブロックチェーンも構築する必要。 ・D1案の大部分は委託事業において実施・動作検証済であるが、D2案については未実施。事後検証が必要。

調査書活用のための電子調査書システムの概要

Kwansei Gakuin University Hiroyoshi Miwa

「大学入学選抜における多面的評価の在り方に関する協力者会議」資料 (2021/02/12)

9 / 14

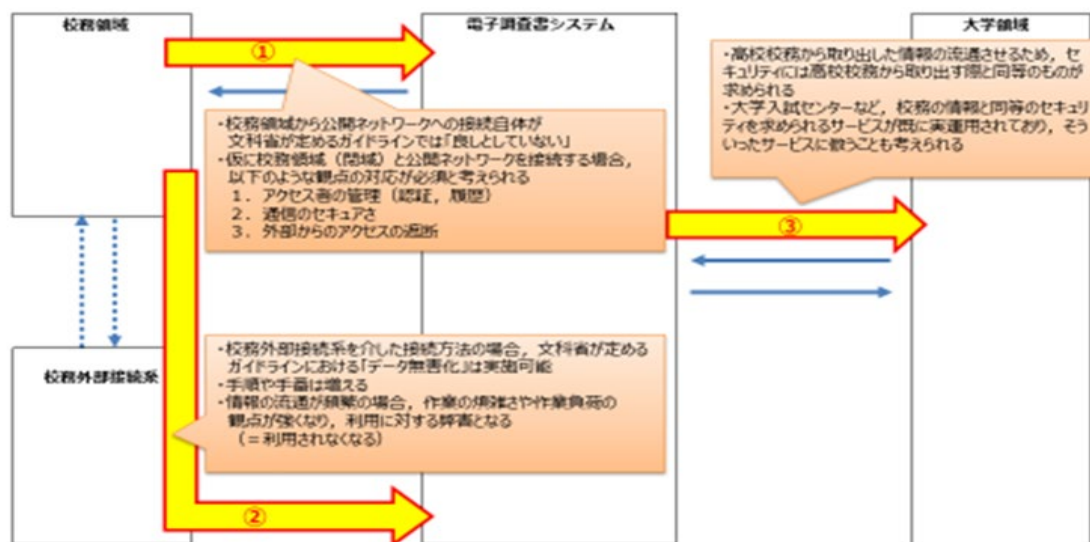
(3) 電子調査書システム・高校・大学間におけるセキュリティを考慮した通信方式

### の検討

調査書を、インターネットを経由して送受信するために、可能性のある実現方法を検討した。以下にそれを挙げる。

電子調査書システム・高校・大学間における主な通信のパターンとして、各高校や自治体の状況に応じて、パターン1またはパターン2の形態で実現することが望ましいと考えられる。

## 方式検討のポイント(1/2)

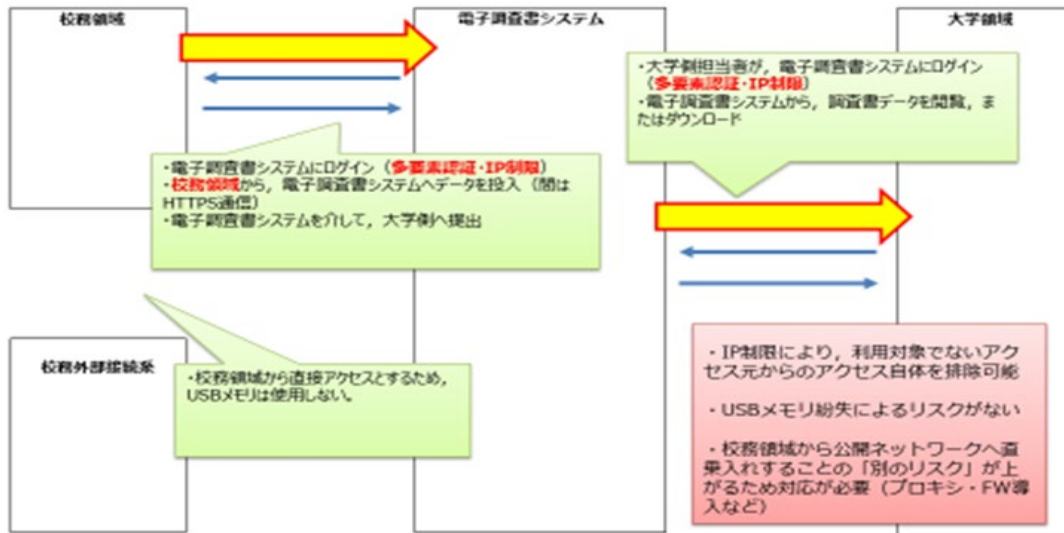


※ ①と②は、どちらか一方が良い。

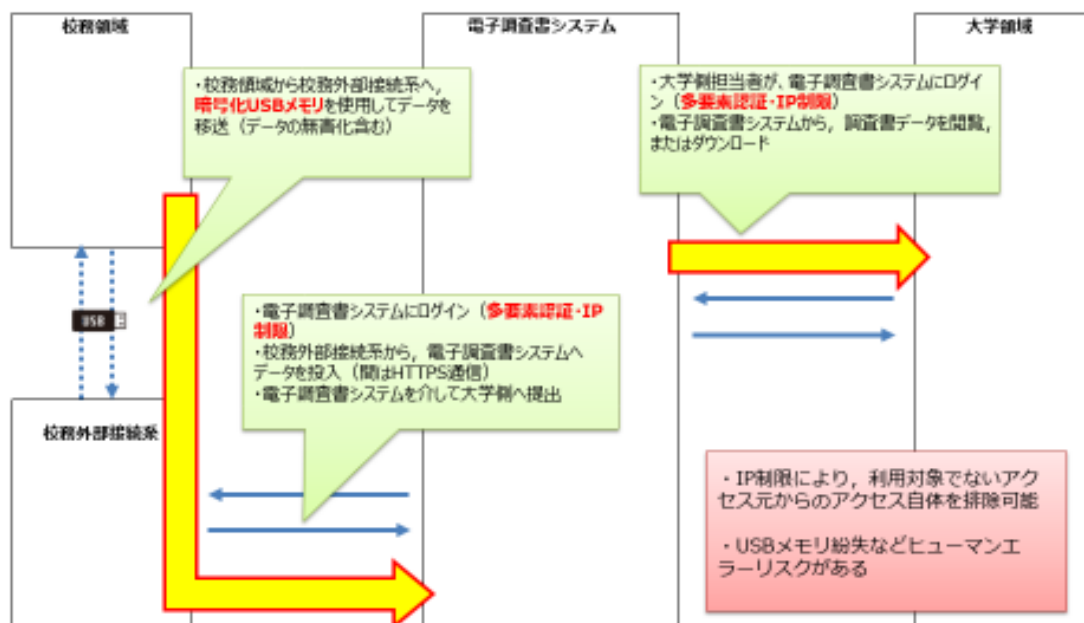
## 検討のポイント(2/2)

観点	選択肢と特徴
高校のアクセス元環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務領域                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行のガイドラインでは、公開ネットワークへの接続が推奨されていない</li> </ul> </li> <li>校務外部接続系                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行と同様</li> <li>・ 校務領域から校務外部接続系へのデータ移送方法が必要</li> </ul> </li> </ul>
アクセス元制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>IPアドレス制限                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アクセス場所を制限できる（⇒どこからでもアクセスできない）</li> <li>・ 公開ネットワークに直乗り入れになるため、追加対応が必要</li> </ul> </li> </ul>
本人特定	<ul style="list-style-type: none"> <li>多要素認証                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ID/パスワード以外に、生体認証など2つ目のキーを使って認証するため、なりすましリスクが低い。</li> </ul> </li> </ul>
通信環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>HTTPS (TLS1.3)</li> <li>VPN</li> </ul>

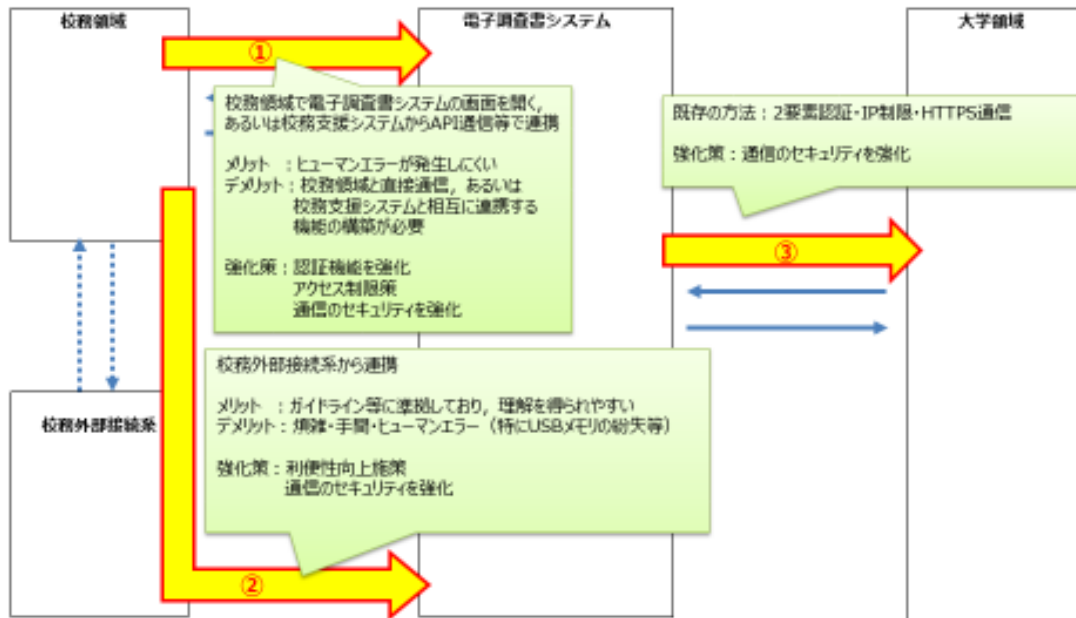
## パターン1(校務システムから直接アクセス)



## パターン2(校務外部接続系経由でアクセス)



## 具体的な方式案



(参考)

### 1. 多要素認証方式

- ・FIDO 認証 (U2F、UAF)、FIDO2 認証 (WebAuthN + CTAP)

WEB の認証の仕組みに、スマートフォン等のローカル機器の認証を組み合わせた方式。

ローカル機器の認証方式は「原則問わない」(指紋認証、顔認証、etc)。

また認証の情報が WEB 上に「流れない」。

ローカル機器による「所有物認証」と「生体認証」の 2 要素組み合わせ等が一般的。

NTT ドコモ等スマートフォンキャリアでも標準の認証方式にしていく動きがある。

- ・セキュリティキー

PC に USB 機器を挿して利用するものや、カード/チップ等をスキャンして利用するものが多く、「所有物認証」に相当。

ID/PW の「知識認証」と組み合わせた形での 2 要素が一般的。その意味で「セカンドファクター」とされることが多い。

※ セキュリティが強固なので、紛失時に「自分」を「自分」だと証明する方法が無くなる場合があるため、リカバリーのプロセスを検討しておく必要がある。

## 2. 実証事業において校務領域と校務外部接続系領域間でデータの移送に利用した USB メモリ

### ・暗号化 USB メモリ

一般的に販売されている USB メモリの中でも、暗号化機能を有したもの。PC 端末に USB メモリを接続すると、復号化を促す画面が表示される設定したパスワード文字列を入力して復号化することで、通常の USB メモリとしてデータ取り出し/書き込みが可能となる。

### ・生体認証 USB メモリ

上記の暗号化 USB メモリはパスワード入力する方式だったが、生体認証 USB メモリは主に指紋を読み取る方式のものが主流となっている。パスワード暗号化よりも、セキュリティはより高いと言える登録可能な指紋の数に制限があるため、利用者数が限られる高校等では教員の人数分だけ指紋を登録する必要があるため、利用する場合は生体認証 USB メモリを複数個手配して運用することになる。

## (4) 調査書のデータを一元的に管理・保持するということの危険性、運用について

調査書のデータを一元的に管理・保持するということの危険性、運用についてセキュリティ分析を行った結果は以下の通りである。

### ①データの一元保管と分散保管

データを一つのサーバで保管するか、別々に保管するかは実装の問題であり、どちらでも技術的には実現可能である。

### ②管理運用組織

全体の仕組みを管理運用する組織が必要である。授受する電子調査書のデータの形式が異なる場合や、多方面からのデータ授受が生じる場合には、これに対応するための大学のシステム対応コストが発生するとともに、極めて複雑な業務を強いられることとなる。その結果、生徒にそのコストに転嫁されることにもなりかねない。特に電子調査書のフォーマットや、コードの設定と更新、送受信に当たっての規格等の標準化を行い、一元的に管理運用する組織が必要となる。

さらに、高校からの聞き取り調査においては、「一元的に管理・保持する団体が、公的機関でなくて責任を負える（信用を得られる）だろうか？」という声が圧倒的に多い。また、データの一元管理、分散管理についても「一元管理することが問題なのではなく、それを一元的に管理する団体の問題である。」との指摘であり、「大学入試センターのよう

な組織が担うなら理解が得られる。どのようなシステムでもリスクはあると思いますので、公的な組織が責任を担うべきである。」との意見が聞かれた。したがって、公的なデータを、責任をもって直接運用管理する組織としては、民間企業ではなく、公的な団体あるべきと考える。

#### 1) データ保管技術

データを一つの管理主体が一つのサーバ群で保管する技術については、既に広く使われてノウハウも固まっている技術だが、異なる複数の管理主体が分散的に保持する技術はまだ発展途上のものである。初期の電子調査書システムは、広く使われてノウハウも固まっている技術を用いて実現することによってトラブルの発生をできる限り抑え、その後より良い技術を用いたものに更新していく、という方針がベターである。

なお、「公的な一元的な組織が仕組みを作って運用すること」は管理運用組織の話であり、「一つのサーバに情報を集約すること」は技術的な話であり、混同されがちであるが、別次元の話であることに注意して混同しないようにしつつ議論すべきである。

#### 2) トラブル発生時の対応

ユーザー数がたいへん大規模なものなので、いきなり比較的新しい技術を導入するとトラブル発生時に収拾がつかなくなる。そのときの影響は極めて大きいため、考えられるリスクは最小限に抑えておくべきであり、この点においても、初期の電子調査書システムは、広く使われてノウハウも固まっている技術を用いて実現することによってトラブルの発生をできる限り抑えるべきである。

#### 3) データ漏洩の危険性

データ漏洩の危険性はどの技術で実装しようとも存在するが、一元的に管理する方が、漏洩ポイントが絞れるため安全性は比較的高い。異なる複数の管理主体がデータを分散的に保持する方が危険性は増す。

#### 4) 「異なる複数の管理主体がデータを分散的に保持する」場合の危険性について

##### 1. データが保存される場所

この場合、データが保存される場所は、民間企業の運営するクラウドまたは高校生または高校のストレージということになる。

##### 2. 高校におけるデータ管理

電子調査書を授受するシステムを高校がサーバを持って運用することもありえない。高校生たちのデータを、安全に責任をもって管理し送信することが必要になるが、費用や稼働を負わせるだけでなく、データ漏洩等の責任まで高校に負わせることになる。

### 3. 生徒自身によるデータ管理

高校生自身にデータを持たせることも難しい。スマホや個人PCに保存させるのは情報漏洩のリスクが高い。さらに、高校生に安全にデータを管理させる指導の負担を高校に負わせることになる。

### 4. 民間企業が運営するクラウド上でのデータ管理

高校や高校生が直接データを保管するのではなく、民間企業が運営するクラウド上に保管することも考えられる。この場合、クラウド事業者を認定制にして、高校生は適当なクラウド事業者を選択し、暗号化したデータを保存するようになると考えられる。この場合、これを利用するためのアプリもしくはポータルサイトを用意しなくてはならない。

ポータルサイトを用意するなら、いったんポータルサイトでデータを受け取っておきながら、わざわざリスクを冒してまで他の場所にあるサーバまでデータを転送する意味はない。同じデータセンター内でデータを保存することが最も安全である。

アプリで送受信を行うとすると、このアプリからデータ漏洩する危険性があるが、一元管理より漏洩リスクがより大きく、トラブルの際の追跡も困難となる。また、ユニバーサルサービスにしなければならないため、開発・維持コストが膨大になる。なお、公的なデータを扱うため、このようなアプリを、責任をもって開発し、管理する主体として民間企業はありえず、公的な主体が必要である。

以上の通り、異なる複数の管理主体がデータを分散的に保持することには多大なリスクが存在し、大きなコストも必要であり、懸念事項も多々存在する。

そこで、初期の電子調査書システムは、公的な組織がデータを一元的に管理する仕組みで実現化することが望ましい。

※平成31年度（令和元年度）の調査・研究にあつては、一つのサーバ上にデータを保管する形で実装し、この仕様に基づく実証実験を委託事業で行っている。



## (5) ID 管理の在り方についての調査・研究

令和元年度の調査・研究で開発した「電子調査書授受システム」と一体的に運用している高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」を改修し、これらを「電子調査書システム」として令和3年以降に運用が開始できるようにするために、独自のID・パスワード管理システムを令和2年度に構築する予定であった。しかしながら高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」の運用が停止となったため、ID・パスワードの管理システムの開発は行わず、ID管理の在り方についてのみ調査・研究を行った。

### ① 検討したID・パスワード管理システムの運用方法

電子調査書システムの構築にあたって、以下が要件となる。

- 1) 生徒の個人情報扱うことから、セキュリティの高い方法によりID・パスワードを付番し、管理することが求められる。
- 2) 調査書が大学入学者選抜に活用する公文書としての意義を有することから、発行元が明らかであり、なおかつそのことによって、発行者、作成者が確認できること。なりすましを防止すること。調査書の記載対象である生徒が確認できることが重要である。
- 3) 高校教職員が、高等学校長の下で人事管理されており、退職等の異動に対応できること。電子調査書の授受にあたって、高校教職員の所属先（高校・中等教育学校）が明確に判別できること。高校教職員である担任等が自己の担当するクラスの生徒を管理できること。
- 4) 操作や登録が煩雑ではなく簡易で、運用におけるコスト・手間がかからないこと。
- 5) 電子調査書システムへの、ログインのための本人認証については、SMS認証、メール認証、生体認証、外部の認証サービス、多要素認証等を組み合わせる多段階認証を行うこと。多段階認証にあたっては、教職員と生徒が利用することをふまえて、最も適切な方法を採用すること。

### ② IDについて

令和2年度は生徒のICT活用の割合がCOVID-19感染拡大の影響により増加した。入学試験でも各大学の情報収集のためのツールや、ウェブ出願システム、大学入学共通テストの成績請求番号など、生徒一人が複数のIDやコード、パスワードを用いている。複数のID・パスワードを利用することは、生徒にとって非常に煩雑なものとなり、紛失や忘れな

どを生じる可能性がある。また、生徒の転校に際して指導要録の授受に対応する必要がある、しばしば、マイナンバーカードの活用を行う等ができないかとの声があがる。ユニバーサル ID や、小中学校を含めて利用可能な ID・パスワード、せめて高校三年間を通じて利用できる ID・パスワード管理システム等を検討する必要がある。

### ③ ID 管理システム的方式

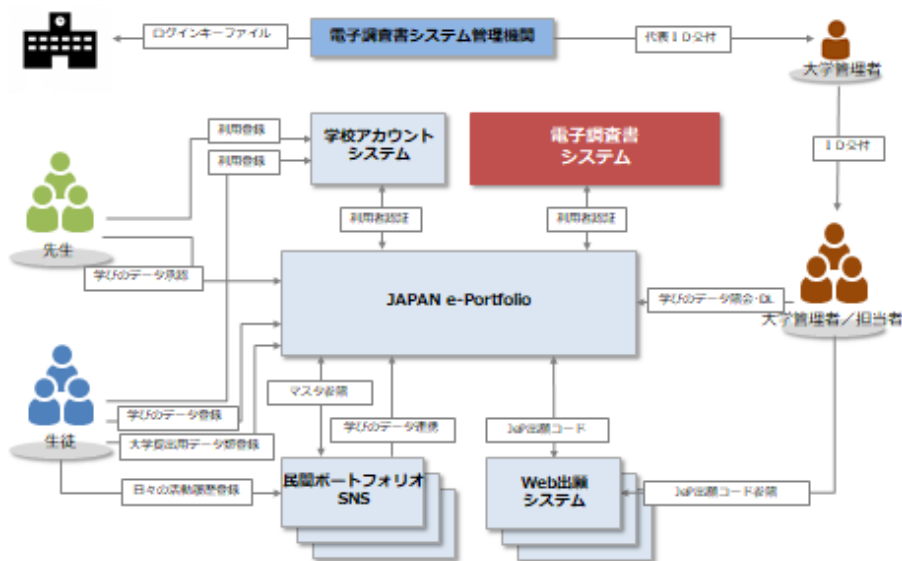
#### 1) 運営機関管理方式

運営機関が高校に対し ID と仮パスワードを郵送により交付する。その後、事前に高校側がインストールした運用機関配付のアプリケーションに、高校教職員がログインして、個人 ID・仮パスワード発番のための利用登録申請を行う。登録完了後に ID と仮パスワードが、利用期間（高校）住所の当該教職員宛に郵送（圧着ハガキ）で届けられる。 ID の交付を受けた担任が、生徒と所属クラスの情報を一括登録することにより、生徒用の ID と仮パスワードが担任宛に発番される。これを受領した担任は、各生徒にこの ID・仮パスワードを交付する。

高校3年の担任が、生徒のクラス登録を行うことになるが、大学に飛び入学受験する場合は、高校2年の担任が該当生徒のクラス登録をする必要がある。なお、学年更新時(新年度)には、前年度卒業生は卒業生として登録、未卒業生は新年度のクラス登録を行う。新3年生のクラス登録を行う(以下同じ)。

高校教職員は、年度更新時に利用が一旦停止されるため、更新手続きを行う必要がある。固有のアプリケーションから利用機関のパソコンを通じてシステムにアクセスし年度更新手続きを行う。退職者や異動者についてはこの更新ができなくなるため、4月1日以後のシステムの利用ができない。なお年度途中の異動が生じた場合、前に所属していた高校のパソコンを利用できなくなるため、旧 ID は使えなくなり、新たな ID 登録申請をする必要がある(以下同じ)。

なお、電子調査書システムへのアクセスは、高校教職員は固有のアプリケーションがインストールされた高校のパソコンからのみ可能とする。生徒はパソコン、スマートフォン、タブレット等からアクセスをすることができる。



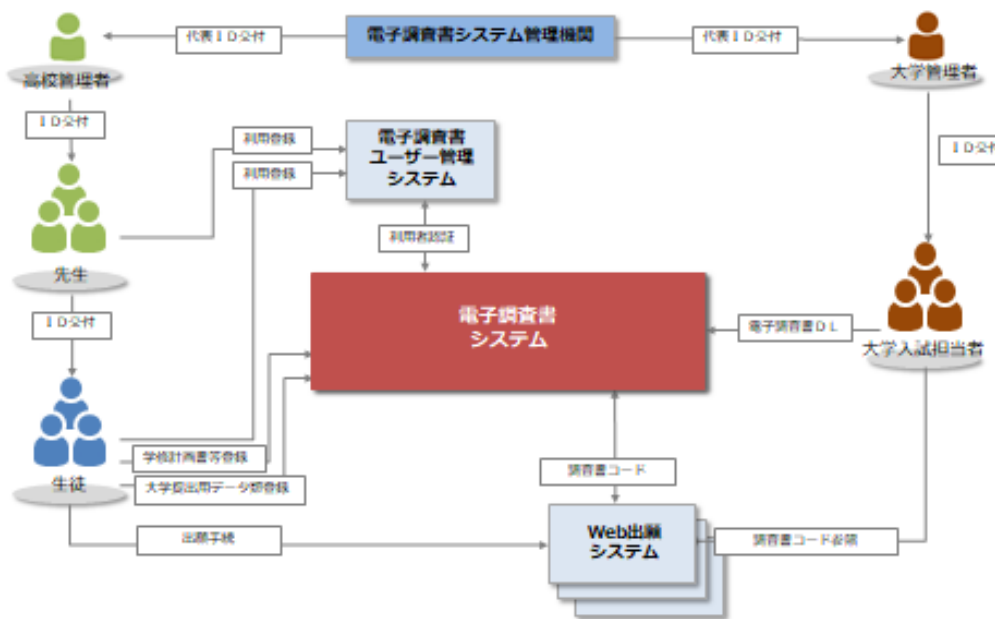
(メリット) ①ID 発番に必要な固有のアプリケーションが高校にのみ公開されており機密が保たれていること。②高校への郵送によって高校教職員の ID を交付するためなりすましができないこと。③担任によって生徒情報の管理ができること。④利用機関(高校)管理者により高校教職員の異動を反映することができること。

(デメリット) ①固有のアプリケーションソフトの開発費用がかかること。②高校教職員の ID 交付のための圧着ハガキの作成料、送料がかかること。

## 2) 利用機関管理方式

利用機関（高校）が運営機関に対して利用機関 ID の交付と高校教職員ユーザー数の申請を行う。運営機関が高校に対し利用機関 ID と仮パスワード、ユーザー数分の教職員の ID ・仮パスワードを交付する。高校管理者は高校教職員に ID ・仮パスワードを配付する。ID ・仮パスワードの交付を受けた教職員が管理システムにログインし、本登録を行う。その後、担任等が生徒と所属クラスの情報を一括登録することにより、各生徒の ID と仮パスワードが付番されるので、担任より各生徒に ID ・仮パスワードを交付する。

なお、高校の電子調査書システムへのアクセスは、運営機関に事前に登録された高校の IP アドレスからのみ可能とする。生徒はパソコン、スマートフォン、タブレット等からアクセスをすることができるように設定する。

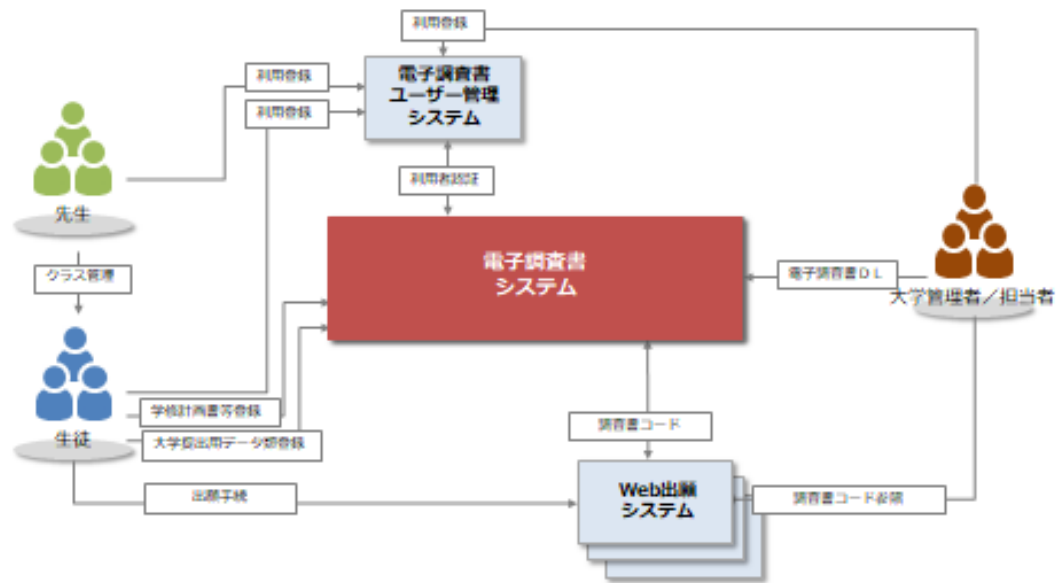


(メリット) ①ID 交付は高校にのみ行われるため機密が保たれていること。②高校教職員が利用機関の所属であるという確認ができること。③担任によって生徒情報の管理ができること。④上記1) に比して、固有のアプリケーションを開発する必要がなく、高校教員への郵送が不要になるため、管理機関の ID 交付に関わるコストが低減されること。

(デメリット) ①各高校教職員ユーザーの ID 数を事前に把握し付番・交付する手間が生じること。②各高校に管理を委ねており、高校において ID 管理業務が発生すること。

### 3) 利用者登録方式

利用機関（高校）が運営機関に対して利用機関 ID の交付と高校教職員ユーザー数の申請を行う。運営機関が高校に対し利用機関 ID と仮パスワード、ユーザー数分の教職員の ID・仮パスワードを交付する。高校管理者は高校教職員に ID・仮パスワードを配付する。ID・仮パスワードの交付を受けた教職員が管理システムにログインし、本登録を行う。ここまでは2)と同じであるが、生徒の発番については、生徒ユーザーが個別に管理システムにアクセスし ID・パスワードを受理し、クラス番号など必要な情報を入力する等して個別に申請を行う点が異なる。生徒の登録が完了した段階で、調査書の発行が可能となるため、担任等が、自己のクラス生徒全員が登録したかどうかを確認する必要が生じる。



(メリット) ①ID 交付は高校にのみ行われるため機密が保たれていること。②高校教職員が利用機関の所属であるという確認ができること。③高校における生徒の ID 交付に関する業務が発生しないこと。④1) に比して、高校教員への郵送が不要になるため、管理機関の ID 交付に関わるコストが低減される、⑤生徒は個人登録となるため、転校の場合にも対応しやすいこと。

(デメリット) ①各高校における教職員ユーザーの ID 数を事前に把握し付番・交付する手間が生じること。②各高校における管理に委ねており、各高校で ID 管理業務が発生すること。③生徒が個人登録となるため、担任等が生徒の登録完了を確認する必要があること。

(参考)

## 1. ユニバーサル ID

別のインターネットサービスで登録した個人情報や ID を活用し、これらを再度 入力せずに多くのサイトで使えるようにしようというのが「ユニバーサル ID」の基本的な考え方であり、これを電子調査書に関係するシステムにおいても活用することが考えられる。

## 2. マイナンバーの活用

マイナンバーを教育行政においても活用したいという声も聞かれる。転校や進学に際して、前に所属していた学校における情報をスムーズにやりとりできるとの考え方である。マイナンバーは、社会保障、税、災害対策の法令で定められた手続のために、国や地方公共団体、勤務先、金融機関、年金・医療保険者等に提供するものとなっており、マイナ

ンバーの提供を受けた者は、こうした法令で定められた目的以外にマイナンバーを利用することはできないとされている。

ID・パスワードに関する大学各団体からの要望は以下の通りである（原文のまま）。

○当然ながら、パスワード設定や暗号化通信等のセキュリティ確保が必要です。しかし、各大学で調査書電子データの受け取り方法が異なると、高校側の負担が大きいため、委託事業（予定）の「調査書の電子化に必要なセキュリティ環境モデル及び調査書を活用した「主体性等」の評価モデルの具体的な提示」に期待します(公立大学協会)。

○ 電子調査書の共通フォーマットのイメージ（叩き台案）について、暗号化等されたものを大学が受け取ることになると思われますが、暗号化されたものを一度コード化し活用する際、コード化されたものを元に戻す（文字に起こす）アプリのようなシステムは作成されるのでしょうか。(公立大学協会)

## 8. 大学調査書管理システム共通仕様

### (1) 大学調査書管理システム共通仕様開発の経緯

一部の大学で紙の調査書のままで良いとの意見も聞かれるが、電子化によって入学者選抜における業務の効率化が図られるとともに、入学後の教育上の指導での活用や、個人情報を除外した上で、入学者選抜改革のための基礎情報とする等、活用の方途は多様であり調査書の電子化は有益である。

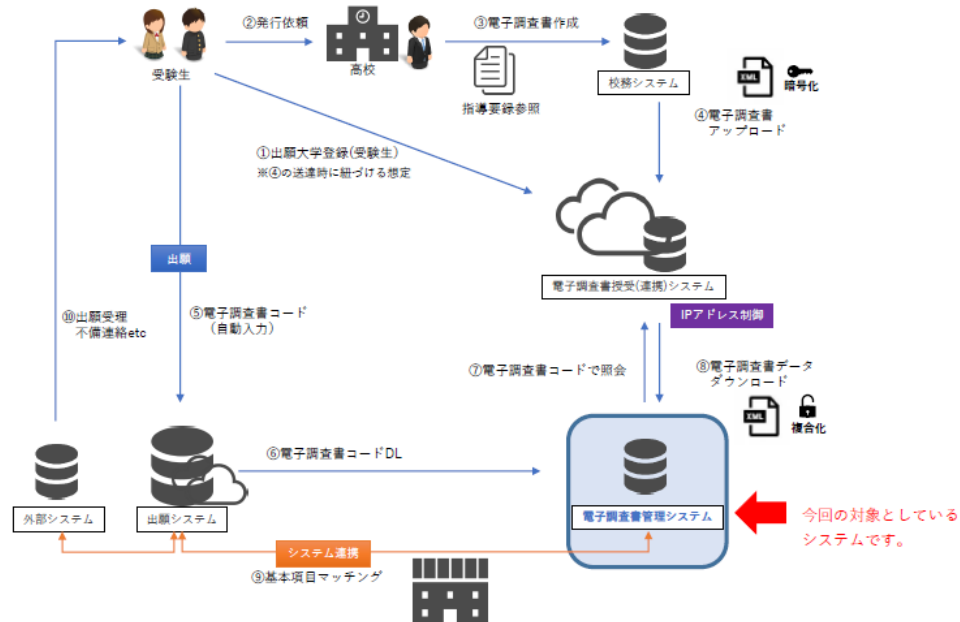
しかしながら、各大学ともに調査書の電子化にあたって、どのような機器を整備しなければならないか、その環境をどのように整えなければならないか、維持費はどうか等の不安を一様に有しており、「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議」においても大学団体代表者から同様の意見が示された。

そのため、令和2年12月以降の調査・研究において、調査書データをダウンロードした後の閲覧・管理を行う大学調査書管理システムの仕様を調査・研究することとなった。

なお、今回の調査研究において開発した大学調査書管理システムは、電子調査書授受システムの仕様や実装方法に拘束されることなく、高校校務システムで生成された電子調査書ファイルをダウンロードした後の保管・閲覧・管理を実現するものである。

## 電子調査書管理システムとは

調査書電子化後、各大学様で調査書の受付・精査・保管・閲覧・分析ができるシステムです。



## (2) 大学調査書管理システム共通仕様の内容

大学調査書管理システムとは、電子調査書システムから電子調査書データをダウンロードした後、①暗号化された調査書データの復号、②調査書データの管理・保管、閲覧、③調査書データの内容についての検証（チェック）を基本的な機能(基本機能)として実行するシステムである。加えて、統計処理機能を備えた拡張機能についてもオプションとして設計を行った。

大学調査書管理システムに共通仕様が必要な理由は、①全国共通電子調査書フォーマットに対応する必要があること、②各種マスタとの連携を行うため、コーディングされた内容が調査書の文字情報と合致するかの検証を組み込む必要があること、③暗号化された調査書を復号するためのソフトを組み込む必要があることである。

基本機能は共通仕様に基づき各大学で構築することを想定している。大学入学者選抜における活用のための調査書データの統計処理機能や、大学入学者選抜そのもので調査書を活用するための拡張機能は必ずしも共通の仕様である必要はなく、各大学が随意に構築することが考えられる。

巻末には、共通仕様に基づく大学調査書管理システムを、各大学や各大学が業務を委託する事業者が構築することができるよう、「電子調査書管理システム要件定義書」「設計書」を参考資料として付している。



前頁の図表右側の緑色の枠に記載されている機能は、電子調査書管理システムにおける基本機能であり、青色で記載されているのは拡張機能である。各大学の状況に応じて、これらの機能を取捨選択して、システムを構築することが望ましいと考える。今回の研究ではそのための仕様を制作し、成果として公開している。









調査書管理システムを、利用の流れに沿って説明する。まずログイン画面。大学専用の管理者画面の URL にアクセスすると、ログイン画面が表示される。あらかじめ発行されたログイン ID (E-mail or ID) とパスワードでログインする。パスワードを失念した場合、「パスワードを忘れた方はこちら」から再設定が可能となる。



ログイン後、メニュー画面が表示される。メニューとしては、4つの項目がある。

## 各メニューについて

各機能でできることは以下のとおりです。

 調査書管理	<b>■調査書管理</b> 調査書データの検索・閲覧・ダウンロードが行えます。 また、各入試データと紐づいた検索条件での検索、出願受付時の不備チェックを行える画面です。
 データ取込	<b>■データ取込</b> 大学基本情報、入試段階別のデータをアップロードできる画面です。
 チェックパターン設定	<b>■チェックパターン設定</b> 出願受付時、受験生が出願登録したデータと調査書データの不一致等の検出項目を設定できる画面です。
 アカウント管理	<b>■アカウント管理</b> アカウントの登録、変更、削除を行えます。 権限の設定（自学部の調査書データのみ閲覧可等）もこちらで行います。

各メニューの機能について説明する。主な機能は一番上の「調査書管理」に集約される。「調査書管理」では、調査書データの検索・閲覧・ダウンロード\*が行える。また、各入学者選抜データと紐づいた検索条件での検索、出願受付時の不備チェックも可能である。

「データ取込」では、大学基本情報、入試段階別のデータをアップロードできる。そして、当システムの管理機能である「アカウント管理」では、システムを利用できるアカウントの登録、変更、削除を行える。権限の設定（自学部の調査書データのみ閲覧可等）を行う。

また、拡張機能として、「チェックパターン設定」では、出願受付時、受験生が出願登録したデータと調査書データの不一致等の検出項目を設定できる。

\*大学調査書管理システムにおける「ダウンロード」とは、電子調査書授受システムからダウンロードしパソコン等のドライブに格納されたデータを、大学調査書管理システムに改めてダウンロードすることを意味している。

## ① 大学調査書管理システムの基本機能



調査書の検索、閲覧、ダウンロードはこの「調査書管理」で行う。検索は「学籍情報」をはじめとする検索項目の右側「開く」をクリックすると、各調査書データの情報名から検索対象として頻度の高い項目が表示される。各項目に検索したい項目を入力する。項目によってはプルダウンで選択をすることもできる。複数のブロックをまたいでの入力もできる。その場合は、and 条件での検索となる。



検索条件指定後、「検索」ボタンをクリックする。この場合は生年月日で検索をしている。

## 調査書管理 ①調査書の検索

検索結果は「検索ボタン」の下に一覧で表示されます。

電子調査書管理システム

ホーム > 調査書管理

### 調査書管理

調査書データの検索・閲覧・ダウンロード、各入試データと結びいた検索条件での検索、出願受付時の不備チェックを行える画面です。  
Survey Report Search

検索条件設定 必要な条件を設定し検索ボタンをクリックしてください。 設定条件をリセット

検索結果一覧 300件中 1~5件表示

データ管理ID	出願番号	受験ID	調査書コード	合格状況	整合性チェック	調査書の受付状況	詳細
00001	*****	*****	*****	合格	OK	未着手	詳細
00002	*****	*****	*****	合格	NG	確認中	詳細
00003	*****	*****	*****	合格	OK	最終承認待ち	詳細
00004	*****	*****	*****	不合格	OK	受付済み	詳細
00005	*****	*****	*****	入学	OK	受付済み	詳細

検索結果は、「検索」ボタンの下に一覧で表示される。基本的な調査書データの検索では、データ管理 ID、調査書コードが表示される。「詳細」をクリックすると調査書 1 通ずつの詳細情報を確認できる。

## 調査書管理 ②調査書の閲覧

詳細をクリックすると調査書一通ずつの詳細情報を確認できます。

電子調査書管理システム

ホーム > 調査書管理 > 調査書管理 (詳細)

### 調査書管理 (詳細)

調査書データの検索・閲覧・ダウンロード、各入試データと結びいた検索条件での検索、出願受付時の不備チェックを行える画面です。  
Survey Report Search: Detail

電子調査書

学籍の記録 閉じる

生徒情報			
氏名	受験 一部	ふりがな	じゅけん たろう
生年月日	平成13年10月3日		
性別コード	1	性別	男
郵便番号	550-0001		
住所	大阪府大阪市西区土佐堀2-2-4		
在学状況			

基本的な調査書データの検索では、データ管理 ID、調査書コードが表示される。「詳細」をクリックすると調査書 1 通ずつの詳細情報を確認できる。

## 調査書管理\_②調査書の閲覧

詳細をクリックすると調査書一通ずつの詳細情報を確認できます。

生徒情報			
氏名	受験 一部	ふりがな	じゅけん たろう
生年月日	平成13年10月3日		
性別コード	1	性別	男
郵便番号	550-0001		
住所	大阪府大阪市西区土佐堀2-2-4		
在学状況			

詳細画面では、調査書データの全項目を閲覧・確認できる。赤く反転している項目については後ほど説明する。

## 調査書管理\_③調査書のダウンロード

調査書データのダウンロードは画面の一番下、「ダウンロード」より行えます。ダウンロード形式は、PDFとxml形式の二種類となります。

▼ ダウンロードするデータを選択してください。

電子調査書  出願データ

**ダウンロード**

Copyright © 2021 CO All Rights Reserved.

ダウンロードは「調査書管理画面」の一番下の画面より行える。ダウンロード形式は、PDFとxml形式の2種類となる。ここまでの、調査書データの検索・閲覧・ダウンロード機能である。



続いて、出願受付時の調査書の不備チェック機能について説明する。調査書管理では2種類の不備チェック機能を備えている。1パターン目は調査書単体の記載漏れの不備チェックである。調査書データの記載漏れのチェックを行うことができる。



また、出願データをアップロードすると調査書との紐づけを行うことができる。これにより出願受付時の調査書の出願と調査書の不一致の不備チェックを Web 上で行える。不備の確認は2パターンで行うことができる。

### 調査書管理\_④調査書の受付処理

1パターン目は1件ずつ不備の内容を確認する方法です。

電子調査書管理システム

ホーム > 調査書管理

#### 調査書管理

調査書データの検索・閲覧・ダウンロード、各入試データと紐づいた検索条件での検索、出願受付時の不備チェックを行える画面です。  
Survey Report Search

**検索条件設定** 必要な条件を設定し検索ボタンをクリックしてください。 設定条件をリセット

検索結果一覧 300件中 1～5件表示 << < 1 | 2 | 3 | 4 | 5 >>

データ管理ID	出願番号	受験ID	調査書コード	合格状況	整合性チェック	調査書の受付状況	
00001	*****	*****	*****	合格	OK	未着手	<a href="#">詳細</a>
00002	*****	*****	*****	合格	NG	確認中	<a href="#">詳細</a>
00003	*****	*****	*****	合格	OK	最終承認待ち	<a href="#">詳細</a>
00004	*****	*****	*****	不合格	OK	受付済み	<a href="#">詳細</a>
00005	*****	*****	*****	入学	OK	受付済み	<a href="#">詳細</a>

<< < 1 | 2 | 3 | 4 | 5 >>

先ほどの検索結果画面で「出願番号」が表示されていると調査書との紐づけがなされていることを確認できる。1パターン目は、先ほどご説明した「詳細」をクリックし、1件ずつ不備の内容を確認する。

### 調査書管理\_④調査書の受付処理

詳細画面で、出願データとの不一致があった項目の背景が赤く反転します。

電子調査書管理システム

ホーム > 調査書管理 > 調査書管理 (詳細)

#### 調査書管理 (詳細)

調査書データの検索・閲覧・ダウンロード、各入試データと紐づいた検索条件での検索、出願受付時の不備チェックを行える画面です。  
Survey Report Search: Detail

**電子調査書**

学籍の記録 閉じる

生徒情報			
氏名	受験 一部	ふりがな	じゅけん たろう
生年月日	平成13年10月3日		
性別コード	1	性別	男
郵便番号	550-0001		
住所	大阪府大阪市西区土佐堀2-2-4		
在学状況			

詳細画面を開くと、出願データとの不一致があった項目の背景が赤く反転する。

### 調査書管理\_④調査書の受付処理

詳細画面で、出願データとの不一致があった項目の背景が赤く反転します。

電子調査書管理システム

ホーム > 調査書管理 > 調査書管理 (詳細)

**調査書管理 (詳細)**  
調査書データの検索・閲覧・ダウンロード、各入試データと紐づいた検索条件での検索、出願受付時の不備チェックを行える画面です。  
Survey Report Search: Detail

電子調査書

▼ 学籍の記録 閉じる

生徒情報			
氏名	受検 一部	ふりがな	じゅけん たろう
生年月日	平成13年10月3日		
性別コード	1	性別	男
郵便番号	550-0001		
住所	大阪府大阪市西区土佐堀2-2-4		

在学状況

▼ 調査書に不備がないことを承認します。

**承認**

該当箇所については出願データとの比較を行い、問題がなければ承認をクリックすることで、調査書の受付が完了となる。

### 調査書管理\_④調査書の受付処理

調査書の受付が完了すると「調査書の受付状況」が「受付済み」となります。

電子調査書管理システム

ホーム > 調査書管理

**調査書管理**  
調査書データの検索・閲覧・ダウンロード、各入試データと紐づいた検索条件での検索、出願受付時の不備チェックを行える画面です。  
Survey Report Search

検索条件設定 必要な条件を設定し検索ボタンをクリックしてください。 設定条件をリセット

検索結果一覧 3004中 1~5件表示

データ管理ID	出願番号	受検ID	調査書コード	合格状況	整合性チェック	調査書の受付状況
00001	*****	*****	*****	合格	OK	未着手 <span>詳細</span>
00002	*****	*****	*****	合格	NG	確認中 <span>詳細</span>
00003	*****	*****	*****	合格	OK	最終承認待ち <span>詳細</span>
00004	*****	*****	*****	不合格	OK	受付済み <span>詳細</span>
00005	*****	*****	*****	入学	OK	受付済み <span>詳細</span>

受付が完了すると、検索結果一覧画面の「調査書の受付状況」が「受付済み」となる。同様に検索結果一覧画面での「一括承認」を行うこともできる。一括でのデータの確認は、一旦不備がある調査書のデータのみをダウンロードし、不備内容を確認後、承認を行う流れとなる



## ② 大学調査書管理システムの拡張機能



調査書の電子化後、データとなった調査書をより活用できるよう各大学様の基本情報、入学者選抜データを取り込む機能を備えている。こちらでデータを取り込み調査書データと紐づけることで、出願番号や受験情報での調査書データの検索、また合格者のみの調査書データの保管といった活用を行うことができる。

### 拡張機能について

#### 1) 出願一覧ダウンロード

出願データと調査書データが紐づいた情報を一括でダウンロードできる機能。

#### 2) 入学者選抜データ取込み

出願情報、受験者情報、合格者情報、入学者情報、成績を API で取込む機能。

### 3)チェックパターン設定

標準機能として想定している一般選抜に対応した基本的な不備チェック項目に加え、総合型選抜、学校推薦型選抜でチェックしたい詳細なチェック項目パターンの設定ができる機能。

### 4)関連必要書類の欠損チェック機能

AO入試等の総合型選抜での不備チェック機能として、出願情報とチェックをするために取り込んだデータを並べて画面に表示後、目検チェックができる機能を装備。チェック後の結果入力も画面上から行える。

## ③ アカウント管理機能

### アカウント管理

アカウントの登録・管理機能です。部署、学部ごとにアカウントの権限制御を行えます。

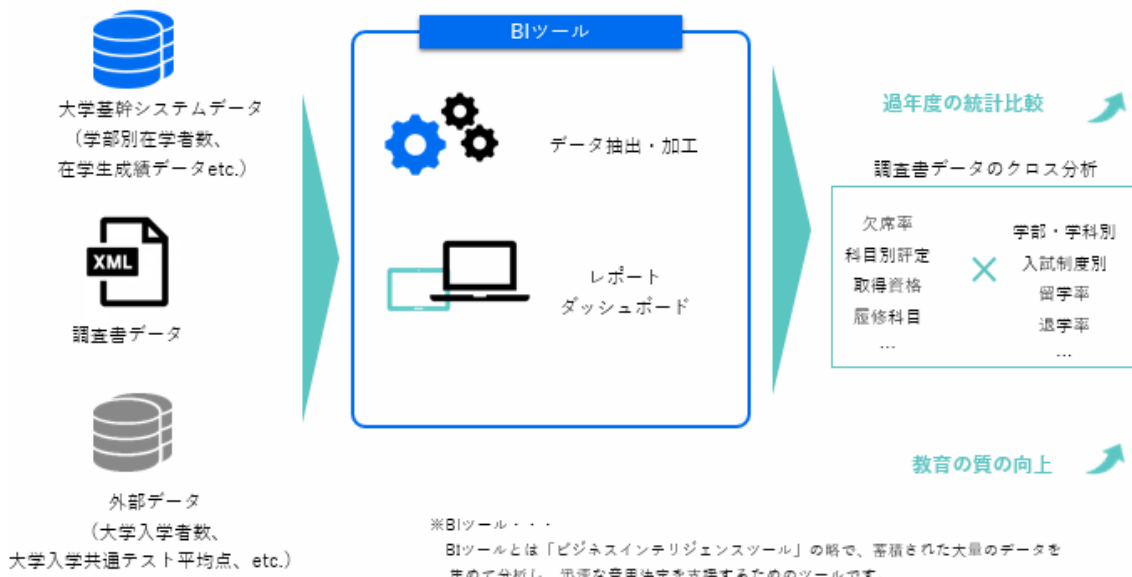


その他、当システムを利用するためのアカウント管理機能も備えている。アカウント毎、部署や学部事務室によって閲覧できるデータを制御でき、さらに、機能単位に利用可否を制御できるしくみも備えている。

(参考)電子調査書データの利活用について(図表のみ)

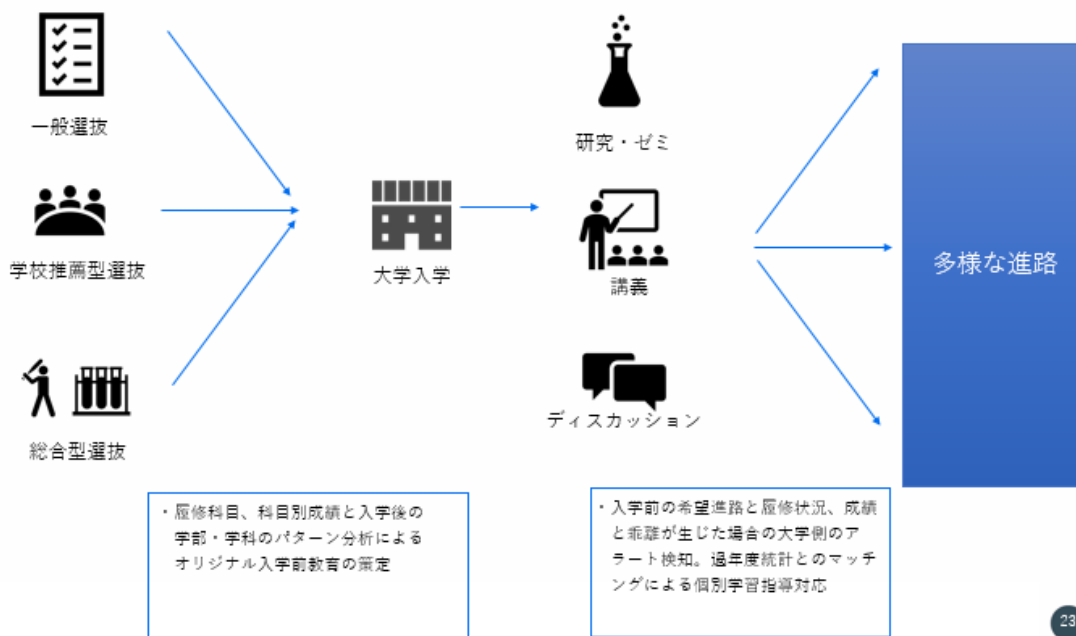
### 電子調査書データの利活用について\_①BIツールを活用した統計分析

調査書管理システムからダウンロードした入試段階別データをBIツール等を活用し、過年度比較をしたり、他のデータと組み合わせて、より様々な角度で教育の質向上に向けた多角的な統計分析を行います。



### 電子調査書データの利活用について\_②入学後の学修指導への反映

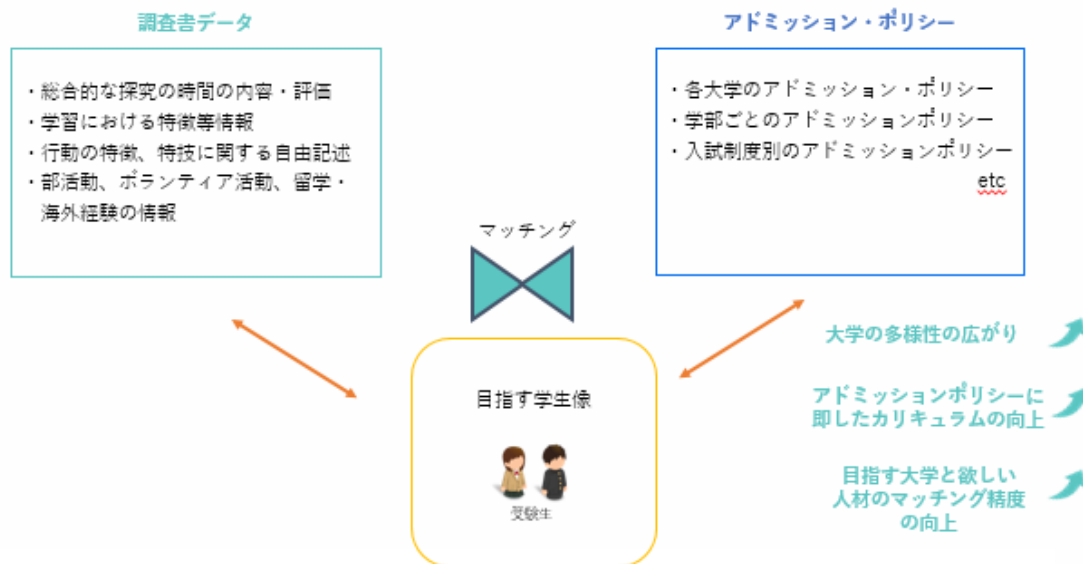
入試の方式が多様化し、入学者の学力レベルや大学へ入学後の将来ビジョンも多様化する中、一人一人に合った教育を実現するための学修指導やカリキュラム策定に調査書データを活用できます。



## 電子調査書データの利活用について\_③指導上参考となる諸事項とAPとの合致率解析



調査書の自由記述項目がデータとなることで、入学試験時の大学と受験生との質的なマッチングの精度向上に活用できます。  
具体的にはアドミッションポリシーに即した受験生、大学双方の一致率分析、カリキュラムやアドミッションポリシーの具現化に生かすことができます。



#### IV. 結言

委託要件として、令和4年度入試からの調査書の全面電子化に向けた調査・研究の実施が求められていた。この要件に応えるため、令和2年3月31日の段階で電子調査書授受システムを完成させた。これにより令和4年度入試における調査書の全面電子化のための、基盤(プラットフォーム)の核となるシステムの整備を完了した。さらに令和3年度の調査・研究においては、電子調査書を生成するための高校校務システムの共通仕様の調査・研究と、電子調査書を受領した後、これを有効活用するための大学電子調査書管理システムの共通仕様の調査・研究を実施した。

このような電子調査書を授受する仕組みは、セキュリティを確保したうえで、全国の高校、全国の大学において、安全に、円滑に電子調査書を流通させることが何より重要である。そのためには「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」の在り方は極めて重要であり、初年度の業務成果報告において提言を行った通り、今後の動向に注視したい。

システムについては、制度改正等を含めた政府全体の デジタル化の動き等にも柔軟かつ速やかに対応できるように、複数の実装方法が検討され、適切な方法が採用されることになろう。ただ、どのような実装方法になろうと、高校、大学現場における調査書に関わる業務に大きな負担を生じさせることなく、省力化、合理化が図られ、共通化・標準化することが強く求められる。その点では、全国共通の規格である電子調査書フォーマットが極めて重要であり、これを制作したことは、今回の調査・研究における最も大きな成果の一つといえよう。

令和3年3月31日の「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議」の審議のまとめの結果として、令和4年度入試からの調査書の全面電子化は実質的に見送られることとなったが、今後、文部科学省、高校、大学関係者等において引き続き協議の上、実現に向けて取り組むとされる調査書の電子化において、本委託事業の成果が活かされ、生徒と高校、教育委員会、大学にとって有益な電子調査書の仕組みが構築されることを切に期待する。

最後に、事業の遂行にあたり頂いた多くの関係者の皆様のご支援とご厚情に深く感謝の意を示し、2年間に亘る事業をここに終結する。

以上

参考資料1. 関係各団体からの意見聴取

中間報告書をもとに、学校関係各団体へのヒアリングを、文部科学省を通じて実施した。各団体からの回答は以下の資料の通りとなっている（回答原文のまま）。各団体とも、報告書を十分に理解できていない状態で回答していると思われ、特にシステムやフォーマットに関しての理解不足に起因する否定的な見解が多く見られるため、この点には留意する必要がある。

①-1 電子調査書のフォーマットに関する御意見(フォーマット全般)

事項	関係団体からの意見
<b>フォーマット全般に関すること</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体を通して<b>項目数が多すぎる</b>。ごく少数の生徒にしか該当しないと思われる項目（留学・海外経験、ボランティア活動等）も含まれるため、項目を絞り、特筆すべき事柄がある場合は、「その他」でまとめてはどうか。【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身が作成する<b>ポートフォリオの事柄とも重複</b>すると思われ、整理が必要である。【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの<b>紙媒体による調査書よりも</b>、今回提案されている電子調査書フォーマットは<b>記載項目欄が多く</b>、短期大学側では、利用可能な項目の選択幅は広がるものと思われるが、一方で、記入側の高校教員の負担軽減のためのショーケースの利用等により、個人の実態を反映しているか見極めることが困難になるのではないか。効率化を求めるあまり、画一的な様式に統一された電子調査書で、果たして「学力の3要素」を的確に判断することができるのか不透明である。【私短協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査書の<b>記載項目が多すぎる</b>。調査書は指導要録に基づいて作成するものであり、指導要録に記載する内容に止めるべきである。また、<b>教育課程外の活動は、生徒本人が直接大学に提出すればよく、大学自らが合格証・表彰状等により確認すべき</b>である。生徒のすべての活動について、高校からの保証を求めることは無理がある。物理的に難しいし、記載項目が多すぎて点検もままならない。【全高長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>項目の順番は指導要録・調査書の様式に合わせるべき</b>。入力の確認・点検等がやりにくい。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の働き方改革推進に伴い、指導要録の記載事項は簡素化すべきとの議論もあり、指導要録と指導要録からつくられる<b>調査書の記載事項は最低限に止めるべき</b>である。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ショーケース」の<b>「学びのデータ」をすべて「先生」が「承認」することは物理的に難しい</b>。資格一つとっても、合格証書や実施団体、実施時期等の確認が必要である。校務システムに取り込むデータは、指導要録に記載する最低限の内容に止め、その他（特に教育課程外の活動）は生徒が直接大学に送付し、大学が確認すべきである。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校にかかわる問題について</li> <li>② 入力作業にかかる学校負担はどこが担うのか。調査票は、当該受験年度の生徒だけでなく、その生徒の1学年、2学年の情報入力のもとより、調査票を発行すべき過年度生の調査票情報の入力作業が発生するなど<b>膨大な作業量</b>となる。【私短協】</li> </ul>

次期学習指導要領に関すること	
	<p>□次期学習指導要領についての対応はどのように考えられているのでしょうか。次期指導要領下での指導要録は、観点別評価が加わる一方、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」については要点を簡潔に記載する方向で検討が進んでいます。今回の電子調査書の構想では「指導上参考となる諸事項」についても細分化が進められているようですが、両者の改善の方向は一致するのでしょうか。【国大協】</p>
	<p>・「3、各教科の学習成績の状況」に関して、新学習指導要領の実施にともなって<b>観点別評価を記載する指導要録</b>(参考様式)が初等中等局長通知として発せられている(令和元年3月29日)。については3年後に入学する高1生から観点別評価を盛り込んだ指導要録を作成することになるため、文科省大学入試室では、この<b>調査書の電子化方策においても、各教科の観点別評価を記載するか否かを事前に確定し公表しておく必要がある。</b></p> <p>学力の3要素を踏まえ、とくに主体的に学ぶ態度も含めて評価をするという前提で進められる新学習指導要領では、観点別評価は避けられないことと言える。についてはこの電子化フォーマット計画においても観点別評価の導入について盛り込んでおく必要があり、少なくとも生徒が大学受験に臨む高3になって確定する事項ではない。【中高連】</p>
	<p>・(前略)</p> <p>なお、新学習指導要領においては、(意見①)に記載の通りすでに対応する指導要録(参考様式)が発表されており、この新様式における「特別活動の記録」の欄は、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の3つについて、学校が定める観点別指標に関して、特に優れた成果が見られる場合に○を付すという方策としている。</p> <p>については、<b>各項目に関する内容というより、それらによって育まれた資質・能力に着目する記録であり、生徒の活動を電子化フォーマットの情報により総和しても、単純には評価できないものとしている点に留意すべき</b>である。高校や受験生から、真に公正公平であるか指摘される可能性がある。【中高連】</p>

## ①-2電子調査書のフォーマットに関する御意見(項目別)

事項	関係団体からの意見
発行番号・発行年月日	・「発行番号」とはイメージ図で示されている「調査書コード」を指すのでしょうか。(「調査書コード」のレコードが必要なのではないかと、という趣旨です。【公大協】)
1.基本情報	
	《生徒情報》
	・ 生徒情報は、生徒が作成する入学志願票と重複する箇所もあり、個人情報の記載は必要最低限にしてはどうか。【公大協】
	・ 性別の選択肢が男女しかないのは将来的に問題になるように思われるため、何らかの配慮が必要かと思われる。【公大協】
	・ 現住所の「住所コード」及び「郵便番号」は必須の情報とは思えないので、住所から自動検索されたい。高校の教員が手入力するのは負担が大きクミスも生じる。【全校長】
	・ 「生徒情報」の欄に、入学種別「転・編入」は複数回に対応できる欄を用意する必要があると考える。【教育長】
	《高校情報》
	・ 高校情報の「高校コード」は必須の情報とは思えないので、住所から自動検索されたい。高校の教員が手入力するのは負担が大きクミスも生じる。【全校長】
	・ 「学校所在地の住所コード」及び「郵便番号」も必須の情報とは思えないので、住所から自動検索されたい。【全校長】
	・ 高校情報の学校種別の「4:分校」はあえて必要か。【公大協】
	・ 「学校種別」の列に「分校」という選択肢があるが、「分校」は、ここで言う「学校種別」には通常は含めないもので、削除するか、あるいは、外国人学校なども想定して、「その他」としてはどうか。また、英語検定試験の活用などに向けて、「離島・へき地」に対する特別な配慮が意図されているのならば、独立した項目として調査するべきである。【私大連】
	・ 「4:分校」の選択肢については、高等学校や特別支援学校等の区分が必要であることから、複数選択が可能となる様式が必要であると考え。【教育長】
	□学校区分は、「全日制、定時制、通信制」をプルダウンにすべき。現行の案では、定時制や通信制が排除されてしまう。その上で、「学科区分」を作り、「普通科、専門教育、総合学科」をプルダウンにすべき。【国大協】
	・ 学校区分について、「1:全日制」「2:専門」「3:総合」の区分はおかしいのでは。「全日制」に対応するのは「定時制・通信制」では？「専門・総合」に対応するのは、「普通」ではないか。【公大協】
	・ 「学校区分」(1頁・25行)の箇所、『1:全日制、2:専門、3:総合』となっているが、『1:全日制、2:定時、3:通信』ではないか。【私大連】
	・ 「教育課程区分」の追加が必要ではないか。『1:普通、2:専門、3:総合』【私大連】
	・ 「学校区分」の選択肢については、教育課程上の区分として『全日制、定時制、通信制』とし、次項目に学科上の区分として『普通科、専門学科、総合学科』の選択肢を設ける等、分けて選択する必要があると考える。【教育長】
	・ 「単位制/学年制」の順番だが、プルダウンでは「学年制」、「単位制」と順番が逆になっている。誤入力の誘因となるので、順番を揃えてはどうか。【私大連】
	・ 高校情報の「学校区分」、「単位制/学年制」は、「学科」、「課程」の誤りではないか。【全校長】
	・ 専門学科には電気科や工業科等様々な学科がある。また、普通科等にはコースを設置している高等学校もあることから、具体的な学科・コースを入力する欄を設ける必要があると考える。【教育長】
	・ 高校情報/学校連絡先の「学校E-mailアドレス」は不要ではないか。調査書に関する連絡をメールでやり取りすることは想定できない。【全校長】
	・ 記載責任者の職名について、「校長」ではなく「学校長」はおかしいのでは。また、記載責任者の役職をあえて記載させなくともよいのではないか。【公大協】
	・ 2学期制、3学期制の区別を調査する必要はないか。【私大連】
	・ 転入学等の場合、前籍校等の情報を入力できる欄を設けること。【私短協】



<b>2. 各教科・科目等の学習の記録</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科・科目等の学習の記録の「教科コード」、「科目コード」は高校の教員が入力するものではない。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位制高等学校等では、学年制を取っていない場合があるため、「第1学年」等の表記については、「第1学年(1年次)」等と記載すべきであると考え。【教育長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校設定教科・科目はどのように扱うのか資料から読み取れない。【全校長】</li> </ul>
	<b>《評定》</b>
	<p>□評定については、「第1学年」から「第4学年」が用意されているが、定時制、通信制の場合には、それ以上があり得る。したがって、柔軟に増やせるようにデータベースを設計すべきだと思われる。</p> <p>その他の項目でも第4学年までしか用意されていないカラム(例えば、「出欠の記録」や「指導上参考となる諸事項」の「学習における特徴等」や「行動の特徴、特技」など)でも同様のことが言えるのではないと思われる。【国大協】</p>
	□各教科の学習成績の状況のフォーマットでは、履修学年が不明である。【国大協】
<b>3. 各教科の学習成績の状況</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の学習成績の状況はどのように扱うのか資料から読み取れない。【全校長】</li> </ul>
<b>4. 学習成績概評</b>	
	<p>□「4. 学習成績概評」の段階としてプルダウン選択肢の項に「1:A、2:B、3:C、4:D、5:E」とあるが、平成33年度以降の調査書に関する調査書記入上の留意事項等にもこれまで同様に大学が希望する場合④を表示することができる、とあるので「④」に対応する選択肢(コード)を設ける必要があるのではないかと。【国大協】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな調査書では、成績概評で④はなくなる設計でしたでしょうか。【公大協】</li> </ul>
<b>共通(「5. 総合的な学習の時間」「6. 特別活動の記録」「7. 指導上参考となる諸事項」)</b>	
	<p>□階層1の「5. 総合的な学習の時間」「6. 特別活動の記録」「7. 指導上参考となる諸事項」について<b>項目の設定が細かすぎる</b>と思います。とりわけ階層7あたりの入力項目は限定しすぎ、定め過ぎのように思います。結果的に実際の生徒の活動と入力事項との照らし合わせの労が大きくなり、自由記述欄の使用が増えてしまうのではないのでしょうか。また、この入力項目に沿った活動を実施すればよいという機運を助長することにならないのでしょうか。【国大協】</p>
	<p>□「活動内容」の中の探究活動では、生徒が入力するポートフォリオ・ショーケースからデータを読み込む形となると考えられるが、<b>教員が作成する指導要録との整合性を図る必要があると考えられる</b>。</p> <p>例えば、フィールドスタディの「開始日」や「終了日」をそもそも指導要録に記載するようになっていたのか、など。このことは、他の活動等(例えば「6. 特別活動の記録」における役職者としての就任年月日や退任年月日)の記載においても同様で、調査書は学校がオーサライズしたものであるため、生徒が入力した内容が間違っていないかどうかを教員が確認する必要があると思われるが、その拠り所となる指導要録に該当する情報がなければ、確認のしようがない恐れがある。【国大協】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>現行の調査書と比べ</b>、「特別活動」「総合的な学習の時間」「指導上参考となる諸事項」の項目について、それぞれ<b>かなり細分化されている</b>ことから、高校側にとって負担が増す恐れがあるため、入力項目を減らしたり、統合してまとめて入力できるようにしてはどうか。</li> <li>また、細分化された具体項目について、それを埋める(入力)するために、項目に合わせた活動をする状況が想定され、『主体性等を評価する』という本来の趣旨と乖離が生じる恐れはないか。【公大協】</li> </ul>

5.総合的な学習の時間の内容・評価	
	□「5.総合的な学習の時間の内容・評価」という表記は「総合的な探究の時間の内容・評価」が正しいのではないか。【国大協】
	・平成31年4月1日以降に高等学校に入学した生徒については、「総合的な探究の時間」が適用されていることから、本記載のほか、「総合的な探究の時間の内容・評価」も加える必要があると考える。【教育長】
	□「内容」「自由記述」「所見」等、記載責任者が <b>自由に記述する項目での文字数を決めてはどうか</b> 。「自由」というのは、一見すると望ましいように感じられるが、実際にはそうではない。たとえば、200文字等、コンパクトに端的に書くことを求める方がよいと考える。そのような求めにより、教員は生徒に対して内容、記録の分量等について具体的に指示でき、教員の負担も生徒の不安も軽減する。大学側としても、文字数が少なく内容が端的であれば、読む作業の負担が軽減する。【国大協】
	・一般的な探究活動の内容及び全般的な評価については、 <b>文字入力ではなく選択入力</b> とし、その他の特記事項について文字入力とすることが望ましい。【公大協】
	□「探究活動」の内容として記載するケースは、「フィールドスタディ」「論文」「コンクール・コンテスト・大会の結果」だけでよいか。ほかにも「文献学習」等、 <b>考慮に入れてもよい活動形態があると思われる</b> がどのような基準で記載しているのか。【国大協】
	□「活動内容」に「 <b>コンクール・コンテスト・大会の結果</b> 」欄があるが、これらが <b>正課である総合的な学習の時間の情報としては不適切</b> 。「7.指導上参考となる諸事項」に移動。【国大協】
	・総合的な学習の時間の「活動内容」は学校によって多岐にわたり、資料の「探究活動」「論文」の欄のように記載できない。 「 <b>コンクール・コンテスト・大会の結果</b> 」のほとんどは、 <b>総合的な学習の時間の活動内容ではない</b> のではないか。【全高長】
	□「活動内容」の中の探究活動の「コンクール・コンテスト・大会の結果」の項には、 <b>大会の規模の項目が必要</b> ではないか。ポートフォリオ・ショーケースには、項目が設定されているのではないか。【国大協】
	・探求活動のコンクール・コンテスト・大会の結果に、「 <b>大会等の規模</b> 」が選択できれば当該項目を客観的に評価しやすくと考えられる。【公大協】
	・探求活動の論文に「 <b>学内外での発表の有無</b> 」といった項目が選択できれば当該項目を客観的に評価しやすくと考えられる。【公大協】
	□ <b>現行の調査書にも現在公表されている改正案にも含まれていない内容</b> (例えば「5.総合的な学習の時間」の内容・評価→活動内容→探究活動の下にある「授業名・プログラム名」「研究テーマ」「フィールドスタディ」「論文」「コンクール・コンテスト・大会の結果」)が <b>フォーマットに含まれている</b> 。この部分について固定されるのか、学校が随時作成することができるのかなどの説明が必要ではないか。【国大協】
6.特別活動の記録	
	・「6.特別活動の記録」「7.指導上参考となる事項」に列挙されている各項目については、指導要録や紙ベースの調査書(改訂版)の項目に記載する「 <b>文字表記のままのデータ入力</b> が適切ではないか。各高校の教師が指導要録以外のデータベースから調査書を作成することになるため、煩雑であるというより適切とは言えない。(後略)【中高連】
	・ <b>学校行事は不要</b> ではないか。【公大協】
	・特別活動の記録の <b>項目分類が細かすぎる</b> 。現行程度に止めるべき。【全高長】
	□ <b>項目立ては、学習指導要領の項目に準拠すべき</b> ではないでしょうか。まずその枠組みの中で入力項目を立て、必要に応じてその下位に活動・行事の項目を立てるべきではないでしょうか。【国大協】
	□ <b>生徒会・委員会の役職については、学校全体の委員(全校委員)なのか学級の委員なのかの区別がつくような項目が必要</b> と考えられる。高校によって多様な名称を用いており名称だけでは全校委員なのか学級内の委員なのかわからないことが多い。もし、ポートフォリオ・ショーケースにその項目がないのであれば、追加をしていただきたい。【国大協】
	・ <b>生徒会の役職名については文字入力ではなく選択入力</b> (マスタから選択する方式)が調査書作成者の労力を削減する観点から望ましいと考える。【公大協】
	・「 <b>表彰</b> 」という文言があるが、「表彰」は9頁4行目にもあり、回答者に混乱を与える恐れがあるので、4頁の「表彰」を削除してはどうか。【私大連】
	・階層5に「 <b>ホームルーム活動</b> 」を追加する必要があると考える。【教育長】

<b>7. 指導上参考となる諸事項</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導上参考となる諸事項において<b>エビデンスの提供</b>についてはどのように検討しているのか。【公大協】</li> </ul>
<b>《(1)学習における特徴等及び(2)行動の特徴、特技》</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> <b>文字形式が数値</b>となっているが、文字形式とするほうが適切ではないか。その際には、内容やイメージも示していただきたい。【国大協】</li> <li>「文字形式」が数値となっているが、文字による表現ではないのか。【公大協】</li> <li>「(1)学習における特徴等」及び「(2)行動の特徴、特技」については、入力形式が数値であるが、入力形式は文字として、自由に記述できるようにすべきであるとする。【教育長】</li> </ul>
<b>《(3)部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等》</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の記録の<b>項目分類が細かすぎる</b>。生徒本人が大学に申請し、<b>大学が確認すべき様な内容</b>ではないか。ボランティア活動も部活動に同じ。【全校長】</li> <li>「総合的な学習の時間の内容・評価」と同様に、大会・コンクールの結果、役職の履歴についても<b>文字入力ではなく選択入力</b>とし、その他の特記事項について文字入力とすることが望ましい。【公大協】</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 生徒たちの主体性をアピールするために、ボランティア活動が学校行事に組み込まれ、形だけのボランティア活動になることも危惧され、本来の善意な活動が見えなくなる可能性もある。 調査書に記された文言を<b>どのように評価していくのかを整理する必要がある</b>。【国大協】</p> <p><input type="checkbox"/> 例えば6頁・40行目は「部活動名」となっているが、単なるボランティアの「活動名」ではないか。部の活動としてのボランティア活動であるのか個人の活動としてのボランティア活動であるのかの区別がつくような記載項目にする必要がある。また、「役職の履歴」、「雑誌新聞等の記事」、「大会・コンクールの結果」は、ボランティア活動の内容との関連があまりないように思われる。</p> <p><input type="checkbox"/> 「部活動名」という表記は、「ボランティア活動名」という表記が正しいのではないか。また、「ボランティア活動名」の「活動時間」については、1日の時間数なのか、延べでの時間数なのか明記されておらず、記載者で解釈が違う可能性がある。一目で判断できるように「延べ活動時間」としてはどうか。【公大協】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 7. 指導上参考となる諸事項の「ボランティア活動」の下位項目に「大会・コンクールの結果」とあるが、<b>ボランティア活動にそのような「競争」はなじまない</b>。もちろん、活動報告会はあるかもしれないが、「順位・成績」欄があり、ボランティア活動の趣旨に反する項目。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 「役職の履歴」や「雑誌新聞等の記事」とは特定のボランティアの結果としてあるもののように思えるので、<b>ボランティア活動の項において、もっと整理すべきではないか</b>。 また項目名の立て方で「大会・コンクールの結果」などとすると他の活動(例えば部活)などとの区別が難しい。 さらにボランティアを部活として行うというケースも考えられはするので、<b>部活動とボランティアの境界を明確にすべき</b>であると思われる。これは次の「語学・海外経験等」にも同じことが言え、「海外コンクール・大会の結果」と「部活動」とが重なることも考えられるのではないかとと思われる。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ボランティア活動」における「部活動名」(階層5)については、個人や校外組織における活動が評価された場合を想定して、「部活動等」の表記にすべきであるとする。【教育長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> <b>現行の調査書にも現在公表されている改正案にも含まれていない内容</b>(例えば「5. 総合的な学習の時間」の内容・評価→活動内容→探究活動の下にある「授業名・プログラム名」「研究テーマ」「フィールドスタディ」「論文」「コンクール・コンテスト・大会の結果」)が<b>フォーマットに含まれている</b>。この部分について固定されるのか、学校が随時作成することができるのかなどの説明が必要ではないか。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「部活動」、「ボランティア活動」、「留学・海外経験等」を第2階層にまとめてあるが、かなり異質な活動なので、<b>将来のデータ分析に備えて、それぞれを第2階層で独立項目として扱ってはどうか</b>。【私大連】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ボランティア活動」の筆頭調査項目に「部活動名」があるが、<b>同じ第2階層の「部活動」と混乱するので、削除してはどうか</b>。(「部活動」として行った「ボランティア活動」は、「部活動」として回答する。)【私大連】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 「海外コンクール・大会の結果」があるが、<b>国際的な活動を評価するのであれば、その実施場所が国内、海外を問わなくても良い</b>。何を評価するのかを明確にすべき。【国大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「海外経験」の項目に「国内」イベントを含めている。教育的意図は理解できないわけではないが、<b>粉飾回答を誘発し、若者の「海外経験」の実態を正確に把握する妨げになる可能性が高いので、削除してはどうか</b>。【私大連】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「留学・海外経験等」も調査書には現行どおりの記載に止め、<b>細かい内容は、生徒本人が大学に申請し、大学が確認すべきことではないか</b>。調査書に、「留学・海外経験等」の項目はない。【全校長】</li> </ul>
<b>《(4)資格取得、検定等》</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門学科においては、類似の資格・検定が多いため、資格検定名だけでなく、<b>主催団体も入力できるようにすべき</b>であるとする。【教育長】</li> </ul>
<b>8. 備考</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「8備考」が「9出欠の記録」の前にあるのは<b>なぜだろうか</b>。「7指導上参考となる諸事項」を補足する項目として配置したのか、それとも違う意味があるのか、意図が分からない。【公大協】</li> </ul>
<b>9. 出欠の記録</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席の理由などが記載されている「備考」欄の<b>設定がない</b>が、本学では参考にすることがあるので、ぜひ設けていただきたい。【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「9. 出欠の記録」に、欠席事由等(欠席が多い場合等)を入力する「備考」欄を<b>設けること</b>。【私短協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて、欠席等の理由が記入できるよう、<b>備考欄を設ける必要がある</b>とする。【教育長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>出欠の記録の「<b>授業日数</b>」等と「<b>学年</b>」の階層を<b>逆に</b>してはどうか。現場では学年ごとに、授業日数、欠席日数等を確認していくので。【全校長】</li> </ul>



## ②大学入学者選抜改革推進委託事業に関する御意見

事項	関係団体からの意見
事業全般に関すること	
	<p>《委託事業の進め方》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入試においては、1つのミスが大学全体の信用を失墜する。もう一度、<b>システム、セキュリティ、管理体制など全ての面において再考されるよう要望</b>する。【私短協】</li> </ul>
	<p>□これまで以上に、3年間の活動の記録は重要度が増すと高等学校現場は考えるであろうから、現在提案されている記録方法では、高校の教員に過度の負担を強いられると思われ、学校現場からの負担増に対する不満の出ることが予想される。<b>簡便で信頼性のある記録・記載方法を、高等学校現場と協力をして丁寧に作り上げることが必要</b>であると思う。【国大協】</p>
	<p>□現在、文科省の委託事業として関西学院大学、佐賀大学、同志社大学が中心になって電子調査書の検討が進められています。全国の教育委員会へのアンケート結果も踏まえながら調査研究されていると思いますが、<b>できるだけ早い時期から高校教員も幅広く参画して調査研究することがとても重要</b>だと考えます。【国大協】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>このたび、調査書の電子化に関する調査研究を委託されたグループより、「電子調査書のフォーマット(案)」が示されたが、フォーマット化にあたっては、<b>大学関係者のみならず、高校関係者やITの専門家等の意見も傾聴し、現在、書面で行われている調査書の信頼性・内容等が棄損されないようにするとともに、個人情報の保護など大学入学希望者等に対して不利益を生じさせることのない慎重な設計</b>をお願いしたい。【私大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>高等学校は学校の種類も多岐にわたるので、調査書のフォーマットについては、様々な学校の関係者から広く意見を求めた方がよい。</b>【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>システムイメージでは、<b>高校生の入力</b>が求められている、そのため<b>不正防止の方策が必須</b>である。また、現状その作業を高校生が行っていないことから、<b>その作業の習熟の期間が必要</b>となる。したがって、試験運用の期間が求められ、2020年度より実証する際は、<b>高校生に対する調査も実施することが望ましい。</b>【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校にかかわる問題について</li> <li>④ 高校側と受験校である大学、短期大学等との意見聴取がなされていない。システム導入後の<b>高校側からの課題と受験校(大学等)からの課題のすり合わせがなければ、一斉導入は困難</b>と言わざるを得ない。【私短協】</li> </ul>
	<p>□ 現行では学校長印および記載責任者印が求められているが、<b>電子化に伴い押印の省略が必要</b>になってくる。<b>その場合の信頼性を担保する方法は早急に決定する必要がある。</b>【国大協】</p>
	<p>□これまで、高等学校長の押印と調査書の厳封によって、情報の保護が確保されている環境にあった。これを電子調査書に変える際に、<b>最終的な調査書の責任の所在と情報の保護をどのような形で担保(明示)するか、高等学校と大学に丁寧な説明が必要</b>であり、実施にあたっての安心感を提供することが重要だと考える。【国大協】</p>
	<p>□ <b>個人情報の保護</b>について、各県教委は国のガイドラインに則り県単独のガイドラインを作成し、各学校も県のガイドラインに則り学校独自のガイドラインを作成し運用している。学校で作成する<b>調査書は学校管理下</b>にあり、<b>その責任の所在は学校長</b>にある。一方、<b>ポートフォリオ</b>に生徒が独自で記載して学校の指定するシステムに送信する情報は、<b>生徒の責任(保護者責任)</b>である。</p> <p>したがって、<b>生徒がポートフォリオの情報をシステムに送る場合は、各々の情報毎に保護者の承認が必要になると現状では解釈される。</b></p> <p>現在、ベネッセのクラッシーなどのシステムが売り出されているが、そもそも<b>調査書などの公文書作成において、民間のクラウドを利用することについては、県のセキュリティーポリシーに沿うものかどうかを審査する必要がある。</b></p> <p>したがって、これからは<b>相互のセキュリティーポリシーの緩和が必要</b>になるだろう。一方、セキュリティーポリシーが緩和され、生徒が各家庭や<b>個人の端末から情報を送信する際には、ウイルスなどの危険をどのように回避するかが課題</b>となる。</p> <p>生徒個人がポートフォリオシステムに料金を支払い契約することに問題はないものの、データ保存先にある公的資産の成績や評価が盗まれたり改ざんされたりしないという保障は極めて重要である。これらのインフラの整備を進めていくべきである。【国大協】</p>
	<p>□ 調査書は個人情報であり、都道府県・市町村および高校の属性(国立、公立、私立)によって調査書にかかる<b>個人情報保護の規則や方法が大きく異なる</b>。日本全国の高等学校の個人情報の取り扱いの承認を得た上で一律に取り扱えるようにして、<b>これらの電子データを取り纏めるシステムが現在示されている工程で本当に構築できるのか?</b></p> <p>此度の英語外部認定試験の導入延期のようなことがあってはならないので、実現可能な方法と工程を深く議論して工程を計画すべきである。【国大協】</p>
	<p>□ 本学ではすべての入学者選抜において、調査書等を参考にしながらプレゼンテーションを含む面接で、学力の3要素である「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価してきており、電子調査書に変更した場合でも、この基本方針は変わりません。今回ご提示のあった電子調査書の内容については、今までは必ずしも十分ではなかった生徒の多様な学びの過程を把握できることは評価するが、生徒が直接記入したe-ポートフォリオの内容評価や電子調査書に対応していない<b>既卒生の扱いなどの課題</b>もあります。【国大協】</p>

	<p>《委託事業の範囲》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校務システムと電子調査書授受システムは一体として開発すべきである。校務システムを学校（設置者）が開発するのであれば、調査書に必要な最低限のデータを生徒から直接集めればよいので、そもそも「ショーケース」は不要である。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務システムを各設置者が開発するのは、非効率で負担も大きい。これまでも、校務システムと調査書システムを一体として開発するよう意見してきたが、原案では、電子調査書システムはただの「授受システム」になっている。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査書の提出様式だけをxml形式で定め、調査書を作成する校務システムを設置者任せにするのでは、高校側は負担が増すだけである。 条件を満たす校務システムを安価に開発できる業者が数多くあるとは思えず、特定の一部業者に頼らざるを得なくなるのではないか。【全校長】</li> </ul>
	<p>□今回は、入力情報についての照会であったが、今後は、大学での出力様式や利活用の仕方についても、調査、開発し、情報提供されるのか。あるいは、大学にはXML形式で提供されるので、その後は各大学でお考えください、ということなのか。【国大協】</p>
	<p>《全面的に導入された際のシステムイメージ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>以下の意見は、実証事業を踏まえて、システムの構成を再検討し、それに伴って調査書のフォーマットを見直すことを前提に回答する。 実証事業第2フェーズにおける調査書フォーマットに対する意見であり、今回の意見集約で調査書フォーマットが決定されるものではない。残念ながら、大学側の調査書活用の利便性が優先されており、調査書を作成する高校側の事情が考慮されているとは受け止められない。調査書のフォーマットを決める前に、実証事業の成果検証を踏まえてシステムの全体構成を先に決める必要がある。【全高長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証事業の成果検証を踏まえて、システム構成を再検討すべきである。調査書の全面電子化ありきで進めることは現場の混乱を招く。調査書のフォーマットよりも資料3のシステム全体構成（特にデータの流れ）を先に決めるべきである。 実証事業の成果検証を経て、システムを開発していくことが前提であり、それに伴って調査書のフォーマットも変わっていくはずである。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学びの記録」に記載する内容を明確に定義するとともに、ショーケースに入力した活動の事実については、高校教員と高校生徒が相互に確認することとなっているため、右囲み内にその旨を記載する必要があると考える。【教育長】</li> </ul>
	<p>□システムイメージ図において、高等学校で作成した電子調査書(xml)を電子調査書授受(連携)システム側に送付する際に、すでに暗号化されたデータとして送付されるのかどうか不明。高等学校から授受(連携)システムへ送付する段階で暗号化されている必要があるのではないか。授受(連携)システムから大学側に送付する際も同様。【国大協】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子調査書授受(連携)システム(仮称)大学出願システムのセキュリティの安全性が確実に保たれることが重要であるとする。【公大協】</li> </ul>
<p>ポートフォリオ・ショーケースに関すること</p>	
	<p>□ポートフォリオ以外に、ポートフォリオ・ショーケース、キャリアパスポート、スタディログという用語が使われていますが、相互の関連性を含めてもっと詳しい説明があれば、より理解しやすくなると考えます。【国大協】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「調査書データ(暗号化)」と「ポートフォリオショーケース(学びの成果)」の関係性について、図示する必要があると考える。【教育長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間業者が実施しているポートフォリオと重複する部分が多いように思うが、どのように整理していくのか。【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(前略)各大学が各項目の詳細を必要とする場合、ポートフォリオ・ショーケースの内容を確認することで十分ではないと思われる。これは、生徒自身による活動報告書に記載すべきものであり、教師に新たな労力と責任を負わせることのないようにする点でも基本的に重要である。(後略)【中高連】</li> </ul>
	<p>□生徒が入力する「学びの記録」をeポートフォリオにアップロードするまでのプロセスで、高校教員によるチェックというステップが必要ではないかと思われる。【国大協】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ショーケース」に集めるような「学びの成果」は、高校の承認を経ずとも、直接大学に送ればすむのではないか。調査書の記載項目はどの大学を受験するときにも必要な最低限の項目にすべきである。大学のAP、CPIに基づき必要と思われる情報は、大学が出願時に直接志願者から集めればよく、合格証書、表彰状など裏付けとなるものも自ら確認すべきである。 提案のシステムでは、入試に必要なくてもすべての生徒の活動を高校が確認しなければならない。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ショーケースにアクセスできる、生徒が入力するための「学びの記録」のポートフォリオシステムは何種類あるのか。また、生徒の費用負担はどの程度か。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオシステムを用いずに、「電子調査書授受(連携)システム」の「ショーケース」に生徒が直接データを入力することができるのか。特定の一部業者によるポートフォリオシステムを使用せざるを得ない状況になるのではないか。【全校長】</li> </ul>

業務計画	<p>《p3 ③ 各教育委員会等向けにセキュリティに関する実情調査》</p>
	<p>□今回の実情調査は、教育委員会だけが対象であるが、<b>今後私立高校(学校法人)にも調査を行う予定はあるのか。</b>(一番、状況が多様で、2023年度までに合意が得られるとは思えないが)【国大協】</p>
	<p>・ 高校にかかわる問題について</p> <p>③ 電子調査票に関する委託事業中間報告の中で、教育委員会等向けセキュリティに関する実情調査回答が添付されている。これによると、校務システムを利用しているところが81%などの回答となっているが、<b>調査対象教育委員会数や高校数などの実数表記がなされておらず、都道府県と政令指定都市のシステムが違うこと、さらに私立学校も各々のシステムがあることを考えると、全国の教育委員会や高校の実情を示しているのか、不明である。</b>【私短協】</p>
中間報告	<p>《p12 資料④下段の図》</p>
	<p>□新しいシステムでは、大学出願システムショーケースに生徒が入力した事実について、<b>生徒と先生が時間を合わせて相互に確認すること</b>とされている。このように何度も相互確認することなどの負担が担任教諭にとって重くなり、このステップについては、<b>各高校のマンパワーによって調査書の充実度に大きな差が出る</b>ことがあり得ると危惧する。【国大協】</p>
その他	<p>《印刷機能に関すること》</p>
	<p>・ フォーマットを拝見すると、受験生の行動をこと細かに記したデータを選抜に利用することを想定していると見受けられます。しかし、これらの些末で膨大なデータが選抜に必要とされるでしょうか。選抜において判断基準となるのは、受験生が自分の高校生活における行動をどのように認識し、それが3ポリシーで示されている大学の教育方針とどのように合致しているかです。受験生本人が自分の行動をどのように捉えているかが重要であり、これら微細なデータは本人が高校生活を振り返るための材料としては有用と思われるが、データそのものは選抜において必ずしも必要ではありません。したがって、本フォーマットにあるような<b>微細で膨大なデータを提供いただいても、選抜には利用価値はありません。</b></p> <p>以上の理由から、本学では調査書のデータを元にした点数化は想定しておりませんので、調査書は必ずしも電子データである必要はありません。</p> <p>むしろ、<b>面接の際に本人の認識を確認するための参考資料として利用するため、</b>面接員が利用する状況を考えると、今までどおり紙媒体の提出の方が適しています。電子データで提供されるとしても、直ちに<b>今までの形式で印刷可能であることが必須</b>です。</p> <p>もし、完全実施となった場合に、<b>今までのようなフォームの印刷は可能なのでしょうか。</b>印刷が不可能であれば、上記理由により調査書の電子化は断固反対です。【公大協】</p>
	<p>・ 本学では2021年度以降も調査書を紙媒体で利用しますので、<b>電子調査書データをWordに取り込み、印刷できるような仕組みの構築</b>を求めます。【公大協】</p>
	<p>・ 全体の項目数とも関係するが、提供されたフォーマットを大学にて復号後、出願受付作業、面接業務、合否判定作業において不便ではないような<b>書類として出力できる仕様としていただきたい。</b>例えばフォーマットのままの見た目では出力できないとすると、面接員の手元資料としては大変扱い難いことなどが予想される。他の作業においても可能な限りコンパクトになることが必須要件と考える。【公大協】</p>
	<p>・ 項目が多岐にわたっており、数も多いことから、<b>調査書を印刷する場合のイメージ図やフォントの大きさといった情報も必要</b>だと考える。項目を選んで印刷できるのであれば、その方法についての情報もほしいところである。なお、Windows やMac というように、どのOS でも扱える形式であるかどうかの情報もほしいところである。【公大協】</p>
	<p>《ダウンロード機能に関すること》</p>
	<p>・ ダウンロードデータの取扱いについて</p> <p>大学内のデータ管理について、推奨されるシステム・方法が提示されるのか。また、<b>データダウンロードの開始時期はいつ頃か、データの保存期間はどの程度なのか、</b>示されたい。【私短協】</p>



### ③調査書の電子化の進め方等に関する御意見

事項	関係団体からの意見
	<p><b>平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告の改正について(調査書の見直し関連)</b></p> <p>□平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告の改正について(30文科高第370号 平成30年10月22日)の「II 調査書や提出書類等の改善について」に記載がある</p> <p>○ 調査書の様式は、現行では裏表の両面1枚となっているが、この制限を撤廃し、より弾力的に記載できるようにする。</p> <p>となっていることから、<b>調査書の付記事項(いわゆる裏面)が無制限となっていて、高校教員は混乱を来している。たくさん書いた方が合格しやすいと受け止められて、大部な書類を作成することになるであろう。これは高校側にも大学側にも良い状態とは思われない。</b></p> <p>また、受験生の能力よりも、<b>高校教員の作文能力で評価が変わる可能性が高く、公平性が担保されない。付記事項のページ数にも制限を設けるべきである。【国大協】</b></p>
	<p>□そもそも調査書の電子化は、一般選抜において紙媒体の調査書を入学者選抜で活用することが困難であることが背景の1つとなっている。その趣旨としては、単に紙媒体の記載内容を電子化するだけでなく、<b>調査書に記載される特別活動の記録等の内容が学校又は記載担当者で異なることを統一的にコード化し、高校側での入力及び大学側での活用を簡素化</b>することにあると考えている。</p> <p>□全体的に一度に変更しなければ、調査書が紙媒体と電子データの2種類で送付され、事務が煩雑になる。</p> <p>参考資料2に示されているような<b>導入モデル地域や大学が既にあるのであれば、まずそこでシステムが機能するかどうか、問題がないかどうかを十分に検証して、その結果をもとに進めるべきである。</b></p> <p>その後、全国的に環境を整え一斉に変えるべきである。</p> <p>例えば、同一内容の教科であっても、科目名が高等学校によって異なっており、これらを一律に纏めるシステムになっていない。これは、公平性担保の阻害要因である。</p> <p>現在のフォーマットでは、この点を踏まえて「ショーケースとの連携」があると推測できるが、この点に分かりやすい補足説明を追加する必要がある。【国大協】</p>
<p><b>調査書の電子化の進め方について</b></p>	<p>□大学入試において調査書の活用(主体性等)を進めるのであるから、<b>活動の記録等の記載方法には各高等学校は極めてナーバスになると予想され、これまで以上にきめ細かい情報提供と認識の共有化を図る必要がある。現在の状況はまだ情報が少なく、高等学校現場に不安と混乱を招くと予想される。</b></p> <p>現に、業者による情報提供が先走りして、高校現場は振り回されている状況だという情報も届いている。<b>文部科学省・大学入試センターが主体となって情報提供の一元化を図る必要があるのではなからうか。【国大協】</b></p>
<p><b>〈1. 背景 1つ目の○〉</b></p>	<p>□インフラの整備に関して、長崎県の場合は<b>高速回線が不十分な離島地区がある。このような地区で校務支援システムが十分かどうか疑問</b>であり、業者のシステムをあらためて導入するには生徒負担などが発生し、先般の英語の問題と似たような格差が出る懸念がある。【国大協】</p>
<p><b>〈1. 背景 4つ目の○〉</b></p>	<p>□高校で作成する調査書は、大学等の選抜や企業等への採用、奨学生選考のなど、様々な場面で重要な資料として幅広く活用されており、長年の作業の蓄積とともに、それぞれの場で一つのルーティンワークに組み込まれた形として確立されている。</p> <p>したがって、一つのミスも許されない選考や選抜作業において、<b>急な変更は極めて危険と言わざるを得ない。</b>できれば、<b>時間に余裕をもって、共通テストが十分に機能することを見定めてから対応すべきである。</b></p> <p>調査書を電子化するには、そのシステムが当道府県および高等学校単位で一律に導入されるべきものである。ところが、高等学校の調査書は大学・短大に進学する者のみに使用されるものではない。我が国の大学・短大への進学率は57.9%(平成30年)であり、<b>およそ4割の高校生は電子調査書を必要としない場合が多いと判断</b>できる。</p> <p>大学入試への利用を前提とした現行の進め方は、<b>高等学校全体の調査書のあり方を本当に考慮したもののなのか、はなはだ疑問</b>である。【国大協】</p>
<p><b>〈3. 課題〉</b></p>	<p>・ <b>セキュリティについて</b></p> <p>調査書の電子化に当たって、<b>セキュリティの問題は最重要課題</b>である。サイバーテロや自然災害時のシステムダウン、通信障害など、起こり得るリスクを十分に克服できる見通しのないままに、一律に電子化を進められることに大きな不安があると共に、ミスを誘発する要因となり得る。</p> <p>「電子調査書授受(連携)システム(仮称)大学出願システム」をどこが管理するのか、どのようにセキュリティ管理を行うのか不明であり、問題なしとは言えない。民間機関が管理することになった場合、セキュリティ管理は困難なものとなる。独立行政法人大学入試センター等の<b>公的機関がシステム管理を行い、暗号化等の手立てを講じ、大学側が受験しようとする生徒のデータ開示を「閉鎖的」に可能とする方式</b>にしなければ、<b>全国的な大混乱を招きかねないことから、再考願いたい。</b></p> <p>大学におけるICTインフラやセキュリティ環境等については、1箇所でのミスが大きなトラブルの原因になる。統一的な規格や水準を示されたい。【私短協】</p>

	<p>〈4. 調査書の電子化の進め方〉</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制度の趣旨を理解し、円滑に実施していくため、教育委員会や学校を対象とした<b>説明会等の充実</b>に努めていただきたい。【教育長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様性を特徴とする私立大学のシステム整備状況には、各種の格差があるので、全面導入を控えて、さらに<b>詳細な工程を公表し、合わせて財政的・技術的支援方をすみやかに策定して</b>いただきたい。【私大連】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本システム(電子調査書)の全面的な導入は2022年度(令和4年度)からと発表されているが、資料は2021年度途中までの記載となっている。</li> <li>・ 実際の運用に当たり、<b>各都道府県が行うべき内容や全面的な導入までの詳細なスケジュールを具体的に示すべき</b>であると考え。【教育長】</li> </ul>
	<p>□ 電子調査書の<b>実証期間が短い</b>と考えられる。一般的に実証期間は、制度設計から原案作り、パイロット校(高校、大学)による検証作業、そしてこの検証作業におけるシステムの改修やバグ取りの徹底を考えると、<b>全国的な取組として実施するには、3回(3年)程度必要</b>と考えられる。実施してからの不具合は許されるものではないので、慎重の上にも慎重を期することが必要ではないか。【国大協】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ また、調査書の電子化にあたっては、フォーマットの設計のみならず、特に下記の点をはじめとする<b>実施体制の整備が不可欠</b>であり、十分な配慮をお願いしたい。【私大協】</li> <li>② 平成31年2月8日に「大学入学者選抜方法の改善に関する協議」がとりまとめた「調査書の電子化の進め方」では、原則として2022年度から電子調査書を用いることとされている。多くの私立大学において電子調査書の利用を可能とするためには、<b>セキュリティに配慮した電子調査書の保管方法を含む電子出願のシステム構築や改修等が必要</b>となる。本来、電子調査書の活用は大学個々の判断に基づくべきことと考えるが、原則化については2022年からの実施ありきではなく、<b>高校側や大学側の準備状況等を十分に勘案するとともに、入念な試行を行い、しっかりとしたシステムを構築することが優先されるべき</b>である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学と高校側の<b>双方のシステムの質が同等に準備できることが必要</b>であろう。同時にそれに相当するハード面の整備が必要となることから、その整備にかけられる期間についても十分に確保できているかが判断しにくい。【公大協】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>実証事業後</b>に、各設置者及び学校が行う、<b>開発スケジュールおよび予算措置等</b>について示されたい。【全校長】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電子化「移行期」(2021年)の対応 移行期において、すでに電子調査書を導入している高校について、紙媒体が利用できるかの共通見解が必要である。 また、<b>募集要項等への記載方法をどのようにするのか</b>、明示されたい。【私短協】</li> </ul>



参考資料 2 : 平成 33 年度大学入学者選抜実施要項対応 電子調査書フォーマット

NO	情報名	種別	データ型	桁数	APPLICコード		D調コード		出現回数	サンプル値	アウトプット時の変換	備考
					C	D	C	D				
1	電子調査書フォーマットと調査書情報 電子調査書フォーマットとは、電子化された調査書情報を構造化し情報処理を可能とするための入力ルールである	● 調査書情報 ○ 該当の場合入力する情報 ◆ システム連携入力情報										文部科学省「平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告の改正について（通知）」に記載されている調査書改定案の並びに準じる。 APPLIC「教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0」を参照し、項目名、コード定義について同様の項目があればこれに合わせる。 データ型についてもAPPLICの項目セット辞書にある「データ型記載のルール」に合わせる varcharとは文字と数字を保持できるデータベース管理システムのフィールドのデータ型
2	1. 学籍の記録								1	1		
3	生徒情報								1	1		生徒基本情報。生徒情報に配下のデータ項目を拡張する。
4	氏名	◎	VCHAR	205					1	1		姓と名の間に全角の空白を一文字入れる。
5	ふりがな	◎	VCHAR	205					1	1		姓と名の間に全角の空白を一文字入れる。
6	生年月日	◎	X	10					1	1	2002/11/09	必要に応じて和暦に変換 ISO8601の年月日形式（YYYY-MM-DD）
7	性別	◎	VCHAR	1		連携入力			1	1		全角で「男」「女」を入力する。 現段階ではLGBT対応はしない。
8	性別コード	◆	X	1	○	性別コード	○	性別	1	1		1:男、2:女 現段階ではLGBT対応はしない。
9	現住所								1	1		APPLIC「自治体業務アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0」コード辞書参照
10	郵便番号	◆	9	7		連携入力			1	1		APPLIC「自治体業務アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0」コード辞書参照
11	住所	◎	VCHAR	250					1	1		
12	在学状況								1	1		生徒が在学している学校に関する情報
13	学校情報								1	1		学校に関する情報 APPLIC「教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0」コード辞書参照
14	設置区分	◎	VCHAR	2		各校でデフォルト入力			1	1		全角で「国立」「公立」「私立」のいずれかを入力
15	設置区分コード	◆	X	1		各校でデフォルト入力 設置区分コード			1	1		1:国立、2:公立、3:私立
16	学校種別	◎	VCHAR	6		連携入力			1	1		全角で「高等学校」「中等教育学校」「特別支援学校」「分校」のいずれかを入力
17	学校種別コード	◆	X	1	○	学校種別コード			1	1		1:高等学校、2:中等教育学校、3:特別支援学校、4:分校
18	課程	◎	VCHAR	5		連携入力			1	1		全角で「全日制課程」「定時制課程」「通信制課程」のいずれかを入力
19	課程コード	◆	X	1	○	課程コード	○	課程学科コード (APPLICコードから抜粋)	1	1		1:全日制課程、2:定時制課程、3:通信制課程
20	学科種別	◎	VCHAR	4		連携入力			1	1		全角で「普通科」「専門学科」「総合学科」のいずれかを入力
21	学科コード	◆	X	1	○	学科コード	○	課程学科コード (APPLICコードから抜粋)	1	1		4:普通科、5:専門学科、6:総合学科（名称を固有の名称にしている場合もこの3つのいずれかの学科分類を入力すること）
22	学科名	○	VCHAR	30					0	1		全角で学科名を入力
23	学校コード	◎	X	6		デフォルト入力	○	高校マスタ（文部科学省）	1	1		文部科学省が設定したコード番号を入力
24	学校名	◎	VCHAR	40		デフォルト入力	○	高校マスタ（文部科学省）	1	1		マスタより連携入力
25	異動状況								2	2		生徒の入・編・転入学、転・退学、卒業に関する情報 APPLIC「教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0」データ一覧参照
26	入学								0	1		生徒の入学に関する情報。入学、編入学、転入学のいずれかを択一で必須。
27	入学年月日	◎	X	10					1	1	2020/04/01	必要に応じて和暦に変換 入学した年月日。ISO8601の年月日形式（YYYY-MM-DD）
28	編入学								0	1		生徒の編入学に関する情報
29	編入学年月日	○	X	10					1	1	2020/06/01	必要に応じて和暦に変換 編入学した年月日。ISO8601の年月日形式（YYYY-MM-DD）
30	編入学時学年	○	VCHAR	5		連携入力			1	1		「高校1学年」「1年次」等を全角文字入力
31	編入学時学年コード	◆	X	2	○	学年/年次コード	○	学年/年次 (APPLICコードに準じる)	1	1		編入学時における学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、01:1年次、02:2年次、03:3年次、04:4年次、05:5年次、06:6年次、07:7年次、08:8年次、09:9年次、
32	転入学								0	1		生徒の転入学に関する情報
33	転入学年月日	○	X	10					1	1	2020/06/24	必要に応じて和暦に変換 転入学した年月日。ISO8601の年月日形式（YYYY-MM-DD）
34	転入学時学年	○	VCHAR	5		連携入力			1	1		「高校1学年」「1年次」等を全角文字入力
35	転入学時学年コード	◆	X	2	○	学年/年次コード	○	学年/年次 (APPLICコードに準じる)	1	1		転入学時における学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、01:1年次、02:2年次、03:3年次、04:4年次、05:5年次、06:6年次、07:7年次、08:8年次、09:9年次、
36	卒業								1	1		卒業に関する情報
37	種別	◎	VCHAR	4		連携入力			1	1		全角文字で「卒業」「卒業見込」を入力
38	種別コード	◆	X	1	○	卒業種別コード			1	1		1:卒業、2:卒業見込
39	年月日	◎	X	10					1	1	2020-03-31	必要に応じて和暦に変換 卒業および、卒業見込みの年月日。ISO8601の年月日形式（YYYY-MM-DD）

40	<b>2. 各教科・科目等の学習の記録</b>					1	N		APPLIC「教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0」データ一覧参照
41	各学科に共通する各教科・科目					1	N		APPLIC「教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0」データ一覧では共通と専門に分かれているため、これに合わせて分割
42	教科名	◎	VCHAR	20	連携入力	1	1		科目名
43	教科コード	◆	X	10	○教科コード	1	1		APPLICコード辞書における教科コード（学校設定教科の場合は読替元の教科コード、読替元が普通教育に関する各教科に存在しない場合は、「その他」のコードを入力
44	科目名	◎	VCHAR	20	連携入力	1	1		科目名
45	科目コード	◆	X	10	○科目コード	1	1		APPLICコード辞書における教科コード（学校設定教科の場合は読替元の教科コード、読替元が普通教育に関する各科目に存在しない場合は、「その他」のコードを入力
46	カリキュラム年度	◆	X	4	連携入力	1	1		年度形式（yyyy）
47	評定情報					1	N		各学科に共通する科目に関する情報
48	学年	◎	VCHAR	5	連携入力	1	1		「高校1学年」「1年次」等を全角文字入力
49	学年コード	◆	X	2	○学年/年次	○学年/年次 （APPLICコードに準じる）	1	1	編入学時における学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、01:1年次、02:2年次、03:3年次、04:4年次、05:5年次、06:6年次、07:7年次、08:8年次、09:9年次、
50	履修年度	◎	X	4			1	1	年度形式（yyyy）
51	評定	◎	X	2			0	1	（N）
52	修得単位数の計	◎	9	3			1	1	教科・科目の修得単位数の計
53	主として専門学科において開設される各教科・科目					0	N		各学科に共通する取得単位数に関する情報（教科コードと科目コードは対本情報と「主として専門学科において開設される各教科・科目」情報は何れかが存在する。
54	教科名	○	VCHAR	20	連携入力	1	1		科目名
55	教科コード	◆	X	10	教科コード	1	1		APPLICコード辞書における教科コード（学校設定教科の場合は読替元の教科コード、読替元が専門教育に関する各教科に存在しない場合は、「その他」のコードを入力
56	科目名	○	VCHAR	20	連携入力	1	1		科目名
57	科目コード	◆	X	10	科目コード	1	1		APPLICコード辞書における教科コード（学校設定教科の場合は読替元の教科コード、読替元が専門教育に関する各科目に存在しない場合は、「その他」のコードを入力
58	カリキュラム年度	◆	X	4	連携入力	1	1		年度形式（yyyy）
59	評定情報					1	N		各学科に共通する科目に関する情報
60	学年	○	VCHAR	5	連携入力	1	1		「高校1学年」「1年次」等を全角文字入力
61	学年コード	○	X	2	○学年/年次	○学年/年次 （APPLICコードに準じる）	1	1	編入学時における学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、01:1年次、02:2年次、03:3年次、04:4年次、05:5年次、06:6年次、07:7年次、08:8年次、09:9年次、
62	履修年度	○	X	4			1	1	年度形式（yyyy）
63	評定	○	X	2			0	1	（N）
64	修得単位数の計	○	9	3			1	1	教科・科目の修得単位数の計
65	総合的な探究の時間						0	1	
66	修得単位数の計	◎	9	3			1	1	総合的な学習の修得単位数の計
67	その他						0	N	留学に関する情報など
68	名称	○	VCHAR	20			1	1	各学科に共通する科目に関する情報
69	修得単位数の計	○	9	3			1	1	修得単位数の計
70	修得単位数の総計	◎	9	3			1	1	
71	<b>3. 各教科の学習成績の状況</b>					1	1		各教科の学習成績の状況の情報。学年単位で教科単位での平均評定を表示する項目
72	学習成績情報					1	N		
73	教科名	◎	VCHAR	20	連携入力	1	1		各学科に共通する教科に関する情報
74	教科コード	◆	X	10	○教科コード	○読替元教科コード	1	1	APPLICコード辞書における教科コード
75	学習成績の状況	◎	9V	3,3			1	1	評定平均値(N,M)
76	全体の学習成績の状況	◎	9V	3,3			1	1	全体の評定平均値(N,M)

77	4. 学習成績概評							1	1		
78	段階	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	1	連携入力			1	1		全角文字で「⑧」「A」「B」「C」「D」「E」のいずれかを入力
79	段階コード	<input checked="" type="radio"/>	X	1	<input type="radio"/>	段階コード		1	1		1:⑧、2:A、3:B、4:C、5:D、6:E
80	成績段階別人数							1	1		
81	A	<input checked="" type="radio"/>	9	4				1	1		
82	B	<input checked="" type="radio"/>	9	4				1	1		
83	C	<input checked="" type="radio"/>	9	4				1	1		
84	D	<input checked="" type="radio"/>	9	4				1	1		
85	E	<input checked="" type="radio"/>	9	4				1	1		
86	合計人数 1	<input checked="" type="radio"/>	9	4				1	1		
87	合計人数 2	<input checked="" type="radio"/>	9	4				0	1		合計人数 1 へ類型別又は科別に入力された場合、同一学年生徒の合計数の入力として使用する※ ( ) 付けて出力される人数
88	5. 総合的な探究の時間の内容・評価							1	1		先行実施につき、総合的な探究の時間に関する情報として表記
89	活動内容	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	200				0	1		学習活動の内容
90	評価	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	300				0	1		学習活動の評価
91	6. 特別活動の記録							1	1		
92	記録内容							1	N		
93	学年	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	5	連携入力			1	1		「高校1学年」「1年次」等を全角文字で入力
94	学年コード	<input checked="" type="radio"/>	X	2	<input type="radio"/>	学年/年次	<input type="radio"/>	1	1		対象年度の学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、01:1年次、02:2年次、03:3年次、04:4年次、05:5年次、06:6年次、07:7年次、08:8年次、09:9年次、 年度形式 (yyyy)
95	処理年度	<input checked="" type="radio"/>	X	4	連携入力			1	1		
96	記録内容							1	4		
97	カテゴリー	<input checked="" type="radio"/>	x	1	プルダウン選択			1	1		特別活動に関する情報 (1. ホームルーム活動、2. 生徒会活動、3. 学校行事、4. その他)
98	所見	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	200				1	1		APPLICF教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0)データ一覧にも同様の項目があり、桁数が200となっている。
99	7. 指導上参考となる諸事項							1	1		
100	記録内容							1	N		
101	学年	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	5	連携入力			1	1		「高校1学年」「1年次」等を全角文字で入力
101	学年コード	<input checked="" type="radio"/>	X	2	<input type="radio"/>	学年/年次	<input type="radio"/>	1	1		対象年度の学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、01:1年次、02:2年次、03:3年次、04:4年次、05:5年次、06:6年次、07:7年次、08:8年次、09:9年次、 学習における特徴等情報
102	(1) 学習における特徴等							1	1		学習における特徴等に関する自由記述
103	所見	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	200				1	1		行動の特徴、特技等の情報
104	(2) 行動の特徴、特技等							1	1		行動の特徴、特技等に関する自由記述
105	所見	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	200				1	1		部活動、ボランティア活動、留学・海外経験の情報
106	(3) 部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等							1	1		部活動、ボランティア活動、留学・海外経験に関する自由記述
107	所見	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	200				1	1		取得資格、検定等に関する記述 (級、段、スコア、取得年月、主催団体名など)
108	(4) 取得資格、検定等							1	1		
109	記録内容							0	N		
110	資格・検定名称	<input type="radio"/>	VCHAR	50			<input type="radio"/>	1	1		資格・検定マスタ参照
111	資格・検定コード	<input checked="" type="radio"/>	x	20			<input type="radio"/>	1	1		名称はマスタより連携入力
112	処理年度	<input checked="" type="radio"/>	X	4	連携入力			1	1		年度形式 (yyyy)
113	所見	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	200				1	1		取得資格、検定等に関する記述 (級、段、スコア、取得年月、主催団体名など)
114	(5) 表彰・顕彰等の記録							1	1		
115	記録内容							0	N		
116	大会・コンテスト名称	<input type="radio"/>	VCHAR	50			<input type="radio"/>	1	1		名称はマスタより連携入力
117	大会・コンテストコード	<input checked="" type="radio"/>	x	20			<input type="radio"/>	1	1		大会・コンテストマスタ参照
118	処理年度	<input checked="" type="radio"/>	X	4	連携入力			1	1		年度形式 (yyyy)
119	所見	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	200				1	1		表彰・顕彰等の記録に関する記述 (入賞位、グレード、表彰年月、主催団体など) マスタにない大会・コンテスト・表彰・顕彰については、所見欄でその名称等を入力
120	(6) その他							1	1		その他の情報
121	所見	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	200				1	1		その他に関する自由記述

122	8. 備考						0	1		大学指定の特定分野において特に優れた学習成果を上げたことを記載させることができる。 (例: 保健体育、芸術、家庭、情報等)
123	所見	<input type="radio"/>	VCHAR	300				1	1	その他に関する自由記述
124	9. 出欠の記録							1	1	
125	記録内容							1	N	APPLIC「教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0」データ一覧の出欠の記録参照
126	学年	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	5	連携入力			1	1	「高校1学年」「1年次」等を全角文字入力
127	学年コード	<input checked="" type="radio"/>	X	2	<input type="radio"/> 学年/年次	<input type="radio"/> 学年/年次 (APPLICコードに準じる)		1	1	対象年度の学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、01:1年次、02:2年次、03:3年次、04:4年次、05:5年次、06:6年次、07:7年次、08:8年次、09:9年次、 年度形式 (yyyy)
128	処理年度	<input checked="" type="radio"/>	X	4	連携入力			1	1	年度形式 (yyyy)
129	授業日数	<input checked="" type="radio"/>	9	3				0	1	180 授業の日数 ※通信制課程は未使用
130	出席停止・忌引き等の日数	<input type="radio"/>	9	3				0	1	5 出席停止、及び、帯引等の日数 ※通信制課程は未使用
131	留学中の授業日数	<input type="radio"/>	9	3				0	1	留学中に実施された授業の日数 ※通信制課程は未使用
132	出席しなければならぬ日数	<input checked="" type="radio"/>	9	3				0	1	175 出席しなければならぬ日数 ※通信制課程は未使用
133	欠席日数	<input checked="" type="radio"/>	9	3				0	1	7 欠席の日数 ※通信制課程は未使用
134	出席日数	<input checked="" type="radio"/>	9	3				1	1	168 出席の日数
135	備考	<input type="radio"/>	VCHAR	200				0	1	病欠 (3)、 忌引 (4) 出席停止・忌引き等の日数に関する特記事項、欠席理由の主なもの、遅刻、早退等の状況その他の出欠に関する特記事項等 ※通信制課程は未使用
136	作成者情報・証明							1	1	
137	証明	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	50	デフォルト入力			1	1	「以下の者はこの調査書の記載事項に誤りがないことを証明する」等を入力
138	発行・署名年月日	<input checked="" type="radio"/>	X	10				1	1	必要に応じて和暦に変換 ISO8601の年月日形式 (YYYY-MM-DD)
139	学校名	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	40	デフォルト入力			1	1	# 1 9より自動入力
140	学校所在地情報				連携入力			1	1	APPLIC「自治体業務アプリケーションユニット標準仕様の項目セット辞書の項目セット」の住所情報参照
141	郵便番号	<input checked="" type="radio"/>	9	7	連携入力・デフォルト			1	1	APPLIC「自治体業務アプリケーションユニット標準仕様の項目セット辞書の項目セット」では住所コードの記載があるが、調査書には不要と思われるため項目から除外
142	住所	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	250	連携入力・デフォルト			1	1	
143	電話番号	<input checked="" type="radio"/>	9	20	連携入力・デフォルト			1	1	
144	校長役職名	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	20				1	1	学校長、高等学校長、校長、高等部長等、学校によって役職名が異なる。
145	校長名	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	205				1	1	APPLIC「教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0」データ一覧
146	記載責任者役職	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	20				1	1	
147	記載責任者名	<input checked="" type="radio"/>	VCHAR	205				1	1	

参考資料3：令和7年度入試（新学習指導要領）対応 電子調査書フォーマット

NO	情報名	種別	データ型	桁数	APPLICコード		D調コード		出現回数	サンプル値	アウトプット時の変換	備考
					C	D	C	D				
1	電子調査書フォーマットと調査書情報 電子調査書フォーマットとは、電子化された調査書情報を構造化し情報処理を可能とするための入力ルールである。											文部科学省「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告の改正について（通知）」に記載されている調査書改定案の並びに準じる。 APPLICの「教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0」を参照し、項目名、コード定義について同様の項目があればこれに合わせる。 データ型についてもAPPLICの項目セット辞書にある「データ型記載のルール」に合わせる varcharとは文字と数字を保持できるデータベース管理システムのフィールドのデータ型
2	1. 学籍の記録								1	1		
3	生徒情報								1	1		生徒基本情報。生徒情報に配下のデータ項目を拡張する。
4	氏名	◎	VCHAR	205					1	1		姓と名の間に全角の空白を一文字入れる。
5	ふりがな	◎	VCHAR	205					1	1		姓と名の間に全角の空白を一文字入れる。
6	生年月日	◎	X	10					1	1	2002/11/09	必要に応じて和暦に変換 ISO8601の年月日形式（YYYY-MM-DD）
7	性別	◎	VCHAR	1					1	1		全角で「男」「女」を入力する。 現段階ではLGBT対応はしない。
8	性別コード	◆	X	1	○	性別コード	○	性別 (APPLICコードに準じる)	1	1		1:男、2:女 現段階ではLGBT対応はしない。
9	現住所								1	1		APPLIC「自治体業務アプリケーションユニット標準仕様の項目セット辞書の項目セット」の住所情報参照
10	郵便番号	◆	9	7					1	1		APPLIC「自治体業務アプリケーションユニット標準仕様の項目セット辞書の項目セット」では住所コードの記載を参考
11	住所	◎	VCHAR	250					1	1		
12	在学状況								1	1		生徒が在学している学校に関する情報
13	学校情報								1	1		学校に関する情報 APPLIC「教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0」コード辞書参照
14	設置区分	◎	VCHAR	2					1	1		全角で「国立」「公立」「私立」のいずれかを入力
15	設置区分コード	◆	X	1					1	1		1:国立、2:公立、3:私立
16	学校種別	◎	VCHAR	6					1	1		全角で「高等学校」「中等教育学校」「特別支援学校」「分校」のいずれかを入力
17	学校種別コード	◆	X	1	○	学校種別コード	○		1	1		1:高等学校、2:中等教育学校、3:特別支援学校、4:分校
18	課程	◎	VCHAR	5					1	1		全角で「全日制課程」「定時制課程」「通信制課程」のいずれかを入力
19	課程コード	◆	X	1	○	課程コード	○	課程学科コード (APPLICコードから抜粋)	1	1		1:全日制課程、2:定時制課程、3:通信制課程
20	学科種別	◎	VCHAR	4					1	1		全角で「普通科」「専門学科」「総合学科」のいずれかを入力
21	学科コード	◆	X	1	○	学科コード	○	課程学科コード (APPLICコードから抜粋)	1	1		4:普通科、5:専門学科、6:総合学科（名称を固有の名称にしている場合もこの3つのいずれかの学科分類を入力すること）
22	学科名	○	VCHAR	30					0	1		全角で学科名を入力
23	学校コード	◎	X	6					1	1		文部科学省が設定したコード番号を入力
24	学校名	◎	VCHAR	40					1	1		マスター連携入力
25	異動状況								2	2		生徒の入・編・転入学、転・退学、卒業に関する情報 APPLIC「教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0」データ一覧参照
26	入学								0	1		生徒の入学に関する情報。入学、編入学、転入学のいずれかを択一で必須。
27	入学年月日	◎	X	10					1	1	2020/04/01	必要に応じて和暦に変換 入学した年月日。ISO8601の年月日形式（YYYY-MM-DD）
28	編入学								0	1		生徒の編入学に関する情報
29	編入学年月日	○	X	10					1	1	2020/06/01	必要に応じて和暦に変換 編入学した年月日。ISO8601の年月日形式（YYYY-MM-DD）
30	編入学時学年	○	VCHAR	5					1	1		「高校1学年」「1年次」等を全角文字入力
31	編入学時学年コード	◆	X	2	○	学年/年次コード	○	学年/年次 (APPLICコードに準じる)	1	1		編入学時における学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、01:1年次、02:2年次、03:3年次、04:4年次、05:5年次、06:6年次、07:7年次、08:8年次、09:9年次、
32	転入学								0	1		生徒の転入学に関する情報
33	転入学年月日	○	X	10					1	1	2020/06/24	必要に応じて和暦に変換 転入学した年月日。ISO8601の年月日形式（YYYY-MM-DD）
34	転入学時学年	○	VCHAR	5					1	1		「高校1学年」「1年次」等を全角文字入力
35	転入学時学年コード	◆	X	2	○	学年/年次コード	○	学年/年次 (APPLICコードに準じる)	1	1		転入学時における学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、01:1年次、02:2年次、03:3年次、04:4年次、05:5年次、06:6年次、07:7年次、08:8年次、09:9年次、
36	卒業								1	1		卒業に関する情報
37	種別	◎	VCHAR	4					1	1		全角文字で「卒業」「卒業見込」を入力
38	種別コード	◆	X	1	○	卒業種別コード	○		1	1		1:卒業、2:卒業見込
39	年月日	◎	X	10					1	1	2020-03-31	必要に応じて和暦に変換 卒業および、卒業見込みの年月日。ISO8601の年月日形式（YYYY-MM-DD）

40	<b>2. 各教科・科目等の学習の記録</b>				1	N		APPLIC「教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0」データ一覧参照
41	各学科に共通する各教科・科目				1	N		APPLIC「教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0」データ一覧では共通と専門に分かれているため、これに合わせて分割
42	教科名	◎	VCHAR	20	連携入力			科目名
43	教科コード	◆	X	10	○教科コード			APPLICコード辞書における教科コード（学校設定教科の場合は読替元の教科コード、読替元が普通教育に関する各教科に存在しない場合は、「その他：」のコードを入力
44	科目名	◎	VCHAR	20	連携入力			科目名
45	科目コード	◆	X	10	○科目コード			APPLICコード辞書における教科コード（学校設定教科の場合は読替元の教科コード、読替元が普通教育に関する各科目に存在しない場合は、「その他：」のコードを入力
46	カリキュラム年度	◆	X	4	連携入力			年度形式（yyyy）
47	評価情報							各学科に共通する科目に関する情報
48	学年	◎	VCHAR	5	連携入力			「高校1学年」「1年次」等を全角文字入力
49	学年コード	◆	X	2	○学年/年次	○学年/年次 (APPLICコードに準じる)		編入学時における学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、01:1年次、02:2年次、03:3年次、04:4年次、05:5年次、06:6年次、07:7年次、08:8年次、09:9年次、
50	履修年度	◎	X	4				年度形式（yyyy）
51	評定	◎	X	2				(N)
52	修得単位数の計	◎	9	3				教科・科目の修得単位数の計
53	主として専門学科において開設される各教科・科目				0	N		各学科に共通する取得単位数に関する情報(教科コードと科目コードは対) 本情報と「主として専門学科において開設される各教科・科目」情報は何れかが存在する。
54	教科名	○	VCHAR	20	連携入力			科目名
55	教科コード	◆	X	10	教科コード			APPLICコード辞書における教科コード（学校設定教科の場合は読替元の教科コード、読替元が専門教育に関する各教科に存在しない場合は、「その他：」のコードを入力
56	科目名	○	VCHAR	20	連携入力			科目名
57	科目コード	◆	X	10	科目コード			APPLICコード辞書における教科コード（学校設定教科の場合は読替元の教科コード、読替元が専門教育に関する各科目に存在しない場合は、「その他：」のコードを入力
58	カリキュラム年度	◆	X	4	連携入力			年度形式（yyyy）
59	評価情報							各学科に共通する科目に関する情報
60	学年	○	VCHAR	5	連携入力			「高校1学年」「1年次」等を全角文字入力
61	学年コード	○	X	2	○学年/年次	○学年/年次 (APPLICコードに準じる)		編入学時における学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、01:1年次、02:2年次、03:3年次、04:4年次、05:5年次、06:6年次、07:7年次、08:8年次、09:9年次、
62	履修年度	○	X	4				年度形式（yyyy）
63	評定	○	X	2				(N)
64	修得単位数の計	○	9	3				教科・科目の修得単位数の計
65	総合的な探究の時間				0	1		
66	修得単位数の計	◎	9	3				総合的な学習の修得単位数の計
67	その他				0	N		留学に関する情報など
68	名称	○	VCHAR	20				各学科に共通する科目に関する情報
69	修得単位数の計	○	9	3				修得単位数の計
70	修得単位数の総計	◎	9	3				
71	<b>3. 各教科の学習成績の状況</b>				1	1		各教科の学習成績の状況の情報。学年単刺して教科単位での平均評定を表示する項目
72	学習成績情報				1	N		
73	教科名	◎	VCHAR	20	連携入力			各学科に共通する教科に関する情報
74	教科コード	◆	X	10	○教科コード	○読替元教科コード		APPLICコード辞書における教科コード
75	学習成績の状況	◎	9V	3,3				評定平均値(N,M)
76	全体の学習成績の状況	◎	9V	3,3				全体の評定平均値(N,M)

77	4. 学習成績概評						1	1		
78	段階	<input type="radio"/>	VCHAR	1	連携入力		1	1		全角文字で「A」「B」「C」「D」「E」のいずれかを入力
79	段階コード	<input checked="" type="radio"/>	X	1	<input type="radio"/> 段階コード		1	1		1: ⑤、 2: A、 3: B、 4: C、 5: D、 6: E
80	成績段階別人数						1	1		
81	A	<input type="radio"/>	9	4			1	1		
82	B	<input type="radio"/>	9	4			1	1		
83	C	<input type="radio"/>	9	4			1	1		
84	D	<input type="radio"/>	9	4			1	1		
85	E	<input type="radio"/>	9	4			1	1		
86	合計人数 1	<input type="radio"/>	9	4			1	1		
87	合計人数 2	<input type="radio"/>	9	4			0	1		合計人数 1 へ類型別又は科別に入力された場合、同一学年生徒の合計数の入力として使用する※ ( ) 付けて出力される人数
88	5. 総合的な探究の時間の内容・評価						1	1		先行実施につき、総合的な探究の時間に関する情報として表記
89	活動内容	<input type="radio"/>	VCHAR	200			0	1		学習活動の内容
90	評価	<input type="radio"/>	VCHAR	300			0	1		学習活動の評価
91	6. 特別活動の記録						1	1		
92	記録内容						1	N		
93	学年	<input type="radio"/>	VCHAR	5	連携入力		1	1		「高校1学年」「1年次」等を全角文字で入力
94	学年コード	<input checked="" type="radio"/>	X	2	<input type="radio"/> 学年/年次 (APPLICコードに準じる)	<input type="radio"/> 学年/年次 (APPLICコードに準じる)	1	1		対象年度の学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、01:1年次、02:2年次、03:3年次、04:4年次、05:5年次、06:6年次、07:7年次、08:8年次、09:9年次、 年度形式 (yyyy)
95	処理年度	<input checked="" type="radio"/>	X	4	連携入力		1	1		年度形式 (yyyy)
96	記録内容						1	4		
97	カテゴリ	<input type="radio"/>	x	1	プルダウン選択		1	1		特別活動に関する情報 (1. ホームルーム活動、2. 生徒会活動、3. 学校行事、4. その他)
98	所見	<input type="radio"/>	VCHAR	200			1	1		APPLIC「教育情報アプリケーション」ユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0「データ一覧」にも同様の項目があり、桁数が200となっている。
99	7. 指導上参考となる諸事項						1	1		
100	記録内容						1	N		
101	学年	<input type="radio"/>	VCHAR	5	連携入力		1	1		「高校1学年」「1年次」等を全角文字で入力
101	学年コード	<input type="radio"/>	X	2	<input type="radio"/> 学年/年次 (APPLICコードに準じる)	<input type="radio"/> 学年/年次 (APPLICコードに準じる)	1	1		対象年度の学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、01:1年次、02:2年次、03:3年次、04:4年次、05:5年次、06:6年次、07:7年次、08:8年次、09:9年次、 年度形式 (yyyy)
102	(1) 学習における特徴等						1	1		学習における特徴等に関する自由記述
103	所見	<input type="radio"/>	VCHAR	200			1	1		学習における特徴等に関する自由記述
104	(2) 行動の特徴、特技等						1	1		行動の特徴、特技等の情報
105	所見	<input type="radio"/>	VCHAR	200			1	1		行動の特徴、特技等に関する自由記述
106	(3) 部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等						1	1		部活動、ボランティア活動、留学・海外経験の情報
107	所見	<input type="radio"/>	VCHAR	200			1	1		部活動、ボランティア活動、留学・海外経験に関する自由記述
108	(4) 取組資格、検定等						1	1		
109	記録内容						0	N		
110	資格・検定名称	<input type="radio"/>	VCHAR	50		<input type="radio"/> 資格・検定マスク連携入力	1	1		資格・検定マスク参照
111	資格・検定コード	<input checked="" type="radio"/>	x	20		<input type="radio"/> 資格・検定マスク連携 (プルダウン選択)	1	1		名称はマスクより連携入力
112	処理年度	<input checked="" type="radio"/>	X	4	連携入力		1	1		年度形式 (yyyy)
113	所見	<input type="radio"/>	VCHAR	200			1	1		取組資格、検定等に関する記述 (級、段、スコア、取組年月、主催団体名など)
114	(5) 表彰・顕彰等の記録						1	1		
115	記録内容						0	N		
116	大会・コンテスト名称	<input type="radio"/>	VCHAR	50		<input type="radio"/> 大会・コンテストマスク連携入力	1	1		名称はマスクより連携入力
117	大会・コンテストコード	<input checked="" type="radio"/>	x	20		<input type="radio"/> 大会・コンテストマスク連携 (プルダウン選択)	1	1		大会・コンテストマスク参照
118	処理年度	<input checked="" type="radio"/>	X	4	連携入力		1	1		年度形式 (yyyy)
119	所見	<input type="radio"/>	VCHAR	200			1	1		表彰、顕彰等の記録に関する記述 (入賞位、グレード、表彰年月、主催団体など) マスクがない大会・コンテスト・表彰・顕彰については、所見欄でその名称等を入力
120	(6) その他						1	1		その他の情報
121	所見	<input type="radio"/>	VCHAR	200			1	1		その他に関する自由記述



122	8. 備考							0	1		大学指定の特定分野において特に優れた学習成果を上げたことを記載させることができる。 (例：保健体育、芸術、家庭、情報等)
123	所見	○	VCHAR	300				1	1		その他に関する自由記述
124	9. 出欠の記録							1	1		
125	記録内容							1	N		APPLIC教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0]データ一覧の出欠の記録参照
126	学年	◎	VCHAR	5	連携入力			1	1		「高校1学年」「1年次」等を全角文字入力
127	学年コード	◆	X	2	○ 学年/年次	○ 学年/年次 (APPLICコードに準じる)		1	1		対象年度の学年 H1:高校1学年、H2:高校2学年、H3:高校3学年、01:1年次、02:2年次、03:3年次、04:4年次、05:5年次、06:6年次、07:7年次、08:8年次、09:9年次、 年度形式 (yyyy)
128	処理年度	◆	X	4	連携入力			1	1		年度形式 (yyyy)
129	授業日数	◎	9	3				0	1	180	授業の日数 ※通信制課程は未使用
130	出席停止・忌引き等の日数	○	9	3				0	1	5	出席停止、及び、引等の日数 ※通信制課程は未使用
131	留学中の授業日数	○	9	3				0	1		留学中に実施された授業の日数 ※通信制課程は未使用
132	出席しなければならぬ日数	◎	9	3				0	1	175	出席しなければならぬ日数 ※通信制課程は未使用
133	欠席日数	◎	9	3				0	1		欠席の日数 ※通信制課程は未使用
134	出席日数	◎	9	3				1	1	168	出席の日数
135	備考	○	VCHAR	200				0	1	病欠 (3)、 忌引 (4)	出席停止・忌引き等の日数に関する特記事項、欠席理由の主なもの、遅刻、早退等の状況その他の出欠に関する特記事項等 ※通信制課程は未使用
136	作成者情報・証明							1	1		
137	証明	◎	VCHAR	50	デフォルト入力			1	1		「以下の者はこの調査書の記載事項に誤りがないことを証明する」等を入力
138	発行・署名年月日	◎	X	10				1	1		必要に応じて和暦に変換 ISO8601の年月日形式 (YYYY-MM-DD)
139	学校名	◎	VCHAR	40	デフォルト入力			1	1		# 1 9より自動入力
140	学校所在地情報				連携入力			1	1		APPLIC「自治体業務アプリケーションユニット標準仕様の項目セット辞書の項目セット」の住所情報参照
141	郵便番号	◎	9	7	連携入力・デフォルト			1	1		APPLIC「自治体業務アプリケーションユニット標準仕様の項目セット辞書の項目セット」では住所コードの記載があるが、調査書には不要と思われるため項目から除外
142	住所	◎	VCHAR	250	連携入力・デフォルト			1	1		
143	電話番号	◎	9	20	連携入力・デフォルト			1	1		
144	校長役職名	◎	VCHAR	20				1	1		学校長、高等学校長、校長、高等部長等、学校によって役職名が異なる。
145	校長名	◎	VCHAR	205				1	1		APPLIC教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携 高等学校版 V1.0]データ一覧
146	記載責任者役職	◎	VCHAR	20				1	1		
147	記載責任者名	◎	VCHAR	205				1	1		

参考資料 4 : 平成 33 年度大学入学者選抜実施要項対応 XML スキーマ

<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



```

<xsd:schema
  xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  elementFormDefault="qualified">
  <xsd:simpleType name="X">
    <xsd:annotation>
      <xsd:documentation>半角文字列</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:pattern value="[-~&#xFF61;-&#xFF9F;]+" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
  <xsd:element name="調査書情報">
    <xsd:complexType>
      <xsd:sequence>
        <xsd:element name="1. 学籍の記録">
          <xsd:complexType>
            <xsd:sequence>
              <xsd:element name="生徒情報">
                <xsd:complexType>
                  <xsd:sequence>
                    <xsd:element name="氏名">
                      <xsd:simpleType>
                        <xsd:restriction base="xsd:string">
                          <xsd:maxLength value="205" />
                        </xsd:restriction>
                      </xsd:simpleType>
                    </xsd:element>
                    <xsd:element name="ふりがな">
                      <xsd:simpleType>

```

```

        <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="205" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="生年月日" type="xsd:date" />
<xsd:element name="性別">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:enumeration value="男" />
            <xsd:enumeration value="女" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="性別コード">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="X">
            <xsd:enumeration value="1" />
            <xsd:enumeration value="2" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="現住所">
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="郵便番号">
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
                        <xsd:totalDigits value="7" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
        </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
</xsd:element>

```

```

        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="住所" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="250" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="在学状況">
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="学校情報">
                <xsd:complexType>
                    <xsd:sequence>
                        <xsd:element name="設置区分">
                            <xsd:simpleType>
                                <xsd:restriction base="xsd:string">
                                    <xsd:enumeration value="国立" />
                                    <xsd:enumeration value="公立" />
                                    <xsd:enumeration value="私立" />
                                </xsd:restriction>
                            </xsd:simpleType>
                        </xsd:element>
                    </xsd:sequence>
                </xsd:complexType>
            </xsd:element>
        </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
</xsd:element>

```

```

</xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="設置区分コード">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="X">
      <xsd:enumeration value="1"/>
      <xsd:enumeration value="2"/>
      <xsd:enumeration value="3"/>
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="学校種別">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:enumeration value="高校"/>
      <xsd:enumeration value="中等教育学校"/>
      <xsd:enumeration value="特別支援学校"/>
      <xsd:enumeration value="分校"/>
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="学校種別コード">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="X">
      <xsd:enumeration value="1"/>
      <xsd:enumeration value="2"/>
      <xsd:enumeration value="3"/>
      <xsd:enumeration value="4"/>
    </xsd:restriction>

```

```

</xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="課程">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:enumeration value="全日制課程"/>
      <xsd:enumeration value="定時制課程"/>
      <xsd:enumeration value="通信制課程"/>
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="課程コード">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="X">
      <xsd:enumeration value="1"/>
      <xsd:enumeration value="2"/>
      <xsd:enumeration value="3"/>
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="学科種別">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:enumeration value="普通科"/>
      <xsd:enumeration value="専門学科"/>
      <xsd:enumeration value="総合学科"/>
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>

```

```

<xsd:element name="学科コード">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="X">
      <xsd:enumeration value="4"/>
      <xsd:enumeration value="5"/>
      <xsd:enumeration value="6"/>
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="学科名" minOccurs="0">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:maxLength value="30" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="学校コード" >
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="X">
      <xsd:maxLength value="6" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="学校名" >
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:maxLength value="40" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>

```

```

        </xsd:element>
    </xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="異動状況" minOccurs="2" maxOccurs="2">
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:choice>
                <xsd:element name="入学" minOccurs="0">
                    <xsd:complexType>
                        <xsd:sequence>
                            <xsd:element name="入学年月日" type="xsd:date" />
                        </xsd:sequence>
                    </xsd:complexType>
                </xsd:element>
                <xsd:element name="編入学" minOccurs="0">
                    <xsd:complexType>
                        <xsd:sequence>
                            <xsd:element name="編入学年月日" type="xsd:date" />
                            <xsd:element name="編入時学年">
                                <xsd:simpleType>
                                    <xsd:restriction base="xsd:string">
                                        <xsd:length value="5" />
                                    </xsd:restriction>
                                </xsd:simpleType>
                            </xsd:element>
                        </xsd:sequence>
                    </xsd:complexType>
                </xsd:element>
            </xsd:choice>
        </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
</xsd:element>

```

```

    <xsd:element name="編入学時学年コード">
      <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="X">
          <xsd:length value="2" />
        </xsd:restriction>
      </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
  </xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="転入学" minOccurs="0">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="転入学年月日" type="xsd:date" />
      <xsd:element name="転入時学年">
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:length value="5" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
      <xsd:element name="転入学時学年コード">
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="X">
            <xsd:length value="2" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>

```



```

        </xsd:complexType>
    </xsd:element>
</xsd:choice>
<xsd:element name="卒業">
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="種別">
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="xsd:string">
                        <xsd:enumeration value="卒業" />
                        <xsd:enumeration value="卒業見込" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="種別コード">
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="X">
                        <xsd:enumeration value="1" />
                        <xsd:enumeration value="2" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="年月日" type="xsd:date" />
        </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>

```

```

    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="2. 各教科・科目等の学習の記録" maxOccurs="unbounded">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="各学科に共通する各教科・科目" maxOccurs="unbounded">
        <xsd:complexType>
          <xsd:sequence>
            <xsd:element name="教科名" >
              <xsd:simpleType>
                <xsd:restriction base="xsd:string">
                  <xsd:maxLength value="20" />
                </xsd:restriction>
              </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="教科コード" >
              <xsd:simpleType>
                <xsd:restriction base="X">
                  <xsd:maxLength value="10" />
                </xsd:restriction>
              </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="科目名" >
              <xsd:simpleType>
                <xsd:restriction base="xsd:string">
                  <xsd:maxLength value="20" />
                </xsd:restriction>
              </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
          </xsd:sequence>
        </xsd:complexType>
      </xsd:element>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>

```

```

</xsd:element>
<xsd:element name="科目コード" >
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="X">
      <xsd:maxLength value="10" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="カリキュラム年度" type="xsd:gYear" />
<xsd:element name="評価情報" maxOccurs="unbounded">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="学年">
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:length value="5" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
      <xsd:element name="学年コード">
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="X">
            <xsd:length value="2" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
      <xsd:element name="履修年度" type="xsd:gYear" />
      <xsd:element name="評価" minOccurs="0">
        <xsd:simpleType>

```

```

        <xsd:restriction base="X">
            <xsd:length value="2" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="修得単位数の計" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
            <xsd:totalDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="主として専門学科において開設される各教科・科目" minOccurs="0" maxOccurs="unbounded">
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="教科名" >
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="xsd:string">
                        <xsd:maxLength value="20" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="教科コード" >

```

```

    <xsd:simpleType>
      <xsd:restriction base="X">
        <xsd:maxLength value="10" />
      </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
  </xsd:element>
  <xsd:element name="科目名" >
    <xsd:simpleType>
      <xsd:restriction base="xsd:string">
        <xsd:maxLength value="20" />
      </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
  </xsd:element>
  <xsd:element name="科目コード" >
    <xsd:simpleType>
      <xsd:restriction base="X">
        <xsd:maxLength value="10" />
      </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
  </xsd:element>
  <xsd:element name="カリキュラム年度" type="xsd:gYear" />
  <xsd:element name="評価情報" maxOccurs="unbounded" >
    <xsd:complexType>
      <xsd:sequence>
        <xsd:element name="学年">
          <xsd:simpleType>
            <xsd:restriction base="xsd:string">
              <xsd:length value="5" />
            </xsd:restriction>
          </xsd:simpleType>
        </xsd:element>
      </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
  </xsd:element>

```

```

        </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="学年コード">
        <xsd:simpleType>
            <xsd:restriction base="X">
                <xsd:length value="2" />
            </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="履修年度" type="xsd:gYear" />
    <xsd:element name="評定" minOccurs="0">
        <xsd:simpleType>
            <xsd:restriction base="X">
                <xsd:length value="2" />
            </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="修得単位数の計">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
            <xsd:totalDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>

```

```

</xsd:element>
<xsd:element name="総合的な探究の時間" minOccurs="0" >
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="修得単位数の計" >
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
            <xsd:totalDigits value="3" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="その他" minOccurs="0" maxOccurs="unbounded">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="名称" >
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="20" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
      <xsd:element name="修得単位数の計" >
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
            <xsd:totalDigits value="3" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>

```

```

        </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="修得単位数の総計" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
            <xsd:totalDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="3. 各教科の学習成績の状況">
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="学習成績情報" maxOccurs="unbounded">
                <xsd:complexType>
                    <xsd:sequence>
                        <xsd:element name="教科名" >
                            <xsd:simpleType>
                                <xsd:restriction base="xsd:string">
                                    <xsd:maxLength value="20" />
                                </xsd:restriction>
                            </xsd:simpleType>
                        </xsd:element>
                        <xsd:element name="教科コード" >

```



```

        <xsd:simpleType>
            <xsd:restriction base="X">
                <xsd:maxLength value="10" />
            </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="学習成績の状況">
        <xsd:simpleType>
            <xsd:restriction base="xsd:decimal">
                <xsd:totalDigits value="6" />
                <xsd:fractionDigits value="3" />
            </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="全体の学習成績の状況">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:decimal">
            <xsd:totalDigits value="6" />
            <xsd:fractionDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="4. 学習成績概評">

```

```

<xsd:complexType>
  <xsd:sequence>
    <xsd:element name="段階" >
      <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
          <xsd:maxLength value="1" />
        </xsd:restriction>
      </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="段階コード" >
      <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="X">
          <xsd:maxLength value="1" />
        </xsd:restriction>
      </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="成績段階別人数">
      <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
          <xsd:element name="A" >
            <xsd:simpleType>
              <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
                <xsd:totalDigits value="4" />
              </xsd:restriction>
            </xsd:simpleType>
          </xsd:element>
          <xsd:element name="B" >
            <xsd:simpleType>
              <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">

```

```

        <xsd:totalDigits value="4" />
    </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="C" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
            <xsd:totalDigits value="4" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="D" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
            <xsd:totalDigits value="4" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="E" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
            <xsd:totalDigits value="4" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="合計人数1" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
            <xsd:totalDigits value="4" />

```

```

        </xsd:restriction>
      </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="合計人数2" >
      <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
          <xsd:totalDigits value="4" />
        </xsd:restriction>
      </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
  </xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="5. 総合的な探求の時間の内容・評価">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="活動内容" minOccurs="0" >
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="200" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
      <xsd:element name="評価" minOccurs="0" >
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:string">

```

```

        <xsd:maxLength value="300" />
    </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="6. 特別活動の記録">
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="記録内容" maxOccurs="unbounded" >
                <xsd:complexType>
                    <xsd:sequence>
                        <xsd:element name="学年" >
                            <xsd:simpleType>
                                <xsd:restriction base="xsd:string">
                                    <xsd:maxLength value="5" />
                                </xsd:restriction>
                            </xsd:simpleType>
                        </xsd:element>
                        <xsd:element name="学年コード" >
                            <xsd:simpleType>
                                <xsd:restriction base="X">
                                    <xsd:maxLength value="2" />
                                </xsd:restriction>
                            </xsd:simpleType>
                        </xsd:element>
                        <xsd:element name="処理年度" type="xsd:gYear" />
                        <xsd:element name="記録内容" maxOccurs="4" >

```

```

<xsd:complexType>
  <xsd:sequence>
    <xsd:element name="カテゴリー">
      <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="X">
          <xsd:enumeration value="1" />
          <xsd:enumeration value="2" />
          <xsd:enumeration value="3" />
          <xsd:enumeration value="4" />
        </xsd:restriction>
      </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="所見" maxOccurs="unbounded" >
      <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
          <xsd:maxLength value="200" />
        </xsd:restriction>
      </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
  </xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="7. 指導上参考となる諸事項">

```

```

<xsd:complexType>
  <xsd:sequence>
    <xsd:element name="記録内容" maxOccurs="unbounded" >
      <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
          <xsd:element name="学年" >
            <xsd:simpleType>
              <xsd:restriction base="xsd:string">
                <xsd:maxLength value="5" />
              </xsd:restriction>
            </xsd:simpleType>
          </xsd:element>
          <xsd:element name="学年コード" >
            <xsd:simpleType>
              <xsd:restriction base="X">
                <xsd:maxLength value="2" />
              </xsd:restriction>
            </xsd:simpleType>
          </xsd:element>
          <xsd:element name="(1)学習における特徴等" >
            <xsd:complexType>
              <xsd:sequence>
                <xsd:element name="所見" >
                  <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="xsd:string">
                      <xsd:maxLength value="200" />
                    </xsd:restriction>
                  </xsd:simpleType>
                </xsd:element>
              </xsd:sequence>
            </xsd:complexType>
          </xsd:element>
        </xsd:sequence>
      </xsd:complexType>
    </xsd:element>
  </xsd:sequence>
</xsd:complexType>

```

```

        </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="(2)行動の特徴、特技等" >
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="所見" >
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="xsd:string">
                        <xsd:maxLength value="200" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
        </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="(3)部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等" >
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="所見" >
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="xsd:string">
                        <xsd:maxLength value="200" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
        </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
</xsd:element>

```



```

<xsd:element name="(4)取得資格、検定等" >
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="記録内容" minOccurs="0" maxOccurs="unbounded" >
        <xsd:complexType>
          <xsd:sequence>
            <xsd:element name="資格・検討名称" >
              <xsd:simpleType>
                <xsd:restriction base="xsd:string">
                  <xsd:maxLength value="50" />
                </xsd:restriction>
              </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="資格・検定コード" >
              <xsd:simpleType>
                <xsd:restriction base="X">
                  <xsd:maxLength value="20" />
                </xsd:restriction>
              </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="処理年度" type="xsd:gYear" />
          </xsd:sequence>
        </xsd:complexType>
      </xsd:element>
      <xsd:element name="所見" >
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="200" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>

```

```

        </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="(5)表彰・顕彰等の記録" >
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="記録内容" minOccurs="0" maxOccurs="unbounded" >
                <xsd:complexType>
                    <xsd:sequence>
                        <xsd:element name="大会・コンテスト名称" >
                            <xsd:simpleType>
                                <xsd:restriction base="xsd:string">
                                    <xsd:maxLength value="50" />
                                </xsd:restriction>
                            </xsd:simpleType>
                        </xsd:element>
                        <xsd:element name="大会・コンテストコード" >
                            <xsd:simpleType>
                                <xsd:restriction base="X">
                                    <xsd:maxLength value="20" />
                                </xsd:restriction>
                            </xsd:simpleType>
                        </xsd:element>
                        <xsd:element name="処理年度" type="xsd:gYear" />
                    </xsd:sequence>
                </xsd:complexType>
            </xsd:element>
        </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>

```

```

        </xsd:element>
        <xsd:element name="所見" >
            <xsd:simpleType>
                <xsd:restriction base="xsd:string">
                    <xsd:maxLength value="200" />
                </xsd:restriction>
            </xsd:simpleType>
        </xsd:element>
    </xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="(6)その他" >
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="所見" >
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="xsd:string">
                        <xsd:maxLength value="200" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
        </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>

```

```

</xsd:element>
<xsd:element name="8. 備考" minOccurs="0" >
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="所見" >
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="300" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="9. 出欠の記録">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="記録内容" minOccurs="1" maxOccurs="unbounded" >
        <xsd:complexType>
          <xsd:sequence>
            <xsd:element name="学年" >
              <xsd:simpleType>
                <xsd:restriction base="xsd:string">
                  <xsd:maxLength value="5" />
                </xsd:restriction>
              </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="学年コード" >
              <xsd:simpleType>

```

```

        <xsd:restriction base="X">
            <xsd:maxLength value="2" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="処理年度" type="xsd:gYear" />
<xsd:element name="授業日数" minOccurs="0" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger" >
            <xsd:totalDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="出席停止・忌引き等の日数" minOccurs="0" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
            <xsd:totalDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="留学中の授業日数" minOccurs="0" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger" >
            <xsd:totalDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="出席しなければならない日数" minOccurs="0" >
    <xsd:simpleType>

```

```

        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger" >
            <xsd:totalDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="欠席日数" minOccurs="0" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger" >
            <xsd:totalDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="出席日数" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger" >
            <xsd:totalDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="備考" minOccurs="0" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="200" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>

```

```

        </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="作成者情報・証明">
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="証明">
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="xsd:string">
                        <xsd:maxLength value="50" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="発行・署名年月日" type="xsd:date" />
            <xsd:element name="学校名">
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="xsd:string">
                        <xsd:maxLength value="40" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="学校所在地情報">
                <xsd:complexType>
                    <xsd:sequence>
                        <xsd:element name="郵便番号">
                            <xsd:simpleType>
                                <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
                                    <xsd:totalDigits value="7" />
                                </xsd:restriction>
                            </xsd:simpleType>
                        </xsd:element>
                    </xsd:sequence>
                </xsd:complexType>
            </xsd:element>
        </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
</xsd:element>

```

```

        </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="住所" >
        <xsd:simpleType>
            <xsd:restriction base="xsd:string">
                <xsd:maxLength value="250" />
            </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="電話番号" >
        <xsd:simpleType>
            <xsd:restriction base="xsd:string">
                <xsd:maxLength value="20" />
            </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="校長役職名" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="20" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="校長名" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">

```



```
        <xsd:maxLength value="205" />
      </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
  </xsd:element>
  <xsd:element name="記載責任者役職" >
    <xsd:simpleType>
      <xsd:restriction base="xsd:string">
        <xsd:maxLength value="20" />
      </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
  </xsd:element>
  <xsd:element name="記載責任者名" >
    <xsd:simpleType>
      <xsd:restriction base="xsd:string">
        <xsd:maxLength value="205" />
      </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
  </xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:schema>
```

参考資料 5 : 令和 7 年度入試（新学習指導要領）対応 XML スキーマ

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<xsd:schema
  xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  elementFormDefault="qualified">
  <xsd:simpleType name="X">
    <xsd:annotation>
      <xsd:documentation>半角文字列</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:pattern value="[-~&#xFF61;-&#xFF9F;]+" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
  <xsd:element name="調査書情報">
    <xsd:complexType>
      <xsd:sequence>
        <xsd:element name="1. 学籍の記録">
          <xsd:complexType>
            <xsd:sequence>
              <xsd:element name="生徒情報">
                <xsd:complexType>
                  <xsd:sequence>
                    <xsd:element name="氏名">
                      <xsd:simpleType>
                        <xsd:restriction base="xsd:string">
                          <xsd:maxLength value="205" />
                        </xsd:restriction>
                      </xsd:simpleType>
                    </xsd:element>
                  </xsd:sequence>
                </xsd:complexType>
              </xsd:element>
            </xsd:sequence>
          </xsd:complexType>
        </xsd:element>
      </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
  </xsd:element>
</xsd:schema>
```

```

        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="ふりがな">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="205" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="生年月日" type="xsd:date" />
<xsd:element name="性別">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:enumeration value="男" />
            <xsd:enumeration value="女" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="性別コード">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="X">
            <xsd:enumeration value="1" />
            <xsd:enumeration value="2" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="現住所">
    <xsd:complexType>

```

```

    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="郵便番号">
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
            <xsd:totalDigits value="7" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
      <xsd:element name="住所">
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="250" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="在学状況">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="学校情報">
        <xsd:complexType>
          <xsd:sequence>
            <xsd:element name="設置区分">
              <xsd:simpleType>

```

```

        <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:enumeration value="国立"/>
            <xsd:enumeration value="公立"/>
            <xsd:enumeration value="私立"/>
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="設置区分コード">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="X">
            <xsd:enumeration value="1"/>
            <xsd:enumeration value="2"/>
            <xsd:enumeration value="3"/>
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="学校種別">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:enumeration value="高校"/>
            <xsd:enumeration value="中等教育学校"/>
            <xsd:enumeration value="特別支援学校"/>
            <xsd:enumeration value="分校"/>
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="学校種別コード">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="X">

```

```

        <xsd:enumeration value="1"/>
        <xsd:enumeration value="2"/>
        <xsd:enumeration value="3"/>
        <xsd:enumeration value="4"/>
    </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="課程">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:enumeration value="全日制課程"/>
            <xsd:enumeration value="定時制課程"/>
            <xsd:enumeration value="通信制課程"/>
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="課程コード">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="X">
            <xsd:enumeration value="1"/>
            <xsd:enumeration value="2"/>
            <xsd:enumeration value="3"/>
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="学科種別">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:enumeration value="普通科"/>

```

```

        <xsd:enumeration value="専門学科" />
        <xsd:enumeration value="総合学科" />
    </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="学科コード">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="X">
            <xsd:enumeration value="4" />
            <xsd:enumeration value="5" />
            <xsd:enumeration value="6" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="学科名" minOccurs="0">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="30" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="学校コード">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="X">
            <xsd:maxLength value="6" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="学校名">

```

```

        <xsd:simpleType>
            <xsd:restriction base="xsd:string">
                <xsd:maxLength value="40" />
            </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="異動状況" minOccurs="2" maxOccurs="2">
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:choice>
                <xsd:element name="入学" minOccurs="0">
                    <xsd:complexType>
                        <xsd:sequence>
                            <xsd:element name="入学年月日" type="xsd:date" />
                        </xsd:sequence>
                    </xsd:complexType>
                </xsd:element>
                <xsd:element name="編入学" minOccurs="0">
                    <xsd:complexType>
                        <xsd:sequence>
                            <xsd:element name="編入学年月日" type="xsd:date" />
                            <xsd:element name="編入時学年">
                                <xsd:simpleType>

```



```

        <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:length value="5" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="編入学時学年コード">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="X">
            <xsd:length value="2" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="転入学" minOccurs="0">
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="転入学年月日" type="xsd:date" />
            <xsd:element name="転入学時学年">
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="xsd:string">
                        <xsd:length value="5" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="転入学時学年コード">
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="X">

```

```

        <xsd:length value="2" />
    </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:choice>
<xsd:element name="卒業">
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="種別">
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="xsd:string">
                        <xsd:enumeration value="卒業" />
                        <xsd:enumeration value="卒業見込" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="種別コード">
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="X">
                        <xsd:enumeration value="1" />
                        <xsd:enumeration value="2" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="年月日" type="xsd:date" />
        </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
</xsd:element>

```

```

        </xsd:complexType>
    </xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="2. 各教科・科目等の学習の記録" maxOccurs="unbounded">
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="各学科に共通する各教科・科目" maxOccurs="unbounded">
                <xsd:complexType>
                    <xsd:sequence>
                        <xsd:element name="教科名" >
                            <xsd:simpleType>
                                <xsd:restriction base="xsd:string">
                                    <xsd:maxLength value="20" />
                                </xsd:restriction>
                            </xsd:simpleType>
                        </xsd:element>
                        <xsd:element name="教科コード" >
                            <xsd:simpleType>
                                <xsd:restriction base="X">
                                    <xsd:maxLength value="10" />
                                </xsd:restriction>
                            </xsd:simpleType>
                        </xsd:element>
                        <xsd:element name="科目名" >

```

```

<xsd:simpleType>
  <xsd:restriction base="xsd:string">
    <xsd:maxLength value="20" />
  </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="科目コード" >
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="X">
      <xsd:maxLength value="10" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="カリキュラム年度" type="xsd:gYear" />
<xsd:element name="評価情報" maxOccurs="unbounded">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="学年">
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:length value="5" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
      <xsd:element name="学年コード">
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="X">
            <xsd:length value="2" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>

```

```

        </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="履修年度" type="xsd:gYear" />
    <xsd:element name="評定" minOccurs="0">
        <xsd:simpleType>
            <xsd:restriction base="X">
                <xsd:length value="2" />
            </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="修得単位数の計" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
            <xsd:totalDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="主として専門学科において開設される各教科・科目" minOccurs="0" maxOccurs="unbounded">
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="教科名" >
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="xsd:string">

```

```

        <xsd:maxLength value="20" />
    </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="教科コード" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="X">
            <xsd:maxLength value="10" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="科目名" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="20" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="科目コード" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="X">
            <xsd:maxLength value="10" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="カリキュラム年度" type="xsd:gYear" />
<xsd:element name="評価情報" maxOccurs="unbounded" >
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>

```

```

<xsd:element name="学年">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:length value="5" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="学年コード">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="X">
      <xsd:length value="2" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="履修年度" type="xsd:gYear" />
<xsd:element name="評定" minOccurs="0">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="X">
      <xsd:length value="2" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="修得単位数の計">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
      <xsd:totalDigits value="3" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>

```

```

        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="総合的な探究の時間" minOccurs="0" >
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="修得単位数の計" >
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
                        <xsd:totalDigits value="3" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
        </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="その他" minOccurs="0" maxOccurs="unbounded">
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="名称" >
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="xsd:string">
                        <xsd:maxLength value="20" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
        </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>

```



```

    <xsd:element name="修得単位数の計" >
      <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
          <xsd:totalDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
      </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
  </xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="修得単位数の総計" >
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
      <xsd:totalDigits value="3" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="3. 各教科の学習成績の状況">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="学習成績情報" maxOccurs="unbounded">
        <xsd:complexType>
          <xsd:sequence>
            <xsd:element name="教科名" >
              <xsd:simpleType>
                <xsd:restriction base="xsd:string">

```

```

        <xsd:maxLength value="20" />
    </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="教科コード" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="X">
            <xsd:maxLength value="10" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="学習成績の状況">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:decimal">
            <xsd:totalDigits value="6" />
            <xsd:fractionDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="全体の学習成績の状況">
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:decimal">
            <xsd:totalDigits value="6" />
            <xsd:fractionDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>

```

```

        </xsd:element>
    </xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="4. 學習成績概評">
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="段階" >
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="xsd:string">
                        <xsd:maxLength value="1" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="段階コード" >
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="X">
                        <xsd:maxLength value="1" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="成績段階別人数">
                <xsd:complexType>
                    <xsd:sequence>
                        <xsd:element name="A" >
                            <xsd:simpleType>
                                <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
                                    <xsd:totalDigits value="4" />
                                </xsd:restriction>
                            </xsd:simpleType>
                        </xsd:element>
                    </xsd:sequence>
                </xsd:complexType>
            </xsd:element>
        </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
</xsd:element>

```

```
</xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="B" >
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
      <xsd:totalDigits value="4" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="C" >
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
      <xsd:totalDigits value="4" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="D" >
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
      <xsd:totalDigits value="4" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="E" >
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
      <xsd:totalDigits value="4" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
```

```

</xsd:element>
<xsd:element name="合計人数1">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
      <xsd:totalDigits value="4" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="合計人数2">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
      <xsd:totalDigits value="4" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="5. 総合的な探求の時間の内容・評価">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="活動内容" minOccurs="0">
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="200" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>

```

```

        </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="観点" minOccurs="0" >
        <xsd:simpleType>
            <xsd:restriction base="xsd:string">
                <xsd:maxLength value="200" />
            </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="評価" minOccurs="0" >
        <xsd:simpleType>
            <xsd:restriction base="xsd:string">
                <xsd:maxLength value="300" />
            </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="6. 特別活動の記録">
    <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
            <xsd:element name="観点" >
                <xsd:simpleType>
                    <xsd:restriction base="xsd:string">
                        <xsd:maxLength value="200" />
                    </xsd:restriction>
                </xsd:simpleType>
            </xsd:element>

```

```

<xsd:element name="記録内容" maxOccurs="unbounded" >
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="学年" >
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="5" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
      <xsd:element name="学年コード" >
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="X">
            <xsd:maxLength value="2" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
      <xsd:element name="処理年度" type="xsd:gYear" />
      <xsd:element name="記録内容" maxOccurs="3" >
        <xsd:complexType>
          <xsd:sequence>
            <xsd:element name="カテゴリー">
              <xsd:simpleType>
                <xsd:restriction base="X">
                  <xsd:enumeration value="1" />
                  <xsd:enumeration value="2" />
                  <xsd:enumeration value="3" />
                </xsd:restriction>
              </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
          </xsd:sequence>
        </xsd:complexType>
      </xsd:element>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>

```

```

</xsd:element>
<xsd:element name="評価" >
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:maxLength value="1" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="評価コード">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="X">
      <xsd:enumeration value="0" />
      <xsd:enumeration value="1" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="7. 指導上参考となる諸事項">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="記録内容" maxOccurs="unbounded" >

```



```

<xsd:complexType>
  <xsd:sequence>
    <xsd:element name="学年" >
      <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
          <xsd:maxLength value="5" />
        </xsd:restriction>
      </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="学年コード" >
      <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="X">
          <xsd:maxLength value="2" />
        </xsd:restriction>
      </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="所見" >
      <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
          <xsd:maxLength value="1200" />
        </xsd:restriction>
      </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
  </xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>

```

```

<xsd:element name="8. 備考" minOccurs="0" >
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="所見" >
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="300" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="9. 出欠の記録">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="記録内容" minOccurs="1" maxOccurs="unbounded" >
        <xsd:complexType>
          <xsd:sequence>
            <xsd:element name="学年" >
              <xsd:simpleType>
                <xsd:restriction base="xsd:string">
                  <xsd:maxLength value="5" />
                </xsd:restriction>
              </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="学年コード" >
              <xsd:simpleType>
                <xsd:restriction base="X">

```

```

        <xsd:maxLength value="2" />
    </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="処理年度" type="xsd:gYear" />
<xsd:element name="授業日数" minOccurs="0" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger" >
            <xsd:totalDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="出席停止・忌引き等の日数" minOccurs="0" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
            <xsd:totalDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="留学中の授業日数" minOccurs="0" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger" >
            <xsd:totalDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="出席しなければならない日数" minOccurs="0" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger" >

```

```

        <xsd:totalDigits value="3" />
    </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="欠席日数" minOccurs="0" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger" >
            <xsd:totalDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="出席日数" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger" >
            <xsd:totalDigits value="3" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="備考" minOccurs="0" >
    <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="200" />
        </xsd:restriction>
    </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>

```

```

</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="作成者情報・証明">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="証明">
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="50" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
      <xsd:element name="発行・署名年月日" type="xsd:date" />
      <xsd:element name="学校名">
        <xsd:simpleType>
          <xsd:restriction base="xsd:string">
            <xsd:maxLength value="40" />
          </xsd:restriction>
        </xsd:simpleType>
      </xsd:element>
      <xsd:element name="学校所在地情報">
        <xsd:complexType>
          <xsd:sequence>
            <xsd:element name="郵便番号">
              <xsd:simpleType>
                <xsd:restriction base="xsd:nonNegativeInteger">
                  <xsd:totalDigits value="7" />
                </xsd:restriction>
              </xsd:simpleType>
            </xsd:element>
          </xsd:sequence>
        </xsd:complexType>
      </xsd:element>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>

```

```
</xsd:element>
<xsd:element name="住所" >
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:maxLength value="250" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="電話番号" >
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:maxLength value="20" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="校長役職名" >
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:maxLength value="20" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="校長名" >
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:maxLength value="205" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
```

```
        </xsd:restriction>
      </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="記載責任者役職" >
      <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
          <xsd:maxLength value="20" />
        </xsd:restriction>
      </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="記載責任者名" >
      <xsd:simpleType>
        <xsd:restriction base="xsd:string">
          <xsd:maxLength value="205" />
        </xsd:restriction>
      </xsd:simpleType>
    </xsd:element>
  </xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:schema>
```

参考資料6：資格・検定コード

分類 区分 コード	資格 コード	資格名称	主催者名
01	0005	日本漢字能力検定1級	公益財団法人日本漢字能力検定協会
01	0010	日本漢字能力検定準1級	公益財団法人日本漢字能力検定協会
01	0015	日本漢字能力検定2級	公益財団法人日本漢字能力検定協会
01	0020	日本漢字能力検定準2級	公益財団法人日本漢字能力検定協会
01	0025	日本漢字能力検定3級	公益財団法人日本漢字能力検定協会
01	0030	日本漢字能力検定4級	公益財団法人日本漢字能力検定協会
01	0035	日本語検定1級	特定非営利活動法人日本語検定委員会
01	0040	日本語検定準1級	特定非営利活動法人日本語検定委員会
01	0045	日本語検定2級	特定非営利活動法人日本語検定委員会
01	0050	日本語検定準2級	特定非営利活動法人日本語検定委員会
01	0055	日本語検定3級	特定非営利活動法人日本語検定委員会
01	0060	日本語検定準3級	特定非営利活動法人日本語検定委員会
03	0005	ニュース時事能力検定1級	日本ニュース時事能力検定協会
03	0010	ニュース時事能力検定2級	日本ニュース時事能力検定協会
03	0015	ニュース時事能力検定準2級	日本ニュース時事能力検定協会
03	0020	ニュース時事能力検定3級	日本ニュース時事能力検定協会
05	0005	歴史能力検定(世界史)1級	歴史能力検定協会
05	0010	歴史能力検定(世界史)2級	歴史能力検定協会
05	0015	歴史能力検定(世界史)3級	歴史能力検定協会
05	0020	歴史能力検定(日本史)1級	歴史能力検定協会
05	0025	歴史能力検定(日本史)2級	歴史能力検定協会
05	0030	歴史能力検定(日本史)3級	歴史能力検定協会
07	0005	実用数学技能検定1級	公益財団法人日本数学検定協会
07	0010	実用数学技能検定準1級	公益財団法人日本数学検定協会
07	0015	実用数学技能検定2級	公益財団法人日本数学検定協会
07	0020	実用数学技能検定準2級	公益財団法人日本数学検定協会
07	0025	実用数学技能検定3級	公益財団法人日本数学検定協会
09	0005	色彩検定1級	公益社団法人色彩検定協会
09	0010	色彩検定2級	公益社団法人色彩検定協会
09	0015	色彩検定3級	公益社団法人色彩検定協会
09	0020	カラーコーディネーター検定1級	東京商工会議所
09	0025	カラーコーディネーター検定2級	東京商工会議所
09	0030	カラーコーディネーター検定3級	東京商工会議所
09	0035	レタリング技能検定1級	公益財団法人国際文化カレッジ
09	0040	レタリング技能検定2級	公益財団法人国際文化カレッジ
09	0045	レタリング技能検定3級	公益財団法人国際文化カレッジ
09	0050	レタリング技能検定4級	公益財団法人国際文化カレッジ
11	0005	硬筆書写技能検定1級	一般財団法人日本書写技能検定協会
11	0010	硬筆書写技能検定準1級	一般財団法人日本書写技能検定協会
11	0015	硬筆書写技能検定2級	一般財団法人日本書写技能検定協会
11	0020	硬筆書写技能検定3級	一般財団法人日本書写技能検定協会
11	0025	硬筆書写技能検定4級	一般財団法人日本書写技能検定協会
11	0030	毛筆書写技能検定1級	一般財団法人日本書写技能検定協会
11	0035	毛筆書写技能検定準1級	一般財団法人日本書写技能検定協会
11	0040	毛筆書写技能検定2級	一般財団法人日本書写技能検定協会
11	0045	毛筆書写技能検定3級	一般財団法人日本書写技能検定協会
11	0050	毛筆書写技能検定4級	一般財団法人日本書写技能検定協会
13	0005	実用英語技能検定1級	公益財団法人日本英語検定協会
13	0010	実用英語技能検定準1級	公益財団法人日本英語検定協会
13	0015	実用英語技能検定2級	公益財団法人日本英語検定協会
13	0020	実用英語技能検定準2級	公益財団法人日本英語検定協会
13	0025	実用英語技能検定3級	公益財団法人日本英語検定協会
13	0030	TOEIC(510点)	財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会
13	0035	TOEFL(iBT)50点	国際教育交換協議会
13	0040	GTEC(550点)	株式会社ベネッセコーポレーション
13	0045	英語検定1級	公益財団法人全国商業高等学校協会
13	0050	英語検定2級	公益財団法人全国商業高等学校協会
13	0055	英語検定3級	公益財団法人全国商業高等学校協会
13	0060	英語検定4級	公益財団法人全国商業高等学校協会
13	0065	日商ビジネス英語1級	日本商工会議所
13	0070	日商ビジネス英語2級	日本商工会議所
13	0075	日商ビジネス英語3級	日本商工会議所
15	0005	毛糸編物技能検定1級	公益財団法人日本編物検定協会
15	0010	毛糸編物技能検定2級	公益財団法人日本編物検定協会
15	0015	毛糸編物技能検定3級	公益財団法人日本編物検定協会
15	0020	レース編物技能検定1級	公益財団法人日本編物検定協会
15	0025	レース編物技能検定2級	公益財団法人日本編物検定協会
15	0030	レース編物技能検定3級	公益財団法人日本編物検定協会
15	0035	家庭科被服製作技術検定(和服)1級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
15	0040	家庭科被服製作技術検定(和服)2級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
15	0045	家庭科被服製作技術検定(洋服)1級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
15	0050	家庭科被服製作技術検定(洋服)2級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
15	0055	家庭科被服製作技術検定3級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
15	0060	家庭科被服製作技術検定4級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会



17	0005	家庭料理技能検定1級	学校法人香川栄養学園
17	0010	家庭料理技能検定2級	学校法人香川栄養学園
17	0015	家庭料理技能検定3級	学校法人香川栄養学園
17	0020	家庭料理技能検定4級	学校法人香川栄養学園
17	0025	食の検定・食農1級	一般社団法人日本の食文化を伝えていく会
17	0030	食の検定・食農2級	一般社団法人日本の食文化を伝えていく会
17	0035	食の検定・食農3級	一般社団法人日本の食文化を伝えていく会
17	0040	家庭科食物調理技術検定1級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
17	0045	家庭科食物調理技術検定2級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
17	0050	家庭科食物調理技術検定3級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
17	0055	家庭科食物調理技術検定4級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
17	0060	食生活アドバイザー2級	一般社団法人FLAネットワーク協会
17	0065	食生活アドバイザー3級	一般社団法人FLAネットワーク協会
19	0005	家庭科保育技術検定1級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
19	0010	家庭科保育技術検定2級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
19	0015	家庭科保育技術検定3級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
19	0020	家庭科保育技術検定4級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
21	0005	介護職員初任者研修修了	山梨県福祉保健部
21	0010	全国手話検定1級	社会福祉法人全国手話研修センター
21	0015	全国手話検定準1級	社会福祉法人全国手話研修センター
21	0020	全国手話検定2級	社会福祉法人全国手話研修センター
21	0025	全国手話検定3級	社会福祉法人全国手話研修センター
21	0030	全国手話検定4級	社会福祉法人全国手話研修センター
21	0035	全国手話検定5級	社会福祉法人全国手話研修センター
21	0040	福祉住環境コーディネーター検定1級	東京商工会議所
21	0045	福祉住環境コーディネーター検定2級	東京商工会議所
21	0050	福祉住環境コーディネーター検定3級	東京商工会議所
23	0005	基本情報技術者試験合格	経済産業省
23	0010	応用情報技術者試験合格	経済産業省
23	0015	情報技術検定1級	公益社団法人全国工業高等学校長協会
23	0020	情報技術検定2級	公益社団法人全国工業高等学校長協会
23	0025	情報技術検定3級	公益社団法人全国工業高等学校長協会
25	0005	ITパスポート試験合格	公益社団法人全国工業高等学校長協会
25	0010	ICTプロフィエンス検定(P検)1級	ICTプロフィエンス検定協会
25	0015	ICTプロフィエンス検定(P検)2級	ICTプロフィエンス検定協会
25	0020	ICTプロフィエンス検定(P検)準2級	ICTプロフィエンス検定協会
25	0025	ICTプロフィエンス検定(P検)3級	ICTプロフィエンス検定協会
25	0030	情報検定(J検)(情報活用)1級	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団検定試験センター
25	0035	情報検定(J検)(情報活用)2級	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団検定試験センター
25	0040	情報検定(J検)(情報活用)3級	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団検定試験センター
25	0045	情報検定(J検)(情報システム)システムエンジニア認定	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団検定試験センター
25	0050	情報検定(J検)(情報システム)プログラマー認定	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団検定試験センター
25	0055	情報検定(J検)(情報デザイン)上級	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団検定試験センター
25	0060	情報検定(J検)(情報デザイン)初級	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団検定試験センター
25	0065	パソコンスピード認定試験(日本語)初段	日本情報処理検定協会
25	0070	パソコンスピード認定試験(日本語)1級	日本情報処理検定協会
25	0075	パソコンスピード認定試験(日本語)2級	日本情報処理検定協会
25	0080	パソコンスピード認定試験(日本語)3級	日本情報処理検定協会
25	0085	パソコンスピード認定試験(日本語)4級	日本情報処理検定協会
25	0090	情報処理検定1級(ビジネス情報)	公益財団法人全国商業高等学校協会
25	0095	情報処理検定1級(プログラミング)	公益財団法人全国商業高等学校協会
25	0100	情報処理検定2級(ビジネス情報)	公益財団法人全国商業高等学校協会
25	0105	情報処理検定2級(プログラミング)	公益財団法人全国商業高等学校協会
25	0110	情報処理検定3級	公益財団法人全国商業高等学校協会
27	0005	日商PC1級(データ活用)	日本商工会議所
27	0010	日商PC2級(データ活用)	日本商工会議所
27	0015	日商PC3級(データ活用)	日本商工会議所
17	0005	家庭料理技能検定5級	学校法人香川栄養学園
17	0010	家庭料理技能検定6級	学校法人香川栄養学園
17	0015	家庭料理技能検定7級	学校法人香川栄養学園
17	0020	家庭料理技能検定8級	学校法人香川栄養学園
17	0025	食の検定・食農4級	一般社団法人日本の食文化を伝えていく会
17	0030	食の検定・食農5級	一般社団法人日本の食文化を伝えていく会
17	0035	食の検定・食農6級	一般社団法人日本の食文化を伝えていく会
17	0040	家庭科食物調理技術検定5級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
17	0045	家庭科食物調理技術検定6級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
17	0050	家庭科食物調理技術検定7級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
17	0055	家庭科食物調理技術検定8級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
17	0060	食生活アドバイザー4級	一般社団法人FLAネットワーク協会
17	0065	食生活アドバイザー5級	一般社団法人FLAネットワーク協会
19	0005	家庭科保育技術検定5級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
19	0010	家庭科保育技術検定6級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
19	0015	家庭科保育技術検定7級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
19	0020	家庭科保育技術検定8級	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
21	0005	介護職員初任者研修修了	山梨県福祉保健部
21	0010	全国手話検定2級	社会福祉法人全国手話研修センター
21	0015	全国手話検定準2級	社会福祉法人全国手話研修センター
21	0020	全国手話検定6級	社会福祉法人全国手話研修センター
21	0025	全国手話検定7級	社会福祉法人全国手話研修センター
21	0030	全国手話検定8級	社会福祉法人全国手話研修センター

31	0005	マイクロソフトオフィススペシャリスト エクセル	株式会社オデッセイコミュニケーションズ
31	0010	情報処理技能検定表計算初級	日本情報処理検定協会
31	0015	情報処理技能検定表計算1級	日本情報処理検定協会
31	0020	情報処理技能検定表計算2級	日本情報処理検定協会
31	0025	情報処理技能検定表計算3級	日本情報処理検定協会
31	0030	情報処理技能検定表計算4級	日本情報処理検定協会
31	0035	文書処理(表計算)能力検定1級	公益社団法人全国経理教育協会
31	0040	文書処理(表計算)能力検定2級	公益社団法人全国経理教育協会
31	0045	文書処理(表計算)能力検定3級	公益社団法人全国経理教育協会
31	0050	文書処理(表計算)能力検定4級	公益社団法人全国経理教育協会
33	0005	マイクロソフトオフィススペシャリスト パワーポイント	株式会社オデッセイコミュニケーションズ
33	0010	プレゼンテーション作成検定1級	日本情報処理検定協会
33	0015	プレゼンテーション作成検定2級	日本情報処理検定協会
33	0020	プレゼンテーション作成検定3級	日本情報処理検定協会
33	0025	プレゼンテーション作成検定4級	日本情報処理検定協会
33	0030	日商PC1級(プレゼン資料作成)	日本商工会議所
33	0035	日商PC2級(プレゼン資料作成)	日本商工会議所
33	0040	日商PC3級(プレゼン資料作成)	日本商工会議所
35	0005	マイクロソフトオフィススペシャリスト アクセス	株式会社オデッセイコミュニケーションズ
35	0010	情報処理技能検定データベース1級	日本情報処理検定協会
35	0015	情報処理技能検定データベース2級	日本情報処理検定協会
35	0020	情報処理技能検定データベース3級	日本情報処理検定協会
35	0025	情報処理技能検定データベース4級	日本情報処理検定協会
37	0005	ホームページ作成検定1級	日本情報処理検定協会
37	0010	ホームページ作成検定2級	日本情報処理検定協会
37	0015	ホームページ作成検定3級	日本情報処理検定協会
37	0020	ホームページ作成検定4級	日本情報処理検定協会
39	0005	CGクリエイター検定 エキスパート	公益財団法人画像情報教育振興協会
39	0010	CGクリエイター検定 ベーシック	公益財団法人画像情報教育振興協会
39	0015	CGエンジニア検定 エキスパート	公益財団法人画像情報教育振興協会
39	0020	CGエンジニア検定 ベーシック	公益財団法人画像情報教育振興協会
39	0025	Webデザイナー検定 エキスパート	公益財団法人画像情報教育振興協会
39	0030	Webデザイナー検定 ベーシック	公益財団法人画像情報教育振興協会
39	0035	画像処理エンジニア検定 エキスパート	公益財団法人画像情報教育振興協会
39	0040	画像処理エンジニア検定 ベーシック	公益財団法人画像情報教育振興協会
39	0045	マルチメディア検定 エキスパート	公益財団法人画像情報教育振興協会
39	0050	マルチメディア検定 ベーシック	公益財団法人画像情報教育振興協会
41	0005	計算技術検定1級	公益社団法人全国工業高等学校長協会
41	0010	計算技術検定2級	公益社団法人全国工業高等学校長協会
41	0015	計算技術検定3級	公益社団法人全国工業高等学校長協会
41	0020	計算技術検定4級	公益社団法人全国工業高等学校長協会
41	0025	計算実務能力検定1級	公益社団法人全国経理教育協会
41	0030	計算実務能力検定2級	公益社団法人全国経理教育協会
41	0035	計算実務能力検定3級	公益社団法人全国経理教育協会
43	0005	トレース技能検定1級	一般財団法人中央工学校生涯学習センター
43	0010	トレース技能検定2級	一般財団法人中央工学校生涯学習センター
43	0015	トレース技能検定3級	一般財団法人中央工学校生涯学習センター
43	0020	トレース技能検定4級	一般財団法人中央工学校生涯学習センター
43	0025	初級CAD検定	公益社団法人全国工業高等学校長協会
43	0030	基礎製図検定	公益社団法人全国工業高等学校長協会
43	0035	機械製図検定	公益社団法人全国工業高等学校長協会
45	0005	自動車整備士3級	国土交通省
47	0005	特級ボイラー技士	厚生労働省
47	0010	1級ボイラー技士	厚生労働省
47	0015	2級ボイラー技士	厚生労働省
47	0020	小規模ボイラー取扱講習修了	一般社団法人日本ボイラー協会山梨支部
49	0005	電気工事施工管理技術検定1級	国土交通省
49	0010	電気工事施工管理技術検定2級	国土交通省
49	0015	電気工事士 1種	経済産業省
49	0020	電気工事士 2種	経済産業省
49	0025	電気主任技術者 2種	経済産業省
49	0030	電気主任技術者 3種	経済産業省
49	0035	工事担任者AI2種	総務省
49	0040	工事担任者AI3種	総務省
49	0045	工事担任者AI4種	総務省
49	0050	工事担任者DD2種	総務省
49	0055	工事担任者DD3種	総務省
49	0060	工事担任者AI・DD総合種	総務省
49	0065	ラジオ・音響技術検定1級	公益財団法人国際文化カレッジ
49	0070	ラジオ・音響技術検定2級	公益財団法人国際文化カレッジ
49	0075	ラジオ・音響技術検定3級	公益財団法人国際文化カレッジ
49	0080	ラジオ・音響技術検定4級	公益財団法人国際文化カレッジ
49	0085	デジタル技術検定1級情報	公益財団法人国際文化カレッジ
49	0090	デジタル技術検定1級制御	公益財団法人国際文化カレッジ
49	0095	デジタル技術検定2級情報	公益財団法人国際文化カレッジ
49	0100	デジタル技術検定2級制御	公益財団法人国際文化カレッジ
49	0105	デジタル技術検定3級	公益財団法人国際文化カレッジ
49	0110	デジタル技術検定4級	公益財団法人国際文化カレッジ

51	0005	第一級マチュア無線技士	総務省
51	0010	第二級マチュア無線技士	総務省
51	0015	第三級マチュア無線技士	総務省
51	0020	第四級マチュア無線技士	総務省
51	0025	第一級海上特殊無線技士	総務省
51	0030	第二級海上特殊無線技士	総務省
51	0035	第三級海上特殊無線技士	総務省
51	0040	第四級海上特殊無線技士	総務省
51	0045	レーダー級海上特殊無線技士	総務省
51	0050	航空特殊無線技士	総務省
51	0055	第一級陸上特殊無線技士	総務省
51	0060	第二級陸上特殊無線技士	総務省
51	0065	第三級陸上特殊無線技士	総務省
51	0070	国内電信級陸上特殊無線技士	総務省
53	0005	建築施工管理技術検定1級	国土交通省
53	0010	建築施工管理技術検定2級	国土交通省
55	0005	土木施工管理技術検定1級	国土交通省
55	0010	土木施工管理技術検定2級	国土交通省
57	0005	地理空間情報専門技術検定基準点測量2級	公益社団法人日本測量協会
57	0010	地理空間情報専門技術検定写真測量2級	公益社団法人日本測量協会
57	0015	測量士	国土交通省
57	0020	測量士補	国土交通省
59	0005	ガス溶接技能講習修了	厚生労働省
59	0010	アーク溶接技能講習修了	厚生労働省
61	0005	第1種冷凍機械責任者(高圧ガス製造保安責任者)	経済産業省
61	0010	第2種冷凍機械責任者(高圧ガス製造保安責任者)	経済産業省
61	0015	第3種冷凍機械責任者(高圧ガス製造保安責任者)	経済産業省
61	0020	危険物取扱者 甲種	総務省
61	0025	危険物取扱者 乙種1類	総務省
61	0030	危険物取扱者 乙種2類	総務省
61	0035	危険物取扱者 乙種3類	総務省
61	0040	危険物取扱者 乙種4類	総務省
61	0045	危険物取扱者 乙種5類	総務省
61	0050	危険物取扱者 乙種6類	総務省
61	0055	危険物取扱者 丙種	総務省
61	0060	酸素欠乏危険作業主任者	厚生労働省
61	0065	特定化学物質及び四アルキル鉛作業主任者	厚生労働省
61	0070	有機溶剤作業主任者	厚生労働省
61	0075	毒物劇物取扱責任者	厚生労働省
61	0080	火薬類取扱保安責任者 甲種	経済産業省
61	0085	火薬類取扱保安責任者 乙種	経済産業省
63	0005	消防設備士 甲種特類	総務省
63	0010	消防設備士 甲種第1類	総務省
63	0015	消防設備士 甲種第2類	総務省
63	0020	消防設備士 甲種第3類	総務省
63	0025	消防設備士 甲種第4類	総務省
63	0030	消防設備士 甲種第5類	総務省
63	0035	消防設備士 乙種1類	総務省
63	0040	消防設備士 乙種2類	総務省
63	0045	消防設備士 乙種3類	総務省
63	0050	消防設備士 乙種4類	総務省
63	0055	消防設備士 乙種5類	総務省
63	0060	消防設備士 乙種6類	総務省
63	0065	消防設備士 乙種7類	総務省
65	0005	公害防止管理者(大気関係1種)	経済産業省
65	0010	公害防止管理者(大気関係2種)	経済産業省
65	0015	公害防止管理者(大気関係3種)	経済産業省
65	0020	公害防止管理者(大気関係4種)	経済産業省
65	0025	公害防止管理者(水質関係1種)	経済産業省
65	0030	公害防止管理者(水質関係2種)	経済産業省
65	0035	公害防止管理者(水質関係3種)	経済産業省
65	0040	公害防止管理者(水質関係4種)	経済産業省
65	0045	公害防止管理者(騒音・振動関係)	経済産業省
65	0050	公害防止管理者(特定粉じん関係)	経済産業省
65	0055	公害防止管理者(一般粉じん関係)	経済産業省
65	0060	公害防止管理者(ダイオキシン類関係)	経済産業省
65	0065	浄化槽管理士	環境省
65	0070	下水道管理技術認定(管路施設)	国土交通省
67	0005	大型特殊自動車運転免許	山梨県公安委員会
67	0010	車両系建設機械運転技能者(基礎工専用3t未満)	厚生労働省
67	0015	車両系建設機械運転技能者(整地・運搬・積込・掘削用3t未満)	厚生労働省
67	0020	車両系建設機械運転技能者(解体用3t未満)	厚生労働省
67	0025	車両系建設機械運転技能者(基礎工専用3t以上)	厚生労働省
67	0030	車両系建設機械運転技能者(整地・運搬・積込・掘削用3t以上)	厚生労働省
67	0035	車両系建設機械運転技能者(解体用3t以上)	厚生労働省
67	0040	クレーン運転技能者	厚生労働省
67	0045	デリック運転技能者	厚生労働省
67	0050	クレーン・デリック運転技能者	厚生労働省
67	0055	フォークリフト運転技能者	厚生労働省
67	0060	移動式クレーン運転技能者	厚生労働省
67	0065	玉掛け技能者	厚生労働省
69	0005	日本農業技術検定1級	日本農業技術検定協会
69	0010	日本農業技術検定2級	日本農業技術検定協会
69	0015	日本農業技術検定3級	日本農業技術検定協会

71	0005	造園施工管理技術検定1級	厚生労働省
71	0010	造園施工管理技術検定2級	厚生労働省
71	0015	FFJ検定特級	日本学校農業クラブ
71	0020	FFJ検定上級	日本学校農業クラブ
71	0025	FFJ検定初級	日本学校農業クラブ
73	0005	商業経済検定1級	公益財団法人全国商業高等学校協会
73	0010	商業経済検定2級	公益財団法人全国商業高等学校協会
73	0015	商業経済検定3級	公益財団法人全国商業高等学校協会
73	0020	販売士検定1級	日本商工会議所
73	0025	販売士検定2級	日本商工会議所
73	0030	販売士検定3級	日本商工会議所
75	0005	珠算・電卓実務検定試験1級(珠算)	公益財団法人全国商業高等学校協会
75	0010	珠算・電卓実務検定試験1級(電卓)	公益財団法人全国商業高等学校協会
75	0015	珠算・電卓実務検定試験2級(珠算)	公益財団法人全国商業高等学校協会
75	0020	珠算・電卓実務検定試験2級(電卓)	公益財団法人全国商業高等学校協会
75	0025	珠算・電卓実務検定試験3級(珠算)	公益財団法人全国商業高等学校協会
75	0030	珠算・電卓実務検定試験3級(電卓)	公益財団法人全国商業高等学校協会
75	0035	珠算検定10段	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0040	珠算検定9段	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0045	珠算検定8段	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0050	珠算検定7段	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0055	珠算検定6段	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0060	珠算検定5段	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0065	珠算検定4段	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0070	珠算検定3段	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0075	珠算検定2段	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0080	珠算検定初段	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0085	珠算検定準初段	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0090	珠算検定1級	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0095	珠算検定準1級	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0100	珠算検定2級	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0105	珠算検定準2級	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0110	珠算検定3級	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0115	珠算検定準3級	公益社団法人全国珠算教育連盟
75	0120	珠算能力検定1級	日本商工会議所
75	0125	珠算能力検定2級	日本商工会議所
75	0130	珠算能力検定3級	日本商工会議所
75	0135	電卓計算能力検定1級	公益社団法人全国経理教育協会
75	0140	電卓計算能力検定2級	公益社団法人全国経理教育協会
75	0145	電卓計算能力検定3級	公益社団法人全国経理教育協会
75	0150	電卓計算能力検定4級	公益社団法人全国経理教育協会
77	0005	会計実務検定	公益財団法人全国商業高等学校協会
77	0010	簿記実務検定1級	公益財団法人全国商業高等学校協会
77	0015	簿記実務検定2級	公益財団法人全国商業高等学校協会
77	0020	簿記実務検定3級	公益財団法人全国商業高等学校協会
77	0025	簿記検定1級	日本商工会議所
77	0030	簿記検定2級	日本商工会議所
77	0035	簿記検定3級	日本商工会議所
77	0040	簿記能力検定上級	公益社団法人全国経理教育協会
77	0045	簿記能力検定1級	公益社団法人全国経理教育協会
77	0050	簿記能力検定2級	公益社団法人全国経理教育協会
77	0055	簿記能力検定3級	公益社団法人全国経理教育協会
77	0060	簿記能力検定4級	公益社団法人全国経理教育協会
79	0005	秘書技能検定2級	公益財団法人実務技能検定協会
79	0010	秘書技能検定3級	公益財団法人実務技能検定協会
81	0005	園芸装飾(室内園芸装飾)技能検定2級	厚生労働省
81	0010	園芸装飾(室内園芸装飾)技能検定3級	厚生労働省
81	0015	造園(造園工事)技能検定2級	厚生労働省
81	0020	造園(造園工事)技能検定3級	厚生労働省
81	0025	フラワー装飾(フラワー装飾)技能検定2級	厚生労働省
81	0030	フラワー装飾(フラワー装飾)技能検定3級	厚生労働省

83	0005	鑄造(鑄鉄鑄物鑄造)技能検定2級	厚生労働省
83	0010	鑄造(鑄鉄鑄物鑄造)技能検定3級	厚生労働省
83	0015	金属熱処理(一般熱処理)技能検定2級	厚生労働省
83	0020	金属熱処理(一般熱処理)技能検定3級	厚生労働省
83	0025	金属熱処理(浸炭・浸炭窒化・窒化処理)技能検定2級	厚生労働省
83	0030	金属熱処理(浸炭・浸炭窒化・窒化処理)技能検定3級	厚生労働省
83	0035	金属熱処理(高周波・炎熱処理)技能検定2級	厚生労働省
83	0040	金属熱処理(高周波・炎熱処理)技能検定3級	厚生労働省
83	0045	機械加工(普通旋盤)技能検定2級	厚生労働省
83	0050	機械加工(普通旋盤)技能検定3級	厚生労働省
83	0055	機械加工(数値制御旋盤)技能検定2級	厚生労働省
83	0060	機械加工(数値制御旋盤)技能検定3級	厚生労働省
83	0065	機械加工(フライス盤)技能検定2級	厚生労働省
83	0070	機械加工(フライス盤)技能検定3級	厚生労働省
83	0075	機械加工(平面研削盤)技能検定2級	厚生労働省
83	0080	機械加工(平面研削盤)技能検定3級	厚生労働省
83	0085	機械加工(マシニングセンタ)技能検定2級	厚生労働省
83	0090	機械加工(マシニングセンタ)技能検定3級	厚生労働省
83	0095	機械加工(かがき)技能検定2級	厚生労働省
83	0100	機械加工(かがき)技能検定3級	厚生労働省
83	0105	仕上(メカ組立仕上)技能検定2級	厚生労働省
83	0110	仕上(メカ組立仕上)技能検定3級	厚生労働省
83	0115	機械検査(機械検査)技能検定2級	厚生労働省
83	0120	機械検査(機械検査)技能検定3級	厚生労働省
83	0125	機械・プラント製図(機械製図手書き)技能検定2級	厚生労働省
83	0130	機械・プラント製図(機械製図手書き)技能検定3級	厚生労働省
83	0135	機械・プラント製図(機械製図CAD)技能検定2級	厚生労働省
83	0140	機械・プラント製図(機械製図CAD)技能検定3級	厚生労働省
83	0145	機械保全技能検定2級	厚生労働省
83	0150	機械保全技能検定3級	厚生労働省
85	0005	電子機器組立(電子機器組立)技能検定2級	厚生労働省
85	0010	電子機器組立(電子機器組立)技能検定3級	厚生労働省
85	0015	電気機器組立(配電盤・制御盤組立)技能検定2級	厚生労働省
85	0020	電気機器組立(配電盤・制御盤組立)技能検定3級	厚生労働省
85	0025	電気機器組立(シーケンス制御)技能検定2級	厚生労働省
85	0030	電気機器組立(シーケンス制御)技能検定3級	厚生労働省
85	0035	プリント配線板製造(設計)技能検定2級	厚生労働省
85	0040	プリント配線板製造(設計)技能検定3級	厚生労働省
85	0045	プリント配線板製造(製造)技能検定2級	厚生労働省
85	0050	プリント配線板製造(製造)技能検定3級	厚生労働省
85	0055	電気製図(配電盤・制御盤製図)技能検定2級	厚生労働省
85	0060	電気製図(配電盤・制御盤製図)技能検定3級	厚生労働省
87	0005	建築板金(内外装板金)技能検定2級	厚生労働省
87	0010	建築板金(内外装板金)技能検定3級	厚生労働省
87	0015	家具製作(家具手加工)技能検定2級	厚生労働省
87	0020	家具製作(家具手加工)技能検定3級	厚生労働省
87	0025	建築大工(大工工事)技能検定2級	厚生労働省
87	0030	建築大工(大工工事)技能検定3級	厚生労働省
87	0035	ブロック建築(コンクリートブロック工事)技能検定2級	厚生労働省
87	0040	ブロック建築(コンクリートブロック工事)技能検定3級	厚生労働省
89	0005	めっき(電気めっき)技能検定2級	厚生労働省
89	0010	めっき(電気めっき)技能検定3級	厚生労働省
89	0015	化学分析(化学分析)技能検定2級	厚生労働省
89	0020	化学分析(化学分析)技能検定3級	厚生労働省
91	0005	工場板金(曲げ板金)技能検定2級	厚生労働省
91	0010	工場板金(曲げ板金)技能検定3級	厚生労働省
91	0015	工場板金(打出し板金)技能検定2級	厚生労働省
91	0020	工場板金(打出し板金)技能検定3級	厚生労働省
91	0025	プラスチック成形(射出成形)技能検定2級	厚生労働省
91	0030	プラスチック成形(射出成形)技能検定3級	厚生労働省
91	0035	配管(建築配管)技能検定2級	厚生労働省
91	0040	配管(建築配管)技能検定3級	厚生労働省
91	0045	配管(プラント配管)技能検定2級	厚生労働省
91	0050	配管(プラント配管)技能検定3級	厚生労働省
91	0055	塗装(金属塗装)技能検定2級	厚生労働省
91	0060	塗装(金属塗装)技能検定3級	厚生労働省
91	0065	内装士技術検定2級	厚生労働省
93	0005	和裁(和服製作)技能検定2級	厚生労働省
93	0010	和裁(和服製作)技能検定3級	厚生労働省
95	0005	貴金属装身具製作技能検定2級	厚生労働省
95	0010	貴金属装身具製作技能検定3級	厚生労働省
95	0015	商品装飾展示(商品装飾展示)2級	厚生労働省
95	0020	商品装飾展示(商品装飾展示)3級	厚生労働省



97	0005	高等学校卒業程度認定試験(国語)合格	文部科学省
97	0010	高等学校卒業程度認定試験(世界史A)合格	文部科学省
97	0015	高等学校卒業程度認定試験(世界史B)合格	文部科学省
97	0020	高等学校卒業程度認定試験(日本史A)合格	文部科学省
97	0025	高等学校卒業程度認定試験(日本史B)合格	文部科学省
97	0030	高等学校卒業程度認定試験(地理A)合格	文部科学省
97	0035	高等学校卒業程度認定試験(地理B)合格	文部科学省
97	0040	高等学校卒業程度認定試験(現代社会)合格	文部科学省
97	0045	高等学校卒業程度認定試験(倫理)合格	文部科学省
97	0050	高等学校卒業程度認定試験(政治・経済)合格	文部科学省
97	0055	高等学校卒業程度認定試験(数学)合格	文部科学省
97	0060	高等学校卒業程度認定試験(科学と人間生活)合格	文部科学省
97	0065	高等学校卒業程度認定試験(物理基礎)合格	文部科学省
97	0070	高等学校卒業程度認定試験(化学基礎)合格	文部科学省
97	0075	高等学校卒業程度認定試験(生物基礎)合格	文部科学省
97	0080	高等学校卒業程度認定試験(地学基礎)合格	文部科学省
97	0085	高等学校卒業程度認定試験(英語)合格	文部科学省
97	0090	高等学校卒業程度認定試験(全科目)合格	文部科学省
99	0005	社会人常識マナー検定1級	公益社団法人全国経理教育協会
99	0010	社会人常識マナー検定2級	公益社団法人全国経理教育協会
99	0015	社会人常識マナー検定3級	公益社団法人全国経理教育協会

参考資料7：大会・コンテストコード（学術・文化系）

tournament_id	name	organizing_authority	sub_category
HD00000000000000891	全国高等学校総合文化祭	文化庁、全国高等学校文化連盟	共通
HD00000000000000892	全国高等学校文化連盟研究大会	文化庁、全国高等学校文化連盟	共通
HD00000000000000893	全国高総文祭優秀校東京公演	文化庁、全国高等学校文化連盟、東京都教育委員会、東京都高等学校文化連盟	共通
HD00000000000000894	ミュンヘン国際音楽コンクール	国際音楽コンクール連盟	音楽
HD00000000000000895	エリザベート王妃国際音楽コンクール	国際音楽コンクール連盟	音楽
HD00000000000000896	バガニーニ国際コンクール	国際音楽コンクール連盟	音楽
HD00000000000000897	ジュネーヴ国際音楽コンクール	国際音楽コンクール連盟	音楽
HD00000000000000898	チャイコフスキー国際コンクール	国際音楽コンクール連盟	音楽
HD00000000000000899	ロン＝ティボークレスパン国際コンクール	国際音楽コンクール連盟	音楽
HD00000000000000900	カール＝ニールセン国際音楽コンクール	国際音楽コンクール連盟	音楽
HD00000000000000901	ヴィオッティ国際音楽コンクール	国際音楽コンクール連盟	音楽
HD00000000000000902	マリア・カナルス・バルセロナ国際音楽演奏コンクール	国際音楽コンクール連盟	音楽
HD00000000000000903	日本音楽コンクール	毎日新聞社、NHK	音楽
HD00000000000000904	日本学校合奏コンクール	日本学校合奏コンクール委員会	音楽
HD00000000000000905	日本管楽合奏コンテスト	日本音楽教育文化振興会	音楽
HD00000000000000906	東京国際音楽コンクール	東京国際芸術協会	音楽
HD00000000000000907	ブルカルト国際音楽コンクール	東京国際芸術協会	音楽
HD00000000000000908	仙台国際音楽コンクール	仙台国際音楽コンクール組織委員会、仙台市、仙台市市民文化事業団	音楽
HD00000000000000909	静岡国際オペラコンクール	静岡文化芸術大学	音楽
HD00000000000000910	大阪国際室内楽コンクール	日本室内楽振興財団	音楽
HD00000000000000911	T I A A 全日本作曲家コンクール	東京国際芸術協会	音楽
HD00000000000000912	高校生の神楽甲子園	高校生の神楽甲子園、ひろしま芸術高田実行委員会	音楽
HD00000000000000913	高校生創作音楽コンテスト	学校マルチメディアネットワーク支援センター	音楽
HD00000000000000914	全日本学生音楽コンクール	毎日新聞社	音楽
HD00000000000000915	ビバールチェロコンクール	ビバ・フォームファーム	吹奏楽・管弦楽
HD00000000000000916	吹奏楽コンクール	全日本吹奏楽連盟	吹奏楽・管弦楽
HD00000000000000917	全日本吹奏楽コンクール	全日本吹奏楽連盟、朝日新聞社	吹奏楽・管弦楽
HD00000000000000918	日本ジュニア管打楽器コンクール	日本音楽教育文化振興会	吹奏楽・管弦楽
HD00000000000000919	日本管打楽器ソロコンテスト	東邦音楽大学	吹奏楽・管弦楽
HD00000000000000920	日本管打楽器コンクール	日本音楽教育文化振興会	吹奏楽・管弦楽
HD00000000000000921	神戸国際フルートコンクール	神戸市市民文化振興財団	吹奏楽・管弦楽
HD00000000000000922	国際オーボエコンクール	ソニー音楽財団	吹奏楽・管弦楽
HD00000000000000923	全国高等学校軽音楽コンテスト	全国高等学校軽音楽連盟	軽音楽
HD00000000000000924	グランド国際ピアノコンクール	国際音楽コンクール連盟	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000925	プーニ国際ピアノコンクール	国際音楽コンクール連盟	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000926	ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール	国際音楽コンクール連盟	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000927	ヨハン・ゼバスティアン・バッハ国際コンクール	国際音楽コンクール連盟	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000928	リス国際ピアノ・コンクール	国際音楽コンクール連盟	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000929	ローゼンストック国際ピアノコンクール	国際音楽コンクール連盟	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000930	ジュ・キシュ国際ピアノコンクール	国際音楽コンクール連盟	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000931	フレデリック・ショパン国際ピアノコンクール	国際音楽コンクール連盟	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000932	グリーグ国際ピアノコンクール	国際音楽コンクール連盟	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000933	東京国際ピアノコンクール	東京国際芸術協会	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000934	エレナ・リヒテル国際ピアノコンクール	東京国際芸術協会	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000935	全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	東京国際芸術協会	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000936	ベートーヴェンコンクール	ベートーヴェン音楽協会	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000937	浜松国際ピアノコンクール	浜松市、浜松市文化振興財団	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000938	武蔵野市国際オルガンコンクール	武蔵野文化事業団	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000939	高松国際ピアノコンクール	高松国際ピアノコンクール組織委員会	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000940	グレンツェンピアノコンクール	グレンツェンピアノ研究会	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000941	コード楽器 ピアノコンクール	コード楽器	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000942	ピアノコンクール「エリーゼ音楽祭」	E M E	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000943	ピティナ・ピアノコンペティション	全日本ピアノ指導者協会（ピティナ）	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000944	ヤマハエレクトーンコンクール	ヤマハ音楽振興会	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000945	ジュニアエレクトーンフェスティバル	ヤマハ音楽振興会	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000946	インターナショナルエレクトーンコンクール	ヤマハ音楽振興会	ピアノ・エレクトーン・オルガン
HD00000000000000947	全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール	全日本高等学校ギター・マンドリン音楽振興会	ギター・マンドリン
HD00000000000000948	S G H 甲子園	S G H 甲子園事務局、関西学院大学	外国語
HD00000000000000949	全国高等学校生徒英作文コンテスト	全国英語教育研究団体連合会	外国語
HD00000000000000950	全国高等学校文芸コンクール	全国高等学校文化連盟	文芸・文学・図書
HD00000000000000951	年賀状甲子園	年賀状甲子園事務局（株式会社アイデア工房）	文芸・文学・図書
HD00000000000000952	聞き書き甲子園	聞き書き甲子園実行委員会	文芸・文学・図書
HD00000000000000953	手話パフォーマンス甲子園	鳥取県福祉保健部障がい福祉課内、手話パフォーマンス甲子園実行委員会	手話
HD00000000000000954	国際化学オリンピック	International Chemistry Olympiad	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000955	国際物理オリンピック	International Physics Olympiad	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000956	国際生物学オリンピック	International Biology Olympiad	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000957	スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会	文部科学省、科学技術振興機構	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000958	A I T サイエンス大賞	愛知工業大学	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000959	E U ヤングサイエンティストコンテスト	European Commission	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000960	グローバルサイエンスキャンパス	科学技術振興機構	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000961	グローバルサイエンスリンクシンガポール	グローバルサイエンスリンク・シンガポール実行委員会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000962	FIRST STEP TO NOBEL PRIZE IN PHYSICS	ポランド科学アカデミー・物理学研究所	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000963	「科学の芽」賞	筑波大学	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000964	インテル国際学生科学フェア	Society for Science & the Public	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000965	科学技術映像祭	日本科学技術振興財団、映像文化製作者連盟、つくば科学万博記念財団	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000966	高校生・私の科学研究発表会	神戸大学サイエンスショップ、兵庫県生物学会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000967	高校生科学技術チャレンジ	朝日新聞社	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000968	高校生理科研究発表会	千葉大学	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000969	ジュニア・マリン賞	日本海事広報協会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000970	ジュニア農芸化学会	日本農芸化学会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000971	数理科学コンクール	千葉大学先進科学センター	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000972	全国野生生物保護実績発表会	環境省、日本鳥類保護連盟	化学・科学・生物・物理

tournament_id	name	organizing_authority	sub_category
HD00000000000000974	つば Science Edgeサイエンスアイデアコンテスト	つば Science Edge 実行委員会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000975	つば科学研究コンテスト	筑波大学	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000976	日本ストックホルム青少年水大賞	国土交通省、日本水大賞委員会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000977	日本水大賞	国土交通省、日本水大賞委員会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000978	バイオ甲子園	バイオテクノロジー推進委員会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000979	化学グランプリ	日本化学会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000980	科学の甲子園	科学技術振興機構	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000981	科学地理オリンピック日本選手権	国際地理オリンピック日本委員会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000982	高校化学グランドコンテスト	大阪市立大学、読売新聞社、他	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000983	自然科学観察コンクール	毎日新聞社、自然科学観察研究会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000984	生活をテーマとする研究・作品コンクール	東京家政大学生活科学研究所	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000985	生物系三学会合同大会	日本動物学会、日本植物学会、日本生態学会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000986	全国学芸サイエンスコンクール	旺文社	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000987	全国高校生理科・科学論文大賞	神奈川大学	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000988	全国物理コンテスト「物理チャレンジ」	物理オリンピック日本委員会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000989	台湾国際科学フェア	国立台湾科学教育館	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000990	中国・四国・九州地区理科高等学校課題研究発表大会	中国、四国、九州地区理科高等学校校長会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000991	動物実験代替法チャレンジコンテスト	日本動物実験代替法学会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000992	中学生南極北極科学コンテスト	国立極地研究所	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000993	日本学生科学賞	読売新聞社	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000994	日本生物学オリンピック	国際生物学オリンピック日本委員会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000995	日本物理学会 J r. セッション	日本物理学会	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000996	科学コンテスト	小田原白梅ライオンズクラブ、早稲田大学	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000997	野依科学奨励賞	国立科学博物館	化学・科学・生物・物理
HD00000000000000998	国際地理オリンピック	International Geography Olympiad	地学・地理・天文・考古
HD00000000000000999	国際天文学オリンピック	International Astronomy Olympiad	地学・地理・天文・考古
HD00000000000001000	国際地学オリンピック	International Earth Science Olympiad	地学・地理・天文・考古
HD00000000000001001	日本天文学会ジュニアセッション	日本天文学会	地学・地理・天文・考古
HD00000000000001002	益富地学賞	益富地学会館	地学・地理・天文・考古
HD00000000000001003	日本地学オリンピック	地学オリンピック日本委員会	地学・地理・天文・考古
HD00000000000001004	国際言語学オリンピック	International Linguistic Olympiad	言語・民俗
HD00000000000001005	全国高等学校パソコンコンクール	福島県、会津大学、全国高等学校パソコンコンクール実行委員会	IT・情報処理
HD00000000000001006	全国高等学校ワープロ競技大会	全国商業高等学校協会	IT・情報処理
HD00000000000001007	全国高等学校情報処理競技大会	全国商業高等学校協会	IT・情報処理
HD00000000000001008	全国高等専門学校プログラミングコンテスト	全国高等専門学校連合会	IT・情報処理
HD00000000000001009	U-22プログラミング・コンテスト	U-22プログラミング・コンテスト実行委員会	IT・情報処理
HD00000000000001010	アジア太平洋情報オリンピック	Asia-Pacific Informatics Olympiad	IT・情報処理
HD00000000000001011	アプ甲子園	D2C	IT・情報処理
HD00000000000001012	国際情報オリンピック	International Olympiad in Informatics	IT・情報処理
HD00000000000001013	スーパーコンピューティングコンテスト	東京工業大学・大阪大学	IT・情報処理
HD00000000000001014	中学生国際 Ruby プログラミングコンテスト	中学生国際 Ruby プログラミングコンテスト実行委員会	IT・情報処理
HD00000000000001015	全商プログラミング・コンテスト	全国商業高等学校協会	IT・情報処理
HD00000000000001016	楽天 IT 学校甲子園	楽天	IT・情報処理
HD00000000000001017	日本情報オリンピック	情報オリンピック日本委員会	IT・情報処理
HD00000000000001018	毎日パソコン入力コンクール	毎日新聞社、日本パソコン能力検定委員会	IT・情報処理
HD00000000000001019	全国高校生ケータイ利用コンクール	ケータイ甲子園実行委員会	IT・情報処理
HD00000000000001020	ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト	アジア太平洋放送連合	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001021	NHK 学生ロボコン	NHK、NHK エンタープライズ	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001022	WRO	World Robot Olympiad	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001023	WRO Japan	WRO Japan 事務局	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001024	アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト	全国高等専門学校連合会、NHK、NHK エンタープライズ	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001025	エッグロボ甲子園	ものづくりキッズ基金	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001026	ジャパンマイコンカーラリー	全国工業高等学校長協会	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001027	スターリングテクノロジー	スターリングテクノロジー実行委員会	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001028	全国溶接技術競技会	日本溶接協会	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001029	日本工業大学マイクロボコン®高校生大会	日本工業大学	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001030	ファーストグローバルチャレンジ	青少年科学技術振興会	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001031	ファーストローグ	青少年科学技術振興会 FIRST Japan	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001032	メカ甲子園	ものづくり交流支援協会	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001033	ルネサスマイコンカーラリー競技会&技術交流会	ルネサス エレクトロニクス	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001034	ロケット甲子園	日本モデルロケット協会	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001035	ロボカップジャパンオープン	ロボカップ日本委員会	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001036	ロボカップジュニアジャパン	ロボカップジュニア・ジャパン	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001037	缶サット甲子園	理数が楽しくなる教育実行委員会	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001038	技能五輪全国大会	中央職業能力開発協会	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001039	高校生ものづくりコンテスト全国大会	全国工業高等学校長協会	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001040	高校生ロボットアメリカンフットボール	富士ソフト	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001041	高校生技術・アイデアコンテスト	全国工業高等学校長協会	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001042	若年者ものづくり競技大会	中央職業能力開発協会	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001043	全国高校生クイエイティブコンテスト	全国高等学校家庭クラブ連盟	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001044	全国高校生創作コンテスト	國學院大学	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001045	全国高等学校鉄道模型コンテスト	鉄道模型コンテスト	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001046	全国高等学校ロボット競技大会	文部科学省、産業教育振興中央会、全国産業教育振興会連絡協議会	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001047	全日本ロボット相撲大会	富士ソフト	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001048	全日本学生児童発明くふう展	発明協会、毎日新聞社	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001049	高校生ロボット相撲大会	富士ソフト	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001050	新しい学びフェスタ	ベネッセコーポレーション	創作・ロボット・機械工作
HD00000000000001051	NHK 杯全国高校放送コンテスト	全国放送教育研究会連盟、NHK	放送・無線・ラジオ・電気
HD00000000000001052	全国高等学校アマチュア無線コンテスト	全国高校アマチュア無線連盟	放送・無線・ラジオ・電気
HD00000000000001053	デジタルメディアコンテスト	長崎総合科学大学 総合情報学部	マルチメディア
HD00000000000001054	文化庁メディア芸術祭	文化庁	マルチメディア
HD00000000000001055	全国高等学校 IT・簿記選手権大会	立志舎	簿記・珠算・計算
HD00000000000001056	全国高等学校珠算・電卓競技大会	全国商業高等学校協会	簿記・珠算・計算
HD00000000000001057	全国高等学校珠算競技大会	兵庫県小野市	簿記・珠算・計算



tournament_id	name	organizing_authority	sub_category
HD00000000000001058	全国高等学校簿記コンクール	全国商業高等学校協会	簿記・珠算・計算
HD00000000000001059	全国簿記電卓競技大会	全国経理教育協会	簿記・珠算・計算
HD00000000000001061	アジア太平洋数学オリンピック	Asian Pacific Mathematics Olympiad	数学・工学
HD00000000000001062	中国女子数学オリンピック	数学オリンピック財団	数学・工学
HD00000000000001063	日本ジュニア数学オリンピック	数学オリンピック財団	数学・工学
HD00000000000001064	日本数学オリンピック	数学オリンピック財団	数学・工学
HD00000000000001065	ヨーロッパ女子数学オリンピック	数学オリンピック財団	数学・工学
HD00000000000001066	国際数学オリンピック	International Mathematical Olympiad Foundation	数学・工学
HD00000000000001067	数学甲子園 全国数学選手権大会	日本数学検定協会	数学・工学
HD00000000000001068	東大数学「美しい解法コンテスト」	ベネッセコーポレーション	数学・工学
HD00000000000001069	全国高等学校商い選手権大会	高知県安芸市・安芸本町商店街振興組合内、全国「高い甲子園」実行委員会	商業・工業・建築・設計
HD00000000000001070	全国高等学校生徒商業研究発表大会	全国商業高等学校協会	商業・工業・建築・設計
HD00000000000001071	コンクリート甲子園	四国高等学校土木教育研究会	商業・工業・建築・設計
HD00000000000001072	日本建築学会技術部門設計競技	日本建築学会	商業・工業・建築・設計
HD00000000000001073	高校生の「建築甲子園」	日本建築士会連合会	商業・工業・建築・設計
HD00000000000001074	高校生の建築フレッシュ・アイデア・コンペ	工学院大学建築学部	商業・工業・建築・設計
HD00000000000001075	高校生対象コンペティション	中央工学校、中央工学校 O S A K A	商業・工業・建築・設計
HD00000000000001076	全国高校生建築製図コンクール	東日本建築教育研究会	商業・工業・建築・設計
HD00000000000001077	道都大学美術学部 高校生住宅設計コンクール	嵯峨道都大学	商業・工業・建築・設計
HD00000000000001078	日本建築学会設計競技	日本建築学会	商業・工業・建築・設計
HD00000000000001079	日本工業大学 3 D - C A D プロダクトデザインコンテスト	日本工業大学	商業・工業・建築・設計
HD00000000000001080	日本工業大学建築設計競技	日本工業大学建築学科	商業・工業・建築・設計
HD00000000000001081	日本大学全国高等学校・建築設計競技	日本大学理工学部建築学科	商業・工業・建築・設計
HD00000000000001082	全国製図コンクール	全国工業高等学校長協会	商業・工業・建築・設計
HD00000000000001083	全国農業高校お米甲子園	米・食味鑑定士協会、木島平村、木島平農村交流型産業推進協議会	農林水産・畜産
HD00000000000001084	J D A ティベート大会	日本ティベート協会	スピーチ・ティベート
HD00000000000001085	ブレゼン甲子園	大阪私学教育情報化研究会	スピーチ・ティベート
HD00000000000001086	埼玉いなほクラブ高校生英語ティベートコンテスト	埼玉県高等学校英語教育研究会（高英研）	スピーチ・ティベート
HD00000000000001087	青空文庫朗読コンテスト	日本朗読検定協会	スピーチ・ティベート
HD00000000000001088	全国高校生英語ティベート大会	全国高校英語ティベート連盟	スピーチ・ティベート
HD00000000000001089	全国高等学校弁論大会	國學院大学	スピーチ・ティベート
HD00000000000001090	全国商業高等学校英語スピーチコンテスト	全国商業高等学校協会	スピーチ・ティベート
HD00000000000001091	全国中学・高校ティベート選手権	全国教室ティベート連盟、読売新聞社	スピーチ・ティベート
HD00000000000001092	全国高校生ホームプロジェクトコンクール	全国高等学校家庭クラブ連盟	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001093	全国高校生ポスターコンクール	全国高校生ポスターコンクール実行委員会、日本国際ポスター美術館	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001094	全国高等学校インテリアデザイン展	大川インテリア振興センター	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001095	全国高等学校デザイン選手権大会（デザゼン）	東北芸術工科大学	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001096	全国高等学校版画選手権大会	全国高等学校版画選手権大会実行委員会	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001097	全国高等専門学校デザインコンペティション	全国高等専門学校連合会、国立高等専門学校機構	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001098	全国造園デザインコンクール	日本造園建設業協会	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001099	全国農業高校・農業大学校ホームページコンテスト	アグリプラットフォームコンソーシアム	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001100	高校生ホームページコンテスト	共愛学園前橋国際大学	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001101	高校生ものづくりコンテスト ポスターデザインコンクール	全国工業高等学校長協会	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001102	高校生ものデザインコンテスト	全国高等学校インテリア科教育研究会	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001103	高校生国際美術展	高校生国際美術展実行委員会	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001104	全日本高校デザイン・イラスト展	全国美術・デザイン教育振興会、職業教育・キャリア教育財団	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001105	日本美術展覧会	日展	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001106	植物画コンクール	国立科学博物館筑波実験植物園	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001107	デザインバントコンテスト	文部科学省、特許庁、日本弁理士会、(独)工業所有権情報・研修館	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001108	「WE LOVE トンボ」絵画コンクール	朝日新聞社、朝日学生新聞社	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001109	バントコンテスト	文部科学省、特許庁、日本弁理士会、(独)工業所有権情報・研修館	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001110	愛鳥週間ポスター原画コンクール	日本鳥類保護連盟	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001111	学生CGコンテスト	C G - A R T S（画像情報教育振興協会）	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001112	「工業教育」表紙デザイン	全国工業高等学校長協会	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001113	工高生デザインコンクール	日本建築協会	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001114	住まいのインテリアコーディネートコンテスト	インテリア産業協会	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001115	文書デザインコンテスト	日本情報処理検定協会	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001116	毎日・D A S 学生デザイン賞	毎日新聞社、総合デザイナー協会（D A S）	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001117	明るい選挙啓発ポスター	明るい選挙推進協会	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001118	有田ウインドディスプレイ甲子園	有田観光協会	美術・絵画・デザイン・イラスト
HD00000000000001119	高門宮杯日本武道館書道大展開覧会	日本武道館	書道
HD00000000000001120	国際高校生選抜書展	毎日新聞社、毎日書道会	書道
HD00000000000001121	産経ジュニア書道コンクール	産経国際書会	書道
HD00000000000001122	産経国際書展	産経国際書会	書道
HD00000000000001123	全国硬筆コンクール	全国書写書道教育振興会	書道
HD00000000000001124	全国高校書道パフォーマンス選手権大会	書道パフォーマンス甲子園実行委員会	書道
HD00000000000001125	I k e n o b o 花の甲子園	池坊華道会	茶道・華道
HD00000000000001126	「中野重治記念文学奨励賞」全国高校生詩のコンクール	丸岡町文化振興事業団	俳句・短歌・川柳
HD00000000000001127	川柳甲子園	月刊「川柳大学」	俳句・短歌・川柳
HD00000000000001128	全国高校生短歌大会	全国高校生短歌大会実行委員会、盛岡市、盛岡市教育委員会、盛岡観光コンベンション協会、石川啄木記念館、岩手県高等学校文化連盟、岩手日報社	俳句・短歌・川柳
HD00000000000001129	全国高校俳句選手権大会	松山青年会議所、俳句甲子園実行委員会	俳句・短歌・川柳
HD00000000000001130	全国高校生俳句大賞	神奈川大学	俳句・短歌・川柳
HD00000000000001131	全国高等学校漫画選手権大会?まんが甲子園?	高知県、「あったか高知」まんがフェスティバル実行委員会、自治総合センター	漫画・アニメーション
HD00000000000001132	高校生アニメフェア	学校マルチメディアネットワーク支援センター	漫画・アニメーション
HD00000000000001133	高校生映画コンクール	学校マルチメディアネットワーク支援センター	演劇・映画・写真
HD00000000000001134	全国高等学校演劇大会	全国高等学校演劇協議会	演劇・映画・写真
HD00000000000001135	全国高等学校写真選手権大会	写真甲子園実行委員会	演劇・映画・写真
HD00000000000001136	「民家の甲子園」全国高等学校対抗民家町並みフォトコンテスト	かがわサンサン倶楽部、民家の甲子園実行委員会	演劇・映画・写真
HD00000000000001137	古民家フォト甲子園	古民家フォト甲子園実行委員会	演劇・映画・写真



tournament_id	name	organizing_authority	sub_category
ADD20191030000000322	国際化学オリンピック	開催毎に指定される組織	化学・科学・生物・物理
ADD20191030000000323	国際物理オリンピック	開催毎に指定される組織	化学・科学・生物・物理
ADD20191030000000324	国際生物学オリンピック	開催毎に指定される組織	化学・科学・生物・物理
ADD20191030000000325	A I Tサイエンス大賞	名古屋電気学園愛知工業大学（工学部・経営学部・情報科学部）	化学・科学・生物・物理
ADD20191030000000326	グローバルリンク・シンガポール	グローバルサイエンスリンク・シンガポール実行委員会	化学・科学・生物・物理
ADD20191030000000327	科学技術映像祭	日本科学技術振興財団、映像文化製作者連盟、つくば科学万博記念財団、新技術振興奨励記念会	化学・科学・生物・物理
ADD20191030000000328	全国野生生物保護実績発表大会	環境省、日本鳥類保護連盟	化学・科学・生物・物理
ADD20191030000000329	化学グランプリ	「夢・化学 - 2 1」委員会、日本化学会	化学・科学・生物・物理
ADD20191030000000330	科学の甲子園	科学技術振興機構（J S T）	化学・科学・生物・物理
ADD20191030000000331	高校化学ランドコンテスト	大阪市立大学、名古屋市立大学、横浜市立大学、読売新聞社	化学・科学・生物・物理
ADD20191030000000332	神奈川大学 全国高校生理科・科学論文大賞	神奈川大学	化学・科学・生物・物理
ADD20191030000000333	全国物理コンテスト 物理チャレンジ	物理オリンピック日本委員会	化学・科学・生物・物理
ADD20191030000000334	科学コンテスト	小田原白梅ライオンズクラブ、早稲田大学理工学術院、早稲田大学学力向上研究所	化学・科学・生物・物理
ADD20191030000000335	アプリ甲子園	アプリ甲子園実行委員会	I T・情報処理
ADD20191030000000336	W R O J a p a n 決勝大会	W R O J a p a n、他	創作・ロボット・機械工作
ADD20191030000000337	エッグドロップ@甲子園	エッグドロップ甲子園実行委員会	創作・ロボット・機械工作
ADD20191030000000338	スターリングテクノロジー	スターリングテクノロジー技術会	創作・ロボット・機械工作
ADD20191030000000339	ロボカップジュニアオープン	ロボカップジュニアオープン開催委員会	創作・ロボット・機械工作
ADD20191030000000340	ロボカップジュニアオープン	ロボカップジュニアオープン開催委員会	創作・ロボット・機械工作
ADD20191030000000341	缶サット甲子園	「理数が楽しくなる教育」実行委員会	創作・ロボット・機械工作
ADD20191030000000342	技能五輪全国大会	厚生労働省、中央職業能力開発協会	創作・ロボット・機械工作
ADD20191030000000343	若年者ものづくり競技大会	厚生労働省、中央職業能力開発協会	創作・ロボット・機械工作
ADD20191030000000344	全国高校生創作コンテスト	國學院大学、高校生新聞社	創作・ロボット・機械工作
ADD20191030000000345	全日本ロボット相撲全国大会	富士ソフト	創作・ロボット・機械工作
ADD20191030000000346	全日本学生児童発明くふう展	発明協会	創作・ロボット・機械工作
ADD20191030000000347	高校生ロボット相撲全国大会	全国工業高等学校長協会	創作・ロボット・機械工作
ADD20191030000000348	全国高等学校アマチュア無線コンテスト	全国高等学校アマチュア無線連盟	放送・無線・ラジオ・電気
ADD20191030000000349	全国高等学校珠算競技大会	兵庫県、小野市、小野商工会議所	簿記・珠算・計算
ADD20191030000000350	全国「高い甲子園」大会	全国「高い甲子園」実行委員会	商業・工業・建築・設計
ADD20191030000000351	高校生の「建築甲子園」	日本建築士会連合会、都道府県建築士会	商業・工業・建築・設計
ADD20191030000000352	高校生の建築フレッシュ・アイデア・コンペ	工学院大学建築学部	商業・工業・建築・設計
ADD20191030000000353	星槎道都大学美術学部 高校生住宅設計コンクール	星槎道都大学	商業・工業・建築・設計
ADD20191030000000354	日本大学全国高等学校・建築設計競技	日本大学理工学部、日本大学生産工学部、日本大学工学部、日本大学短期大学部	商業・工業・建築・設計
ADD20191030000000355	全国高校生ボクサーコンクール	認定日本国際ボクサー美術館	美術・絵画・デザイン・イラスト
ADD20191030000000356	全国高等専門学校デザインコンペティション	全国高等専門学校連合会	美術・絵画・デザイン・イラスト
ADD20191030000000357	全国農業高校・農業大学校ホームページコンテスト	慶應義塾大学 S F C 研究所アグリプラットフォームコンソーシアム	美術・絵画・デザイン・イラスト
ADD20191030000000358	高校生国際美術展	世界芸術文化振興協会（I F A C）	美術・絵画・デザイン・イラスト
ADD20191030000000359	植物画コンクール	国立科学博物館	美術・絵画・デザイン・イラスト
ADD20191030000000360	学生CGコンテスト Campus Genius Contest	C G - A R T S（画像情報教育振興協会）	美術・絵画・デザイン・イラスト
ADD20191030000000361	明るい選挙啓発ボクサーコンクール	明るい選挙推進協会、都道府県選挙管理委員会連合会、都道府県選挙管理委員会、市区町村選挙管理委員会	美術・絵画・デザイン・イラスト
ADD20191030000000362	産経ジュニア書道コンクール	産経ジュニア書道コンクール実行委員会、産経国際書会、産経新聞社	書道
ADD20191030000000363	産経国際書展	産経国際書会、産経新聞社	書道
ADD20191030000000364	全国高校生短歌大会	全国高校生短歌大会実行委員会	俳句・短歌・川柳
ADD20191030000000365	全国高校俳句選手権大会	俳句甲子園実行委員会	俳句・短歌・川柳
ADD20191030000000366	神奈川大学 全国高校生俳句大賞	神奈川大学	俳句・短歌・川柳
ADD20191030000000367	全国高等学校漫画選手権大会～まんが甲子園～	高知県、まんが王国・土佐推進協議会	漫画・アニメーション
ADD20191030000000368	貝印スイーツ甲子園	貝印	服飾・被服・料理・菓子
ADD20191030000000369	全国ファッションデザインコンテスト	衫野学園、ドレスメーカー服飾教育振興会	服飾・被服・料理・菓子
ADD20191030000000370	全国高等学校観光選手権	全国高等学校観光選手権大会組織委員会	交通・観光
ADD20191030000000371	チアリーディング世界選手権大会	国際チアリーディング連盟、日本チアリーディング協会	応援団・チアリーディング
ADD20191030000000372	高等学校応援団フェスティバル in 静岡	静岡新聞社、静岡放送	応援団・チアリーディング
ADD20191030000000373	文部科学大臣杯 全国高等学校フリスビー大会 フラガールズ甲子園	フラガールズ甲子園実行委員会	ダンス・バレエ・舞踊
ADD20191030000000374	高校生対抗ストリートダンス選手権	アーツカウンシル東京（東京都歴史文化財団）、Shibuya Street Dance Week 実行委員会	ダンス・バレエ・舞踊
ADD20191030000000375	全国高等学校日本大通りストリートダンスバトル	神奈川文化プログラムマガル、J : C O M	ダンス・バレエ・舞踊
ADD20191030000000376	全国高等学校文化連盟将棋新人大会	全国高等学校文化連盟、開催県高等学校文化連盟	囲碁・将棋
ADD20191030000000377	高校生笑い日本一決定戦「笑顔甲子園 “絆” in 新居浜」	笑顔甲子園実行委員会	漫才・クイズ・ゲーム
ADD20191030000000378	「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト	國學院大学 高校生新聞社	その他

参考資料8：大会・コンテストコード（スポーツ系）

tournament_id	name	organizing_authority	sub_category
HD000000000000000629	国民体育大会	日本体育協会	共通
HD000000000000000630	全国高等学校総合体育大会	全国高等学校体育連盟	共通
HD000000000000000631	全国高等学校定時制通信制体育大会	全国高等学校体育連盟	共通
HD000000000000000632	全日本合気道演武大会	合気会	合気道
HD000000000000000633	全日本少年少女武道（合気道）錬成大会	合気会	合気道
HD000000000000000634	全国高等学校合気道演武大会	合気会	合気道
HD000000000000000635	全国学生合気道演武大会	合気会	合気道
HD000000000000000636	全日本養神館合気道総合演武大会	合気道養神会	合気道
HD000000000000000637	全日本学生合気道競技大会	昭道館合気道連盟	合気道
HD000000000000000638	関西学生合気道新人競技大会	昭道館合気道連盟	合気道
HD000000000000000639	関西合気道競技大会	昭道館合気道連盟	合気道
HD000000000000000640	全国高等学校選抜アイスホッケー大会	日本アイスホッケー連盟	アイスホッケー
HD000000000000000641	全国高等学校アメリカンフットボール選手権大会	日本高等学校アメリカンフットボール連盟	アメリカンフットボール
HD000000000000000642	関東高等学校アメリカンフットボール選手権大会	関東高等学校アメリカンフットボール連盟	アメリカンフットボール
HD000000000000000643	関西高等学校アメリカンフットボール選手権大会	関西高等学校アメリカンフットボール連盟	アメリカンフットボール
HD000000000000000645	I C F C A N O E S P R I N T W O R L D C U P	国際カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000646	全国少年少女カヌー大会	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000647	全国中学生カヌー大会	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000648	日本カヌースプリントジュニア選手権大会	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000649	S U B A R U 日本カヌースプリント選手権大会	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000650	日本パラカヌー選手権大会	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000651	日本カヌースプリントジュニア・ジュニアユース小松大会	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000652	カヌースラロームアジア選手権大会	アジアカヌー連盟	カヌー
HD000000000000000653	カヌースラロームジャパンカップ	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000654	N H K 杯全日本カヌースラローム競技大会	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000655	日本カヌースラローム選手権大会	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000656	カヌースラローム ワールドカップ	国際カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000657	カヌースラローム ジュニア・U 2 3 世界選手権大会	国際カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000658	カヌー ワイルドウォーター ジャパンカップ	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000659	全国ジュニアカヌースラローム大会	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000660	日本カヌーワイルドウォーター選手権大会	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000661	日本カヌーワイルドウォータージュニア選手権大会	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000662	日本カヌーボロジュニア選手権大会	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000663	日本カヌーボロ選手権大会	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000664	S a i t a m a D r a g o n C u p	埼玉ドラゴン大会実行委員会	カヌー
HD000000000000000665	世界ドラゴンボート選手権大会	日本ドラゴンボート協会	カヌー
HD000000000000000666	日本ドラゴンカヌー選手権大会	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000667	アジアドラゴンボート選手権大会	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000668	日本カヌーフリースタイル選手権大会	日本カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000669	フリースタイルワールドカップ	国際カヌー連盟	カヌー
HD000000000000000670	全国高等学校空手道選抜大会	全日本空手道連盟、全国高体連	空手道
HD000000000000000671	全国高等学校空手道選手権大会	全日本空手道連盟、全国高体連	空手道
HD000000000000000672	全国高校 K - 1 選手権	全国高校 K - 1 選手権実行委員会	キックボクシング
HD000000000000000673	全国高校連の弓道大会	久留米市、紫雲旗全国高校連の弓道大会実行委員会	弓道
HD000000000000000674	全国高等学校弓道選抜大会	全日本弓道連盟、全国高体連	弓道
HD000000000000000675	世界水泳選手権大会	国際水泳連盟	競泳
HD000000000000000676	世界ジュニア水泳選手権大会	国際水泳連盟	競泳
HD000000000000000677	アジアエージグループ選手権	アジア水泳連盟	競泳
HD000000000000000678	日本選手権水泳競技大会	日本水泳連盟	競泳
HD000000000000000679	ジャパンオープン	日本水泳連盟	競泳
HD000000000000000680	日本学生選手権水泳競技大会	日本水泳連盟	競泳
HD000000000000000681	日本高等学校選手権水泳競技大会	日本水泳連盟、全国高等学校体育連盟	競泳
HD000000000000000682	全国 J O C ジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会	日本水泳連盟	競泳
HD000000000000000683	全国 J O C ジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会	日本水泳連盟	競泳
HD000000000000000684	全国中学校水泳競技大会	日本水泳連盟、日本中学校体育連盟、他	競泳
HD000000000000000685	全国高等学校選抜スポーツツライミング選手権大会	日本山岳協会、全国高体連、加須市、加須市教育委員会	クライミング
HD000000000000000686	全国高等学校剣道選抜大会	全日本剣道連盟、全国高体連	剣道
HD000000000000000687	全国高等学校剣道大会	全国高体連	剣道
HD000000000000000688	全国選抜高校テニス大会	日本テニス協会、全国高体連	硬式庭球（硬式テニス）
HD000000000000000689	全日本高等学校選抜ソフトテニス大会	日本ソフトテニス連盟、全国高体連	ソフトテニス（軟式庭球）
HD000000000000000690	全国高等学校野球選手権大会	日本高等学校野球連盟、各都道府県高等学校野球連盟、朝日新聞社	硬式野球
HD000000000000000691	選抜高等学校野球大会	日本高等学校野球連盟、毎日新聞社	硬式野球
HD000000000000000692	全国高等学校女子硬式野球選手権大会	全国高等学校女子野球連盟	硬式野球
HD000000000000000693	全国高等学校軟式野球選手権大会	日本高等学校野球連盟、都道府県高等学校野球連盟	軟式野球
HD000000000000000694	全国高等学校定時制通信制軟式野球大会	全国高等学校定時制通信制軟式野球連盟、全国高等学校定時制通信制教育振興会、東京都教育委員会	軟式野球
HD000000000000000695	全国高等学校ゴルフ選手権大会	日本高等学校ゴルフ連盟	ゴルフ
HD000000000000000696	トヨタジュニアゴルフワールドカップ	中京テレビ放送株式会社、世界ジュニアゴルフ推進会	ゴルフ
HD000000000000000697	ザ・ロイヤルゴルフクラブ チャレンジトーナメント	東京レジャー開発株式会社	ゴルフ
HD000000000000000698	日本ジュニアゴルフ選手権	日本ゴルフ協会	ゴルフ
HD000000000000000699	P G A ジュニアゴルフ選手権	日本プロゴルフ協会	ゴルフ
HD000000000000000700	アジアジュニアゴルフチーム チャンピオンシップ	日本高等学校ゴルフ連盟	ゴルフ
HD000000000000000701	全日本大学・高等学校ゴルフ対抗戦	日本高等学校ゴルフ連盟	ゴルフ
HD000000000000000702	アジア・パシフィック ジュニア・カップ	日本高等学校ゴルフ連盟	ゴルフ
HD000000000000000703	ジュニアオレシホルムゴルフチャンピオンシップ	日本高等学校ゴルフ連盟	ゴルフ
HD000000000000000704	I S P S H A N D A 日韓対抗 中学・高校生ゴルフ選手権	日本高等学校ゴルフ連盟、韓国中学・高等学校ゴルフ聯盟、国際スポーツ振興協会	ゴルフ
HD000000000000000705	全国高等学校ゴルフ選手権 春季大会	日本高等学校ゴルフ連盟	ゴルフ
HD000000000000000706	F U J I X E R O X S U P E R C U P	日本サッカー協会、日本プロサッカーリーグ	サッカー
HD000000000000000707	全国高等学校サッカー選手権大会	日本サッカー協会、全国高体連、民放43社	サッカー
HD000000000000000708	全日本高等学校女子サッカー選手権大会	日本サッカー協会、全国高体連、神戸市、神戸市教育委員会	サッカー



tournament_id	name	organizing_authority	sub_category
HD000000000000000709	高円宮杯U-18サッカーリーグ	日本サッカー協会	サッカー
HD000000000000000710	全日本女子ユース(U-18)サッカー選手権大会	日本サッカー協会	サッカー
HD000000000000000711	全日本女子ユース(U-15)サッカー選手権大会	日本サッカー協会	サッカー
HD000000000000000712	日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会	日本サッカー協会、日本クラブユースサッカー連盟	サッカー
HD000000000000000713	日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会	日本サッカー協会、日本クラブユースサッカー連盟	サッカー
HD000000000000000714	日本クラブユースサッカー東西対抗戦(U-15)	日本サッカー協会、日本クラブユースサッカー連盟、中日新聞社	サッカー
HD000000000000000715	天皇杯全日本サッカー選手権大会	日本サッカー協会、日本フットサルリーグ	サッカー
HD000000000000000716	全国高等学校選抜自転車競技大会	日本自転車競技連盟、全国高体連	自転車
HD000000000000000717	全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会	日本ライフル射撃協会、全国高体連	射撃
HD000000000000000718	全国高等学校柔道選手権大会	全日本柔道連盟、全国高体連	柔道
HD000000000000000719	全日本柔道体重別選手権大会	全日本柔道連盟	柔道
HD000000000000000720	全日本柔道形競技大会	講道館、全日本柔道連盟	柔道
HD000000000000000721	全日本ジュニア柔道体重別選手権大会	全日本柔道連盟	柔道
HD000000000000000722	全国高等学校ウエイトリフティング競技選手権大会	日本ウエイトリフティング協会、全国高体連	重量挙げ(ウエイトリフティング)
HD000000000000000723	全国高等学校新体操選手権大会	日本体操協会、全国高体連	新体操
HD000000000000000724	全国高等学校体操競技選手権大会	日本体操協会、全国高体連	体操(器械体操)
HD000000000000000725	日本室内選手権飛込競技大会	日本水泳連盟	水泳(飛込)
HD000000000000000726	日本高等学校選手権水泳競技大会	日本水泳連盟、全国高体連	水泳(飛込)
HD000000000000000727	全国中学校水泳競技大会	日本水泳連盟、全国中体連	水泳(飛込)
HD000000000000000728	全国JOCジュニアオリンピック夏季水泳競技大会	日本水泳連盟	水泳(飛込)
HD000000000000000729	日本学生選手権水泳競技大会	日本水泳連盟	水泳(飛込)
HD000000000000000730	日本選手権水泳競技大会	日本水泳連盟	水泳(飛込)
HD000000000000000731	全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会	日本水泳連盟	水泳(飛込)
HD000000000000000732	FINAダイビンググランプリ	国際水泳連盟	水泳(飛込)
HD000000000000000733	International Youth Diving Meet	国際水泳連盟	水泳(飛込)
HD000000000000000734	世界水泳選手権大会	国際水泳連盟	水泳(飛込)
HD000000000000000735	アジアエージグループ選手権	アジア水泳連盟	水泳(飛込)
HD000000000000000736	スペインオープン	国際水泳連盟	水泳(シנקロイズドスイミング)
HD000000000000000737	スイスオープン	国際水泳連盟	水泳(シנקロイズドスイミング)
HD000000000000000738	世界水泳選手権大会	国際水泳連盟	水泳(シנקロイズドスイミング)
HD000000000000000739	AASFアジアエージグループ選手権大会	アジア水泳連盟	水泳(シנקロイズドスイミング)
HD000000000000000740	FINA World Series SUV PARISI	国際水泳連盟	水泳(シנקロイズドスイミング)
HD000000000000000741	日本選手権水泳競技大会	日本水泳連盟	水泳(シנקロイズドスイミング)
HD000000000000000742	日本シנקロイヤリティカップ	日本水泳連盟	水泳(シנקロイズドスイミング)
HD000000000000000743	全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会	日本水泳連盟	水泳(シנקロイズドスイミング)
HD000000000000000744	日本学生選手権水泳競技大会	日本水泳連盟	水泳(シנקロイズドスイミング)
HD000000000000000745	13-15歳VPO-デュエット大会	日本水泳連盟	水泳(シנקロイズドスイミング)
HD000000000000000746	シンドロ-ナショナルトライアル	日本水泳連盟	水泳(シנקロイズドスイミング)
HD000000000000000747	全日本ジュニア(U17)水球競技選手権大会	日本水泳連盟	水球
HD000000000000000748	FINA水球ワールドリーグ インターコンチネンタルトーナメント	国際水泳連盟	水球
HD000000000000000749	FINA水球ワールドリーグ スーパーファイナル	国際水泳連盟	水球
HD000000000000000750	世界水泳選手権大会	国際水泳連盟	水球
HD000000000000000751	世界ジュニア選手権大会	国際水泳連盟	水球
HD000000000000000752	アジアエージグループ選手権	アジア水泳連盟	水球
HD000000000000000753	日本高等学校選手権水泳競技大会	日本水泳連盟、全国高体連	水球
HD000000000000000754	全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会	日本水泳連盟	水球
HD000000000000000755	日本学生選手権水泳競技大会	日本水泳連盟	水球
HD000000000000000756	日本選手権水泳競技大会	日本水泳連盟	水球
HD000000000000000757	全日本ユース(U15)水球競技選手権大会	日本水泳連盟	水球
HD000000000000000758	全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会	日本水泳連盟	水球
HD000000000000000759	全国高等学校選抜スキー大会	全日本スキー連盟、全国高体連	スキー競技
HD000000000000000760	全日本スポーツインテグ内選手権大会	社会スポーツセンター	スキーバグインギ
HD000000000000000761	全国高等学校選抜スピードスケート競技会	日本スケート連盟、全国高体連	スピードスケート
HD000000000000000762	全国高等学校相撲新人選手権大会	日本相撲連盟、全国高体連、高知新聞社、RKC高知放送	相撲
HD000000000000000763	全国高等学校相撲選抜大会	日本相撲連盟、全国高体連、高知新聞社、RKC高知放送	相撲
HD000000000000000764	全国高校選抜大会	日本ソフトボール協会、全国高体連	ソフトボール
HD000000000000000765	全日本高校選手権大会	日本ソフトボール協会、全国高体連	ソフトボール
HD000000000000000766	全国高等学校選抜卓球大会	日本卓球協会、全国高体連	卓球
HD000000000000000767	全国高校選抜卓球大会	日本卓球協会、全国高体連	卓球
HD000000000000000768	全国高等学校卓球選手権大会	日本卓球協会、全国高体連	卓球
HD000000000000000769	バレーボールDジャン-年代別オープン卓球大会	日本FID卓球連盟	卓球
HD000000000000000770	全日本テコンドームセ選手権大会	全日本テコンドー協会	テコンドー
HD000000000000000771	全日本ジュニアテコンドー選手権大会	全日本テコンドー協会	テコンドー
HD000000000000000772	JOCジュニアオリンピックカップ	全日本テコンドー協会	テコンドー
HD000000000000000773	世界ジュニアテコンドー選手権	世界テコンドー連盟	テコンドー
HD000000000000000774	全日本テコンドー選手権大会	全日本テコンドー協会	テコンドー
HD000000000000000775	全日本大会	日本国際テコンドー協会	テコンドー
HD000000000000000776	全日本学生大会	日本国際テコンドー協会	テコンドー
HD000000000000000777	シニア世界大会	日本国際テコンドー協会	テコンドー
HD000000000000000778	全日本ジュニア大会	日本国際テコンドー協会	テコンドー
HD000000000000000779	全国少年少女選抜テコンドー選手権大会	日本国際テコンドー協会	テコンドー
HD000000000000000780	全国高等学校少林寺拳法選抜大会	少林寺拳法連盟、全国高体連	中国拳法
HD000000000000000781	全日本登山大会	日本山岳協会	登山(山岳)
HD000000000000000782	大阪府チャレンジ登山大会	大阪府山岳連盟	登山(山岳)
HD000000000000000783	全日本トランポリン競技選手権大会	日本体操協会	トランポリン
HD000000000000000784	全国高等学校トランポリン競技選手権大会	全国高等学校トランポリン連盟	トランポリン
HD000000000000000785	全日本トランポリン競技ジュニア選手権大会	日本体操協会	トランポリン
HD000000000000000786	全日本タングリン・ダブルミトランポリン競技年齢別選手権大会	日本体操協会	トランポリン
HD000000000000000787	全日本トランポリン競技年齢別選手権大会	日本体操協会	トランポリン
HD000000000000000788	F I G ワールドカップ	国際体操協会	トランポリン

tournament_id	name	organizing_authority	sub_category
HD000000000000000789	全国高等学校なぎなた選抜大会	全日本なぎなた連盟、全国高体連、伊丹市・伊丹市教育委員会	なぎなた
HD000000000000000790	全国高等学校男子なぎなた選手権大会	九度山町、全日本なぎなた連盟	なぎなた
HD000000000000000791	全国高等学校日本拳法選手権大会	全国高等学校日本拳法連盟	日本拳法
HD000000000000000792	全国高等学校日本拳法選抜大会	全国高等学校日本拳法連盟	日本拳法
HD000000000000000793	全日本体重別選手権大会	日本拳法競技連盟	日本拳法
HD000000000000000794	全日本高等学校馬術競技大会	全日本高等学校馬術連盟	馬術
HD000000000000000795	全日本高等学校馬術選手権大会	全日本高等学校馬術連盟	馬術
HD000000000000000796	全国高等学校バスケボール選手権大会	日本バスケボール協会、全国高体連、朝日新聞社、日刊スポーツ新聞社	バスケボール
HD000000000000000797	全国高等学校バスケボール選抜優勝大会	日本バスケボール協会、朝日新聞社、全国高等学校体育連盟、J Xグループ	バスケボール
HD000000000000000798	全国高等学校選抜バドミントン大会	日本バドミントン協会、全国高体連	バドミントン
HD000000000000000799	全日本高等学校選手権大会	日本バレーボール協会、全国高体連、フジテレビジョン、F N Sフジネットワーク	バレーボール
HD000000000000000800	全国高等学校ハンドボール選抜大会	日本ハンドボール協会	ハンドボール
HD000000000000000801	全日本フィギュアスケートノービス選手権大会	日本スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000802	東日本フィギュアスケート選手権大会	日本スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000803	東日本フィギュアスケートジュニア選手権大会	日本スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000804	西日本フィギュアスケート選手権大会	日本スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000805	西日本フィギュアスケートジュニア選手権大会	日本スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000806	全日本フィギュアスケートジュニア選手権大会	日本スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000807	全日本フィギュアスケート選手権大会	日本スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000808	全日本シנקロナイズドスケート選手権大会	日本スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000809	アジアノーブトロフィー	アジアスケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000810	I S Uジュニアグランプリシリーズ	国際スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000811	U S インターナショナルクラシック	アメリカフィギュアスケート協会	フィギュアスケート
HD000000000000000812	ロシアンディアトロフィー	ゼストアイススケート、イタリア氷上競技連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000813	スケートカナダオータムクラシック	カナダスケート協会	フィギュアスケート
HD000000000000000814	オンレイベラメモリアル	S O B A K I フィギュアスケート協会	フィギュアスケート
HD000000000000000815	ネーベルホルントロフィー	ドイツスケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000816	フィンランドアイススケート選手権大会	フィンランドフィギュアスケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000817	アイススター	パラルーニスケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000818	列国トロフィー	列国フィギュアスケートクラブ	フィギュアスケート
HD000000000000000819	国際スケート連盟公認大会 木下グループカップ フィギュアスケート ジャパンオープン 3 地域対抗戦	日本スケート連盟、テレビ東京	フィギュアスケート
HD000000000000000820	I S U グランプリ スケートアメリカ	アメリカフィギュアスケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000821	I S U グランプリ ロシヤコムカップ	ロシアスケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000822	I S U グランプリ スケートカナダ	カナダスケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000823	I S U グランプリ カップオブチャイナ	中国スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000824	国際スケート連盟公認グランプリシリーズ N H K 杯国際フィギュアスケート 競技大会	日本スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000825	I S U グランプリ トロフィーフランス	フランススケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000826	バルシヤワカップ	ポーランドフィギュアスケート協会	フィギュアスケート
HD000000000000000827	ゴールデンシンオブザグレイブ	クアチアスケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000828	I S U ジュニアグランプリファイナル	国際スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000829	四大陸フィギュアスケート選手権	国際スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000830	パワリアンオープン	バイエルンスケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000831	トルンカップ	ポーランドスケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000832	チャレンジャカップ	オランダスケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000833	世界ジュニアフィギュアスケート選手権大会	国際スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000834	クラブファンタジ	ルクセンブルクフィギュアスケート連盟、ルクセンブルクウィンタースポーツスケートクラブ	フィギュアスケート
HD000000000000000835	世界フィギュアスケート選手権大会	国際スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000836	世界シנקロナイズドスケート選手権大会	国際スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000837	チームチャレンジャカップ	アメリカフィギュアスケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000838	I S U グランプリファイナル	国際スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000000839	全国高等学校選抜フェンシング大会	日本フェンシング協会、全国高体連	フェンシング
HD000000000000000840	全国高校フェンシング和歌山オープン	近畿高等学校体育連盟フェンシング部	フェンシング
HD000000000000000841	錦帯橋 Cup 全国ジュニア・カデ・ミニムエバサーキット大会	日本フェンシング協会	フェンシング
HD000000000000000842	ザール ジュニア・カデ N E X U S ランキングマッチ	日本フェンシング協会	フェンシング
HD000000000000000843	ザール ジュニア・カデ ランキングマッチ	日本フェンシング協会	フェンシング
HD000000000000000844	全国ジュニア・エバ フェンシング選手権大会	日本フェンシング協会	フェンシング
HD000000000000000845	牧杯ジュニアフェンシング選手権大会	日本フェンシング協会	フェンシング
HD000000000000000846	J O C カップフェンシング選手権大会	日本フェンシング協会	フェンシング
HD000000000000000847	全日本ユース ( U - 1 8 ) フットサル大会	日本サッカー協会	フットサル
HD000000000000000848	全日本ユース ( U - 1 5 ) フットサル大会	日本サッカー協会	フットサル
HD000000000000000849	全日本女子ユース ( U - 1 5 ) フットサル大会	日本サッカー協会	フットサル
HD000000000000000850	夏の高校生フットサル大会	夏高フットサル実行委員会	フットサル
HD000000000000000851	G A V I C C U P ユースフットサル選抜トーナメント	日本フットサル連盟	フットサル
HD000000000000000852	全国選抜フットサル大会 supported by G A V I C	日本フットサル連盟	フットサル
HD000000000000000853	全国女子選抜フットサル大会	日本フットサル連盟	フットサル
HD000000000000000854	全国フットサル大会	第一高等学校	フットサル
HD000000000000000855	夏の高校生フットサル大会	株式会社バフスポーツ	フットサル
HD000000000000000856	N F L フラグフットボール	日本フラッグフットボール協会	フラッグフットボール
HD000000000000000857	I F A F フラグフットボール世界選手権	国際アメリカンフットボール連盟	フラッグフットボール
HD000000000000000858	全国高等学校対抗ボウリング選手権大会	全日本ボウリング協会、川崎市スポーツ協会	ボウリング
HD000000000000000859	全国高等学校選抜ボート大会	日本ボート協会、全国高体連、浜松市、中日新聞社	ボート
HD000000000000000860	全国高等学校ボウリング選抜大会	日本ボウリング連盟、全国高体連	ボウリング
HD000000000000000862	全日本女子ボウリング選手権大会	日本ボウリング連盟	ボウリング
HD000000000000000863	全国高等学校アーチェリー選抜大会	全日本アーチェリー連盟、全国高体連	洋弓 (アーチェリー)
HD000000000000000864	ユースセーリングカップ	兵庫県セーリング連盟、セーリングスピリッツ協会	ヨット
HD000000000000000865	全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会	日本ラグビーフットボール協会	ラグビーフットボール
HD000000000000000866	サンクスワールドラグビーユース交流大会	日本ラグビーフットボール協会	ラグビーフットボール
HD000000000000000867	全国高等学校ラグビーフットボール大会	毎日新聞社、日本ラグビーフットボール協会	ラグビーフットボール
HD000000000000000868	全国高等学校女子ウエイトリフティング競技選手権大会	日本ウエイトリフティング協会、全国高体連	重量挙げ (ウエイトリフティング)
HD000000000000000869	全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会	日本ラグビーフットボール協会、全国高体連	ラグビーフットボール

tournament_id	name	organizing_authority	sub_category
HD000000000000000870	ラクロス全日本選手権大会	日本ラクロス協会	ラクロス
HD000000000000000871	アジア全日本ユース選抜選手権大会	日本ラクロス協会	ラクロス
HD000000000000000872	F I L 女子 1 9 歳以下世界選手権大会	国際ラクロス連盟	ラクロス
HD000000000000000873	F I L 男子世界選手権大会	国際ラクロス連盟	ラクロス
HD000000000000000874	F I L 女子ワールドカップ	国際ラクロス連盟	ラクロス
HD000000000000000875	A P L U アジア・パシフィック選手権大会	アジア・パシフィックラクロス連盟	ラクロス
HD000000000000000876	U 1 8 日本選手権	日本陸上競技連盟	陸上競技
HD000000000000000877	全国高等学校定時制通信制陸上競技大会	日本陸上競技連盟	陸上競技
HD000000000000000878	全国高等専門学校体育大会陸上競技	日本陸上競技連盟	陸上競技
HD000000000000000879	全国高等学校駅伝競走大会	日本陸上競技連盟	陸上競技
HD000000000000000880	U 2 0 日本陸上競技選手権大会	日本陸上競技連盟	陸上競技
HD000000000000000881	U 1 8 日本陸上競技選手権大会	日本陸上競技連盟	陸上競技
HD000000000000000882	U 2 0 日本陸上競技選手権大会混成競技	日本陸上競技連盟	陸上競技
HD000000000000000883	U 2 0 日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走	日本陸上競技連盟	陸上競技
HD000000000000000884	全国高等学校選抜ホッケー大会	日本ホッケー協会、全国高体連	陸上ホッケー
HD000000000000000885	全国高等学校選抜レスリング大会	日本レスリング協会、全国高体連	レスリング
HD000000000000001452	国民体育大会	日本スポーツ協会	共通
HD000000000000001453	J F A 全日本 U - 1 8 女子サッカー選手権大会 J O C ジュニアオリンピックカップ	日本サッカー協会	サッカー
HD000000000000001454	J F A 全日本 U - 1 5 女子サッカー選手権大会	日本サッカー協会	サッカー
HD000000000000001455	パンドレイベハートローパー	スロバキアフィギュアスケート協会	フィギュアスケート
HD000000000000001456	I S U グランプリ インターナショナルオブフランス	フランススケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000001457	I S U 四大大陸フィギュアスケート選手権大会	国際スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000001458	I S U 世界ジュニアフィギュアスケート選手権大会	国際スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000001459	I S U 世界フィギュアスケート選手権大会	国際スケート連盟	フィギュアスケート
HD000000000000001460	I S U 世界シנקロナイズドスケート選手権大会	国際スケート連盟	フィギュアスケート
ADD20191030000000269	全日本少年少女武道連 (合気道) 練成大会	日本武道館、合気会	合気道
ADD20191030000000270	全国高等学校選抜アイスホッケー大会	苫小牧市、日本アイスホッケー連盟	アイスホッケー
ADD20191030000000271	I C F カヌー Sprint ワールドカップ	国際カヌー連盟	カヌー
ADD20191030000000272	文部科学大臣杯 日本カヌー Sprint ジュニア選手権大会	日本カヌー連盟	カヌー
ADD20191030000000273	カヌー スラローム世界選手権大会	国際カヌー連盟	カヌー
ADD20191030000000274	S a i t a m a D r a g o n C u p	日本カヌー連盟、埼玉ドラゴン実行委員会	カヌー
ADD20191030000000275	I D B F 世界ドラゴンボート選手権大会	国際ドラゴンボート連盟	カヌー
ADD20191030000000276	日本ドラゴンボート選手権大会	日本カヌー連盟、埼玉ドラゴン実行委員会	カヌー
ADD20191030000000277	A D B F アジアドラゴンボート選手権大会	アジアドラゴンボート連盟	カヌー
ADD20191030000000278	全国高等学校空手道選抜大会	全日本空手道連盟、全国高等学校体育連盟	空手道
ADD20191030000000279	全国高等学校空手道選手権大会	全日本空手道連盟、全国高等学校体育連盟	空手道
ADD20191030000000280	K - 1 甲子園	K - 1 実行委員会	キックボクシング
ADD20191030000000281	紫雲旗全国高校遠征の弓道大会	久留米市、紫雲旗全国高校遠征の弓道大会実行委員会	弓道
ADD20191030000000282	全国高等学校弓道選抜大会	全日本弓道連盟、全国高等学校体育連盟	弓道
ADD20191030000000283	全国高等学校選抜スノーライティング選手権大会	日本山岳・スポーツライティング協会、全国高等学校体育連盟、加須市、加須市教育委員会	クライミング
ADD20191030000000284	全国高等学校剣道選抜大会	全日本剣道連盟、全国高等学校体育連盟	剣道
ADD20191030000000285	全国高等学校剣道大会	全日本剣道連盟、全国高等学校体育連盟	剣道
ADD20191030000000286	全国選抜高校テニス大会	日本テニス協会、全国高等学校体育連盟	硬式庭球 (硬式テニス)
ADD20191030000000287	全日本高等学校選抜ソフトテニス大会	日本テニス協会、全国高等学校体育連盟	ソフトテニス (軟式庭球)
ADD20191030000000288	全国高等学校野球選手権大会	朝日新聞社、日本高等学校野球連盟	硬式野球
ADD20191030000000289	全国高等学校軟式野球選手権大会	日本高等学校野球連盟	軟式野球
ADD20191030000000290	トヨタジュニアゴルフワールドカップ	中京テレビ放送、世界ジュニアゴルフ推進会	ゴルフ
ADD20191030000000291	ザ・ロイヤル ゴルフクラブチャレンジーナメント	東京レジャー開発株式会社	ゴルフ
ADD20191030000000292	全国高等学校ゴルフ選手権 春季大会	日本高等学校ゴルフ連盟、スポーツニッポン新聞社	ゴルフ
ADD20191030000000293	全国高等学校サッカー選手権大会	日本サッカー協会、全国高等学校体育連盟、民放 4 3 社	サッカー
ADD20191030000000294	全日本高等学校女子サッカー選手権大会	日本サッカー協会、全国高等学校体育連盟、神戸市、神戸市教育委員会	サッカー
ADD20191030000000295	高円宮杯 J F A U - 1 8 サッカープレミアリーグ	日本サッカー協会	サッカー
ADD20191030000000296	天皇杯 J F A 全日本サッカー選手権大会	日本サッカー協会、日本フットボールリーグ	サッカー
ADD20191030000000297	全国高等学校選抜自転車競技大会	日本自転車競技連盟、全国高等学校体育連盟	自転車
ADD20191030000000298	全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会	日本ライフル射撃協会、全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会安芸太田町実行委員会	射撃
ADD20191030000000299	全国高等学校柔道選手権大会	全日本柔道連盟、全国高等学校体育連盟	柔道
ADD20191030000000300	講道館杯全日本柔道団体別選手権大会	全日本柔道連盟	柔道
ADD20191030000000301	全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会	日本ウエイトリフティング協会、全国高等学校体育連盟、北國新聞社	重量挙げ (ウエイトリフティング)
ADD20191030000000302	全国高等学校新体操選抜大会	日本体操協会、全国高等学校体育連盟	新体操
ADD20191030000000303	全国高等学校体操競技選抜大会	日本体操協会、全国高等学校体育連盟	体操 (器械体操)
ADD20191030000000304	全国高等学校選手権水泳競技大会	日本水泳連盟、全国高等学校体育連盟	水泳 (飛込)
ADD20191030000000305	全国高等学校選手権水泳競技大会	日本水泳連盟、全国高等学校体育連盟	水泳
ADD20191030000000306	全国高等学校選抜スキー大会	全日本スキー連盟、全国高等学校体育連盟	スキー競技
ADD20191030000000307	全国高等学校選抜スピードスケート競技	日本スケート連盟、全国高等学校体育連盟	スピードスケート
ADD20191030000000308	全国高等学校相撲新人選手権大会	日本相撲連盟、全国高等学校体育連盟、高知新聞社、R K C 高知放送	相撲
ADD20191030000000309	全国高等学校相撲選抜大会	日本相撲連盟、全国高等学校体育連盟、高知新聞社、R K C 高知放送	相撲
ADD20191030000000310	全国高校選抜大会	日本ソフトボール協会、全国高等学校体育連盟	ソフトボール
ADD20191030000000311	全日本高校選手権大会	日本ソフトボール協会、全国高等学校体育連盟	ソフトボール
ADD20191030000000312	全国高等学校選抜卓球大会	日本卓球協会、全国高等学校体育連盟	卓球
ADD20191030000000313	全国高校選抜卓球大会	日本卓球協会、全国高等学校体育連盟	卓球
ADD20191030000000314	全国高等学校卓球選手権大会	日本卓球協会、全国高等学校体育連盟	卓球
ADD20191030000000315	W T 世界ジュニアテコンドー選手権	世界テコンドー連盟	テコンドー
ADD20191030000000316	全国高等学校少林寺拳法選抜大会	少林寺拳法連盟、全国高等学校体育連盟	中国拳法
ADD20191030000000317	全国高等学校なぎなた選抜大会	伊丹市、伊丹市教育委員会、全日本なぎなた連盟、全国高等学校体育連盟	なぎなた
ADD20191030000000318	全国高等学校バスケットボール選手権大会	日本バスケットボール協会、全国高等学校体育連盟、朝日新聞社、日刊スポーツ新聞社	バスケットボール
ADD20191030000000319	全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会	日本バスケットボール協会、全国高等学校体育連盟、朝日新聞社、日刊スポーツ新聞社	バスケットボール
ADD20191030000000320	全国高等学校選抜バドミントン大会	日本バドミントン協会、全国高等学校体育連盟	バドミントン
ADD20191030000000321	全日本高等学校選手権大会	日本バレーボール協会、全国高等学校体育連盟、フジテレビジョン、産経新聞社、サンケイスポーツ、F N S フジネットワーク	バレーボール
ADD20191030000000322	カントロフィー	エストニアスケート連盟、フィンランドフィギュアスケート連盟	フィギュアスケート

tournament_id	name	organizing_authority	sub_category
ADD2019103000000323	バウリアンオープン	バリエルン氷上スポーツ協会	フィギュアスケート
ADD2019103000000324	全国高等学校選抜フェンシング大会	日本フェンシング協会、全国高等学校体育連盟	フェンシング
ADD2019103000000325	サーブル シュニア・カデ ランキングマッチ	日本フェンシング協会	フェンシング
ADD2019103000000326	JOC シュニア・オリンピック・カブ・フェンシング大会 兼 世界ジュニア・カデ・フェンシング選手権大会選考会	日本フェンシング協会	フェンシング
ADD2019103000000327	JFA 全日本U-18フットサル選手権大会	日本サッカー協会	フットサル
ADD2019103000000328	JFA 全日本U-15フットサル選手権大会	日本サッカー協会	フットサル
ADD2019103000000329	JFA 全日本U-15女子フットサル選手権大会	日本サッカー協会	フットサル
ADD2019103000000330	全国選抜フットサル大会	日本フットサル連盟	フットサル
ADD2019103000000331	全国フットサル大会	第一学院高等学校	フットサル
ADD2019103000000332	NFLフットボール日本選手権大会	日本フットボール協会	フットボール
ADD2019103000000333	文部科学大臣杯 全国高等学校対抗ボウリング選手権大会	全日本ボウリング協会、川崎市スポーツ協会	ボウリング
ADD2019103000000334	全国高等学校選抜ボート大会	日本ボート協会、全国高等学校体育連盟、浜松市、中日新聞社、全国高等学校選抜ボート大会実行委員会	ボート
ADD2019103000000335	全国高等学校ボウリング選抜大会	日本ボウリング連盟、全国高等学校体育連盟	ボウリング
ADD2019103000000336	全国高等学校アーチェリー選抜大会	全日本アーチェリー連盟、全国高等学校体育連盟	洋弓 (アーチェリー)
ADD2019103000000337	全国高等学校ラグビーフットボール大会	全国高等学校体育連盟、日本ラグビーフットボール協会、大阪府・大阪府教育委員会、毎日新聞社	ラグビーフットボール
ADD2019103000000338	全国高等学校女子ウエイトリフティング競技選手権大会	日本ウエイトリフティング協会、全国高等学校体育連盟	重量挙げ (ウエイトリフティング)
ADD2019103000000339	全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会	日本ラグビーフットボール協会、全国高等学校体育連盟	ラグビーフットボール
ADD2019103000000340	全国高等学校定時制通信制陸上競技大会	全国高等学校定時制通信制教育振興会、日本陸上競技連盟、全国高等学校体育連盟、東京都教育委員会	陸上競技
ADD2019103000000341	全国高等専門学校体育大会陸上競技	全国高等専門学校連合会、日本陸上競技連盟	陸上競技
ADD2019103000000342	全国高等学校駅伝競走大会	日本陸上競技連盟、全国高等学校体育連盟、毎日新聞社、京都府 京都府教育委員会、京都市 京都市教育委員会	陸上競技
ADD2019103000000343	U20日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走	日本陸上競技連盟、福岡市、TBSテレビ、RKB毎日放送、国営海の中道海浜公園	陸上競技
ADD2019103000000344	全国高等学校選抜ホッケー大会	日本ホッケー協会	陸上ホッケー
ADD2019103000000345	風間杯全国高等学校選抜レスリング大会	日本レスリング協会、全国高等学校体育連盟	レスリング



# 電子調査書管理システム化 要件定義書

ver1.0.0

## 目次

### 1.本書の説明

- ・本紙の位置づけ
- ・本書で使用する用語の定義
- ・本書の改訂方法

### 2.システム構成

- ・全体イメージ
- ・システム概略
- ・システムの説明
- ・システム想定規模
- ・対象システム構成図
- ・ソフトウェア構成図
- ・システム利用環境
- ・外部連携一覧

### 3.業務フロー

- ・業務フロー（全体）
- ・業務フロー（詳細：アカウント管理）
- ・業務フロー（詳細：拡張機能利用管理）
- ・業務フロー（詳細：大学基本情報・  
入試段階別データの取込み）
- ・業務フロー（詳細：チェックパターン設定）
- ・業務フロー（詳細：調査書管理）
- ・業務フロー（詳細：調査書アーカイブ設定）
- ・業務フロー（詳細：資格情報ドキュメント管理フロー）

### 4.機能要件

- ・実装機能一覧
- ・権限種類一覧
- ・ER
- ・機能要件説明：API機能
- ・機能要件説明：認証機能
- ・機能要件説明：アカウント管理機能
- ・機能要件説明：設定管理機能\_チェックパターン設定機能
- ・機能要件説明：設定管理機能\_拡張機能の利用設定機能
- ・機能要件説明：データ取込機能
- ・機能要件説明：調査書管理機能
- ・機能要件説明：調査書管理機能\_アーカイブ設定

### 5.非機能要件

- ・システムの特徴について
- ・技術移管（教育、マニュアルなど）
- ・システムの制約、前提条件について
- ・適合規格について

# 本書の説明

4

## 本書の説明

### 本書の位置づけ

本書は、電子調査書を管理するためのシステムを構築するにあたり、関西学院大学と株式会社ODKソリューションズ（以下、「ODK」と言う）の両社が、その要件を定義し、合意することを目的として作成する。ここで言う要件とは、Webサイトを構成する各機能の要求をまとめた機能要件と、その機能を動作させる上で必要となる信頼性、拡張性、保守性等の機能要求以外をまとめた非機能要件を示すものである。

### 本書で使用する用語の定義

用語	内容
電子調査管理書システム	各大学が電子調査書の管理・検査・承認するために設計・構築されたシステムのこと。
当プロジェクト	今回実施する電子調査管理書システム構築するプロジェクトのこと。

### 本書の改訂方法

- バージョン番号規定
  - バージョン番号は「Ver.」の文字に続けて、メジャーバージョン番号、マイナーバージョン番号、リビジョン番号を表記するものとし、Ver.1.0.0より始まるものとする。各番号に桁数の制限はない。
  - 担当者が本書を更新した場合、リビジョン番号をインクリメント（1を加える）する。他方が承認した際にマイナーバージョン番号をインクリメントし、同時にリビジョン番号を0にリセットする。両社合意の基で大規模改訂を行う場合のみメジャーバージョン番号をインクリメントする。

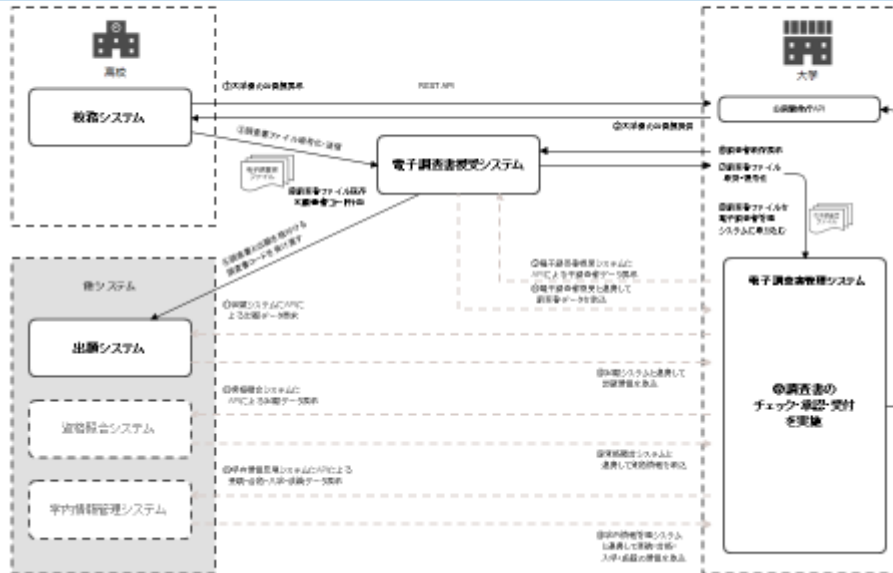
5

# システム構成

6

## システム構成

### 全体イメージ



7

## システム構成

### システムの概略

本システムは、大学担当者より電子調査書授受システムから取得した電子調査書データを管理・受付する機能を提供する。  
また、他システム（出願システム・資格照合システム・学内情報管理システム）とデータ連携し、電子調査書データの不整合を検知する機能を提供する。

### システムの説明

No	機能	説明	システム化 対象
1)	アカウント管理	利用者のアカウント管理（登録・変更・削除・権限設定）を行う。 （方法1：CSV一括登録、方法2：画面にて設定）を行う。	○
2)	拡張機能設定	拡張機能の利用有無を設定する。	○
3)	調査書アーカイブ設定	ある年度の保管年数が超った調査書をアーカイブ処理を行う。	○
4)	公開鍵発行	大学側は電子調査書を取得するために、高校受験システムに対して公開鍵を発行する。	○
5)	電子調査書取得	電子調査書管理システムで秘密鍵を用いて発行した公開鍵で暗号化された調査書ファイルを電子調査書授受システムからダウンロード・あるいはAPI連携により取得し、秘密鍵にて暗号を行う。	○
6)	出願情報取得	出願システムからダウンロード・あるいはAPI連携により出願情報の取得を行う。	○
7)	資格情報取得	資格照合システムからダウンロード・あるいはAPI連携により資格情報の取得を行う。	○
8)	大学基本情報更新	大学基本情報マスタの更新（即込・更新・削除）を行う	○
9)	入試段階別データ即込	入試段階別データ（電子調査書、資格ドキュメント、出願情報、受験情報、合格情報、入学情報、成績情報）の管理（即込・更新・削除）を行う。	○
10)	電子調査書チェック	電子調査書データのチェック（記述漏れ、不整合と誤りなど）を行う。※調査書記載漏れ、出願データとの不整合	○
11)	電子調査書承認	電子調査書データの承認（受付かどうか）を行う	○

8

## システム構成

### システムの想定規模

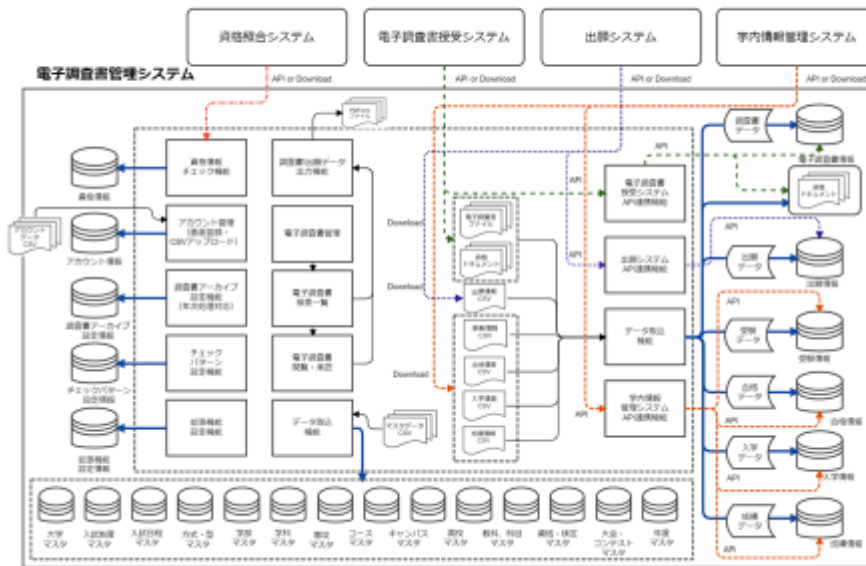
以下の内容を想定して開発を行います。

No	種別	データ	種別	連携 方式	規模 (想定)
1)	大学マスタ	大学情報	DB		MAXのレコード数：2万件
2)	入試年度マスタ	入試年度情報	DB		MAXのレコード数：10件
3)	入試日程マスタ	入試日程情報	DB		MAXのレコード数：50件
4)	方式・型マスタ	方式・型情報	DB		MAXのレコード数：50件
5)	学部マスタ	学部情報	DB		MAXのレコード数：50件
6)	学科マスタ	学科情報	DB		MAXのレコード数：50件
7)	専攻マスタ	専攻情報	DB		MAXのレコード数：50件
8)	コースマスタ	コース情報	DB		MAXのレコード数：50件
9)	キャンパスマスタ	キャンパス情報	DB		MAXのレコード数：10件
10)	高校マスタ	高校情報	DB		MAXのレコード数：1万件
11)	APPLICマスタ	教科、科目などの情報	DB		MAXのレコード数：500件
12)	資格・検定マスタ	資格・検定情報	DB		MAXのレコード数：10000件
13)	大会・コンテストマスタ	大会・コンテスト情報	DB		MAXのレコード数：10000件
14)	年度マスタ	年度情報	DB		MAXのレコード数：100件
15)	電子調査書情報連携	電子調査書情報	ファイル (.xml)	／ A P I	Max：即込5000ファイル/1回
16)	資格ドキュメント連携	資格ドキュメント情報	ファイル (不確定)	／ A P I	Max：即込5000ファイル/1回
17)	出願情報連携	出願情報	ファイル (.csv)	／ A P I	Max：即込5000レコード/1回
18)	受験情報連携	受験情報	ファイル (.csv)	／ A P I	Max：即込5000レコード/1回
19)	合格情報連携	合格情報	ファイル (.csv)	／ A P I	Max：即込5000レコード/1回
16)	入学情報連携	入学情報	ファイル (.csv)	／ A P I	Max：即込5000レコード/1回
17)	成績情報連携	成績情報	ファイル (.csv)	／ A P I	Max：即込5000レコード/1回
18)	資格情報連携	資格情報	ファイル (不確定)	／ A P I	Max：即込5000レコード/1回

9

## システム構成

### 対象システム構成図

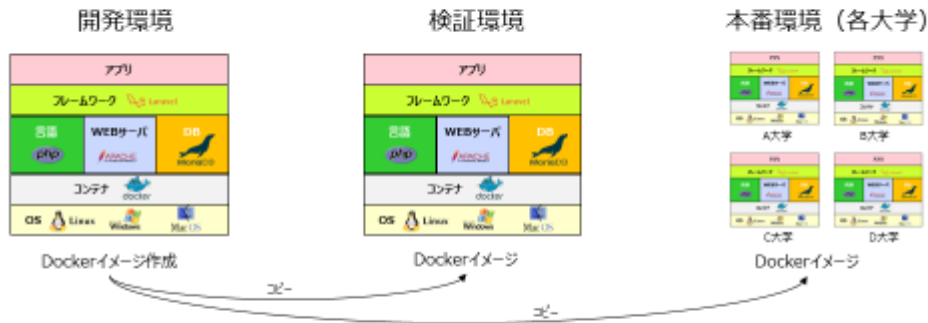


10

## システム構成

### ソフトウェア構成図

開発環境、検証環境及び本番環境は以下を想定しております。



種類	バージョン	備考
フレームワーク	Laravel 8	
プログラム言語	PHP 8.03	
データベース	MariaDB 10.5.9	
WEBサービス	Apache HTTP Server 2.4.46	
コンテナ	Docker 2.7	
OS	Linux, Windows, MacOS	Dockerを使用できるOperating Systemsが必要

11

## システム構成

### システム利用環境

今回のご提案範囲でのデバイス/OS環境・ブラウザ環境は下記を対象としております。

対象	デバイス	OS環境	ブラウザ環境
管理画面	PC	OS: Windows 10 MacOS 10.12	Chrome Fire fox Safari Edge
	タブレット	OS: Windows 10 MacOS 10.12	Edge Safari

※記載の無いデバイス（機種）及びOS/ブラウザへの対応は別途御相談となります（要件外）。  
※開発途中に発生したOS及びブラウザのバージョンアップへの対応は別途御相談となります（要件外）。

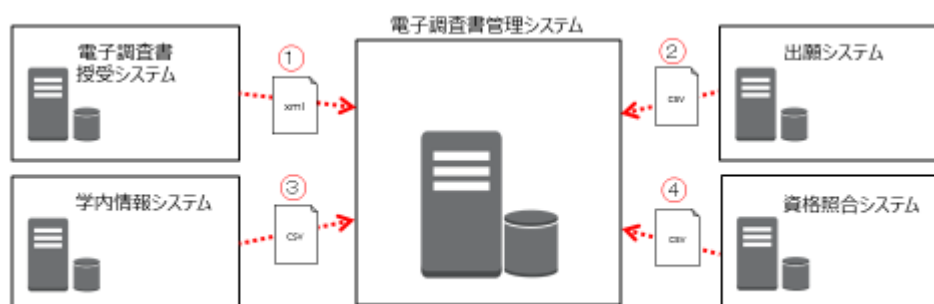
12

## システム構成

### 外部連携一覧

・電子調査書管理システムと外部システム間でのデータ連携について記載する。

対象	手法	詳細	備考
①電子調査書データ	ファイルアップロード/ API連携	電子調査書授受システムからAPI経由、あるいはダウンロードして電子調査書データ(xml形式)を電子調査書管理システムにアップロードする。	API:未提供
②出願情報	ファイルアップロード/ API連携	出願システムからAPI経由、あるいはダウンロードして出願データ(csv)を電子調査書管理システムにアップロードする。	API:未提供
③学内情報	ファイルアップロード/ API連携	学内情報システムからAPI経由、あるいはダウンロードして入試情報(受験情報・合格情報・入学情報・成績情報)(csv)を電子調査書管理システムにアップロードする。	API:未提供
④資格情報	API連携	資格情報照合システムからAPI経由、あるいは資格データ(csv)ダウンロードする。	API:未提供

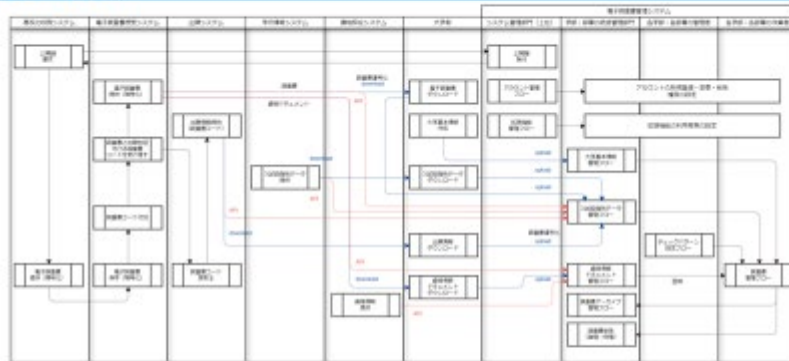


13

# 業務フロー

## 業務フロー

### 業務フロー（全体）



<説明>

1. 大学の公開鍵を取得するAPIを構築し、大学の教養システムからの請求に対して公開鍵を送付する。
2. 大学の教養システムは大学から取得した公開鍵を使って、電子請求書を署名し、電子請求書署名システムに保存する。
3. 大学の電子請求書署名システムから署名された電子請求書をダウンロードして秘密鍵で署名して請求書を作成する。
4. 大学の公開鍵システムからは署名データをダウンロードして取得する。
5. 大学の学内情報システムから入証照付データをダウンロードして取得する。
6. システム管理部門は、システム利用のユーザーのアカウント管理、権限設定と転送情報の照合照会の実行を行う。
7. 学総・総務の経費管理部門は、下記の必要なデータ（大学基本情報・入証照付データ）取込を行う。

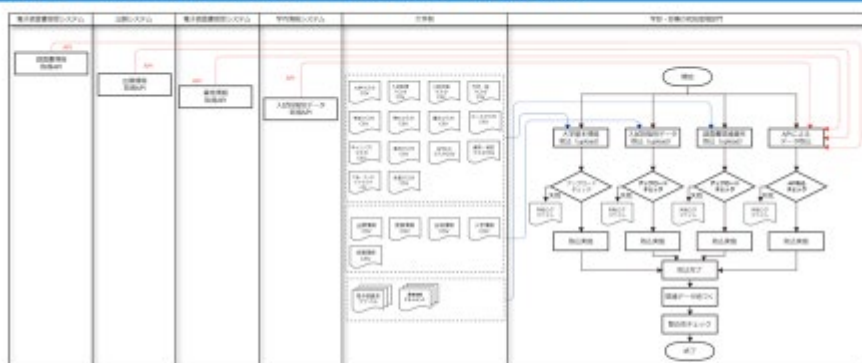
- ・ 大学基本情報：大学マスシ/入証照付マスシ/入証照付マスシ方式・国マスシ/学総マスシ/学総マスシ/専攻マスシ/コースマスシ/エトシ/バスマスシ/国際マスシ/APPLIC（教員、経費など）マスシ/資格・検定マスシ/大卒・コンテストマスシ/広域マスシ
  - ・ 入証照付データ：演習券/資格ドキュメント（は教養部/受験情報/合格情報/入学情報/成績情報）
- SAPによる取込の方法もあるが、APIが未整備のため、取込自体は行わない想定
8. 学総部・経費部の管理者は、必要に応じて学内での請求書チェック対象の設定を行う。
  9. 学総部・経費部の作業者は、7で取り込んだデータとまで設定したチェック対象に対して、下記のように請求書のチェックを行う。
- <例外> 検索条件を設定して照会する請求書を抽出し、確認を行う。
- <承認> 照会結果に対して、承認を行う。
10. 学総部・経費部の作業者は、照付ドキュメントの照付による自動照付が正しいかどうか確認を行う。





## 業務フロー

### 業務フロー（詳細：大学基本情報・入試段階別データの取込み）



<説明>

1. マークシートをアップロードする際の取込みは可能。

2. マークシートで取込対象となるファイルの種類を選択する。

<大学基本情報>

大学マスタ(入試段階マスタ/入試日程マスタ/方式・期マスタ/学部マスタ/

学科マスタ/施設マスタ(コースマスタ)/キャンパスマスタ/

専攻科マスタ/資格・検定マスタ/大会・コンテストマスタ/卒業マスタ

<入試段階別データ>

電子申請書 (複数) / 自修ドキュメント (複数) / 試験簿/試験簿/試験簿/入学簿/試験簿

試験簿/試験簿

電子申請書 (複数) / 自修簿ドキュメント (複数)

3. 取込順序の設定により、下記のA/R連携による取込が可能となる。

・大学情報(入試段階情報/入試日程情報)/方式・期情報/学部情報/学科情報/施設情報

追加情報(コースマスタ情報/キャンパス情報/施設情報/AP/RJの施設、施設などのマスタ)/

資格・検定マスタ/大会・コンテストマスタ/卒業マスタ

・電子申請書/試験簿 (電子申請書・自修ドキュメント)

・試験簿/試験簿/試験簿/入学簿/試験簿

・試験簿

4. 対象ファイルを選択し、「アップロード」ボタンを押下してファイルをアップロードする。

5. A/R連携、アップロードによる取込失敗の場合、エラー内容のメッセージが表示される。

失敗ログファイルも出力され、詳細一覧からダウンロードできる。

6. A/R連携、アップロードによる取込成功の場合、取込完了のメッセージが表示される。

7. 取り込んだデータに対して、関連データの紐づけ、整合性チェックを行う。

18

## 業務フロー

### 業務フロー（詳細：チェックパターン設定）



<説明>

1. 各学部・各部署の管理員は、下記のように設定用のチェックパターンの設定を行う。

<対象業務の例>

・入試段階、学部、学科、専攻、コース

<チェック内容の例> 基本パターン

①必須情報

指定用の欄外情報がないことをチェックする。

②整合性

電子申請書管理システムのマスタに照合し、関連情報が正しい内容であるかどうかをチェックする。

例：施設コード [1 2 3 4 2 1] と施設名 [施設A]

電子申請書管理システムのマスタに照合して、施設コード [1 2 3 4 2 1] は「施設B」で

あれば、施設コードを照合して入力する見直しのため、確認が必要となる。

③当該データと重複

当該データと同じ欄外情報、同じ内容であるかどうかをチェックする。

<チェック内容の例> 重複パターン

④標準部・学科の異なるチェックパターン

例：\*+学部\*+学科 試験\*+以上

2. [チェックパターン管理]画面にて、下記の処理を行う。

・「検索」ボタンを押下して、既存のチェックパターンを一覧で表示する。

・「新規登録」ボタンを押下して[チェックパターン管理]画面に遷移して新規パターンを追加する。

・一部「編集」ボタンを押下して既存のチェックパターン (標準・複製) の編集を行う。

・一部「コピー」ボタンを押下して既存のチェックパターン (標準・複製) の内容をコピーして新規登録する。

・一部「削除」ボタンを押下して既存のチェックパターン (標準・複製) の削除を行う。

3. [チェックパターン管理]画面にて、検索用の欄外情報全てを表示させ、必要なチェック機能をチェックボタンで選択。

4. 設定後、「確認」ボタンを押下して[チェックパターン設定確認]画面に遷移し、設定内容を確認する。

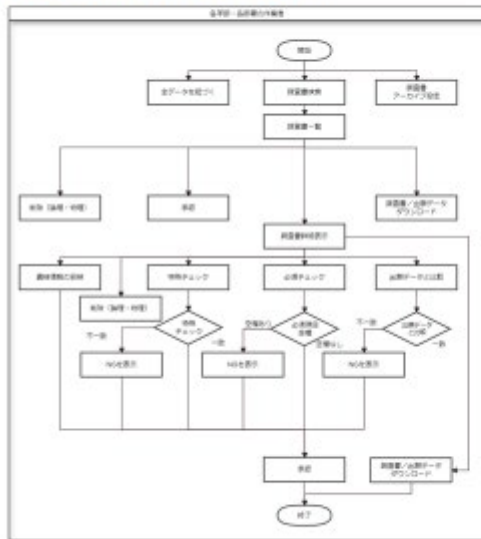
5. 設定内容が確認後、「実行」ボタンを押下して[チェックパターン設定完了]画面に遷移し、設定完了を確認する。

6. 「チェックパターン管理画面に戻る」ボタンを押下して、[チェックパターン管理]画面に遷移する。

19

## 業務フロー

### 業務フロー（詳細：調査書管理）



<説明>

1. [調査書管理]画面にて、調査書とほかのアーカイブの一括出力を行う。
2. [調査書検索]画面にて、検索条件を入力して、対象となる調査書を一覧に表示する。
3. 検索結果が存在しない場合は、調査書に該当するデータと調査書のダウンロードが可能。
4. 検索結果一覧中の調査書を一括選択できる。
5. 検索結果一覧中の調査書の「検閲」ボタンを押下後、[調査書検閲]画面に遷移する。
6. [調査書検閲]画面にて、検閲の調査書と印刷データのダウンロード可能。
7. [調査書検閲]画面にて、チェックボタン押下時の内容より下記4つのチェックが実施される。

①必須チェック

②印刷データと印刷

③検閲チェック

④削除済みの削除

※③について、削除済（尚の検閲、印刷、印刷プレビューなどの削除済等）も検閲して

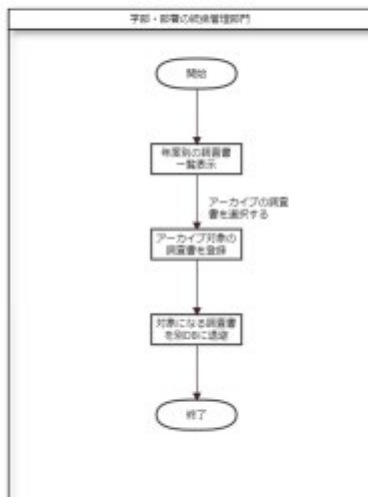
削除する。

8. 「印刷」ボタンを押下後、電子調査書が印刷可能に変更される。
9. [調査書管理]画面と [調査書検閲]画面にて、調査書の一括検閲、個別検閲が可能。
10. [調査書検閲]画面にて「アーカイブ設定」ボタンを押下して「アーカイブ管理」画面に遷移する。
11. [調査書管理]画面にて印刷プレビューが可能。

20

## 業務フロー

### 業務フロー（詳細：調査書アーカイブ設定）



<説明>

1. 調査書データを長期保存するために、アーカイブ設定を行う。

<前提条件>

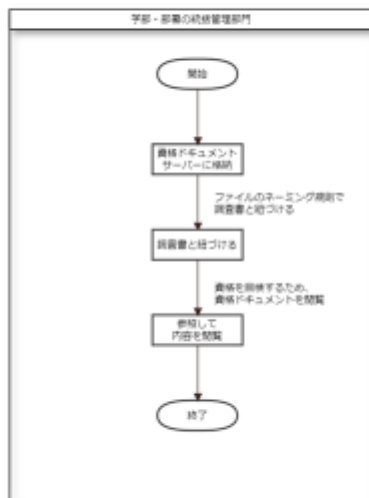
調査書の年以上の保存を設定

2. [アーカイブ設定]画面にて、単年度で調査書全てを表示させ、アーカイブ対象の調査書に対して、チェックボックスをすべてチェックする。  
※チェックボックスのデフォルト設定はチェックされた状態
3. 設定後、「確認」ボタンを押下して[アーカイブ設定確認]画面に遷移し、設定内容を確認する。
4. 設定内容の確認後、「実行」ボタンを押下して[アーカイブ設定完了]画面に遷移し、設定完了を報告する。
5. 「アーカイブ設定画面に戻る」ボタンを押下して、[アーカイブ設定]画面に遷移する。

21

## 業務フロー

### 業務フロー（詳細：資格情報ドキュメント管理フロー）



<説明>

1. [アーカイブ]画面にて、資格ドキュメント資料をサーバーに帰納する。
2. ファイルのネーミング規則により、調査書と紐づける。  
例：  
調査書コード：0001234  
資格ドキュメント名：Qualification 000334-001、Qualification 000334-002・・・
3. [調査書抽出]画面にて、資格ドキュメントが表示され、参照可能となる。

22

## 機能要件

23





## 機能要件

### 機能要件説明：API機能（機能一覧、想定操作、説明）

機能ID	機能名	子機能ID	子機能名	機能概要	備考
PI	API機能	PI-1	会員登録API機能	高校の教育システムに連携し会員登録をAPIで実装する	

#### ※関連図



#### 説明

1. 電子課金管理システムは登録済みのAPIを実行する。
2. 高校側はAPIを使って、登録済を受け取る。
3. 登録済を受け取って電子課金管理システムに保存する。
4. 番号などから電子課金管理システムが電子課金管理システムに保存される。
5. 大学側は、電子課金管理システムから保存された電子課金管理をダウンロードする。
6. 高校側は取得した電子課金管理を再度で取得する。

28

## 機能要件

### 機能要件説明：認証機能（機能一覧、想定操作、説明、画面イメージ）

機能ID	機能名	子機能ID	子機能名	機能概要	備考
PI	認証機能	PI-1	ログイン認証機能	利用ユーザーが電子課金管理システムにログインする際に認証を行う	
		PI-2	パスワード認証機能	パスワードを入力した際、認証を実行する	
		PI-3	パスワード機能	電子課金管理システムでのパスワード	

#### ※関連図



#### 説明

1. ログイン画面でID(Email)とパスワードによるログイン認証を実行する。
2. 認証が成功し、TOP画面に遷移する。
3. 不正の異言も認証失敗になった場合、エラーメッセージが表示される。  
-ID(Email)も正しいパスワードを入力しない場合。
4. ID、Emailがパスワードが一致しない場合は、アカウントがロックされる。
5. IDが正しくても「システム管理画面(本部)」側には「学校-前年度の財務管理画面」で前年度の年度前に遷移して検索して64.56部である。
6. パスワードを覚えて「パスワードを忘れた方」をクリックしてパスワードを再入力する。  
パスワードを再入力する。
7. Email、ID、パスワード、パスワード、パスワードの組み合わせを入力して「パスワードを再入力」をクリックしてログイン画面に戻る。
8. 不正の異言も認証失敗になった場合、エラーメッセージが表示される。  
-パスワードが正しいパスワードと一致しない場合  
-Email認証はIDが正しい場合  
-パスワードが正しい場合

#### ※画面イメージ



#### ※パスワードを忘れた時の画面



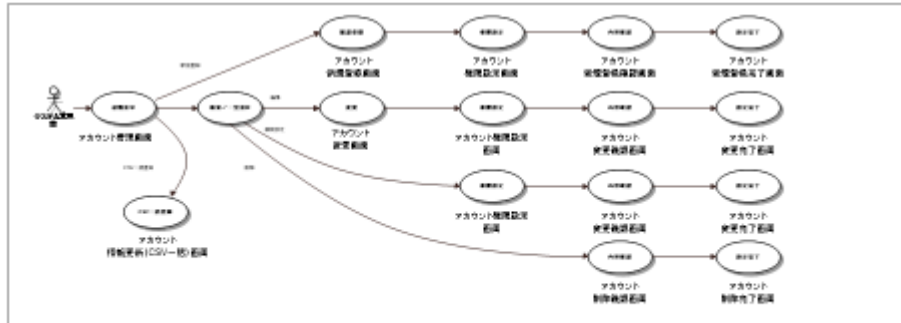
29

## 機能要件

### 機能要件説明：アカウント管理機能（機能一覧、想定操作）

機能名	業務区分	子機能名	子機能名	機能要件	備考
FB	アカウント管理機能	FB-1	アカウント情報登録機能	新規ユーザーを登録する、登録済ユーザー登録/再登録	
		FB-2	ユーザー情報変更機能	既存ユーザーに対して、ユーザー情報を変更する	
		FB-3	ユーザー情報削除機能	既存ユーザーに対して、ユーザー登録/再登録を中止/削除する	
		FB-4	利用履歴表示機能	既存ユーザーに対して、利用履歴を追加する	
		FB-5	利用履歴変更機能	既存ユーザーに対して、利用履歴を変更する	
		FB-6	アカウント情報登録機能のCSV一括	既存の既存ユーザーのCSVファイルから一括登録/変更/削除する	

想定操作



30

## 機能要件

### 機能要件説明：アカウント管理機能（説明）

概要

1. システム管理機能は、利用している「検索・検索の管理機能」として、お客様の検索履歴からアカウント管理のメニューを表示できない、アクセスできない。
2. 下記のUI/UXに於いてアカウント管理する。詳細はイメージ参照

- 新規登録・更新・削除のアカウントが多い場合

[アカウント管理機能]の「CSV一括登録」ボタンを押下し、[アカウント情報登録(CSV一括)]画面に遷移し、登録済のあるアカウントを削除のCSVファイルアップロードする。

- 既存のアカウントの新規登録の場合

[アカウント管理機能]の「新規登録」ボタンを押下し、[アカウント新規登録]画面に遷移し、ユーザー情報を登録する。

[アカウント管理機能]画面の「新規登録」ボタンを押下し、[アカウント新規登録]画面に遷移し、ユーザー情報を登録する。

- 既存のアカウントのユーザー情報変更の場合

[アカウント管理機能]の「編集」ボタンを押下し、一覧が表示される。

既存のアカウントコード「編集」ボタンを押下し、[アカウント編集]画面に遷移し、ユーザー情報を変更する。

- 既存のアカウントの情報削除の場合

[アカウント管理機能]の「削除」ボタンを押下し、一覧が表示される。

既存のアカウントコード「削除」ボタンを押下し、[アカウント情報削除]画面に遷移し、削除を確認する。

- 既存のアカウントの削除の場合

[アカウント管理機能]の「削除」ボタンを押下し、一覧が表示される。

既存のアカウントコード「削除」ボタンを押下し、[アカウント情報削除]画面に遷移し、削除を確認する。

※、パスワードに同じ文字が含まれる場合は、パスワードに同じ文字は入れないよう、ハッシュ化したものをDBにエンコード

※、アカウントIDに同じ文字は、システムエラーを発生させないようにする。

31

## 機能要件

### 機能要件説明：アカウント管理機能（画面イメージ）

画像イメージ



32

## 機能要件

### 機能要件説明：アカウント管理機能（画面イメージ）

画像イメージ



33



## 機能要件

### 機能要件説明：アカウント管理機能（画面イメージ）

画像イメージ



34

## 機能要件

### 機能要件説明：アカウント管理機能（画面イメージ）

画像イメージ



35

## 機能要件

### 機能要件説明：アカウント管理機能（画面イメージ）

画像イメージ

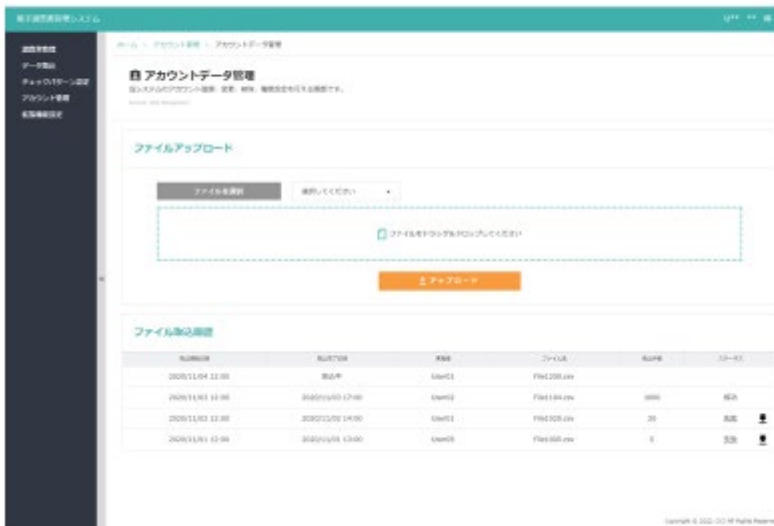


36

## 機能要件

### 機能要件説明：アカウント管理機能（画面イメージ）

画像イメージ



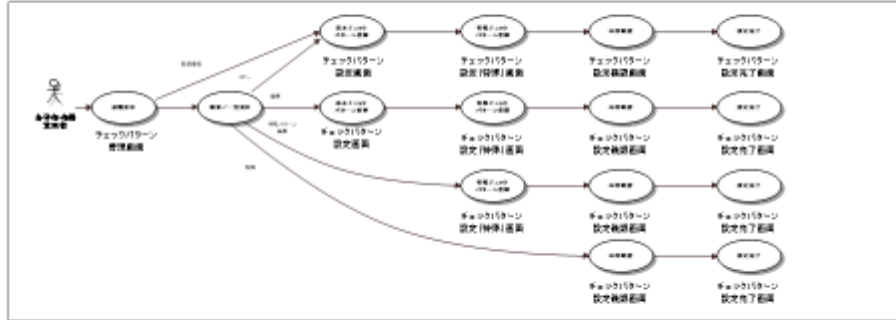
37

## 機能要件

### 機能要件説明：設定管理機能\_チェックパターン設定機能（機能一覧、想定操作）

要求ID	要求内容	優先度	対象範囲	機能概要	備考
FA	設定管理機能	FA-1	チェックパターン機能	入証履歴と呼称によって、最新集のチェックパターンが取得される。同時にチェックパターンも設定する	

#### 想定操作



38

## 機能要件

### 機能要件説明：設定管理機能\_チェックパターン設定機能（説明）

要求ID	要求内容	優先度	対象範囲	機能概要	備考
FA	設定管理機能	FA-1	チェックパターン機能	入証履歴と呼称によって、最新集のチェックパターンが取得される。同時にチェックパターンも設定する	

#### 説明

1. システム管理権限(上記)以上の「承認」権限の管理者権限を持つ承認の新規集取得とチェックパターン管理のメニューを呼び出す。アクセスも必要。

2. 下部のボタンに於いてチェックパターン管理する。詳細画面(ボタン)をクリック

#### <新規登録>

①チェックパターン新規画面(新規登録)ボタンをクリックしてチェックパターン設定画面に遷移し、基本チェックパターンを設定する。

②チェックパターン設定画面の「管理」ボタンをクリックしてチェックパターン設定(管理)画面に遷移し、管理チェックパターンを設定する。

③チェックパターン設定検知画面にて、設定内容を確認し、「登録」ボタンをクリック。基本チェックパターンの検知チェックパターンを同時に登録する。

#### <チェックパターン更新>

①チェックパターン管理画面にて検索条件を入力して検索ボタンをクリックして一覧を表示させる。

②一覧の基本チェックパターン(「編集」ボタン)をクリックしてチェックパターン設定画面に遷移し、基本チェックパターンの更新を行う。詳細画面(ボタン)にて、パターンの設定内容の変更ができる。

③一覧の管理チェックパターン(「編集」ボタン)をクリックしてチェックパターン設定(管理)画面に遷移し、管理チェックパターンの更新を行う。

#### <チェックパターンの削除>

①チェックパターン管理画面にて検索条件を入力して検索ボタンをクリックして一覧を表示させる。

②一覧の削除画面(「削除」ボタン)をクリックしてチェックパターン設定画面に遷移し、選択したチェックパターンの内容で新規登録を行う。

#### <検索>

①チェックパターン管理画面にて検索条件を入力して検索ボタンをクリックして一覧を表示させる。

②一覧の検索画面(「検索」ボタン)をクリックしてチェックパターン設定検知画面に遷移し、「登録」ボタンをクリックしてチェックパターンの検索を行う。

39

## 機能要件

### 機能要件説明：設定管理機能\_チェックパターン設定機能（画面イメージ）

画面イメージ

チェックパターン管理

チェックパターン検索

検索

検索	チェックパターン名	チェックパターンID	種類	登録日時	更新日時	ステータス	操作
2021	0001	作成	標準	2021/01/01	2021/01/01	有効	編集
2021	0002	修正	標準	2021/01/01	2021/01/01	有効	編集
2021	0003	削除	標準	2021/01/01	2021/01/01	無効	編集
2021	0004	***	***	***	***	有効	編集
2021	0005	***	***	***	***	有効	編集
2021	0006	***	***	***	***	有効	編集
2021	0007	***	***	***	***	有効	編集
2021	0008	***	***	***	***	有効	編集
2021	0009	***	***	***	***	有効	編集

40

## 機能要件

### 機能要件説明：設定管理機能\_チェックパターン設定機能（画面イメージ）

画面イメージ

チェックパターン管理

チェックパターン検索

検索

必須項目	チェックパターン名	チェックパターンID	種類	登録日時	更新日時	ステータス
<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	1. 学校の名称	学校名称		有効
<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	2. 学校の住所	学校住所		有効
<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	3. 学校の電話番号	学校電話番号		有効
<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	4. 学校のメールアドレス	学校メールアドレス		有効
...	...	...	...	...	...	...
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		1. 学校の名称	学校名称	学校住所	有効
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		2. 学校の住所	学校住所	学校電話番号	有効

41

## 機能要件

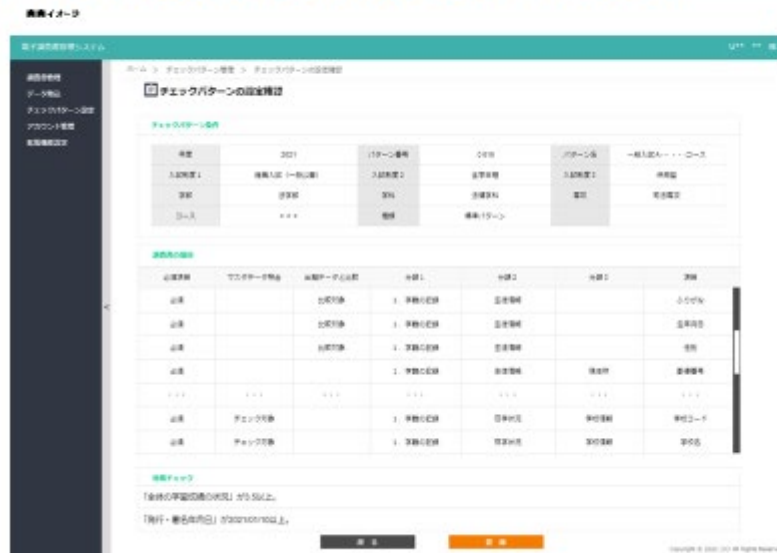
### 機能要件説明：設定管理機能\_チェックパターン設定機能（画面イメージ）



42

## 機能要件

### 機能要件説明：設定管理機能\_チェックパターン設定機能（画面イメージ）



43

## 機能要件

### 機能要件説明：設定管理機能\_チェックパターン設定機能（画面イメージ）

画面イメージ



44

## 機能要件

### 機能要件説明：設定管理機能\_拡張機能の利用設定機能（機能一覧、想定操作、説明）

機能ID	機能名	子機能ID	子機能名	機能概要	備考
F4	拡張機能一覧	F4-2	拡張機能設定機能	拡張機能の検索および設定する	

想定操作



説明

<拡張機能の利用設定機能>

- 拡張機能の一覧を表示する。
- 拡張機能の検索を行う。
  - 検索条件：拡張機能ID、拡張機能名、拡張機能タイプ、拡張機能カテゴリ、拡張機能サブカテゴリ、拡張機能バージョン、拡張機能リリース日、拡張機能更新日
- 検索結果の表示を確認する。
- 拡張機能の検索完了。

45

## 機能要件

### 機能要件説明：設定管理機能\_拡張機能の利用設定機能（画面イメージ）



46

## 機能要件

### 機能要件説明：設定管理機能\_拡張機能の利用設定機能（画面イメージ）



47

## 機能要件

### 機能要件説明：設定管理機能 拡張機能の利用設定機能（画面イメージ）

画面イメージ



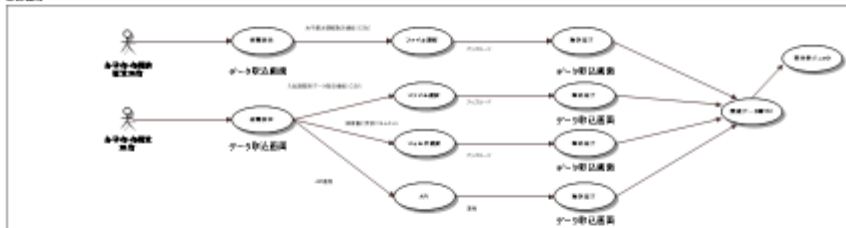
48

## 機能要件

### 機能要件説明：データ取込機能（機能一覧、想定操作、説明）

機能ID	機能名	了機能No	了機能名	機能概要	備考
PS	データ取込機能	PS-1	大学標準情報取込機能	大学標準情報取込機能（大学入試情報）は旧形式で、電子標準情報取込システム（XML）に取込可能だが、標準・拡張データ・システムは旧形式で取込可能。取込システムは標準・拡張データ・システムに取込可能。	
		PS-2	入試情報データ取込機能	電子標準情報取込システム（XML）に取込可能。標準・拡張データ・システムに取込可能。標準・拡張データ・システムに取込可能。	
		PS-3	試験情報（複数ファイル）取込機能	標準情報取込システム（XML）に取込可能。標準・拡張データ・システムに取込可能。	
		PS-4	データ取込機能（API）	試験情報（複数ファイル）に取込可能。標準情報取込システムに取込可能。	API利用：拡張機能
		PS-5	統合システム取込機能	試験情報取込システムに取込可能。大学標準情報取込システムに取込可能。拡張機能に取込可能。	

想定動作



説明

<大学標準情報取込機能（CSV）>

1. 大学標準情報取込システムでアップロードして電子標準情報取込システムに取込込む。
2. CSVファイル
- 大学標準情報取込システムに取込可能な形式（標準・拡張データ・システム）
- 標準情報取込システムに取込可能な形式（標準・拡張データ・システム）
- 標準・拡張データ・システムに取込可能な形式（標準・拡張データ・システム）

<試験情報データ取込機能（XML、CSV）>

1. 試験情報取込システムでアップロードして電子標準情報取込システムに取込込む。
- XMLファイル：標準情報取込システム
- CSVファイル：標準情報取込システム
- CSVファイル：試験情報取込システムに取込可能な形式

<標準情報取込機能（複数ファイル）取込機能>

1. 標準情報取込システムでアップロードして電子標準情報取込システムに取込込む。
- XMLファイル：標準情報取込システム
- CSVファイル：標準情報取込システム
- 標準情報取込システムに取込可能な形式
- 標準情報取込システムに取込可能な形式

<入試情報データ取込機能（API）>

1. 各種のファイルアップロードして電子標準情報取込システムに取込込む。
2. 標準情報取込システムに取込可能な形式に取込可能な形式に取込可能な形式

<統合システム取込機能>

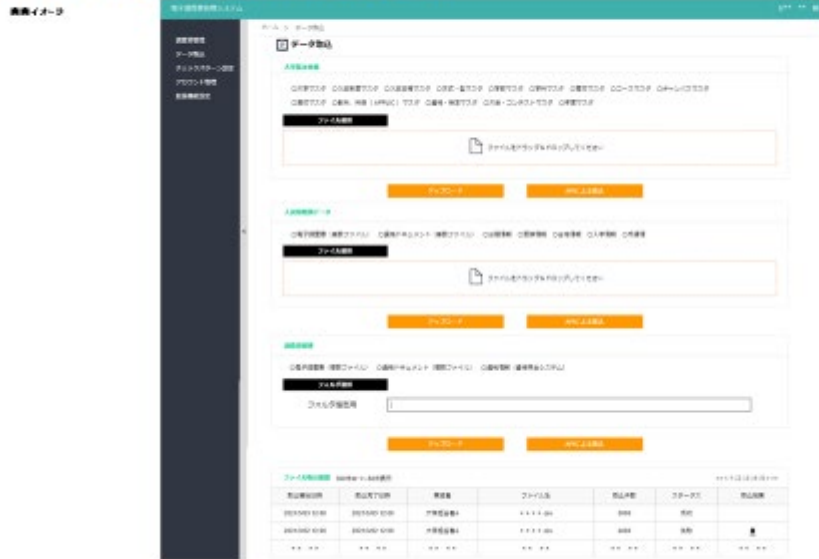
1. 標準情報取込システム、試験情報取込システム、標準情報取込システムに取込込む。
2. 標準情報取込システムに取込可能な形式に取込可能な形式に取込可能な形式

49



## 機能要件

### 機能要件説明：データ取込機能（画面イメージ）



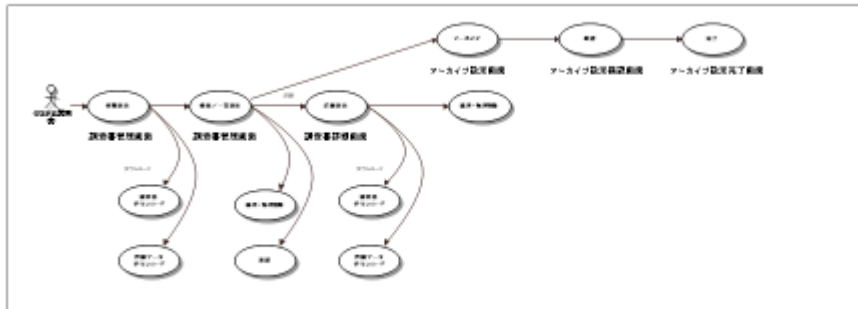
50

## 機能要件

### 機能要件説明：調査書管理機能（機能一覧、想定操作）

機能ID	機能名	子機能ID	子機能名	機能概要	備考
F0	調査書管理機能	PG-1	調査アンケート一覧機能	調査票、公開情報、受取情報、回答情報、入学情報、卒業情報などすべてのアンケートを一覧で表示	
		PG-2	検索機能	対象となる調査票データを検索する	
		PG-3	詳細閲覧機能	調査票の詳細情報を閲覧する	
		PG-4	質問コメント印刷機能	調査票のコメント印刷機能を利用して調査票の印刷を行う	
		PG-5	調査票北方帳（印刷）機能	検索一覧画面にて調査票を検索し、詳細画面にて調査票を個別にダウンロードする	
		PG-6	北野アンケート北方帳（印刷）機能	検索一覧画面にて北野アンケートを検索し、詳細画面にて調査票を個別にダウンロードする	北野アンケート
		PG-7	調査票中央帳（印刷）機能	検索一覧画面にて調査票を検索し、詳細画面にて調査票の印刷機能を利用して印刷を行う	
		PG-8	調査票中央帳（閲覧）機能	調査票の閲覧、調査票詳細画面にて調査票の閲覧機能、閲覧履歴を行う	調査履歴、閲覧履歴
		PG-9	調査票アンケート印刷機能	調査票を印刷して印刷履歴を行う	

想定操作



51

## 機能要件

### 機能要件説明：調査書管理機能（説明）

#### 概要

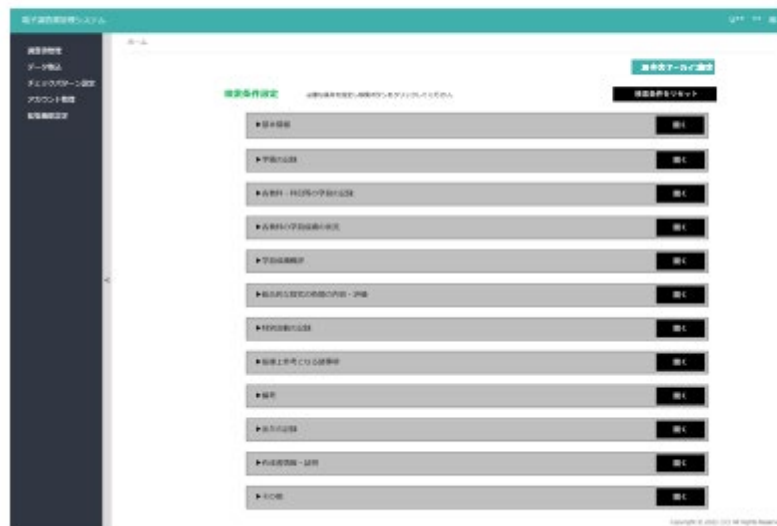
1. 調査書管理機能にて、検索を入力して検索を行う。  
※各条件一組でも自分の検索範囲内の調査書が見つかる。  
例：学年前に所属するレポート授業は又学期の調査書の非検索可能
2. 検索条件について、拡張インポートを準備してある。
3. 検索結果の一覧に表示された調査書についてダウンロード可能。
4. 検索結果の一覧に表示された調査書と検索条件別のデータを一括ダウンロード可能。  
※調査結果のダウンロードは半信半疑の状態でダウンロード。
5. 検索結果の調査書の検索結果を再表示する（チェックボックスを開け閉め可能）。
6. 検索結果の一覧に表示された調査書について削除（削除・復元）可能。
7. 調査書管理機能にて「調査書アフィリエイト取得」ボタンを押下後（アフィリエイト取得機能）に遷移する。
8. 非推奨の調査書のアフィリエイト取得不可。
9. 検索結果の一覧に表示された調査書が「登録」ボタンを押下後（調査書管理機能）に遷移する。
10. 調査書管理機能にて、見出しを付した場合は、内容の正確性と検校する必要がある。  
登録済のコンテンツが標準的な、正しい品質であることを確認する。
11. 調査書管理機能にて、下記のチェックボックスが10にも項目は登録不可となる。  
調査書が必須項目の入力義務、大文字半角でのスラッシュの禁止、半角英数字の禁止、特殊文字
12. 調査書管理機能にて、調査書の入力不備がある場合は、誤りに該当して正しい調査書を再提出するの  
再検校する必要がある。
13. 調査書管理機能にて、調査書の再提出が可能になる（チェックボックスを開け閉め可能）。
14. 調査書管理機能にて、検索結果も調査書について削除（削除・復元）可能。

52

## 機能要件

### 機能要件説明：調査書管理機能（画面イメージ）

#### 画面イメージ



53

## 機能要件

### 機能要件説明：調査書管理機能（画面イメージ）

調査イメージ

調査書検索

調査書情報

登録番号  登録番号

登録ステータス

入試情報

入試年度  入試種別

入試科目

学部・学科・専攻・コース

学部  学科

専攻  コース

+ 調査条件を追加

+ 入試条件を追加

54

## 機能要件

### 機能要件説明：調査書管理機能（画面イメージ）

調査イメージ

学部・学科検索

学部・学科情報

学部  学科

学年

学期  学期

学部・学科

学部  学科

専攻

学部・学科

学部  学科

専攻

+ 調査条件を追加

+ 入試条件を追加

55

## 機能要件

### 機能要件説明：調査書管理機能（画面イメージ）

調査書イメージ

56

## 機能要件

### 機能要件説明：調査書管理機能（画面イメージ）

調査書イメージ

57

## 機能要件

### 機能要件説明：調査書管理機能（画面イメージ）

調査イメージ

58

## 機能要件

### 機能要件説明：調査書管理機能（画面イメージ）

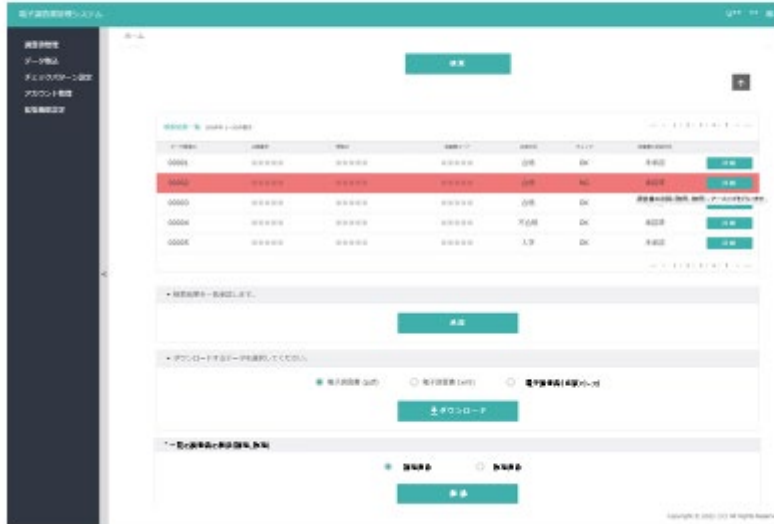
調査イメージ

59

## 機能要件

### 機能要件説明：調査書管理機能（画面イメージ）

画面イメージ

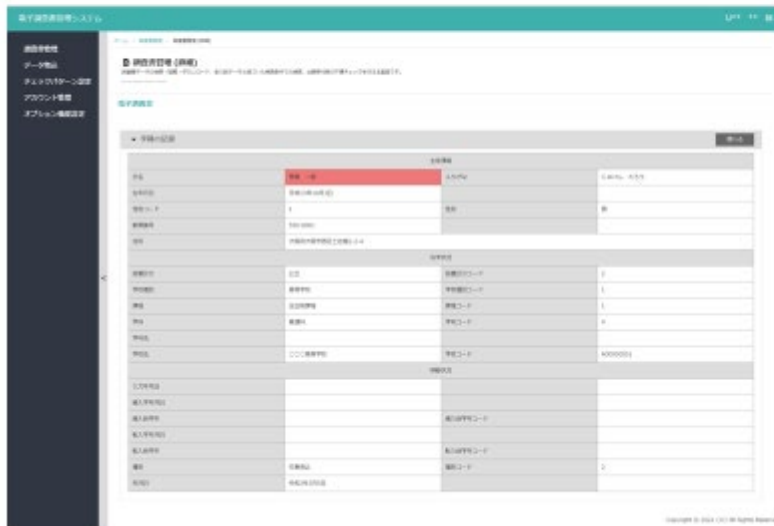


60

## 機能要件

### 機能要件説明：調査書管理機能（画面イメージ）

画面イメージ



61



## 機能要件

### 機能要件説明：調査書管理機能（画面イメージ）

画像イメージ

The screenshot shows a web application interface for '調査書管理機能' (Survey Document Management Function). The main content area is titled '第7. 調査書管理機能詳細画面' (7. Survey Document Management Function Detail Screen). It contains several tables for managing survey documents, categorized by document type (e.g., 11) 調査書, 12) 行動記録, 13) 報告書, 14) 診断書, 15) 通知, 16) その他). Each table has columns for '調査書ID', '調査書名', '調査コード', and '調査種別'. Below the tables are three buttons: '調査書管理機能詳細画面', '調査書管理機能詳細画面', and '調査書管理機能詳細画面'. The interface includes a sidebar with navigation options like '調査書管理機能', '調査書管理機能', '調査書管理機能', and '調査書管理機能'. The bottom right corner has a copyright notice: 'Copyright © 2021 NTT All Rights Reserved'.

64

## 機能要件

### 機能要件説明：調査書管理機能（画面イメージ）

画像イメージ

The screenshot shows a web application interface for '調査書管理機能' (Survey Document Management Function). The main content area is titled '第7. 調査書管理機能詳細画面' (7. Survey Document Management Function Detail Screen). It contains several tables for managing survey documents, categorized by document type (e.g., 11) 調査書, 12) 行動記録, 13) 報告書, 14) 診断書, 15) 通知, 16) その他). Each table has columns for '調査書ID', '調査書名', '調査コード', and '調査種別'. Below the tables are three buttons: '調査書管理機能詳細画面', '調査書管理機能詳細画面', and '調査書管理機能詳細画面'. The interface includes a sidebar with navigation options like '調査書管理機能', '調査書管理機能', '調査書管理機能', and '調査書管理機能'. The bottom right corner has a copyright notice: 'Copyright © 2021 NTT All Rights Reserved'.

65



## 機能要件

### 機能要件説明：調査書管理機能\_アーカイブ設定（画面イメージ）

画像イメージ

調査書管理機能\_アーカイブ設定

年度: 2021年度

操作権限	年度	調査書コード	名称	担当者	登録番号	操作権限
<input checked="" type="checkbox"/>	2021	0000	総務	...	...	...
<input checked="" type="checkbox"/>	2021	0002	総務	...	...	...
<input checked="" type="checkbox"/>	2021	0003	総務	...	...	...
<input type="checkbox"/>	2021	0004	総務	...	...	...
<input type="checkbox"/>	2021	0005	総務	...	...	...
<input checked="" type="checkbox"/>	2021	0006	総務	...	...	...
<input checked="" type="checkbox"/>	2021	0007	総務	...	...	...
<input checked="" type="checkbox"/>	2021	0008	総務	...	...	...

アーカイブ    戻る

66

## 機能要件

### 機能要件説明：調査書管理機能\_アーカイブ設定（画面イメージ）

画像イメージ

調査書管理機能\_アーカイブ設定

年度: 2021年度

操作権限	年度	調査書コード	名称	担当者	登録番号	操作権限
<input checked="" type="checkbox"/>	2021	0000	総務	...	...	...
<input checked="" type="checkbox"/>	2021	0002	総務	...	...	...
<input checked="" type="checkbox"/>	2021	0003	総務	...	...	...
<input checked="" type="checkbox"/>	2021	0006	総務	...	...	...
<input checked="" type="checkbox"/>	2021	0007	総務	...	...	...
<input checked="" type="checkbox"/>	2021	0008	総務	...	...	...

戻る    戻る

67

## 機能要件

### 機能要件説明：調査書管理機能\_アーカイブ設定（画面イメージ）

画面イメージ



68

## 非機能要件

69

## 非機能要件

---

### システムの特徴について

- ・電子調査書データ、出願データ  
本システムでは年度ごとに累積する想定。

### 技術移行（教育、マニュアルなど）

- ・マニュアル作成  
マニュアル作成を想定していません。
- ・利用者向けトレーニング  
システム管理者、利用大学様へのトレーニング実施は想定していません。

---

70

## 非機能要件

---

### システムの制約、前提条件について

- ・システムの構築時
- ・導入用のサーバ及びハードウェアに関しては、導入される大学様にてご準備いただく想定です。

### 適合規格について

- ・現時点で適合規格事項なし。

---

71

参考資料10：大学電子調査書管理システム 設計書

- (1) 詳細設計書
  - ① 各種詳細設計書
  - ② 機能詳細設計(アイテム定義書、システム設計定義書、プロパティ定義書、権限制御機能)
- (2) DB設計書 (テーブル定義書)
- (3) CSVレイアウト設計書 (CSVファイルレイアウト設計書)

